令和６年３月11日～13日　教育福祉分科会・委員会　令和６年度当初予算審査

開会　午前　９時３９分

○　　（伊村　　君）　それでは、互礼をもって始めたいと思いますので、ご起立お願いします。相互に礼。ご着席ください。

分科会長よりご挨拶お願いします。

○分科会長（小林博文君）　全体会のほうお疲れさまでした。全体会のほうはあまりこちらに関することは時間外とかそういった辺りかと思いますけれども、今回６年度の予算ということで、皆さんのほうの質疑調整ありがとうございました。ここによって簡潔な、明瞭簡潔な質疑をお願いいたします。時間も押しておりますので、始めたいと思います。お願いいたします。

○　　（伊村　　君）　ありがとうございました。

それでは、ここから先の進行は、分科会長、お願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　ただいまから一般会計予算決算特別委員会教育福祉分科会を開会いたします。

これより議事に入ります。

本委員会に付託されました議案第20号　令和６年度菊川市一般会計予算のうち、教育福祉分科会所管に係る項目を議題とします。

議会基本条例第11条第１項に、「議会は、言論の府であって、議長は、市長等に対する会議等への出席要請を必要最小限にとどめ、議員相互間の自由討議を中心に運営しなければならない」と定められていることから、今回の議案審査でも、質疑よりも自由討議を充実させ、議員相互間の議論を尽くして合意形成した内容にて、基本条例の第11条に基づく分科会報告書としたいと思います。

自由討議では、議案審査の中から委員全員で検討したいことをテーマとし、討議を行いたいと思います。自由討議を充実させたいことから、分科会報告でも議員間討議の内容を重視していくため、審査内容を精査し、自由討議の記載を充実し、分科会報告でも自由討議の読み上げをいたします。

また、３月25日の予算決算特別委員会では、分科会での審査内容を確認するための質問をすることがないように、分科会の会議録を作成でき次第、全議員に周知させていただきます

が、その際周知する会議録は校正を行っていないものとなるため、議員のみの確認資料として取扱いしていただくようお願いいたします。審査内容の質問が当日出た場合には、会議録にて確認してくださいと回答させていただきますので、ご了承ください。

それでは、これより質疑を行いますが、課ごと順番に質疑を行います。

質疑、答弁に当たっては、必ず事前に挙手をし、指名を受けてから発言するようお願いいたします。委員は、質疑通告順番に質疑を行うようにお願いします。また、発言する際には、必ず冒頭で番号、役職名等を述べ、はっきりと大きな声で発言するようお願いします。限られた時間を有効に活用するため、議員個人の意見については、後に予定しております自由討議で述べていただき、簡潔明瞭な質疑・答弁にご協力をお願いします。

なお、本件につきましては、３月25日に開催予定の一般会計予算決算特別委員会にて採決を行います。

それでは、初めに、生活環境部の審査を行います。

鈴木生活環境部長、所管する課名等を述べてください。鈴木生活環境部長。

○生活環境部長（鈴木和則君）　生活環境部長です。改めまして、おはようございます。この後、環境推進課をお願いすることになりますが、その後、小笠市民課、それから市民課長、それとあと特別会計がございます。本日もよろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　それでは、続いて、赤堀環境推進課長より出席者の紹介をお願いいたします。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長の赤堀です。よろしくお願いいたします。本日ですけれども、私のほかに、隣が環境推進係長の中嶌でございます。その隣が環境政策係主任主査の成瀬でございます。どうぞよろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　ありがとうございます。

それでは、質疑を行いますが、初めに、事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は、挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１問目、渥美委員から。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ13ページ、分別収集等奨励費について、１、古紙等資源集団回収奨励金の見直し検討状況を伺います。２、プラスチック収集方法や住民への周知、再商品化についての検討状況を伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。渥美委員のご質問にお答えいた

します。

まず、１つ目の古紙等資源集団回収奨励金の見直しの関係ですけれども、この奨励金につきましては、平成19年度より実施しております。当時ですけれども、資源物を出す場所が少なかったことに加えて、市民の皆さまの分別に対する意識も低かったことから、リサイクル活動を推進するために設けた制度でございます。

現在では、地区センター、それから、民間企業が設置している資源物回収ボックスの増加によりまして、集団回収を実施しなくても常に資源物を出す環境が整っていることから、大分市民のほうにも浸透しておるという判断の下、奨励金の役目は終えたと考えております。

それから、今後の予定につきましては、令和７年度から奨励金の廃止の予定をしております。

次に、２つ目のプラスチックの関係ですけれども、こちらは令和６年度の当初予算編成に対する提言書にもご提言いただいておりますけれども、現在、プラスチックのリサイクルは、容器包装プラスチックについては平成13年度から回収のほうをしております。この容器包装プラスチックに加えて、令和４年度に施行されたプラスチックに係る資源循環促進等に関する法律によりまして、現在、製品プラスチックの分別収集について、令和８年度からの開始を目指して、現在、近隣市の状況把握や再資源化などの検討を行っている状況でございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑はありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。１点だけちょっと確認なんですけど、古紙の奨励金の見直しが令和７年度から廃止ということで、前進するということで確認ができたんですけれども、今やっている人とか関係者とかになくなっちゃったら困る人とかいるのかいないのかちょっと分からないんですけど、そういう関係者への調整状況というか、そういった調整方針というか、そういったものがあれば最後に伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。これの終了を予定するに当たりまして、一番聞かなきゃいけないところが学校でした。ですので、本年度、校長会のほうに出向きまして、先ほど申したような経緯をお話ししたところ、一応、状況とすると理解をしていただいたものですから、予定どおりいけるというふうに判断しております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はよろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　以上です。ありがとうございました。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連ございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今の学校の件ですけど、今の奨励金の内訳というのは、学校とかその他どのぐらいあるんですか。全体の中のほとんど学校なのか。施設さんも入っているのか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。一番多いとき、平成29年が23団体、これは学校のほかに自治会とか地区の団体の関係者でした。昨年度、今年度につきましては、全部で14団体、ほとんどが小学校。

〔発言する者あり〕

○環境推進課長（赤堀耕二君）　年々減少している状況です。３つ自治会。

○１３番（倉部光世君）　自治会。

〔「３つ自治会」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　関連ございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。先ほど19年から実施という。だけど、これ、これはこれでいいですけど、実際、小学校とか中学校へ行くと、なかなか行政側のお金が学校の物品に対する予算がつきにくい関係上、このお金を有効に使っているところがあることも事実だということの中で、一つはもう学校で説明したら「いいよ」といって言った――それ以上は言わないですけど、教育委員会は全然そのことについては触れなかったですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　校長会に行く前には、教育委員会のほうに出向いて学校教育課の課長と担当者と話をしました。今、内田委員がおっしゃったような話も一部の学校でやっぱりあるんじゃないかということで、まず、教育委員会のほうから学校関係者に確認してもらった上で校長会に出向きました。その上で理解のほうをしていただいたような状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。集め方については、確かに昔は一つの物を大事にするということで、リヤカーで行って集めた時代もあって、それから比べると、今はボックスだけ置いてあるだけで、学校当局とすると、あんまり大きな負担にはなっていないんじゃないかなというところが僕からすると見受けられる。そういう中において、教育委員会はそこのところをどういうふうに考えたか分からないですけど、これによって中のいろんな物事のお金に充当していたということについても何にも触れられなかった。それ以上に対抗するものは、これからはこうしていきますよとか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　まず、実態は、ＰＴＡが主体となってやっていたものですから、ＰＴＡの保護者の負担があるということが一番懸念していて、それが解消されるというのがプラスの面。それからお金の面で、一部、やっぱり減っちゃうのがつらいということでしたので、うちからの奨励金はないんですけれども、学校自体でその回収のほうを続けるようなところはあるかもしれないです。学校で回収のほうをすれば、キロ当たり、紙でしたらゼロになることはないものですから、少しは利益がでると思います。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。

○１５番（内田　隆君）　最後に。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。物は関係なしに、行政側からで３円ですか。倉部委員、３円じゃないよね。

〔発言する者あり〕

○１５番（内田　隆君）　定期的に固定があって始めてやれる問題であったと思うんです。集めれば何とかお金になる。もちろん、その後、高く売れればそれに越したことはなかったんですけど、そうでなくても本当に古紙が要するに非常に少なかったときにも、集めれば何とかなると動いていたところもたくさんある中において、もう収支の勘定だけしてやれというのがやっぱりどうなのかなと思っているのと、それと、今、先ほど言ったように、先ほど言われたみたいに、集めるところは幾らでもあるよということの中で行政側が手を引くということでよろしいんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　平成29年の多い月が40万キロありました。今は９万キロまで

減ってきているものですから、新聞紙をはじめ、いろんな雑誌が皆さん、ご父兄の方が杏林堂だったりそういったところに流れているような実態も聞き取りで行っていますので、そういったことも含めてやめる方向で考えました。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連、そのほかございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。例えば、学校で今まで古紙回収のお金とかでどういうものを買ってきて、どれぐらい負担とかしていたかという調査というのはかけないんですか。結構、かつて六郷小は扇風機つけたりとか、結構なお金をそこから捻出していろんなものをやっていたんですけど、過去のどこにどうやってそれを使っていたかというのは学校調査していただいて、それは教育委員会でやはり調整していかなければ、本来必要なのにやってもらえないので自分たちで集めたお金でやってきていたわけなので、その辺の傾向と対策を見ながら、じゃあこれ、古紙やめるので、学校のほうの予算を少し考えてもらうとかという調整を全体でしていただきたいと感じていますけど、そういう調査みたいなことはかけているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。独自の調査というのはしていないんですけれども、先ほど、一部の学校から有効なお金として活用していたというところがございました。備品等、物品類に回していた。あくまでもこの奨励金の目的というのはリサイクル推進になりますので、そういう物品を買うための目的とはしていないものですから、もしそういうところで予算を自ら努力をして捻出するようでしたら、先ほど申したように、１キロ３円で紙でしたら利益になりますので、そこで努力してもらうということで合意形成は取れています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質問ございますか。

○１３番（倉部光世君）　教育委員会のところで聞きます。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃあ、鈴木生活環境部長。

○生活環境部長（鈴木和則君）　生活環境部長です。今のやり取りでお気づきだとは思いますけれども、学校教育課のほうが今こういう経過を経て、環境側とすれば環境の目的に基づい

ていろんな変化が生じる。そこは調整をこちら側とするとした結果として、奨励金については７年度と。先ほどのお話。ですので、内部では改めてこういうお話が出たという働きかけはさせていただきますけれども、最終的に組織の中で、その部署においてそこに目的があるのでしたらやはり考えていただいて何らかの対策を取るという、それぞれの役割といいますか、そういったところに今入っているのかなと思いますので、私どもの奨励金に関しては、考え方は、すいません、大変申し訳ないんですけど、この方向で今は考えております。ご意見があったことについてはまたお伝えはさせていただきます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　この件、よろしいでしょうか。

○１３番（倉部光世君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　では、２問目のほうへ行きます。３名の委員から出された。代表して赤堀委員、お願いします。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。動物愛護管理費、タブレット16ページです。１番は、動物病院と連携して狂犬病集合注射の実施とあるが、獣医師不足と聞いているが、今後、集合注射を継続できるのか。２番目、畜犬慰霊祭業務委託料、令和５年度はゼロ円とあるが、慰霊祭の説明を。３番目、動物死体の回収状況と猫の不妊手術補助の状況をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。赤堀委員、内田委員、渡辺委員のご質問にお答えします。

まず、１つ目の狂犬病の集合注射の関係ですけれども、現状としましては、小笠獣医師会に所属する獣医師が高齢化などを理由に減ってきているのが現状でございます。令和６年度も市内の沖田動物病院と御前崎にあります浜岡動物病院が脱退するということになっております。集合注射に来られる市民の方もまだまだ多いですので、今後につきましても、獣医師と連携をしながら継続していく予定でおります。

次の２つ目の畜犬慰霊祭の業務委託料の関係になりますけれども、本委託は静岡県の動物保護協会小笠支部によります動物慰霊祭の開催に係る委託業務になります。

慰霊祭についてですけれども、長年、人と生活を共にしたペットなど、人に安らぎを与えてくれた全ての動物の霊を慰めるため、住職による読経、それから参列者による献花・焼香、その他、動物愛護功労者の表彰などを行ってございます。

本慰霊祭は、掛川市、御前崎と３市で合同で行っておりまして、当番制で２年置きに事務

局が回ってきます。本市におきましては、来年度とその次の令和７年度が当番市になることから、菊川市動物愛護会に慰霊祭の業務を委託する予定でございます。内訳としましては、郵便代、献花代、お寺へのお礼代、人件費（総額）になっております。

３つ目の動物死体回収の関係と不妊手術の補助の関係ですけれども、死体回収は令和５年度の１月までで410件となっておりまして、これは例年並みの数字となっております。内訳は、猫、タヌキ、ハクビシンの順となっております。所有者の判明しない猫の不妊去勢手術の補助金の状況は、不妊手術が28件、去勢手術が８件となっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。赤堀委員、再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　私はいいです。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１０番（赤堀　博君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　内田委員、再質疑ありますか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。多分、死体回収については予算があってもなくてもやってくれているんじゃないかなと思いますので。ですけど、不妊のほうは、これは非常に猫がたくさん増えてきているという現状の中で、この補助というのは今足りているんですか。足りていないんですか。去年の分から見ると。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。こちら、毎年なんですけれども、足りていない状況です。もう年間を通じて毎年同じ予算枠でやっているんですけれども、すごく足りていないわけじゃないんですけど、一度、補助金を使う人が複数回やる方が多いんですが、そういう方がもう少しやりたいというお声を今年は聞いております。ということで、足りていない状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。徹底的にやるというのはどうかちょっとよく分かんないんですけど、ただ、本当に野良猫だか飼い猫だかよく分からない猫がたくさんいて困っている方もたくさんいると思いますので、今回はこれで、当初はこれで構わないんですけど、不

足とか、処理をしていただける方がいるなら、ぜひお金の充当をまたお願いをしておきたいなと思いますけど、それはできるんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　ご要望等、市民のお声がたくさんあるようでしたら、また当初でめいっぱい使っちゃいましたので、人員を確保してお願いしたいと思うんですけど。

ちょっと余談ですけれども、今朝もあるアパートの屋根の上に野良猫ちゃんが乗っちゃって、消防と一緒にペットレスキュー、うちの職員が行きました。結構、そうやって外で生活している猫は、なかなか人が捕まえようと思っても逃げちゃって捕まえにくいものですから、この補助金も補助申請するんですけど、結局、猫を捕まえることができなくて補助金を出すことができなかったということが度々ありました。なので、要望があっても実際猫が捕まえられないという状況があります。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○１５番（内田　隆君）　結構です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　渡辺委員は再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　大丈夫です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件、関連で質疑はございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。この手続の流れなんですけど、利用している方から変えてほしいとかという意見は出ていないんですか。やった人いたら捕まらなかったとかという、捕まえたんでみたいな方のほうが多いんですけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　今、すごくもう５回ぐらい相談を受けている方がいるんですけれども、捕まえたんですけど、目がちょっと見えなかったり、歯が取れたりというので手術ができない状況、そっちからまずはやらなきゃいけない状況で、その方は保護してくれて今待っている状況、そんなような相談を受けております。申請はしっ放しなんですけど、やっぱりそっちの手術ができないとかというお困り事の相談があります。

それから、先ほど言ったように、おりを貸しても、おりの中に入ってもらうというのがなかなか皆さん、何とか保護したいんですけどできない。いろいろと猫に関してはお問合せが来ているような状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　ほかに関連ございますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。私もおりを借りて野良の雌猫を捕まえようとしたんですが、入ったのがハクビシンと。獣医さんに「予約してくれにゃあ困る」という。捕まえた後の何週間か、うちで餌をくれて、暑いときとか寒いときじゃあ大変だなとかってなかなか。その猫は最終的には交通事故で亡くなっちゃったんだ。獣医さんとのやり取りを、捕まえたら１日、２日で手術をやっていただけるといいんですが、獣医さんもなかなかお忙しいようで、その辺がちょっと僕も課題だなと思いました。

○分科会長（小林博文君）　そのほかよろしいですか。関連はよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃあ、３問目、４名の委員から出ております。代表して織部ひとみ委員。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部ひとみです。款項目が４款１項９目の地球温暖化対策費でございます。①が省エネ家電製品購入事業補助金の見込数と申請期間。２番目が窓口業務に対して専門の会計年度任用職員を置く必要性は。３番目、継続的な交付金はないのか。４番目、省エネ家電製品購入事業補助金1,500万円の対象品及び積算根拠を教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。織部ひとみ委員と赤堀委員、倉部委員、小林委員のご質問にお答えします。

まず、１つ目の省エネ家電購入補助金の関係になりますけれども、令和６年度の見込件数は500件としております。申請期間につきましては、令和６年５月の中旬から令和７年２月の末日を予定しております。

それから、２つ目の窓口業務の専門職員の関係ですけれども、こちらの環境推進課の業務というのが、先ほどペットのお話もしましたんですけれども、緊急的に現場に行かなきゃいけないことがあります。例えば、油の関係だったり公害関係、いろいろ多々あるんですけれ

ども、そういったことで日中人手が大分不足しているというのが現状ですので、今年度の実績も約500件の申請があったものですから、窓口の受付に１件当たり例えば15分ぐらいかかったりとか、あと、電話もかなり頻繁にかかってきます。その問合せの対応もしなきゃいけません。それから、申請書類のチェックなどに必要な時間がかかりますので、やっぱり必要という認識の中で考えております。

３つ目の継続的な交付金についてですけれども、今年度は国のコロナの関係の交付金を活用しました。令和６年、７年の３か年でやる予定なんですけれども、確保すると、一般財源でも続ける強い意思がございます。ただ、令和６年度につきましては、国の物価高騰対応臨時交付金が充当できるようになったものですから、これを活用していこうと考えております。

４つ目の省エネ家電製品購入事業交付金の積算根拠につきましては、対象品は冷蔵庫、冷凍庫、エアコン、テレビ、照明器具となりまして、積算根拠につきましては、補助金３万円掛ける500件で、この３万円等々につきましては、交付要綱に基づいて定められております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。織部ひとみ委員、再質疑はよろしいですか。

○４番（織部ひとみ君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　赤堀委員、再質疑ございますか。

○１０番（赤堀　博君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　倉部委員はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。昨年の中で、対象商品のランクが高過ぎるという点ですけど、相当上のやつを買わないと対象にならないから諦めたというお話を結構聞いたんですけど、それぐらいやらないと効果がないということなのか。３万円もらっても買う物がすごい高いので、やっぱり普通のやつにしちゃいましたという声が結構あったんですけど、その辺はどうなんでしょう。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。エアコンが確かにすごく高いです。省エネ率が100％こえるエアコンは高くなります。ただ、省エネ率が高いということは、電気料が長い目で見ればちょっとお安くなるということと、あとこれ、新規で購入というよりも買換えを対象にしているものですから、ちょうどその買換えのタイミングにはまっていけば、ぜひ省エネの推進、省エネ率が高いものを検討するために、電気屋さんとかにもそういうお話を積極的にしてもらうようにしています。少し前にもお話ししたんですけれども、

逆にＬＥＤ照明がかなり安くなってきているものですから、ＬＥＤ照明につきましても対象になっているものですから、そういうのもお客さんには推進のほうしてもらっています。

○１３番（倉部光世君）　もうちょっと大きい声で言ってもらわないと聞こえない。ごめん、エアコンの音がするもんだから。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　逆に安くなっているものとしまして、ＬＥＤ照明器具が安くなっているものですから、電気屋さんともお話ししまして、お客様にＬＥＤ照明の購入につきましても積極的に営業してもらえるようなお願いのほうをしております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　オーケーです。

○分科会長（小林博文君）　私のほうからちょっと。スタートが５月の中旬ということなんですけど、これをもうちょっと早くできないのかということと、もう一つが、継続的にというのをお願いしたところで、要は通年を通して申請してもらえる。予算の関係もあるんでしょうけど、期限が切れるというところがなかなか使えなくてというところもあって。スタート時期というか、その辺とか、通年制というんですか、そういうところは考えられないのかちょっとお伺いします。

赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　基本、そこのスタート時間と、あとずっと一年中通してというのは、スタートのところも話をしたばかりなんですけど、来年度につきましては単年度の予算要求をさせてもらっているものですから、なるべく早くしたいと考えてはおります。周知期間をどうするかというところが非常にポイントになりますので、周知期間を短くすればスタートは早められますので、その辺は検討していきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　もう一点。これ、500件に達したら終了という考え方でしょうか。すごく需要が多いので、もう少し補正でとか考えていますか。

赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　本当に評判がよくて、前倒しで物すごいもう出ちゃいましたが、また補正でご相談させてもらおうかなと思います。よろしくお願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　分かりました。

そのほか関連でございますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　すいません、１個だけ関連で。２番目の専門の職員さんということなんですけど、結構業務が大変なのかなと想像するんですけど、電気屋さんとかで結構毎回されている方もいるし、電気屋さんとしてもメリットがあるので、電気屋さんがある程度お客さんに申請用紙の説明とか一緒に書いてあげるとか、何かそういった協力みたいのがお願いしたりとか連携とかができる、やっているのかとか、今後する余地があるのかという、そういった部分を伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。多いところが大手のエディオンさん、ケーズデンキ、それから、マツヤデンキなんですけれども、そこにつきましては今のような連携をさせていただいておりますので、かなりそちらのその部分に手間が。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はございますか。よろしいですか。

この件、ほかに関連でございますか。

〔「いいです」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。

では、４問目に行きます。内田委員から出ております。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。自然エネルギー等の補助金等で352万円予算化されていますけど、これは太陽光って書いてある。太陽光だけではなかったかもしれないんですけど、352万円の算出根拠と、あとは現状の中での執行状況とか過不足みたいなものがあったら教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。内田委員のご質問にお答えします。

この補助金の関係ですけれども、まず、算出根拠は補助金の交付要綱で定められておりまして、太陽光につきましては太陽電池の最大出力に１キロワット当たり4,000円を乗じて出た額としまして、限度額は２万円としております。過去を振り返りますと、10年ほど前は限度額６万円になっておりまして、徐々に減額をしておる状況でございます。

実績につきましては、令和５年度は36件で、秋から冬の始まりにかけて上限のほうに達しております。

太陽光のほかにも、太陽熱温水器とソーラーシステムだとか、蓄電池があるんですけれども、特にこの蓄電池につきましては平成30年度から新たに加わったものになります。

少し太陽光の内訳になりますけれども、一番多いときで平成25年度156件あったものが今年度は36件と、件数が落ちております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑ございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ちょっと補助の紙を見れば分かったかもしれないんですけど、この予算というのも、それこそ市長がカーボンシティを宣言している中ではある程度推進をするべき事業だと思いますけど、先ほど何かのお話、ほかのところでも出ていますように、不足が生じた場合についてはそれなりの対応をここも考えられているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。今回、代表質問で小林議員からご質問を頂いているんですけれども、一応この太陽光、自然エネルギーの補助金につきましては予算を毎年350万ほどで、一定で当初予算には計上させてもらって、その中でより有効的な内容にするために、現在も例えば今回、小林議員からもご提案ありましたＥＶの関係だったり、そういったものを他市町の状況を踏まえながら、より有効な予算となるように今検討している最中でございます。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はよろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連でございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　大丈夫ですか。

では、次、５番目、私のほうから質問させていただきます。

同じページのところの業務内容の３つ目の丸のところの一番下です。鈴与商事と連携した環境に関する職員研修とありますけれども、これの具体的な内容をお願いいたします。

赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。鈴与商事の連携事業の関係ですけれども、令和５年度は、まず令和５年度につきましては、職員向けの地球温暖化の座学の研修として、菊川市のゼロカーボンシティ実現に向けた研修会を２回実施しております。こ

の対象者は、全部長職と全部の課に配属します環境推進委員を対象としております。来年度につきましては、この令和５年度に受講していないその他の職員にも座学の研修を実施して、意識の浸透を図ってまいりたいと思います。

それに加えて、令和６年度は鈴与商事の関係の連携事業として、2050年カーボンニュートラルカードゲームと題しまして研修会を実施します。この研修は座学と違いまして、参加型の研修として、職員一人一人がゼロカーボンシティを自ら考えて行動に移してもらうことを期待しての実施となります。例えば、ほかの建設課だったり企画の職員が消防署の職員になったと仮定して、じゃあ、そこではどんなことをカーボンシティについてやるのかといったことを、このカードにいろいろ書いて共有するという、そういった中身になります。より意識を高く持ってもらうことを目的に行うものでございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　私のほうからは関連ありませんが、このほかに関連でございますか、この件。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃあ、６番目に行きます。渥美委員から出ております。１番渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ26ページ、塵芥収集費について、１、不適切なごみ出しに関する自治会からの相談状況と市としての対策方針を伺う。２、ごみ収集カレンダーの作成に当たり、何か工夫を考えているか伺う。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。まず、１つ目の不適切なごみ出しの関係ですけれども、自治会からはごみステーションでのごみの出し方マナーについて苦情が多く寄せられている状況です。主な内容につきましては、指定ごみ袋に名前が書かれていないものですから、これを収集していただけなかった。それから、ごみが例えば燃えるごみの中にアルミ缶だったりペットボトルが入っていて、分別されていないために置いていかれたとか、それから、指定ごみ袋以外のごみ袋で出されているであるとか、こういったものが苦情として寄せられているんですけれども、対策としましては、ごみの出し方の看板だったり、小型・大型監視カメラの持ち出し、それから、今年度につきましては職員を２人つけて夜中に張り込みをやったりとか、そういった対応をしています。

次のごみ収集カレンダーの作成に当たり、工夫点ですけれども、令和６年度版のカレンダーの作成に当たりまして、例えば、令和５年度から始まった環境資源ギャラリーの搬入抑制と同時に行って、カレンダーに予約必要日を星印で記載してみたりとか、あと予約サイトのＱＲコードの記載を行いました。それから、ごみ削減を促すために、ごみ処理に係る費用を市民１人当たりに換算すると幾らになるのかというのを記載するようにしております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ございますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。１番目のごみ捨ての不適切なことで、自治会としてもなかなか大変な問題です。行政としても大変な問題だと思うんですけど、いろいろ対策を上げていただいて、張り込みもやっているということだったんですけど、それをやってみての効果というか、改善の効果というか、兆しというか、何か感覚としてどういった手応えがあったのか伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。毎年、一斉清掃の前に各自治会、全自治会の環境推進委員さんと自治会長に集まってもらって研修会をするんですけど、やっぱりそういった相談がその場でもあっていました。行政としても何か連携していかなければ自治会さんのほうでも動いていただけないということは実感していましたので、今年はそういったことで連携を取って。中には、効果としては監視カメラに少し状況が入って、警察に相談して、私たちと連携して、市と。それから、自治会さんのほうでは、会社が分かった。外国人の方だったんですけれども、会社から指導してもらって。いずれも悪質というよりも、ごみの出し方を知らないということが分かりましたので、通訳さんを通じて鋭意相談すると解消されたと、そういう状況がありました。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はよろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　はい。以上です。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連ございますか。よろしいですか。

じゃあ、７番目、赤堀委員から出ております。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。一部事務組合費、タブレット27ページです。掛川市・菊川市衛生施設組合負担金5,346万1,000円増、内容説明を。これは一般会計の負担が大きくなってきているが、今後の計画はということでお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。衛生施設組合の負担金の関係につきましては、令和６年度におきましては新施設関連事業として委託業務が４本あります。また、令和７年度以降は、現施設を使用するときに外部搬出という方針が決定されておりますので、例えば、積替え設備設置及び設置に伴いピットを空にする必要があることから、外部搬出費用を増額のほうをしております。

今年度ですけれども、ギャラリーにおきまして廃棄物処理整備基本計画を策定しました。今後につきましては、この計画に基づいた施設整備が進められていきます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ございますか。

○１０番（赤堀　博君）　あんまり突っ込んでいくと一部事務組合に入っちゃうので、いいです。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。この件、関連がありますか。よろしいですか。

それでは８問目、内田委員から出ております。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。塵芥処理費の中で、西方地区へ委託が出してありますけど、この委託の内容は何ですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長です。西方地区の関係ですけども、業務内容につきましては、環境資源ギャラリー隣接市としての西方地区の環境保全を目的にしておりまして、不法投棄、ごみの回収や除草、樹木の剪定などを委託しております。契約金額は30万円となっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑ございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。隣接地の中での、公害みたいなものを委託しているんじゃなくて、不法投棄と、それと、樹木の剪定。これ、樹木の剪定というのはどこをやるですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。中嶌環境推進係長。

○環境推進係長（中嶌　　君）　樹木の剪定ですけども、こちらから場所の指定ということはしておらず、西方地区の環境対策委員会という委員会があります。こちらで草刈り機を所有、管理をしております。それを貸出し等を行っておりまして、地域の方が人目に触れる、気に

なる部分というのをきれいにしていただいております。

○分科会長（小林博文君）　赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　補足ですけれども、西方地区のほかにも、例えば昔の焼却場の隣接地であります三沢地区、棚草地区にも同様なお金が出ております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。分かりました。地域対策費ですよね。分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件、関連はございますか。いいですか。

最後も内田委員からお願いします。９番目です。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。最終処分場、これは三沢だと思いますけど、このところで電気代とか、医薬材料費が伸びていると思うんですが、何か特別な理由があって伸びているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　その増額につきましては、電気使用料の再生可能エネルギー発電装置付加金というのがございまして、これが増額しております。これに伴うものです。

医薬材料費につきましては、物価高騰によります全体的な薬剤単価の増額に伴うものになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。前の再生可能何エネルギー、単語が出てこない。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　以前は中部電力と契約していたんですけれども、環境サイドの量を出すために、100％再生エネルギーで作られた電気を作っている鈴与商事株式会社、西方の水力発電で電気を作ったものと契約しているもんですから、そこの部分が少し高くなってくる。中部電力より。

○分科会長（小林博文君）　水処理施設的な。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。これは、中部電力以上に、カーボンシティの中でやるから190万円高くなっても仕方がないという予算ですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀環境推進課長。

○環境推進課長（赤堀耕二君）　環境推進課長でございます。やはり、ゼロカーボンに向けて

いろんな取組が進む中で、どうしてもそこっていうのは優先するべきことだと思います。この辺につきましては、やはりコスト面でも考えていかなければいけないもんですから、少し国の入札制度なんかも勉強しながら、もう少し安い電気があれば、そういうところも検討していかなければいけないのかと。

施設につきましても、いわゆるうちのほうからは、環境サイドとしては、ＲＥ100、再生可能エネルギー100％で作った電気をぜひ活用してもらえたらと思っているものですから、少しその辺は、相対的に考えています。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件、関連でございますか。いいですか。

環境推進課、事前通知は以上となります。

そのほか、質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑なしと認め、質疑を終了します。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

今回、環境推進課では一番上のリサイクル、古紙回収の件とか、３番目、省エネ家電、４番目、５番目あたりが主に質疑が出ていました。

皆さまから自由討議、ご意見ございましたら、挙手の上、発言をお願いいたします。

15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。それこそ先ほどの古紙回収のところなんですけど、やはりあれを、先ほど倉部議員からもあったように、あれを当てにしている行政の財政の中の一環にしているということもあることも事実だということで、それこそ横文字じゃないですけど、そこのところはもう少し、本当に、教育委員会でそれだけの予算を追加できるかっていったら多分できない。できなければ、どこで対応を、今まで必要としていたものを補っていくかというところが、もしかしたら、カモフラージュになるかもしれないですけど、もう少し菊川市全体として何か考えていただくことが必要かというふうに思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　この件、どうでしょうか。13番　倉部議員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。最近、大分減ってはきているんですけど、かなり、ＰＴＡからということで、入れて、いろんなものを買ったりしているのは、ここずっとの課題でありますので、教育委員会がその分予算をしっかり、こっちを減らしたらそっちを増やすということをやっていただかなきゃいけないでしょうし、各学校で何にどう使っていたかなんて、多分、まとめてないと思うんです。そこら辺をしっかりまとめていただいて、足りないんだったらどうやって補填していくとか、どうしてもなければいけないことをやっていたのか、それとも、なくても何とかなるけれども、この予算があるからやっていたのかっていうのは、各校で調べて出していただくべきじゃないかと。

やはり、止めるんだったらそこしっかりやっておいて、教育委員会のほうとつなげていただかないと、ごみとＰＴＡは関係ありませんという話では本来ないので、ちょっとしっかり調査した上でやっていただきたいと思います。

ＰＴＡの負担を減らすというのは各校で始まって何年かたっていますので、以前より回収量も相当減ってきてはいるものの、まだこれを活用しているのであれば、しっかり検討していただきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。今の問題を質問したときに、答弁であっさりと、環境問題が主ですから財政のことには関係ないっていうのがさらっと出てきちゃったんだけど、実情としてそうじゃないんだから、ああいう、簡単にそういう意識になるっていうのがちょっと問題かと思うので、その辺も考えてほしいと思いました。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、どうでしょうか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。同じところなんですけど、学校としては予算を当てにした部分があるとしたら、そこは何かしら対応が必要だと思うので、そこは教育委員会としっかり連携してほしいと思うんですけど、一方で、この補助金を見直しして廃止することで、補助金の業務とか、そういった部分が減るっていうのも一方であるかと思うので、補助金の見直しもやっぱり必要なので、それを行いながら、ただ、実情の部分もあると思うので、そこは、例えば今回の場合は教育委員会としっかり連携して、教育のほうは担当課として教育のほうで対応していくべきなんじゃないかと思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　私、ＰＴＡの会長をやったときに、回収した資金というのは部活動の部品を買ったりとか、遠征に行くときの費用になったりとか、すごく重要な資金で、今

あったとおり、前はたくさんいただけたんですけど、今はちょっと規模が縮小しているので、その辺で、ある程度当てにされているところがあると思いますので、リサイクルのときは子どもたちも出てやっていましたので、自分たちも手伝っている中でお金をもらえるという意識は大事だと思うんですが、その辺も時代の流れで、皆さん忙しいというのもあると思います。

もう１個、去年、討論会をやったときに、この減量数を出すとごみの量に数えられるというところで、そこでもう把握できないというところ、それも考え方としてありなのかと。さっきの渥美委員からあった事務負担もあるんですが、ごみの減量の数値に入ってこないというところもあるので、その辺は時代の流れでいいと思うんですが、さっき言ったとおり、皆さんおっしゃるとおり、あとのフォローが大事かと。

もう１点、私、思ったのは、大体、高齢者の方はこういうＰＴＡの回収のときを当てにして重い新聞とかを出されるんですが、そこがちょっと、今、近くにあるとか、スーパーへ持ってくっていうのが高齢者の方は大丈夫なのかというのが、ふと頭の中に浮かんだので、そういうフォローも必要かというのがありましたので、１点、つけ加えておきます。

そのほか、関連でございますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。生活環境部として、市民の生活向上という観点からいきます、予算的には明らかに増やさなければいけない部署だと私は思います。

世界的に見て、日本の教育費は低すぎるということがありまして、前年度、この程度だからこれでいいという予算の組み方ではなくて、価値観の違いを認識して、時代の流れを認識して、やはり、今、少子高齢化の時代にやるべきことは何かと、今回の予算を見ても、私にはその辺のところが考慮されているとは思えません。

そういった意味で、執行部には、今回の予算をこれだけ大きくしてしまっていますけど、これで本当にいいのかという疑問符を感じています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、省エネ家電の補助とか、その辺のご意見はどうでしょうか。13番　倉部議員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。全体として、カーボンニュートラル宣言をしたということで、事業がちょこちょこ入っているんですけど、ちょこちょこすぎて全体像が見えないというところがあって、先ほどの発電の契約を変えたので金額は上がってしまいましたとか、何かそのバランスをどう思っているのか。カーボンニュートラルに力を入れるけど、

それで予算が増えちゃっていいんですかというと、何となくそうじゃないのかと思えたり、カーボンニュートラルのための省エネ家電のものだったりとかとは思うんですけど、何となくカーボンニュートラルに向けての全体像というか、本気度がちょっと分かりにくいというところがあるので、その辺、もう少し分かりやすくしてまとめていってほしいかと思います。

職員のこの研修、カードゲームをやったりとかというのがあるんでしょうけど、そこでどのくらい意識が変わるのかというのも、ちょっとあれかと思ったりしています。

省エネ家電も、告知期間があるから５月というお話があったんですけど、昨年、あんだけやっているので、続けてやりますと言っちゃえば、別に４月からやっても、１日からやれるとは思わないですけど、連休前とかにやれば、連休中に買い物にみんな多分行くんです。だから、できれば今月中に、４月中にスタートして、連休のお買い物に行ったときには使えるぐらいにしてあげないと、エアコンで結構早く頼まないと、それこそ設置だなんだって言ってどんどん先送りにされたりしてしまいますので、また足りなくなれば補正するようなことを言ってましたけど、みんな、お先物が出るとやったら、もう夏ぐらいに終わってしまう可能性もあるわけなので、その辺、もうちょっとめどをつけたりとか、継続性とかは考えてぜひやっていただきたいと。連休前に絶対やってほしいです。

○分科会長（小林博文君）　どうでしょうか。この件、そのほか関連はございますか。15番内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。確かに計画書は出てきたけど、ほとんど具体論はなくて、本来なら、今、やってるものにどれだけ予算をつけたり、計画書でも作ったりして、その音頭取りは環境推進課だとは思うんですけど、どうも、ほかのところまで働きかけてとか、そういうふうには言えないことも事実かなというふうに。

ですから、結局、宣言はしたけど、何と何と何でどうやっていくんだって組み立てが具体的になかなか見えてこない、そんなところがあるような感じが非常にしてますので、やっぱり市民の方も、それならこういうことまでしましょうという、環境部分だけでもやっていただくことが本来の仕事かと思いますけど、あまり、ソフトの部分はほとんど出ていませんので、その辺はあるのかと思います。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。古紙のほうへ戻っちゃうんですけど、本当に、織部さんの話で、教育予算ってほとんど動かしてくれていないっていうことが現実の中で、昔は簡保の扱いをしたお金まで、要するに学校の中での資金にしていて、それがなくなってきて、古

紙のところへ来て、古紙のところでも、やっぱり最低ベースが３円くれてありますので、ですから、古紙がただになってもまだ３円は入るっていう、そういうことの中でずっと進めてきたものを、今回は自由にやってくれって、３円、売れればそれだけもうかるって、それでやっぱり資金源にはなかなか成りおおせないです。

財政側も厳しいことが理解できる以上、皆さんでやってもらえることを少しでも拡大をして、それを支援をしていくっていう体制を維持はしてほしいと思いました。とにかく売れば売れるんだから、それで、やりたければやればいいっていう話ではないのかというふうに。それで、一度やめちゃったら、多分、これから再生をすることはほとんどあり得ないっていう形に陥っちゃうと思いますので、その辺は、ぜひ、要するに横串を刺していただいて、どれをどうやってお金を使うのが一番効果的なのかをぜひ検討していただいて、廃止をするなら廃止をするとやっていただきたいなと思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　渥美委員が、不適切なごみ、河城地区センターでも本当に、資源ごみですけども、家庭のごみを入れたりして、環境推進課に相談したところ、監視カメラを貸せます、１回目はつぶれたのを貸して何も映ってない。また２か月くらいして、設置しました、とんでもないものが映っている。そういうことで、もう少し職員に、そういうものに精通したというか、勉強してやってほしいというのを感じました。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部議員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。さっきのカーボンニュートラルの続きですけど、市民意識を向上させるような、見場のいいというと変ですけど、そういう事業が全然なくて、家電を買えばっていう話はあるんですけど、以前言ったんですけど、例えば名古屋だと、一番古いエアコンを買いますかの補助金とか、目玉のもの、例えば、夜、みんなで電気を消す夜を過ごしましょうみたいなものとか、菊川には環境団体みたいなのがないのであれなんでしょうけど、もうちょっと、市民の皆さんに本当に宣言したんで、こういうところをやっていきましょうというＰＲみたいなものっていうことをもうちょっと、特に学校とかにもうちょっと。今までやっていたエコアクション21とか、同じことをずっとやってるだけなんです。もっとやりますよっていうところを見せる、お金がおかけずにできる事業というのは、やっていただいて、市民意識を上げていくということを、それもやっていただきたいと思いました。

あと、ごみに関しては、うちの自治会も最近カメラを借りてやってはいるんですけど、な

かなか難しいです。全部、袋を開けて対象者を探して追いかけるぐらいまでやった事例も実際ありますので、何を対策すればいいのかとは思うんですけど。

自治会の方の清掃の担当の方、環境推進員の負担がすごい大きいので、何かもう少し対策がないかと思いますが、皆さんのほうはどうですか。

○分科会長（小林博文君）　どうでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　やっぱり通りに面してると、多分、地区の人じゃない人がリサイクルなんかに、瓶なんかもそうなんですけど、うちのところ、出た、不要、違うものは全部写真を撮って回覧をしてくれるんですけど、それでも改善されないんです。ということは、地元の人じゃないんじゃないのってみんなが言ってるんです。監視カメラなんかも置いたばかりなんですけど、やっぱり監視カメラを置くとちょっと抑制効果で、その辺は減ってはいるんですけど、なくなれば、またもとのとおりとか。

あと、もう１点は、外から、マンションに来た方は、菊川のこういう細かい分別とかに慣れてないとか、まだ、いまだに固持して名前を書かないで必ず出す人が１軒あるようで、毎回名前が出てないので、多分、あのうちだってみんななっちゃってるんだけど、そういうところは、来たらルールに従ってほしいというのはあると思いました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。動物病院のことで、高齢化が進んで、どんどんなくなった、いなくなっちゃうって話ですけど、もともとがそんなに、普通のお医者さんに比べると少ないんで、ここで、１人、２人、ポンポンと廃院をされるとダメージが大きいんで、これから、こういう事業ができなくなっちゃうような気がするので、よく看護師さんとか医師の確保しなければというような意識を、動物病院のほうにも持っていかないと、いろんなことが回らなくなるかと思いますので、その辺もちょっと意識したほうがいいんじゃないかと思いました。

○分科会長（小林博文君）　４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　先ほど倉部さんが言ったように、本当に市民が、菊川市がゼロ宣言をしているかというのは、多分、皆さん存じていない、私もそうだと思うんですから分かるんですけど、そこら辺を徹底的にＰＲをしていかないと、皆さん、分かっていないと思いますので、その点を十分ＰＲしていただきたいという思いです。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部議員。

○１３番（倉部光世君）　動物の件ですけど、ペットを飼う方が物すごく増えているのにも関わらず、動物病院が廃業されるということで、獣医師になりたい人が少ない、国のほうで、獣医師のあれでも問題があったこともありましたけど、民間の動物病院みたいのがなくなっちゃったんですっけ。それも意外とあるような、ないようなんですよね。その辺を確保できる何かをやっていかないといけないかなと思うのと、猫の不妊ですけど、友だちが島田の保護猫の会に入っていて、一生懸命自分で捕まえてやるんですけど、結局、一番最初に雑菌を持っているので、それを取る薬を飲ませたりとか、そういう基本のお金が、結構、個人負担で実際いるので、本来は去勢だけの話じゃないんです。その辺までちゃんと見てあげるとか、あと、結局、預かって、飼っている中のえさ代とかも、結構ばかにならなくて、島田の保護猫のところもいっぱいで、幾らこっちで、そっちに連れてきますと言っても、もう全然いっぱい預かれないんで、そっちで預かっておいて、譲渡会があったら出してくださいになっていたりですとか、多分、同じ人、何回も言ってくるというのは、多分、私の知り合いが二、三人やっている人がいて、毎回言いに行ってだめって言われるから帰ってくるので。

実際、やってる方が困らないような仕組みづくりをしてあげないと、本当に捕まえてもキリがないっていう話。１頭いれば、どんどん子どもは生まれちゃうもんですから、もうちょっと本気でやってくれるのか。しないとルールがいつまでたっても使いにくいままでいるんだったら、きちっと、その保護活動してる人の話を聞いて制度設計していただかないと何も変わらないのかとは思いますので、毎回、猫問題っていうんですけど、一度、解決できるような話し合いをして制度を設計していただきたいなと思います。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、よろしいでしょうか。時間もあれです。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　以上で、環境推進課の予算に関わる審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を元に分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

それでは、トイレに行きたい方は、今、入れ替えの間にお願いいたします。

休憩　午前１０時４９分

開会　午前１０時５３分

○分科会長（小林博文君）　それでは、続きまして、小笠市民課の予算審査を行います。

初めに、木村小笠市民課長より出席者の紹介をお願いいたします。

○小笠市民課長（木村良一君）　小笠市民課長です。よろしくお願いします。

今日出席しているのが、市民福祉係長の沢瀬でございます。よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑を行います。

市民課の中で一番下の７番、８番の内田委員から出ているものが、両課、市民課、小笠市民課となっておりますので、この質疑を行いたいと思います。

７番目の質疑から、内田委員、お願いいたします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

タブレットの中の46ページのところに、主歳入のところが載っています。いずれも前年度予算に比べて減額がされていますので、これはこちらの憶測ですけど、マイナンバーカードを奨励するために単価を下げているということが影響しているかどうかの確認をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　小笠市民課長でございます。

歳入の14款２項１目２細節の住民手数料が前年度に減少している原因につきましては、内田委員がおっしゃるとおり、マイナンバーカードの奨励に伴いまして、コンビニ交付と窓口申請システムに関する住民票、印鑑証明、所得・課税証明の発行手数料を１通300円から100円と、窓口交付より200円減額しているため、住民票手数料の予算を減額しております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑ございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

そうすると、今ここに書かれた三角の件数、三角の額の200倍、200で割った件数が大体扱い件数だったので、大体そこらでいいですか。１件当たり200円減になっているから、例えば37万4,000円はこれを200で割ると172件、そういう計算をして、そのぐらいの件数が本来あるべきだったということでいいのかな。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　小笠市民課長でございます。

大まかに言いますと、やっぱりその200円分掛ける額の件数という形で計算にはなります。それ以外にも、窓口交付のほうの来庁者の人数がかなり減ってきているものですから、それも影響して減額となっております。ですので、らくらく申請というか、申請の件数のみの減額ではございません。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

この件、関連ございますか。いいですか。

８番目、同じ内容になりますか。

○１５番（内田　隆君）　同じです、全く。

○分科会長（小林博文君）　これは、質問はしますか。

○１５番（内田　隆君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　今のでよろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　それでは、出されていました質疑はこれで終わりになりますが、皆さんから、小笠市民課に関して何か質疑、追加ございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

すみません、ちょっとよく理解、認知していなくて申し訳ないんですけど、小笠市民課の窓口も委託業者の方が入っていらっしゃるということでいいですか。何人ぐらい。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　委託業者につきましては、通常４人ぐらいおいでになっています。多いときであと５人とかいう形になっています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。

先ほどありましたが、コンビニ交付とかになって、来庁者も多少減ってきていて、この人数を減らすという検討はできるぐらい減ったんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　小笠市民課長でございます。

そこまで大まかに来庁者の数が減っているかというと、そこまでは減っていないと思われます。

○分科会長（小林博文君）　補足で、鈴木生活環境部長。

○生活環境部長（鈴木和則君）　生活環境部長です。

この後、市民課の中でも同じようなご意見、ご質問が出るかなとは思っていますが、コンビニ交付のほうが増えて、同数じゃ、窓口のほうが減るかというと、マイナンバーのほうに関しては、更新というまたプラスの業務があって、その切れるよという更新時期がこれからかなりの件数が入ったりとか、委託のほうが減るかというと、すみません、委託のところでやはり人数の読みとしたら、その分を人数下げてやっていくようにはなっていませんので、トータル的に言うと、これ対これという関係にはなかなかなり得ない状況にはあろうかと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。

全然関係ないですが、書かない窓口の菊川市的な対応って、小笠市民課で聞いていいか分からないですけど、多少進むのか、あまりまだまだなのかどうなんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　書かない窓口というのはやっぱり必要だとは思っておりますけど、ＩＣＴの関係もありますので、ＩＣＴにつきましては企画政策課のほうで推進しているものですから、そこら辺でうちのところもそうですし、市民課もそうですけど、みんなが話合いながら、どうやってやっていくのかというのは、これからの検討課題となっていると思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。

特に、いつまでにどうするとかという計画はまだあまり立っていない感じでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　鈴木生活環境部長。

○生活環境部長（鈴木和則君）　生活環境部長です。

確か自分の記憶ですと、一般質問でも少しそういったお話が出ていて、最近でいうと浜松市さんのやつが新聞にも結構細かく出ていましたね。

現場とすれば市民課のところが現場で、どういう変化が生まれるかということになります

が、先ほど課長が申し上げたように、やはりデジタルＤＸというところの絡みで、正直、組織としていつを目標に、工程として今年何をやりますというところまでは今いっていませんが、やはり早めにちょっと入っていかないといけない。より明確な目標を持って進んでいかなければいけないという認識はありますが、ちょっと現状としたら、組織の中で工程を今お示しできるという状況にはなっておりません。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

その他、小笠市民課で関連質疑ございますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

今の回答の中で、更新の事務が増えると言っていましたけども、いつからですかこれ、更新が始まるのは。

〔発言する者あり〕

〔「もう終わりますよ」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　小笠市民課長でございます。

マイナンバーカードを取得してから５年度に申込みをしていただく形になります。

○分科会長（小林博文君）　ＩＣチップの電源の期限が５年なんですよ。なので、僕も変えましたけれども、10年で写真も変えるんですよね。

○１２番（織部光男君）　そうすると、今年ではなくて来年ですか。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　期限が来た人は変えてくださいと。

○１２番（織部光男君）　はい、分かりました。

○分科会長（小林博文君）　そのほか関連ございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

先ほど言った交付枚数と、あとそれに対する人員の扱いについては企画書みたいなものがあって、人を係数で掛けてきて――そういうものはあるんですか。

要は委託をするのに今、窓口業務が、コンビニ交付がある前はこのぐらいのものがあって、だから人が３人いりますよ。コンビニに移らさせると、この業務はある程度減ってくるから、ここは2.5になりますよ。ただし、それが何でかぶさってくるかというのは、かぶさってくるのは新たに出てくるわけですので、そういう計画書というものはつくられているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　小笠市民課長でございます。

委託業者の委託の関係につきましては、市民課のほうでそういう計算をしておるものですから、小笠市民課のほうではデータとしてはございません。

○１５番（内田　隆君）　こちらで聞きます。

○分科会長（小林博文君）　鈴木生活環境部長。

○生活環境部長（鈴木和則君）　生活環境部長です。

後ほど、この話、市民課でまた出ようかと思いますが、基本的に窓口の業務は複数年で更新をしていて、６年度から６、７、８ということで、業者さんは引き続き変わらずということになります。

その内容についてはいわゆるプレゼンですね。金額だけではなくて、プレゼンということで業者が決定されていきますが、その金額のところについても、基本的にこの金額で、以下でいいという提示が先に仕様書ですよね、そういう内容で示した中に事細かに、委員からあったように、これが減ってこれが増えてというのが３年間分積算されているかというとそこまではされてはいないと思いますが、ただ、向こう３年間でこの金額でできますか、かつ人数についてどういうような形で対応していただけますかということをしっかりとお示ししていただいた上で、総合評価として、また業者さんが６年度以降見られていきますので、いわゆる点で捉えるとこうなってないとおかしいという部分と、それ以外に新しい取組としてこういう要素が加わるというような、そういう評価の仕方の中で窓口業務が行われていきますので、詳しくはまた市民課のところでお聞きになっていただければと思いますが、ちょっと構造としては、また説明をさせていただきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほか質問ございますか。よろしいですか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

外国人の方もまた大分増えているんですけど、小笠市民課にいらっしゃるのは、外国人の方のほうが多いという言い方は変でしょうけど、最近増えているんですか。本庁舎でもかなり、水曜日の夕方とか大勢いらっしゃっているんですけど、割合的にどうなんだろう。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。木村小笠市民課長。

○小笠市民課長（木村良一君）　小笠市民課長でございます。

私の見立てというか、感覚ですけど、半々ぐらいに。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ございますか。よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　そのほかはよろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　では、質疑なしと認め、質疑を終了します。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとするとの規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

小笠市民課等で、皆さんからご意見のある方は挙手の上、発言をお願いいたします。12番織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

小笠地区に外国人約4,000名のうち何割がいるのかちょっと分かりませんけども、やはりこちら本庁には通訳の方もいますよね。小笠のほうにもそういう体制が取れているのかどうかちょっと心配するんですけれども、やはり外国人対応というのをこれから強化していかないと人口問題は絶対に解決しませんし、やはり移民という国の政策が遅れている以上、企業に頼るしかないというようなところなんですけれども、ぜひそれに合った政策を取り入れてもらいたいなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

今のお話の例ですけど、地域支援課って結局こちらにしかないものですから、実際、外国の方が小笠市民課に行ってお話して、それはもうちょっとあれなんで地域支援課に行ってくださいってなってしまっているのか、ある程度のいろんな回答とか、いろいろ教えてあげたりとか、いろんなことが小笠市民課のほうでできているのか、そこまでちょっと聞いたことがなかったんですけど、その辺、結局行ったり来たりにならざるを得ないのか、どのぐらい分担されているのかなというのはちょっと今感じました。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

去年も言ったような感じ、要するに旧庁舎を小笠市民課が管理、今回また同じように予算

にのってきているんですけど、ちょっと旧庁舎は小笠市民課の人たちが管理すべきじゃなくて、本来は財政に移して、財産管理でやるか水道課が入っているなら兼ねてあげないと、実際、自分がいないところの管理をしなきゃいけないっていうそれだけの人がいないもんで結局は見ているのが役務費と委託料を見ているだけみたいな、ちょっとこの管理体制っていうのはもう少し合理化すべきと僕は思いますけどね。

○分科会長（小林博文君）　どうでしょうか、そのほかありますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、以上で、小笠市民課の予算に係る審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等をもとに分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。

分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

では早いですが、ここで13時まで休憩といたします。

休憩　午前１１時１０分

再開　午後　０時５６分

○分科会長（小林博文君）　それでは休憩を閉じて会議を再開いたします。

これより市民課の予算審査を行います。

はじめに、澤崎市民課課長より出席者の紹介をお願いいたします。澤崎市民課課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長でございます。よろしくお願いします。

本日の出席者ですが私、市民課長の澤崎と隣におりますのは、市民係長の山崎、その隣におります国保年金係長の海野でございます。よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　それでは質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１番目、15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　231の人権活動費です。

タブレットだと３ページになりますけど、今まで県のほうから支出があったんですが、今

度、県がなくなったみたいで、県の関わりが、県がこの事業に対する位置づけが変わったのかどうかをお聞きしたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　はい、市民課長です。令和５年度の予算に計上しておりました県支出金ですが、こちらは掛川人権啓発地域活動ネットワーク協議会の事業に係る委託金であります。

この協議会は、掛川市、御前崎市、菊川市の３市で組織をしておりまして、５年度は、本市が事業担当の当番でしたが、６年度は、掛川市が当番となることから、本市の６年度予算には県支出金の予算計上はございません。

なお、この活動に対する県の位置づけは変わっておりませんので、次回、本市が当番となる予定の令和８年度には、本市の予算に協議会事業に係る歳入歳出予算を計上し、人権講演会などの事業を実施することになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑よろしいですか。15番内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ということは今年、どこの当番だかよく分からないんですけど103万5,000円がその市へ委託金で入ってきているということでよろしいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。今年度は、菊川市が事業担当の当番でしたので、このネットワーク協議会に係る予算については、全て３市を代表して菊川市がその予算を管理して執行したということになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。すみません、今年度つったもんだから、あー言ったけど、次年度、要するに減った分は、即、来年度から当番の市へ103万5,000円いっているということでよろしいですかと聞こうかと思ったけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

〔「掛川」と呼ぶ者あり〕

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。６年度は、掛川市が当番になりますので、予算のほう、積算が５年度と同額かどうかは不明な点はございますが、この事業に係る６年度の予

算は掛川市に予算、計上されているということになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。そうすると菊川人権擁護委員会協議会負担金と合算か何かされていて、この事業を行われているということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。その掛川人権擁護委員協議会負担金とは別枠の事業になりまして、５年度も後援会など実施したんですが、それに係る予算として通常の予算から追加して、当該事業に係る経費が県から委託料として入ってくるという予算の形になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ちょっと位置づけが分からなくて、人権経済地域ネットワーク委託金というのは、３市が運営しているものとは全然、別立てのものがあるところで事業としてあるということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。掛川人権啓発活動地域ネットワーク協議会というものは、あくまで掛川市、御前崎市、菊川市の３市で組織をしている協議会になりますので、この３市で行う事業、それを毎年事業担当となる当番が周り番で順番に替わってくるというものになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。そうすると前年と今年度の差額分のお金が、例えば、報償金とか需用費の約70万とか、委託金が、それが24万。このお金で103万5,000円の事業を組み立てられていたということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。令和６年度の予算の概要書には記載はないんですが、５年度については、ここに人権講演会に係る報酬料ですとか、その他もろもろの歳出予算も計上しておったもんですから。それが６年度は、ごっそりなくなるものですから、予算としては、比較として114万3,000円の減額となっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ちょっとね、一般財源の14万8,000円の減はどこの分で減っています。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。６年度の予算については、消耗品費が５年度と比較しまして63万4,000円の減額となっております。このうち、今、申し上げておりますネットワーク教員会分が52万3,300円の減となりまして、そのほか、菊川地区研究会掛川人権擁護員教育会、菊川地区研究会菊川の人権擁護員さん８人おるんですが、その８人の菊川市研究会として活動している分の啓発活動に使う啓発物品、これを消耗品で予算計上してあった、５年度はしてあったんですが、６年度はそこの在庫があったため、その予算計上見送りまして、それが11万ほど……

〔「もう答えられちゃった」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　あといいですか。次の質問の。

○市民課長（澤崎文宏君）　次の質問に関係してくるんですが。

○分科会長（小林博文君）　はい、どうぞ。いいです。

〔「はい、分かりました。渡辺君に譲ります」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃあ、同じところで出てください。今答えもちょっと出ましたが。渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　渡辺です。今、詳細に答えていただきましたが、一応、聞いておきます。

同じページで、作品審査に係る参加賞や記念品の購入額が減額されている理由はということでお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。作品審査に係る参加賞や記念品については、令和５年度と同額を予算計上しております。

減額となっている分は、今、答弁いたしました掛川人権啓発活動地域ネットワーク協議会の事業に係る啓発物品と掛川人権擁護委員協議会菊川地区研究会として行う人権啓発活動で配付する啓発物品等の購入分で、ネットワーク協議会分については、６年度は、本市が事業当番でないということで減額となっております。

それと、菊川地区研究会分については、啓発物品の在庫があり、購入を見送ったことによるものです。合計で63万4,000円の減額となっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　渡辺委員、大丈夫ですか。

○５番（渡辺　修君）　はい、大丈夫です。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連で質疑はよろしいですか。いいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　それでは次の３番目、倉部委員からございます。倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　２款３項１目の説明資料がタブレット４ページ、社会保障・税番号制度事業費、いつもですいせんが、マイナンバーカード取得数割合の現況、今後の目標、減少との連携状況もお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。マイナンバーカード取得数割合の現況についてですが、令和６年２月末時点の申請と交付の状況をそれぞれ申し上げますと、申請件数は４万1,130件で、申請率は86.16％となっております。

交付件数ですが３万9,940件で、交付率は83.67％となっております。

令和６年度の目標についてですが、これまでもマイナンバーカードの申請率、交付率については、部の重点施策の中で目標値を設定してまいったところでありますが、申請率、交付率ともまずは、例年同様、年間５ポイント以上の上昇を目標に取り組んでまいりたいと考えております。

保健所との連携状況ですが、本市の国民健康保険被保険者におけるマイナカード健康保険証利用登録の状況を申し上げますと、令和６年１月の登録割合は約61％となっております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑がありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。先ほどちょっと小笠市民課でもあったんですけども、更新の状況というか、例えば、今年度、更新はどのぐらいいるかとかって分かりますか。分かんない、先に聞かないと。

○市民課長（澤崎文宏君）　少々お待ちください。

○１３番（倉部光世君）　とりあえず来年度か。来年度。

○分科会長（小林博文君）　来年度６年度。何年に申請したか。

〔「いつまで有効って。期限、期限、通過しちゃって」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長でございます。マイナンバーカードは、これからカードの有効期限を迎えた方が10年ごとに期限が来るんですが、そのカードのつくり替え、それとあと５年ごとに電子証明書、パスワードですね、更新ＩＣチップ。

〔「ＩＣチップ」と呼ぶ者あり〕

○市民課長（澤崎文宏君）　そう、中のＩＣチップの更新があるもの、それが５年ごとになります。それは、この先かなりの件数が予定されております。

一応、今年度が手元の資料ですと、カードの有効期限、それと電子証明書の更新を合わせて千五、六百だったところが６年度は5,500、5,200ぐらいですかね。７年度が１万1,500、８年度が7,000件ぐらいですかね。この先が非常にたくさんの件数が追われているところであります。

以上です。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。ありがとうございました。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連でありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけども、マイナンバー、保険証代わりということで、今日の日経の一面のほうに、その辺の子どもに関してマイナンバーカードで申請書類をなくするような話が出てきましたけれども、令和６年度ではそういった予定は入っているですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。すみません、そのニュースというのは健康保険証とのひもづけの関係なんですかね。医療にかかる上で、申請書がなくなるということですか。

○１２番（織部光男君）　そうです。

○市民課長（澤崎文宏君）　国のほうから、とにかくマイナンバーカードと保険証とのひもづけについては、どんどん市民に広めていくように、周知するようにという指示は来ております。ただその先の今、織部委員、おっしゃったような、こういった手続が簡素化になるといった具体的な情報までは入っていないのが現状でございます。

以上です。

○１２番（織部光男君）　はい、いいです。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連、その他ございますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。参考までですけども、期限がオーバーしちゃったやつは、その瞬間に使えないということなるんですか。マイナンバー。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山崎市民係長。

○市民係長（山崎　　君）　身分証としてカードは有効でありまして、それ以外のＩＣチップの期限が切れたことによって、コンビニ等の証明等が発行できなくなってしまうことがありますので、更新していただいて、停止申請等の今、言った確定申告等ですけど、有効になります。身分証としては有効ではあります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質問はありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　渡辺です。場合もあるというのでね、ちょっと曖昧ですけど、あと一番、保険証がひもづけしてあった場合が気になるんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　あれですよね。チップの何か電源が、電池というか、その電源が切れちゃうんで、読み取りができなくなるというわけ。カードとしては有効ですよという答えです。じゃあ、今の質問。

〔「昨日から今日で、急になることない」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　５年ごとに。

〔「安全をっていうことでね」と呼ぶ者あり〕

○市民係長（山崎　　君）　一応、券面には有効期限が記載してありますので、そこのところまでは有効というような形になります。

○分科会長（小林博文君）　更新の時期に期限、書いてあります。よろしいですか。そのほかに関連ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。では次いきます。

４番目のところは、１、２、３、４、６名から出ていますが、代表して渥美委員にお願いして、１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページの５ページ、戸籍住民本基本台帳総務費について１、委託費の増になっている分の説明を伺います。

２、ＤＸ推進係が新設されているが、書かない窓口など、ＤＸ推進についての方針を伺います。

３、11節コンビニ交付証明書発行手数料が増額の見込み数を伺います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。１、２、３続けてお答えしてもよろしいでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　はい。お願いします。

○市民課長（澤崎文宏君）　それでは１つ目です。

12節の委託料については、前年度から2,940万1,000円の増額で9,829万8,000円を予算計上しております。

増額の要因となった主なものを申し上げますと、１つは戸籍法一部改正に伴うシステム改修委託料で……

〔「火事だ」と呼ぶ者あり〕

○市民課長（澤崎文宏君）　続けます。戸籍法一部改正に伴うシステム改修委託料で1,444万3,000円の改増となります。

これについては戸籍の氏名に読み仮名の記載を義務づける改正戸籍法が令和５年６月に公布をされました。改正戸籍法では令和６年度にも施行される予定で、全国民が施行後１年以内に本席地のある市区町村へ読み仮名の届出をすることになり、この届出を促すために、市区町村は、住民票などで既に把握している読み仮名を個人に通知することになります。

現在、運用中の戸籍総合システムには、個人に基づく情報として読み仮名の情報を登録されており、この情報を証明書上に表記させるためのシステム改修を行うものであります。

もう一つは、受付業務委託料で1,155万円の増額となります。

これは本庁市民課及び小笠市民課において委託をしております窓口業務及びシステム端末操作業務の委託料になりますが、現在の契約が令和５年度末をもって３年の期間満了を迎えるため、６年度から８年度までの今後、３か年の次期契約について、昨年12月に、プロポーザル審査により委託業者を決定したところであります。

次期業務委託の設計額の算出に当たっては、労務単価の上昇、人工数の増を考慮する必要があったことから、３年前と比較し、設計額ベースで、３年間で3,299万5,000円の増額となっておりました。

実際の契約額については、３年間で１億7,942万7,600円で、現在の契約から約4,083万円の増額となりました。

なお次期業務委託の請負業者は、現在の受託者である株式会社エイジェック静岡オフィスに決定をしております。

このほか戸籍複本データ管理システム保守委託料が255万7,000円増額となっておりまして、これは、令和６年３月から始まった戸籍の広域交付などの全国自治体間の戸籍事務内連携運用に係る経緯が増額となったことによるものです。

以上です。

２つ目ですが、ＤＸの推進についてです。

令和６年度における窓口業務の効率化として市民課窓口にキオスク端末を設置いたします。

コンビニ店舗と同様、マイナンバーカードを使って証明書の交付申請、証明書の受領、手数料の支払いがキオスク端末で完結することにより、利便性向上と窓口の混雑緩和を図りたいと考えております。

なお、書かない窓口の導入については、経費の問題や他部署との調整、窓口レイアウトの検討なども必要となることから、現時点で具体的な計画はございませんが、近隣自治体の状況も見ながら今後、自治体ＤＸの推進に合わせて取り組んで参りたいと考えております。

３つ目です。

令和６年度におけるマイナンバーカードを使った証明書コンビニ交付の件数ですが、１月当たり1,000件、年間１万2,000件を見込んでおります。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。２点、再質問なんですけど、１番目の窓口の業務委託ということで、委託先は前回と同じところだったんですけど、何かこう変わった部分というか、効率化された部分とか、便利になる部分というのがもしあれば伺えればと思います。

２点目は、ＤＸ推進係の書かない窓口の件なんですけど、これは以前、全員協議会で組織の変更のときに書かない窓口という言葉が出てきたもんですから、何か市として具体的な動きがあるのかなと思ったんですけど、そういう動きというか、組織の変更のときにこういったキーワードが出てきたもんですから、そこら辺が市としてどういうスタンスなのかということを伺えればと思います。

○市民係長（山崎　　君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。窓口業務委託が新しくなって、便利になるところですが、これも今、私、答弁の中で申し上げましたが、キオスク端末の設置が挙げられると

思います。

これは、業者のほうから独自提案で挙がってきたものになりまして、本庁に１台キオスク端末を設置します。そこに行って慣れた市民の方であれば、マイナンバーカードを持っていれば、そこでパネル操作によって、支払いまで完結できる。そこについては、利便性向上、窓口の混雑緩和につながるものと思っております。

もう１つ、ＤＸ推進になりますが、全庁的な中でのＤＸの推進部署といえば、今回、企画政策課のＤＸ推進になりますが、やはり個々の業務については、それぞれの部署で課題になっているところを改善する上で、ＤＸを取り入れるとか、そういったことがあると思います。

市民課においては、具体的な計画はないというところになるんですが、近隣を見てみましても、最近、浜松市のことが新聞に出ていたり、岩田市でも始まったり、いろいろそんな動きが近隣の自治体でも始まっておるもんですから、そういった周りの動きを見ながらタイミングを見て、そういったＤＸの取組と言いますか、取組を進めていく必要があると感じております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか、１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。最後に１点、確認なんですが、ＤＸの推進係の件なんですけども、ＤＸ推進係は推進係で何か考えがあって多分、やっていくのかなとは思うんですけど、そこのＤＸ推進係と連携と言いますか、どういった関わり方をしていくのかというのが、ちょっと最後に伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。ＤＸ推進については、今現在は、行政事務の標準化の作業をＤＸ推進が中心になって全庁的に今、作業を進めてくれています。

それ以外のものについては、やはり我々は何かこうしたいというふうなイメージがある、固まった場合には、まずはＤＸのほうに相談をする形になると思います。

お互いに情報を共有しながら事業を進めていくという形になるもんですから、我々にとっては、相談窓口としてＤＸ推進課は、非常に重要な部署であるという認識でおります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

〔発言する者なし〕

○市民課長（澤崎文宏君）　よろしいですか。赤堀委員、再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　内田委員は。

○１５番（内田　隆君）　結構です。

○市民課長（澤崎文宏君）　渡辺委員、再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　大丈夫ですか。倉部委員、ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　ああ、違います。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。

○１３番（倉部光世君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　私からちょっと質問させてください。

今の件で、確か印鑑と納税証明書と住民票がコンビニで取れるかと思うんですが、今後、例えば戸籍抄本とかに広げていくという予定は、まだ広がらないのがシステム的な問題なのか、予算的な問題なのかというちょっとポイントをお伺いしたいですけども。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。まず追加しない大きな問題としては、予算のこともあると思います。

本市においては、令和２年２月からコンビニ交付をスタートさせておりますので、当時から扱っている証明書については、住民票の写し、印鑑登録証明書と市県民税課税証明書の３種類で変わっておりません。

この令和５年４月からコンビニ交付の手数料を下げました。この減額に併せて戸籍の証明書のメニュー追加も検討はしたところであります。

戸籍を取り扱うとなると、戸籍証本、戸籍抄本、附票という３種類を追加することになるんですが、これらの証明書の窓口での交付割合っていうのが全体の20％程度、それほど多くないという状況であります。

また、この３月から始まっているんですが、自治体間で戸籍の情報が検索できるようになっておりまして、婚姻届への戸籍証明書の添付が不要になるなど、今後、行政手続に係る戸籍証明書の需要が減ることが想定されております。

さらには、先ほど申し上げました多額の導入費ですね、これがかかるんですが、今やるとなっても特定財源がないということがネックとなっております。

こうした状況をいろいろ考えながら、本市においては、戸籍の証明書のコンビニ交付については、メニュー追加は行わないと判断をしているところでございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　分かりました。ではこの件、そのほか再質疑ありますか。内田議員お願いします、15番。

○１５番（内田　隆君）　さっきもね、小笠市民課でもちょっと聞いたら、こっちの本体で聞いてもらったほうが分かりやすいという話なので、コンビニ交付を始めて、件数がだんだん増えてそちらのほうにシフトしていって、それで委託金の人数の話、委託をする業務量の話から、その後において更新というようなものが出てきているものでっていう話だけど、この制度設計をしたときにね、ここときには当然、新しいものが出てくることについて何も否定しているわけじゃなくて、このときに何人くらいでどのぐらいまでシフトすると人１人増やしたり減らしたりというような、そういう計算書みたいなものがつくられているわけ。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。委託料については、今回、プロポーザル審査だったものですから、上限が幾らですという金額をお示ししています。その上限の算定に当たっては、一般的な業務委託、発注する際に計算する設計書といったものは組んでおります。その中で人工も定めながら適正な計算をしたと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。当然、今、言った設計書とかね、出てくると思うんだけど、今、言ったような形の中でね、コンビニ交付のほうへシフト、件数が減っているとちょっと、だから、その分が逆に増えてきたっていう、この設計書の中で反映をしたりする。それに伴って、また新たな設計書を組んで、この金額を決めてやっているということでいいですか。

それで、ある程度、最初から変わっているものをどんどんどんどん入れながらね、新しい設計書にしながら、要するに上限額というか、委託額の設計をしているかどうかということを聞きたいんだけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長。それぞれの業務に当たっての項目としては、いろいろ細かく、細かい項目の中で、これに何人という人数を立てて計算をしております。

やはり今回、増額にあった大きな要因としては、今、マイナンバーカードの更新に係る件数が今後、何年かにわたって非常に多く増えてくる。これを窓口で処理をする必要があるもんですから、その業務に対応できる人数として、そこの人工は考慮する必要があったもんですから、結果的に、それと単価の上昇というのもあるんですが、そういったもろもろの条件の中で、最終的には設計額も３年前と比べて増額になっているという状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　加算されたのは分かるわけ、だから今、言ったように、コンビニコンによって件数が減っていくことを減額、差があるのかないのかそれも分かんないんですけど、要は、新しいものが入ってくるなり、それに基づいて目的のところへたどり着けば、その分については必ず減るはずなもんで、そういうことを設計書の中で反映をさせてやっていますかということを言いたいんだけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。減る分についてですが、そこも減る業務もあれば増える業務もあるということで、実際に、言ってしまえば、このプラスマイナスゼロになるような部分は、設計書の中では、うまくそれについての表現は、ぱっと見てここが増えている、ここが減っているというのが分かるような表現にはなっていないもんですから、そこは設計書上では、ここまで減った増えたっていう、マイナンバー、コンビニ交付への移行によってその取扱いが減っているから人工が減っているという、そういったものが設計書上では確認できないものになっています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　鈴木生活環境部長。

○生活環境部長（鈴木和則君）　生活環境部長です。細かく言えば、議員がおっしゃるように、増える要素と減る要素が設計段階において、そのように基礎として、まずは出す側として算出していますかという話になりますが、今、課長のほうが申し上げたように、プラスとマイナスがあるときに明らかにマイナンバー交付に移行に従って、窓口での数量を減るという部分のほかに、自分が窓口を見てて感じるのは、やはりいろんな来庁される方がいて、そこにかかる時間というのはかなり様々で、当然、数だけではなくて、お一人にかかる時間というのはしっかりと把握するのは難しい。私からすれば増える要素のところ、単価ではないですけど、一人当たりかかる時間というのも増えるというのをじゃあ、どう見るかというところ

を増える部分と減る部分を細かくやればそれに越したことはないんですけども、そこは相殺されているような形で今は、仕組みとしてはなっています。

ただ、コンビニ交付のほうが明らかに進むことによって、窓口の方が明らかに大きく減じてくるという様子がこれから見て取れると思いますので、またちょっと３年間始まってしまったので、今この形でいきますけれども、時期に当たっては、しっかりと増える要素を減る要素をもう少し設計の段階で、抑えなければいけないかなというふうには、考えとしては感じております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。お金の額を変えろとか減らせとか言っているつもりはもう毛頭ないので。あくまで設計書のときに、積み上がるものは積み上がるし、減額するものは減額していかないと、どうしても膨らんでいってしまう、今、部長が言われたみたいに、新たなソフト的なものが必要だということになる。それをそれでつくればいい話であってね、やっぱりトータルで何となくやっているのは非常にうまくないと思いますので、ぜひそこは、数値化できるものについては数値化をしていただいて、あとはそれを補填をしていくというようなことで、ぜひお願いをしたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　関連。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。今、市民課の窓口って申請書類に印鑑はもう一切いらないですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。今の扱いでは、もう印鑑は省略できるようになっております。全ての申請について省略しております。

○分科会長（小林博文君）　12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけども、その代わりに身分証明書、マイナンバーカードが必要になってくるという理解ですよね、免許証とか。それはあくまでも必要ですよね。

〔「印鑑の」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。やはり写真つきの身分証明書で本人を確認させて

いただくということは、我々、手続上、どうしても必要になってくるものですので、そこは省略できないものとして、これからも同じ手続上、確認させてもらうことになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。12番　織部委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけど、実印の印鑑証明の件ですけどね、私、40年ほど前に、このカードを持っていけばその証明書がもらえるというようなカードを持っていると思うんですけれども、あれは、今でも有効なんですね。そのときには実印を持っていって押さなきゃいけないのか、ちょっとその点だけ、どういうふうになっているのでしょうかね、今。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山崎市民係長。

○市民係長（山崎　　君）　印鑑登録証カードをお持ちの場合でしたら、実印はお持ちいただかなくてもいいです。

○１２番（織部光男君）　まだ生きているんですね。

○市民係長（山崎　　君）　はい。こちらのまた委任状にもなりますので、そちらのカードを持ってきていただければ、代理の方でもお取りいただくことは可能です。

○１２番（織部光男君）　はい、ありがとうございました。

○分科会長（小林博文君）　手数料はコンビニのほうが安いですから。そこは。

そのほか関連でありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。では次の質問にいきます。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款１項８目タブレット、８ページ国民健康保険特別会計の中の出産育児一時金、昨年度と同じ金額になっていますが、こちらで大丈夫でしょうか。

また産後保険税一時操出金が新となっていますが、説明をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。出産育児一時金は、支給人数を33人で見込んでいます。昨年度と同じ人数での計上となりましたが、毎年、過去５か年の実績等を参考に見込みを立てております。

令和５年度は、現時点で17人となっておりますが、ここ数年は多かった年で36人、少なかった年で26人という状況でありました。

産前産後保険税操出金は、令和６年１月に創設された産前産後保険税免除制度によって５年度の途中から繰出金項目に追加されました。

子育て世代の負担軽減等の観点から、出産被保険者の産前産後期間、４か月間の保険税を免除する制度で、免除額分の繰出しできることとなっています。繰出しにかかる負担割合は国が２分の１、県が４分の１、市が４分の１となります。

令和４年度の出産育児一時金該当者の１人当たりの平均軽減額を算出したところ２万8,000円だったことから、令和６年度は出産被保険者を33人と見込み予算額を92万4,000円としております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○１３番（倉部光世君）　はい、分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件、関連でありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では次、６番目の質問に移ります。代表して赤堀委員からお願いいたします。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。後期高齢者医療事務費、タブレット９ページです。

１番、特別会計繰出金2,055万9,000円増の原因は、後期高齢者人口増が要因か、今後、増え続けるのか。

２番目、新規のフレイル予防啓発用チラシについて具体的な内容及び頒布方法を伺う。

３番目、長寿介護課で実施されるいきいき体操、フレイル予防との関連を伺う。

４番目、後期高齢者医療広域連合療養給付負担金が増えた理由は何か。

お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。それでは４問、続けて答弁させていただきます。

まず１つ目です。

この繰入金は、低所得世帯に属する被保険者や費用者保険の被扶養者であった人の保険料の軽減分を後期高齢者医療特別会計へ繰り出し、特別会計から広域連合へ支払うものであります。

予算増額の原因については、後期高齢者人口の増もその１つですが、令和６年度は、保険料率の改定も大きな要因となっています。

これまでの改定に比べ、上昇幅が大きいため軽減分の額も大きくなり、予算額も大幅な増加となっております。

また、後期高齢者の人口は、今後も当分の間は増加が続くと考えています。

試算では、令和６年１月末現在で7,069人が、令和６年度には7,406人、令和７年度には7,637人になると見込んでいます。広域連合の試算においても増加が見込まれているところであります。

２つ目のフレイルのチラシについてです。

市では、後期高齢者被保険者になっても途切れることなく、市から保険事業や介護事業の一体的な支援を受けられるよう、後期高齢者医療広域連合から委託を受けて、市民課、長寿介護課、健康づくり課が連携し、高齢者の保険事業と介護予防の一体的実施事業を行っています。

この中で、菊川市の高齢者の健康課題を分析した結果、令和６年度に取り組むべき課題として筋力低下、口腔、高血圧症の３つが浮かび上がりました。

この課題に対して各種事業を計画していますが、関係３課による検討会議の場で、まずは高齢者特有の３つの課題を知ってもらうことが大切ではないかという意見になり、高齢者にも見やすいチラシを作成し、３つの課題とそれらを改善するための方法について周知をしていくことになりました。

頒布については、高齢者やその家族が集まるような様々なイベント、教室での手渡しや関与が必要な高齢者宅への訪問指導の際の配付等を考えております。

３つ目のいきいき体操です。菊川いきいき体操は、主に長寿介護課で普及を図っている体操です。市民科と長寿介護課、健康づくり課で連携して実施している高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業における課題である筋力低下にはとても有効であることから、令和３年度から５年度にかけて一体的実施事業の一環として長寿介護課において高齢者の通いの場に継続的に出向き、フレイル予防全般に関する座学や菊川いきいき体操などを実施してきました。

３種目の体力測定を定期的に行い、令和４年度では参加者の８割以上が体力測定の数値を維持・改善できたという結果となりました。令和６年度も、これまでの継続団体での実施とともに、地域からの依頼等に応じて、一体的実施事業の一環として実施をしてまいります。

４つ目の負担金が増えた理由についてですが、被保険者数の増加と一人当たり医療費の増加が理由と考えられます。この負担金は後期高齢者の医療費のうちの公費負担分で、市町は

負担対象額の12分の１の額を負担することが法律で定められており、その額は後期高齢者医療広域連合から提示されます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。赤堀委員再質疑に移りますか。

○１０番（赤堀　博君）　もう１回教えてください。令和６年１月が7,069人。最後の令和７年度が、もう１回その……。

○分科会長（小林博文君）　もう１回、じゃあ。

○１０番（赤堀　博君）　もう１回。

○分科会長（小林博文君）　答弁をお願いします。小笠市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。では、もう一度申し上げます。

令和６年１月末、この人数が7,069人です。これが、令和６年度には7,406人、そして、令和７年度には7,637人になると見込んでいるところであります。

以上です。

○１０番（赤堀　博君）　ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。再質疑もよろしいですか。

渥美委員、再質疑は？

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。フレイル予防のチラシについてなんですけども、一体的な事業ということで、まずは知ってもらっているこのとおりですけど、その中で必要性と具体的な方法も書いてあるやつなんですけど、こういった部分でさっきあった既存の事業である、例えばいきいき体操とか市の既存の事業があると思うんですけど、そういうところに具体的につなげていくことが書いてあったり、あるいは何かそういう仕組みがあったりするのかというのを、連携というのはそういった部分を聞いたと思うんですけれども、それがあればちょっと答弁いただければと思います。お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。そのチラシの具体的な内容については、まだこれから検討していくことにはなるのですが、やはり、３課連携でやっている事業ですので、そのお知らせによって事業展開が広がっていく、ほかの関連するものに参加を促すというような形のものにできればなと思っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。よろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件に関連で質疑はありますか。よろしいですか。

次のは本当に聞いていい。

○　もう一回言うだ。

○分科会長（小林博文君）　もういいですかね。小笠市民課のほうでお答えいただいたので、６、７はじゃあ。

では、事例通知は以上となります。関連で市民課に向けて質疑はありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑なしと認め質疑を終わります。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意ケースに努めるものとするとの規定に基づき、議員の自由討議を行います。

今のあったところでやはり多く質問出ていました。コンビニ交付と窓口のＤＸの件、それからマイナンバーカードの話がありました。あとは、後期高齢者の医療保険のフレイル予防とか、高齢者の繰出金の要因、この辺が多く質問出ていました。皆さまのほうからご意見がありましたら、挙手の上発言をお願いします。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。まず、窓口業務なんですけど、全協議会で皆さんも資料で見たと思うんですけど、かなり窓口というところが実際にキーワードとして具体的に出てきたものですから、何か市としてやるのかなと思って聞いてみたら、ちょっとそういう感じでもなかったもんですから、もしかしたら、企画政策課との考え方との違いがあるのかないのかちょっと分からないんですけども、そこら辺がどうなんだろうというのはちょっと疑問に思ったところです。

もう１個、２点目としては、フレイル予防のことなんですが、チラシこれから作るということだったので、具体的に市の既存の事業につながるような、具体的なアクションにつながるような形で作っていただければなと思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかの委員の方、何かご意見がございますか。

私が先ほどちょっと質問したんですけど、やはり住民票とか印鑑証明ってかなり重要になるみたいですけど、やっぱり戸籍となるとあまり求めがないんで、費用対効果じゃないですけど、あわないのかなという感じで。ちょっと個人的にこの前、車を娘が買って名義変更をうちでするときに、娘が婚姻で名字の変わったのを出してなかったんですけど、そうしたら印鑑証明とは別に、この名字が違うんで戸籍抄本がいりますって、それが土曜日だったものですから「コンビニでもらえるや」と思って、もらいに行ったら印鑑証明は出たんですけど、戸籍は出なかったものですから、調べたら菊川市はやってないってなっていて。そこで、ほかの地域では全部取り入れて、いろんなものを出せるところもいっぱいあるんですけど。それは、今言った費用の面とか、システムも早くやっていればやったほうがいいんですけど、そういうのもあって。ただ単純に、土曜日１回で済んでそのまま自動車屋さんに渡せたのが、月曜日に待って窓口まで行ったものですから、そのへんの、どういう理由でできないのかというのが今確認できたものですから。やはり需要が少ないというところがあると思いました。ただ単純そういう感じです。

あと、要は今100円でやられているんですけど、実質的に幾らかかっていて、最終的に窓口の業務が減ってきたときに、コンビニの値段がどういうふうに上がっていくかっていうのもちょっと気になるところではあるんですけど、その辺も今の内田議員の質問にあったとおり「窓口の人が減ったから、コンビニの手数料もこのぐらいで何とか負担は抑えます」みたいなのがあればね、見えてくるかと思うんですが、「窓口の人は減らしません。数も増えてきたんだけど値上がりしたんで、手数料上がります」というのもまた、何かそうなってくるのも心配だなという気もしました。

以上です。

何か皆さんからはご意見ございますか。13番　倉部議員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。私は、このコンビニ導入するときに、やはり費用対効果とかどうするんでしょうかといって、また当時にやっぱり反対をしている方もいまして、最初、目標は何倍ですかって、400倍とかすごい少ない数字だったんですけど、実際始めてみれば利用する方がかなり増えてきて、この100円がいいのか悪いのかちょっと分からないですけれども、ある程度軌道に乗っていって、ある程度うまく回って、費用対効果出ていけばやっぱり少し窓口の人を減らすとかっていうほうにつなげていただかないと、当初話したのと話がずれてきますので、最初、やっぱりそこで人件費が浮きますだとかっていう話もあったはずなので、そのへん一度ちょっと精査するということが必要じゃないかなとは思いま

す。

あと、窓口はやはり委託をしているだけあって、すごく最近丁寧になっていて、ただ、ちょっと居てぼーっと立っているとすぐ声をかけて、「何でいらっしゃったんですか」と言って声をかけてくださったりとか、待ち時間も結構、菊川とかは割と短かったりして、市民向けのサービス向上には、市民課の窓口はようなっているんじゃないかなとは感じていますので継続していただけるといいのかなと思っています。

あと更新が、マイナンバーカードの更新がどんどん増えてきてしまうというのは、それこそ人の手間がかかる話ですので、結局、委託の方の数を減らすことはできないなと感じています。

あとは、さっきのフレイル予防ですけど、こちら長寿介護課とか健康づくり課とかあっちでもやっていることなので、やはりそれと各課と連携しっかりやっていただいて、この間、織部委員も認知症の質問とかもされていましたけど、やっぱり全体で連携してやっていかないといけないと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほか皆さんからありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　マイナンバーカードの件ですけども、国策としてかなりずさんで地方自治体が振り回されているという感じを私は受けるんですけどもね。

今年の４月から、登記法を改正されて義務化されます。３年間で罰金というようなこともありますけども、今のお話の中での戸籍との関係もそうですけど、マイナンバーカードの使い方として、今後、国がどのような形でつなげていくのか注意を払っていきたいと、そんなふうに思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　書かない窓口とか、行かない窓口って私一般質問でさせていただいたんですけど、やはりＤＸが重要視してくるのであれば、菊川市でもしっかり各課の連携とかをしっかりまとめてもらって、なるべく早めにこういった効率化を考えていただきたいというふうに思いました。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、皆さんからございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。やっぱり、いろんなものを制度設計してやっていかないと、今の場合、ＤＸ、ＤＸってどんどんお金が増えちゃって、莫大なお金が出てるわけです

よね。ちょっとその費用をどこから生み出さなきゃいけない。必要なものは必要で、ダメだと言ってるわけじゃなくて、やっぱり目的のところでちゃんとした数値化できるものは数値化して、やめていくものはやめていくっていうね、そういう姿勢をとっていかないと、事務経費がどんどん上がって投資する経費がなくなっちゃうんじゃないかなと思って、非常に心配しています。当然ね、今言ったように新しいことが出てくるし、やっぱりそれに伴ってまた人がいるっていうのはそれはそれで分かりますけど、それはそれでちゃんとした加算をして人を増やせばいい話であってね。結果的に６人が６人だからいいっていうんじゃなくても、その中の中身が変わってきたら、やっぱりそれはそれだけのことをぜひやって、ちゃんと発注していただきたいなと思いました。

以上、終わりです。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今後ＤＸしていくに当たって移行の時期って一番、人もお金もかかり、人もいっぱいいるので、結局、両方やっていかなきゃいけないわけですよね。でも、何かいつまでもそれをやっているかっていうと、やっぱり計画的にここまでで「これはやめて、こうする」という計画立てているとは思うんですけど、なかなかそれが見えてきていないので、目標が見えていないと、何となくいってしまいがちですので、そこはしっかりここまでにこれをやって、こっちはやめていくというふうに、見える化をしていっていただきたいなと思います。

マイナンバーカードですけど、マイナポータル、実はちょっと面倒くさいんですが、やっておくと確定申告のときに結構便利だっていうのをこの間やっていて、保険証も毎回マイナンバーカードでやっておけば、データ、多分なんでしょうけど、バラバラでやっていたので何ですけど、いろんな控除証明とかああいうのも全部入ってきているので、自分で確定申告をやっている人にとっては、結構きちんとやると便利なんですけど、多分、まだそれが伝わっていなかったりとか、ちょっと面倒くさかったりするものですから、そのへん、どれだけ便利になるかっていう話をちゃんと伝えていかないと、みんな面倒くさいからマイナポータルなんかつなげないっていう方が多分まだ多いのかなと思いますので、やるからにはみんなが使えるような仕組みにどんどん変えていかないと、両方やって、こっちもこっちもやるというのが一番無駄ですので、このへん、しっかり先見据えてうまく移行していくといいのかなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　さっきの印鑑証明なんか本当５分かかんないくらいですもんね。100円でカードが出て、ぽぽぽって選んでるみたいな感じで。

○１３番（倉部光世君）　この紙でいいのかなってちょっと不安になります。

○分科会長（小林博文君）　便利だなと思います。

○５番（渡辺　修君）　欲しくもなかったけど出してみました。

○分科会長（小林博文君）　あとは、書かない窓口の件なんですけど、前から言ってたんですが、例えば今グラウンドを借りるというときも、昔は平日の日に市役所に行って借りて、鍵借りて、お金が支払ってみたいなのあったんですけど、予約システムとか今度導入されたんですけど、まだその鍵を借りる課題と、お金の支払いの課題が、出向くっていう必要があるんですが、その辺も前から言ってた電子錠とか、振込もこういうスマホで決済とか、そういうのになればどんどん自由度がある。そういうところをやっていかないと便利で省略化されていかないということです。ちょうど今過渡期と言いますけど切替えの時期、一番お金がかかる時期ですよね。

○１３番（倉部光世君）　カットの時期を決めないといけない。

○分科会長（小林博文君）　そうですね。ある程度切っちゃってね、ここからもうコンビニしかやりませんならやりませんでもういいでしょうし、そういうところも必要なのかもしれません。

もう１個、市民課が人数の件なんですけど、逆に言うと今、ある程度余裕ができてきたので丁寧な対応がみんなできるようになったのかもしれないのかなと聞いてて思いました。昔は忙しくて、一人の方にかかる時間が短くて、丁寧な対応というのがなくて、そういう面で市民課の対応が悪いという不満もあったのかもしれないですけど。今行くとかなり落ち着いてね、ゆっくり対応していただけるので、その辺も窓口が良くなっているという印象に当たっているのかなと。

だから、今までがちょっと時間的に、逆に言うと窓口の対応の人数が少なかったというのもあったのかもしれないという気も聞いていて思いました。

以上、ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。それでは、以上で市民課の予算に係る審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等をもとに、分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委

員会にて報告させていただきます。分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

休憩しますか。

休憩　午後　１時５８分

再開　午後　２時０７分

○委員長（小林博文君）　それでは、休憩を閉じて会議を再開します。

ただいまから教育福祉委員会に切り替えます。

ただいまの出席委員数は、８人です。菊川市議会委員会条例第16条の規定による定足数に達しておりますので、ただいまから教育福祉委員会を開会いたします。

続きまして、教育福祉委員会に付託されました議案第21号　令和６年度菊川市国民健康保険特別会計予算を議題とします。

これは採決までありますので、お願いいたします。

初めに、澤崎市民課長より出席者の紹介をお願いします。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長でございます。どうぞよろしくお願いします。

出席者ですが、私、課長の澤崎と、隣におりますのが、国保年金係長の海野でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（小林博文君）　それでは、質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１番目、倉部委員から出ています。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。４款１項１目のタブレットのページ、歳入で保険者努力支援分というのがあるんですが、そちらは支援の指標に対する点数を上げられるということなんですけど、それに必要な点はどこでしょうか、お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。令和５年度に点数が低かった項目は、特定健診受診率、特定保健指導実施率、メタボ該当者及び予備群の減少率、それと保険税収納率でした。

これらの項目の点数を上げるためには、率を上げるだけではなく、前年度からの上昇や市町村規模別の全自治体で上位に位置するなど、様々な要素が絡み合っています。１年だけ数値が落ちてしまったりすると、急激に点数が下がってしまうこともあるため、毎年少しずつ上昇しながら、目標値に近づいていく右肩上がりの数値を目指して、今後も引き続き特定健診受診率及び特定保健指導実施率の上昇とメタボの減少、税務課と連携した保険税収納率の上昇を達成すべく、各種対策を講じてまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑はありますか。

○１３番（倉部光世君）　ありません。私たちの協力がないと。

○委員長（小林博文君）　この件、関連でありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　じゃ、２問目行きます。内田委員から出ております。いいですか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。タブレットの10ページ、一般管理費のところの111のところで、事務費が2,122万4,000円増えていますけど、この理由を教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。事務費増額の理由ですが、産前産後保険税免除に対応するシステム改修及び健康保険証とマイナンバーカードの一体化に対応するシステム改修に係る委託料、この増加によるものでございます。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　ということは、両方ともシステムの改修費用ということだけですか、それで2,000万上がっていると。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。両方ともシステム改修のための委託料になります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。内容は分かりませんけど。

○委員長（小林博文君）　関連質疑ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　３問目。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部ひとみです。款項目は、２款１項４目の療養費です。一般被保険者のその他のところの99万6,000円、前年度に比べると増額になっていますので、その内容を伺いしたいです。

○委員長（小林博文君）　では、答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。その他療養費とは、負担割合の変更があった場合の差額ですとか、はり・きゅうの療養費、海外での療養費、国保加入中に以前の社会保険等で受診してしまった場合の保険者間調整費などとなります。毎年実績額に前年度からの増減率を乗じて予算額を算出していますが、令和３年度から上昇傾向となっております。

その他療養費の実績額は、令和３年度は約23万円、４年度は約55万円、５年度は２月末現在で約64万円となっており、内容を見ますと、保険者間調整費が多くを占めております。

以上です。

○４番（織部ひとみ君）　分かりました。ありがとうございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○４番（織部ひとみ君）　以上です。いいです。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

○４番（織部ひとみ君）　はい。

○委員長（小林博文君）　関連でありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　４問目、５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。タブレットの19ページです。高額療養費ですけども、５年度に発生した高額療養費で、主たる病名を教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。高額療養費を疾病ごとに計算することは困難であるため、令和５年12月末現在の国保被保険者１人当たりの医療費を集計した結果を申し上げますと、最も高いものががんで４万1,047円、次いで循環器の疾患が３万8,422円、次が筋骨格系及び結合組織の疾患、これが２万2,735円という状況となっております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。渡辺委員、再質疑はありますか。５番　渡辺

委員。

○５番（渡辺　修君）　ちょっとぴんとこないので、循環器とか、筋骨格というものの一般的な、例えばこういう病気の名前だよというのを教えていただけませんか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。海野国保年金係長。

○国保年金係長（海野　　君）　お願いします。循環器の疾患は、主に肺に関係する病気になりますので、申し訳ございません、病名がちょっと私も出てこないんですけれども、呼吸器系、肺に関係するような病気になります。筋骨格系及び結合組織の疾患は、骨折ですとか。

〔「骨折」と呼ぶ者あり〕

○国保年金係長（海野　　君）　はい。関節関係の病気になります。

〔発言する者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

○５番（渡辺　修君）　聞いても分からないので、いいです。

○委員長（小林博文君）　いいですか。

○５番（渡辺　修君）　はい。

○委員長（小林博文君）　そのほか関連質疑ありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　じゃ、５番目の質問、内田委員から出ております。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番　内田です。特定健康診査等事業費の中で、先ほどもちょっと出ていましたけど、特定健診がなかなか向上しない。これが努力支援分にも影響してくるというようなお話でしたが、なかなか上がっていかない要因をどういうふうに分析されて、今年の方策についてはどんなことを考えられているか、お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。受診率がなかなか向上しない理由ですが、国保被保険者の特性として、自営業者、また無職者などが多いこともあって、周知努力の一方で、認知度や関心がまだ低いことや働き盛りの40代、50代は多忙で、健診を受けている時間的余裕がないこと、定期的に通院しているため、健診、受診の必要がないと判断している人が多いことなどが主な要因として挙げられます。

特定健診の案内において、特定健診の意義や受診することのメリット、土日、夜間でも受診できる医療機関を分かりやすく表示するなどの対応を今後も継続してまいります。

また、令和３年度から未受診者への受診勧奨を専門業者に委託しておりますが、勧奨後の

受診傾向を経年的に分析した上で、通知を送るタイミングなどにも工夫を取り入れたいと考えております。

特定健診受診者の４割を占める70代が後期高齢者医療保険へ移行することも受診率が伸び悩む原因の一つであるため、40代から50代の若年層の受診率の向上を図り、全体の底上げができるよう対策を検討してまいります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。もともと30、26パーセントか、いずれしろ４割いかないような数字だとは思うんですけど、この人たちに聞いたことの中が、今言った関心が薄いとか多忙とか、受診していますよという結果だったということですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。過去にアンケートを取った、そこでの回答が今申し上げた内容になっております。被保険者に対してのアンケートですので、受けた人もあれば、受けていない人もでございます。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。このアンケートは、いつ実施したものの結果ですか。

○委員長（小林博文君）　澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。すみません。はっきりした年度は定かではないんですが、令和２年か３年頃のアンケートの結果であります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか、内田委員。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。結局、今、２年か３年のアンケートにしてみても、いろんなこれだけ、３つ出てきている。具体的に挙げて、４つ出てきているわけですよね。それに対する具体的な施策というふうにはちょっと受け止められなかったんだけど、今年の全体的に底上げをするとか、そういうことではなくて、要はこの関心、この３つぐらいが一番主なものであれば、これを何とか一個でも屈服していくということの事業を入れていかないと、なかなかこの受診率というのは上がらないと思うんですけど、それは今年特別考えていないということですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。６年度に新規のものがあるかと言われれば、特に新規の事業はございません。

ただ、受診率向上のための事業としては、幾つか取り組んでおります。今の受診勧奨通知の送付もそうですし、40歳、50歳、60歳、70歳の健診自己負担額の無償化もそうですし、土日、夜間でも受診できる医療機関を分かりやすく表示したものを健診の案内でお送りするとか、そういったもろもろの取組はしているんですが、その認知度、関心が低いということもあるでしょうし、若い年代の皆さん、まだ健康は大丈夫と思っている方もいらっしゃると思います。

健診の対象になるのは40歳からなもんですから、39歳の方たちに来年度から健診の対象になりますよ、40歳のときは自己負担なしで受けられますよというものを、39歳の対象の方に案内をするとか、そういった若年層向けの取組もやっているところであります。

結果はすぐには出てこないかとは思うんですが、こうしたもろもろの施策を地道に続けていくことで、受診率は上がっていくものと考えております。この前にも申し上げたかと思うんですが、特定健診の受診率については、４年度が少なし45.8％、これ県内６位に位置しております。決して低い順位ではありません。

ただ、先ほど私答弁した努力支援のところで、点数が低かった項目で特定健診受診率と申し上げたんですが、その５年度の点数が低かったものの、評価については、何年か前の受診率でもって、この５年度の評価というのになっているものですから、たまたま５年度の評価は、何年か前の特定健診の受診率が低かったものですから、努力支援のほうは低いものとなっております。

ただ、一番最近の受診率の状況、令和４年度で見ますと、県内では６位という位置におります。それほど悪い、上を言えば切りがないですが、県内ではそういった状況でございます。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。令和２年か３年か分からないんですけど、この前のときにもアンケートを取られているんですか。今の結果のところから、今のところが取りあえず導かれているというふうに、要するに令和２年か３年のときのアンケートで、関心とか多忙とか、定期受診をしているというようなことが今説明の中にあったと思うんですけど、この前にもアンケートみたいなことはやられているんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。その前のアンケートについては、情報がないものですから、やったかどうかということは不明です。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。なかったもので、２年にやったといえば、それで終わりなんですけど、過去にも多分理由は同じようなもんじゃないかなというふうに推測がされるもんで、そこのところを、45まで上がってきたということであれば、何かが何かを変えてくるという形は見えてくると思うんですけど、アンケートをやったりして、課題の整理をしながら、施策を打っていく、そのことによってだんだん改善されて45に来ているならいいんですけど、そうでないと、何かやれば何とかなるだろうという話は、なかなか具体論につながっていかないと思いますので、ぜひ３年でやったら、来年とか再来年ぐらいにアンケートを実施してもらって、またそこのところでこんなもんであるなら、どこへ手を入れていったらいいかというようなことを、ぜひ毎年毎年更新をしていただければありがたいなと思いますけど、来年は予算にのっていませんので、無理だと言われればそれが終わりですけど、ぜひそういう繰り返しの中で、一応率は、ぜひ上げていただきたいなと思います。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連でありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。国保の健康診断以外に、健康診断やっていますよね、もう一つ。市のほうから通知が来るという、それについて、ちょっと説明してくれますか。何が違うのか、この国保の健康診断と。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。恐らく今、織部委員おっしゃったのは、がん検診のことかなと思うんですが、健康づくり課で市民向けに受診を促しているがん検診があります。がん検診ですので、レントゲンを撮ったりとか、いろんな検査項目があると思うんですが、なので、国保の特定健診とは、今ちょっと違う内容であるかなと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけど、そこのところ、縦割りということで、検査項目も違うということで、一緒にはできないのかと思うんですけども、何かちょっと腑に落ちないところがあるんですけど、そういうことを全く検討はしないんでしょうか。

要するに、がん検診とこの特定健診の違いはあるかと思うんですけども、発送別とか、い

ろんな事務業務というのはほとんど同じものがあって、合理化できることではないかと私は考えるんですけど、そういった点どうですか。

○委員長（小林博文君）　ちょっと答弁の前に、僕の経験値を申し上げますと、私が国保になったときに、特定健診がすぐ来ました。併せて、今のがん検診のほうが来て、一緒に受けられますよということで、連絡すると、同じ日にやれます。

最近は、もっと進んで、来年も同じことをしますということであれば、そのまま来るようになっているもんですから、一緒に受けても、そのまま受けるんならば、そのまま来るし、やめるとか、増やすんなら、事前に連絡すれば、前は一々というと、語弊があるけど、前は１回、その特定健診も一緒にしてくれということで、特定健診の日にずっと併せて調整したんですけど、今はセットで、この日でという、予約ならこの日でいけますよというふうに来るようになりましたので、改善されています。

○１２番（織部光男君）　ああ、なるほど。

○委員長（小林博文君）　そういうのも含めて、もし答弁、いいですか。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。今、委員長がおっしゃるように、同時受診というのもできます。特定健診と、あとがん検診、同じ日に受けるということで、市民の方からすれば、一度で、両方できるということで、そのときに受けてくださる方も、毎年一定数の方がいるという状況です。

以上です。

○１２番（織部光男君）　はい、分かりました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。そのほか関連ありますか。よろしいですか。部長は、今のでいいですか。

〔発言する者あり〕

○委員長（小林博文君）　いいですか。はい、分かりました。

じゃ、次、６番目。倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。４款１項１目、今と同じところです。その中の生活習慣病重症化予防事業委託料というのがありますが、そちらのほうの対象者の数、あと重症化の状況というと変ですけど、を教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。生活習慣病重症化予防事業ですが、令和４年度は、委託料が190万5,200円、対象者49人に参加案内を送りまして、参加者８人全員が指導を終了

しました。５年度は、委託料が140万4,500円、対象者48人に参加案内を送りまして、参加者５人全員が指導を終了したところであります。

事業を始めて２年であるため、今後も特定健診の数値結果を追っていく必要はありますが、令和４年度の参加者の１人は、歩数の増加や運動の習慣づけなど、生活習慣の改善が見られ、10キロの体重減量に成功をした人もおります。

５年度の参加者の１人は、ＨｂＡ１ｃという数値があるんですけど、この数値が高まると、糖尿病になると言われているものでありまして、6.5％以上で糖尿病が強く疑われるという一つの指標になるんですが、この数値が、指導開始前が6.6％だった人が5.9％に下がったというよい結果が出ている人もいます。

参加者全体で見ても、保健指導前と指導後のＨｂＡ１ｃの平均が令和４年度は6.9％から6.5％、0.4％減少、令和５年度については6.6％から6.4％と、0.2％減少していることから、保健指導が重症化の予防につながっていると考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。いいです。

○委員長（小林博文君）　いいですか。関連で質疑はありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　７番目も同じところですけども、渥美委員から出ております。１番渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。同じところで、１、特定保健指導の実施率向上の取組があれば伺います。

２、ＡＩを活用した分析を行い、勧奨通知を行うことについて、具体的にどのようなシステムなのか伺います。

３、生活習慣病重症化予防事業について、ＩＣＴを活用した予防事業とは具体的に何か。また、受診勧奨の対象者と具体的な通知方法を伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。３つ続けて回答させていただきます。

１つ目の特定保健指導実施率の向上の取組ですが、令和５年度から杏林堂に保健指導業務を委託し、休日、夜間に杏林堂の店舗で指導が受けられるようになったことで、対象者が利用しやすい環境を整えることができました。

また、令和６年度は、総合がん検診の会場に委託先の管理栄養士に常時待機してもらい、指導対象者の初回面接を行っていただくことで、続く指導も自宅や市役所ではなく、気軽に立ち寄れる店舗で行うことができるようになり、実施率の向上も期待できると考えています。

２つ目のＡＩを活用した受診勧奨通知に関することですけど、過去の特定健診受診歴や特定保健指導歴、医療機関受診歴から、委託業者の特許を得た分析システムにより、対象者の特性ごとセグメント分けをし、特性に合った内容の勧奨通知を送付しています。セグメントは過去３年以内に特定健診受診歴があるか、生活習慣病に関係するレセプトがあるかなどにより、頑張り屋さん、心配性さん、レセプトあり、健診歴なしの方、そういった様々な７種類に分けて、その方々に合った文面の勧奨はがきを送付しているところであります。

３つ目のＩＣＴを活用した予防事業ということで、特定健診の結果から重症化リスクのある人、かかりつけの医師が必要であると認めた人のうち、参加申込みがあった人には、委託業者が開発した健康管理のアプリを使用していただきます。アプリに日々の歩数や血圧を入力し、指導に当たる保健師と情報を共有することで、参加者の状態に応じた指導が実施できています。

受診勧奨事業の対象者は、特定健診の結果から、生活習慣病重症化のリスクのある人のうち医療機関未受診者、過去６か月間医療機関への受診を中断している人を抽出し、受診勧奨通知を郵送しています。

また、委託業者の保健師から、電話での受診勧奨も行っております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。よろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　はい。

○委員長（小林博文君）　この件、関連でよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　では、最後の質問、２名の委員から出ています。代表して渡辺委員、お願いします。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。タブレット21ページで、人間ドック補助目標780人の算出方法はということで、これは低いんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。人間ドックの人数の算出方法ですが、被保険者数

に対する人間ドック受診者の割合とその割合の全年度からの増減率を算出し、年度当初の被保険者数にそれらの数値を勘案して設定をしております。国保全体の被保険者数は減少しておりますが、人間ドック受診者は増加傾向にあり、被保険者の８％程度の人が人間ドックを受診されています。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。渡辺委員、再質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　今のは８％が受診していますということですよね。その780人を出すのに使ったパーセントというのはあるんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。海野国保年金係長。

○国保年金係長（海野　　君）　令和６年度の当初予算で人数を出す計算ですけれども、まず令和６年度の増減率を過去５年の平均値で出しました。その増減率から受診者の割合を、前年度の割合に増減率を掛けることで受診者の割合を出します。その割合を年度当初の被保険者数に掛けて、ですので、令和６年度の数式でいきますと、8,953人に8.08％を掛けました。そうすることで、実数は723人と出たんですけれども、前年までの伸び率などを勘案しまして780人で予算取りをさせていただきました。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　人間ドックと、あとお金の高いペット検査ってありますよね。あれはこういうものの補助みたいなのはないんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。海野国保年金係長。

○国保年金係長（海野　　君）　ペット検査は、人間ドックの対象外となります。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○５番（渡辺　修君）　残念です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

○５番（渡辺　修君）　はい。受けてみようかなと思ったので。

○委員長（小林博文君）　関連で質疑はございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ちなみに、今年は何人受けられたんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。12月末時点の人数になりますが、530人の方にドッ

クの助成をしております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　530人というと、今の計算をしていくと、どのくらいの前のめりになるの。最後に、係数で言ったら、12月末なもので、４分の３掛ける。逆割りすればいいよね。そうすると、何になるの。

○国保年金係長（海野　　君）　706人です。

○１５番（内田　隆君）　706人。はい、分かりました。すみませんでした。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○委員長（小林博文君）　再質疑はいいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい、結構です。

○委員長（小林博文君）　関連で質疑ございますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。国民健康保険の未納の方々、その割合というのは分かりますか。

○委員長（小林博文君）　どの時点、今。よろしいですか。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。国民健康保険税、税の扱いになりまして、その未納者の把握等については、税務課のほうで把握してはいると思うんですけど、すみません、具体的な情報は、今、私ども持っていないところであります。

○委員長（小林博文君）　12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。そうすると、市民課とすれば、徴収に関しては関与していないということですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。もちろん、関与していないということはなくて、滞納している方で、手続にうちの課に来られた場合は、税務課の職員を呼んで納税相談、分納に関する相談なども受け付けてというか、そこに加わって、費用計算の状況を聞いて、その後のお金を納めてもらうようなところに話を持っていくようにしているところであります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。コロナの関係等あって、収入が減って、国民健康保険払えないというような方が私は出てきているんじゃないかと想像するもんですから、そういった問題を何か解決する方法があればいいんですけども、いざそういう人が病気になったときには病院にもかかれないというような、実費負担になるというようなことになると、非常に問題だなと思うもんですから、ちょっと老婆心で申し上げました。いいです。

○委員長（小林博文君）　ご意見でということでよろしいでしょうか。

○５番（渡辺　修君）　ちょっと聞いていいですか。

○委員長（小林博文君）　関連。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。今、未納のどのくらいという質問があったんですけど、いきなり国民払っていないと、保険って取り上げられちゃうものなんですか、どうなんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。当然収めていただければいいんですが、ちょっと滞ってしまってきた方には、まず有効期間が３か月の短期証というものを交付することになります。それを使えば、通常の窓口での負担割合で医療機関を受診することは可能です。

短期証を交付していて、滞納部分を納めていただいたりしたら、それはまた通常の保険証を発行し直すという形になります。

さらに、滞納が続いてしまうと、今度は資格証というものを交付します。短期証じゃなくて資格証というもので、それは窓口での負担割合が10割になってしまいます。まず、窓口で10割負担していただいた後、うちの国保年金係の窓口に来ていただいて、特別療養費の申請をしていただければ、通常の窓口での負担割合、それ以上にかかった分はお返しするという形になるんですが、そのお金については、未納額に充当してもらえないかという相談は、その都度させてもらうところであります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　すみません。ちょっと今、東日本大震災の黙祷が始まると思いますので、サイレンかなと、いいですか。

〔「聞こえないね」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　黙祷でお願いします。

〔黙祷〕

○委員長（小林博文君）　ありがとうございました。じゃ、ご着席ください。

さっきのこういう答弁ですが、よろしいですか。渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　３か月は、ほぼ許していただける期間ということで分かりました。ありがとうございます。

○委員長（小林博文君）　そのほか関連でございますが。よろしいですか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。この前の補正か何かのときに、介護か後期かちょっと分からんのですけど、国のほうの異次元の子育て支援対策の負担金みたいなものがのっとったところで、国保というのは全然、国保とか後期高齢とか、こういったところには関係出てこない。

○委員長（小林博文君）　後期高齢者とか。

〔「高齢者に上がる」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　出産。

○１５番（内田　隆君）　値上がりがあったからね。

〔「今回１万円以上、上がる」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　いいですか、答弁求めなくて。後期高齢者は、出産金の負担の何か割合で見込めばどうするのかみたいな。

〔「ないです」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　なけりゃないでいい。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。国保税については、ちょっとその情報は入ってきていないです。後期高齢者の保険料については、６、７年度が大幅に増額になるんですが、そこの部分には、その子育てに関する部分も後期高齢者に負担してもらう部分が加算されて、今回の改定額になっているところであります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。前回も何かその辺で、ここへ一回下ろしてもらって。

〔「説明あった」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　説明してもらった記憶が、私も委員会報告で、この辺を後期高齢者と分けた手前、また子どものほうの負担というのを分けたのが薄れているんじゃないかというような自由討議の意見を出した記憶があるので、それをやりますというのが前回出ていて、今回それで負担割合がのってきたと思うんですけれども、これは後期高齢者のほうだけだっ

たと思いますけども、ということで皆さんよろしいでしょうか。内田委員。

○１５番（内田　隆君）　テレビ上とか、いろんな話をされて、どんな形で負担をするのか、税では取れませんよとか、いろいろと言っているもので、この前、後期のときに、ああ、こういう取られ方をするなら、これは負担金だけど、税じゃないなと思って聞いていたもんで、そうすると、国保の場合については、それじゃ後期が取られて、国保に入っている人たちは、それを出さなくてもいいのかなという、それがちょっと分からなかったもので、全体像がちょっと見えないもので、要するに国が出すお金とそれぞれみんなが負担をする分とか、いろんな言い方をされていて、負担金で出るのか、税金で出るのか、国保税としている人と負担金になっている人と、いろいろあると思うので、今、現時点では情報がないと、そういうことでよろしいわけですな。

○委員長（小林博文君）　ないということで、よろしいですか。個人的な感覚で、国保は多分、子どもを産む方も関わって入ってきているので、増えてくれば、自然的に全体が増えてくるんですけど、後期高齢者で子どもを産むとかということがないので、そこに負担をかけるために、そっちから国保へ下ろすという国の考えかなと思ったんですけど、今、税金じゃないのか、負担金なのか、ちょっと分かんないですけども、そういうのが国会でこの前ちょっと問題というか、話題があったやつですよね。

〔「今はないけど」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　今は。

〔「来年、再来年は始まる可能性も」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。そのほかございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それでは、以上で、事前通知による質疑を終了し、関連質疑も質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで、執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

やはり特定健診の受診率とか、その辺の割合、あと、ＩＣＴを活用した受診の勧奨とか、その辺のご意見がありました。この辺で皆さんから、国保税に関しまして、国民健康保険の

特別会計についてご意見のある方は挙手の上、発言をお願いします。何かありますか。12番織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　国民健康保険という世界に類を見ない保険制度、これは、私は維持すべきだと思うんですけども、ただ、高齢化が進み、医療費がかさみ、破綻するんじゃないかというような心配もあるわけです。やっぱり、先ほどの健康寿命を延ばすフレイル体操ですとかいろいろなことをやっておりますけども、健康に関しては、やはり一人一人の自覚の問題なんですよね。ですから、健康診断を受けるなと、逆に、命を縮めるというような意見の方もいるもんですから、一概にそれを上げることがいいのかということは、私は疑問に思ってはいます。

実際、私は受けていないんですけども、自分自身が健康を注意して生きていくという、やはり自分自身の問題として捉えていくべきじゃないかなと、私自身は考えています。

以上です。

○委員長（小林博文君）　織部委員、あれですよね。サラリーマン時代は定期的な検診を。

○１２番（織部光男君）　それは社保だからね。会社で受けているわけですよね。

○委員長（小林博文君）　割合、社会保険ですと、会社自体がそういうことをしないといけませんで、一回、必ず受けるようにやっていたと思うんですけど。

それもなんか、項目が合えば、申請すれば、特定健診を受けたと一緒の扱いにするというようなものがあるにはあるんですけど、というのは、この前、聞いて。

〔「そう」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　申請すればね。

〔「申請すりゃいいだけ」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それは、要は、市が、この項目をこの人がやっていますから、特定健診をやった人と同じ割合の数を入れてくれと言えば、入れれるというのはあると思ったけどな。項目が合うかどうかは別ですけどね。多分は本音。

なんで、あと思うのは、健康だと思っているというか、病院にあまりかからない人はきっとこういうことに関心が薄いし、逆に、かかっている人は、今、説明にもあった、私は病院にかかって安心だから、嫌だって言う、うちの親はそうなんですけど。（笑声）

だから、そういうところで病院の先生が、この項目やれば特定健診の項目なので、一回、この項目で特定健診として受けませんかってやってもらえれば、ちょっと上がらないかなとかって、前、聞いたら、医師会には言いますっていう答えだったような気がするんですけど。

そういうこともある。様々だと思って、あんまり関心がないし、健康な人は受けようと思わないのかもしれない。

〔「一切受けてないだろう。自信があるな」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　１３番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　特定健診、この45.8というのはかなり上がっていて、何年か前から言うと三十何％だとかって、私、多分、議員になった頃は言っていましたので、これだけ上がってきているのは、やっぱり、それなりにいろいろな手だてをしてくださっているのかなと思いますけど。そのとき、もらったことありますけど、こんなこと書いてあるんだと思うぐらい、なんかちょっと、いろいろ工夫、すごいしてあるなと感じていますので、必然を感じてくれる方をどうやって増やしていくのか。健康なら、別に、皆さん受けなきゃ受けないでもいいんでしょうけど、受けてみると、ここは駄目なんだというのが、ちょっと実感として伝わってきますので、行く時間がないとかあって、私もあまり受けていなかったんですけど、がん検診と一緒のときにできるのは便利なのかなと思っていますので。

最近、ちょっと若くて、やっぱりがんでなくなる方も周りにも、若いっていっても50代とかっていう方もいらっしゃるので、ぜひ、やっぱり早めに発見すれば大きいことにならないということも多いので、ぜひ進めていただいて、受けて、健康な方を増やしていただきたいと思います。渥美さんみたいに若い人たちが、意識がどうなのかなと思うけど。若い人は別に決められているわけじゃないんですけど、逆に、若い方は会社員じゃないとどうするのかなみたいな。

○委員長（小林博文君）　検診受けています。

○１番（渥美嘉樹君）　受けています。

○委員長（小林博文君）　定期的に。

○１３番（倉部光世君）　受けてる。

○委員長（小林博文君）　本当。

○１番（渥美嘉樹君）　はい。

○　　（　　君）　偉いね。

○委員長（小林博文君）　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　この45％というのを数字よりも、やっぱり社会保険の受けている人も合わせて、菊川市民がどのくらい受けているのかっていうのを実は知りたいなと思うこともあるのと、私の周りでよくあるのが、おばあちゃんというか年いってからがんで急に亡くな

る方っていうのは、大体が健康で言うことがなくて、病院も行ったことがない人が、症状が出るともう駄目っていうのがあるじゃないですか。もう症状が出る前に見つけなきゃいけないから、健康な人ほど、がんの検診はしといたほうがいいなっていうのを身の回りであるので。

それと、自分の息子の友達が、友達に「すごくメタボだから大変だからね、これじゃ検査したほうがいいぞ」って、若いんですよ、まだ30代。ところが、行きたくないって言うから、そのうち友人が無理やり連れていって、俺も一緒に受けるからって検査したら、一緒に受けた、そのおせっかいな友人にがんが見つかって、それで早期で腎臓がんということで、珍しいじゃないですか。だから、怖くて行きたくないっていうのを無理やり、じゃ、俺も受けてやるって受けたら見つかったっていうすごいラッキーなことがあるので、やっぱり、そういう話とか、そのおばあちゃんの話とか聞いて、とにかく健康のためには、やっぱり（ワレサン）検査したほうがいいです、と思いますので。

○委員長（小林博文君）　そのほか、ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。先ほど、倉部さんが聞いてくれた保険努力支援分というのの、その中に特定健診とメタボとかそういうのが入っていたんですけど、県の予算そのものが減ったなら、僕は問題ないと思うんですけど、今回130万円減っているんですよね、菊川市のお金。菊川市の分が減っているっていうことは、ほかのところが伸びてきているのか、ちょっとそこの原因は分からないんですけど、やっぱり、何か一つの項目で決まってくるんじゃないよっていうような説明はされていたんですが、やはり下がっていることの原因が何かにあるなら、それはそれで、やはり対応をしていく。このメタボにしてみても、特定健診にしてみても、それが、特定健診は、これ６位ですよって言っても、お金くれない。（笑声）結果として、ここが減ってくると思うんですよね。

なので、そこは、やっぱりこういう数字が来たら、やっぱり担当課は分析をして、何に手を打っていったらいいのかということをぜひやっていただきたいなと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。日本では、２人に１人ががんにかかるというような時代で、認知症が３人に１人というような形になっています。しかし、世界、アメリカ・ヨーロッパでは、がん患者は減少傾向です。その原因が何にあるかということを考えなきゃいけないと私は思っております。それが健康の今の話に、検診につながるのかというと、私

は検診だけでは駄目だと思っているわけですけどね。

そういったことを、やはり、その裏に何があるのかということをしっかりと国民、市民が認識しなきゃいけないんじゃないかなと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　そのほかございますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。今、アメリカの話があったんですけど、自分がなんか聞いた話だと、アメリカは定期的に検診を受けていると、保険料とか、すぐ安くなるんです。なので、その仕組みの中にも、検診を受ける人が安くなる仕組みになって、結果的に、がんが早期に見つかってという仕組みがあるんですけど、日本が、そういうのがちょっと、まだ、ないっていう部分も大きいかなと思うんで、本当は国がそういうシステムをつくってくれればいいんですけど、そうなるまでは、市としてできることを最大限やっていくっていうのが重要じゃないかなと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　生命保険なんかは、今、出てきていますもんね。

○１番（渥美嘉樹君）　そうですね。

○委員長（小林博文君）　よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それでは、自由討議も終わって、それでは、採決いたします。

議案第21号　令和６年度菊川市国民健康保険特別会計予算について、原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（小林博文君）　挙手全員。よって、議案第21号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、議案第21号の審査を終わります。

なお、委員会報告の作成については正副委員長に一任願います。

では、後期高齢者のほうの審査を行います。

休憩　午後　３時０３分

再開　午後　３時０４分

○委員長（小林博文君）　続きまして、教育福祉委員会に付託されました議案第22号　令和６年度菊川市後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

初めに、澤崎市民課長より出席者の紹介をお願いいたします。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。よろしくお願いします。

出席者は引き続き、私、課長の澤崎と国保年金係長の海野でございます。よろしくお願いします。

○委員長（小林博文君）　それでは、質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１番目、代表して倉部委員。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。これ、１款１項１目、１款１項２目と同じなんですけれども、タブレットとしては３ページ上です。

歳入の特別徴収保険料と普通徴収保険料について、国民健康保険から後期高齢者医療保険へ移行する予定人数と現年度分保険料の収納率及び過年度分未収納額をお願いいたします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。

まず、移行予定人数を申し上げますと、令和６年３月４日現在の国保加入者の生年月日から75歳到達により移行する人数を算出したところ、令和５年度は694人、６年度は602人、７年度は570人となり、５年度をピークに国保からの移行者は減少に転じますが、後期高齢者医療全体の加入者数は毎年増加していて、今後も当分の間は増加していくと見込んでおります。

続いて、現年度分保険料の収納率ですが、特別徴収では、３月４日現在で、調定額が３億1,811万4,600円のうち、5,058万4,900円の収入未済額がありますが、これは、今年度最後となる２月徴収分となりますので、例年どおり収納率は100％となる見込みです。

普通徴収では、３月４日現在で、調定額１億2,712万9,600円のうち、1,706万2,100円の収入未済額があり、現時点での収納率は86.57％となります。ただし、この1,706万2,100円の収入未済額の中には、納期限が４月１日である今年度の第８期分が含まれているため、第８期分が仮に100％収納となれば、収納率は99.09％となる見込みです。

過年度分の未収納金については、３月４日現在で、調定額187万8,000円のうち、83万7,200円となっております。収納率で見ますと、現時点で55.42％となります。過年度分収納率は、令和３年度が33.23％、令和４年度が53.27％、今年度が、現時点で55.42％ですので、着実に上昇をしているところであります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑がありますか。

○１３番（倉部光世君）　私はいいです。

○委員長（小林博文君）　内田委員はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。普通徴収の55.4なんですけど、これは、何か差押えみたいなことをかけてやっているんですか。それとも、要するに個人的な納付でここまで上がってきているんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。過年度分の未収納金についてですが、現時点で55.42％ということで、滞納者については、２か月に一回の催告書の送付ですとか、預金調査、預金差押え、分納相談などを定期的に実施をしているところであります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　再質疑、ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。この中に差押えまで行ったのは何件ぐらいあるんですか。

○市民課長（澤崎文宏君）　いいですか。調べなきゃいけないので。

○委員長（小林博文君）　澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。12月末現在で５人の方の差押えを実施したところであります。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○委員長（小林博文君）　関連で質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　続きまして、倉部委員から、同じページですか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　同じです。すみません。延滞金の状況を教えてください。お願いし

ます。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。延滞金の状況ですが、令和３年度は１万5,000円、４年度は４万2,000円、５年度は、３月４日現在で６万5,200円となっており、年々増加をしているところです。これは、税務課の徴収対策係と連携して保険料の徴収対策に取り組んだ成果であると考えています。

先ほど、内田委員の質問にもお答えしましたが、令和５年度も２か月に一回の催告書の送付、預金調査、預金差押え、分納相談、そうしたものを定期的に実施をしました。

また、新たな対策として、慢性的な滞納者への年金差押えの実施や、住民税未申告者へ簡易申告を促すことにより、滞納額を減少させることができた例もございました。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　関連で質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　いいですか。

それでは、以上で事前通知による質疑を終了します。

関連で質疑のある委員は挙手をお願いします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。国保のときも、高齢者のときの保険料なんですけども、国保だったですか、私の記憶ですと5,000円台であったと思うんですけど、今、この高齢者１人当たり、平均というのは出ているんでしょうか。保険料そして国保のほうも分かれば、併せて言ってくれます。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。澤崎市民課長。

○市民課長（澤崎文宏君）　市民課長です。後期高齢者医療保険料について申し上げたいと思います。

先日、全員協議会でも６、７年度改定になるということでご説明をさせていただきました。そのときにお示しした資料の数値にもなるんですが、これは県の平均です。令和４年、５年度の１人当たりの平均保険料額が、年間ですが、７万1,672円ということでお示しをしたところであります。

ただ、県全体の額なので、菊川はもう少し下がってくるかなという状況になります。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　国民健康保険。

○市民課長（澤崎文宏君）　すみません。国保については、ちょっと今、資料がございません。

○１５番（内田　隆君）　いいです、それじゃ。ありがとうございました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○委員長（小林博文君）　そのほか、質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいでしょうか。

それでは、質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで、執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

今のところでは、やはり人数とか支払い割合とか、滞納の延滞料等、出ていました。ご意見のある議員は挙手の上、発言をお願いします。後期高齢者。渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。延滞の状況はっていうところで、３年、４年、５年と見事に上がっていっていますよね。結局、それだけ苦しいんですよね。年金の中からでも引かれているし、この状況っていうのは、もうこれからも改善することはないっていう方法だと思うんですよね。だから、これもしっかり対策しないと、さらに増えていって、払えない人がかわいそうな状況になると思うんで、ちょっと実情をもっと把握したほうがいいかなと、経済状態であるとか、と思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　そのほかにご意見ございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。延滞金が５万5,000円載せてあるんですけど、今、聞いたときに、普通徴収の繰延金が去年187万円あったのが87万円減っているんですよね。減っている延滞金が６万6,000円取るって言やあ、どういう計算をするかよく分からんですけど、これって残額に対してどれだけ計算を起こしてきて、これ、答えてくれないと、ちょっと前年度にポッと載せるだけでは、予算の取り方がうまくないじゃないですかね、これ。

〔「どういう計算しよるのか」「ううん、分からない」「確かに」と呼

ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　先ほど言ったように、普通徴収も、今、南町のほうは、一般のやつはもうほとんど99％なので、もう、これは延滞金が絡むような話を抜きにしてくると、そうすると、過年度分の普通徴収のほうで引っかかってくる、それが去年187万円で６万5,200円取れたと言って、今度、87万円しかないのに５万5,000円取るっていうのは、僕は予算上おかしいと思ったけどね。

○委員長（小林博文君）　そのほか、ご意見ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それでは、採決します。議案第22号　令和６年度菊川市後期高齢者医療特別会計予算について、原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（小林博文君）　挙手全員。よって、議案第22号は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、議案第22号の審査を終わります。

なお、委員会報告の作成については正副委員長に一任願います。

〔「来ている」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　いらっしゃっています。休憩しますか。

〔「トイレだけ」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　トイレだけ行ってきますか。

では、トイレ休憩、25分予定で、そろい次第始めさせていただきます。

休憩　午後　３時１８分

開会　午後　３時２２分

○委員長（小林博文君）　それでは、休憩を閉じて会議を再開いたします。

続きまして、教育福祉委員会に付託されました議案第25号　令和６年度菊川市病院事業会計予算を議題とします。

初めに、原中病院事務部長、挨拶及び出席者の紹介をお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　病院事務部長でございます。本日は、令和６年度の当初予算の審議ということで、よろしくお願いしたいと思います。

本年度、コロナのほうが明けまして、来年度はいよいよコロナの給付金等もなくなるというふうな見込みで予算のほうも立てております。制限下の今の医療の確保を中心に、病院の経営の健全化に向けて取り組んでいきたいと思いますので、本日はよろしくお願いしたいと思います。

それでは、本日、出席者のほうの紹介のほうをさせていただきたいと思います。

向かって右側から、若宮副院長兼看護部長です。

○市立病院副院長兼看護部長（若宮智美君）　若宮です。よろしくお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　続きまして、井上診療技術部長です。

○市立病院診療技術部長（井上忠之君）　井上です。よろしくお願いいたします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　私の右手です。田中総務課長です。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　田中です。ありがとうございます。よろしくお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　続きまして、鈴木医事課長です。

○市立病院医事課長（鈴木久也君）　鈴木です。よろしくお願いいたします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　黒田経営企画課長です。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　経営企画課長の黒田です。よろしくお願いいたします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　堀川地域医療支援課長です。

○市立病院地域医療支援課長（堀川　　君）　堀川です。よろしくお願いいたします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　右側から、落合健康管理課長兼健康管理係長です。

○健康管理課長兼健康管理係長（落合　　君）　落合です。よろしくお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　菅沼総務課主幹兼管理係長です。

○菅沼市立病院総務課主幹兼管理係長（菅沼　　君）　菅沼です。よろしくお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　濱野総務課総務係長です。

○市立病院総務課総務係長（濱野　　君）　濱野です。よろしくお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　落合総務課経理係長です。

○市立病院総務課経理係長（落合　　君）　落合です。よろしくお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　田島医事課主幹兼医事情報管理係長です。

○医事課主幹兼医事情報管理係長（田島　　君）　田島です。お願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　渡邊経営企画課主幹兼経営企画係長です。

○経営企画課主幹兼経営企画係長（渡邊　　君）　渡邊です。よろしくお願いいたします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　藤田地域医療支援課主幹兼地域連携・福祉相談係長です。

○市立病院地域医療支援課主幹兼地域連携・福祉相談係長（藤田　　君）　藤田です。よろしくお願いします。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　すみません、兼任が多いんですが、よろしくお願いします。

○委員長（小林博文君）　それでは、質疑を行いますが、初めに、事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を出された委員は挙手のうえ、事前通知に従って質疑を行ってください。まずは、15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。１番、２番は聞いていることも同じですので、まとめて質問をさせてもらいます。

一応、１目のほうが入院で２目のほうが外来、それぞれ最近なんですけれども、今の入院で191人、日数365日、外来で517.5人にして243日につきましては、現在の施設、スタッフ等を置いたときに、計算をすると稼働率何％ぐらいになっているのかを教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。鈴木医事課長。

○市立病院医事課長（鈴木久也君）　医事課長の鈴木です。内田委員から質疑がありました予算書５ページ、タブレットで７ページ、予算資料は10ページ、タブレット３ページの入院収入、外来収入について、入院患者数191人及び外来患者数517.5人は、現状の施設、スタッフ等で計算すると何パーセントぐらいの稼働率になるかのご質問にお答えします。

入院患者数につきましては、現在、看護師の配置や運用状況を踏まえた稼働率で計算を行いますと、稼動病床260床のうち現状の稼動病床は226床で病床利用率は84.5％となります。

内訳につきましては、急性期病床の２病棟、３東、４東病棟につきましては、令和６年度の予算で１日平均患者数86人を予定しており、現状の稼動病床95床に対する病床利用率は90.5％となります。

次に、地域包括ケア病棟、４西病棟は38人を予定しており、稼動病床44床に対する利用率のほうは86.4％となります。

次に、回復期リハビリテーション病棟、３西病棟となりますが、こちらのほうは37人を予

定しており、稼動病床40床に対する利用率は92.5％となります。

精神科病棟、１西病棟になりますが、こちらにつきましては、30人を予定しており、稼動病床47床に対する利用率は63.8％となります。

外来につきましては、設置基準等で配置基準等ありませんが、外来診療や救急対応、療養指導を行える体制、人員を配置し、過去の実績や医師数、看護師数等の診療体制などを考慮し、実年稼動の範囲の目標値として１日平均患者数517.5人を計上させていただいております。

以上となります。

○委員長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。お聞きしてなかったのは、例えば、これで看護師さんのスタッフ数を見たときに、もう休みを取ったりいろんなことをすると、ここのところ以上はもう上げようがないのか、それとも、まだ少しは動かせる部分があるのかということをお聞きしようとしたもので、各医療ごとに並べてくれてあるんですけど、その中で、まだ少しや余裕が取れるところはあるんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。鈴木医事課長。

○市立病院医事課長（鈴木久也君）　現実的ですけど、今の人員ですと、急性期病棟につきましては、ほぼ見切りの状態となっております。実際、１日病棟に関しましては、病床稼働率も低い状況にありますので、もう少し患者数がいても稼働はいけるのかなということがありますけれども、現実的に、看護保持者の人員配置等もありますので、増えてくるとそちらの加算のほうが取れなくなる可能性があるという状況となっております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。多分、人的なところが一番ネックになっている、施設的じゃなくて人的なものが主になると思うんですけど、例えば、看護師さんも10人増えればもっと伸ばせるところがあるというふうに考えていいですか、例えばの話です。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。鈴木医事課長。

○市立病院医事課長（鈴木久也君）　実際の急性期病棟といいますと、もう少し職員数が増えれば、ちょっと運用、患者数の病態等の患者さん、どの程度の方が入院されているか、ちょっと状況によりますけれども、もう少し、患者数を増やすことは可能ではないかと考えております。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。この件、関連で質疑はありますか。12番　織部光

男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。私の一般質問で、精神科病棟を４床減らすというようなお話があったんですけども、今の予定で47床というのは、もう既にそれを計算に入れてということなんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　病院事務部長です。議会の一般質問で答弁させていただきましたのは、急性期の病棟の、３東病棟の１室を一応、患者さんの車椅子用トイレにするために４床を削減するというふうな計画ではおります。

したがって、先ほど申し上げました数字に関しては、特段、３病床を削減しても影響がないものというふうに考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。国からの補助金、交付金のほうで今度、改定が行われますけれども、１床当たり49万円とか、その辺の部分が今後変わってくるのか、分かっていたら教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　病院事務部長です。繰入金確保というのは、精神科とかの部分との繰入金の関係でしょうかね。

そこの金額については、今の段階で数字が確定しているものではないとは思いますが、今年度というか、繰入れしていただいたその基準から大きく変わるものではないというふうには考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。この車椅子の工事が終わったら260床にまた戻すという計画ですね。

○委員長（小林博文君）　原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　病院事務部長です。260床に戻せなくなってしまいます。病室ではなく病室から病床を返納してしまうという形になろうかとは思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑はよろしいですか。

その他、関連はありますか。

では、３番目、行きます。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレット３ページ、歳入、入院収益について、高齢者の入院受入態勢の強化について、令和６年度の取組があれば伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　経営企画課長の黒田でございます。お願いいたします。渥美委員からの高齢者の入院の受入態勢の強化についての令和６年度の取組についてということでのご質問に対する回答のほうをさせていただきます。

増加する高齢者患者に対しまして、地域の救急ネットワーク化や救急搬送の受入れの効率化、入院中のフレイル予防に、長期化する入院日数の短縮に加え、令和６年度診療報酬会計への対応を踏まえ、病床運用の見直しや多職種の病棟配置などを行っております。

具体的に一つ礼を挙げさせていただきますと、リハ・栄養・口腔の一体的プロジェクト基金もつくらさせていただきまして、その中で、早期リハビリテーションの開業ですとか、あとは施設内の栄養管理の実施、口腔ケアの実施、歯科連携の推進などを行っていく予定を考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。確認なんですけど、今、最後に、具体的におっしゃっていた、令和６年度に実際に行うということでよろしいんですか。令和６年度は、とりあえずそれに焦点を当てて、それについて令和６年度はやっていくという考え方なのか、確認で伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　経営企画課長の黒田でございます。今おっしゃっていただいたとおり、令和６年度には、まず全般的にはもちろん、そういったこと、全般的なものと検討はさせていただくことがあるんですけれども、まず、一例としまして、先ほど言った内容について、もう少し具体的な案、実施していく内容として検討をさせていただきたいと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。その前後に開設する部分が効果というか、メリット

というか、経営においてどういった部分でメリットがあるのか、簡単に伺えればと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　黒田でございます。

まず、こちらの部分については、経営的なメリットというのは十分考えられるんですけれども、まずそれ以前に、まず診療の患者様に対する医療の質の向上、そういったことも踏まえて考えております。

今言っていただいた経営的な部分への寄与というか、増収する部分については、先ほどちょっと説明させていただいた中の、長期化する入院日数の短縮を行うことによって、基本的には診療報酬会計の部分に対応できるような形ですとか、もしくは運用の病棟の見直しなどをすることによって加算が取れる方法とか、そういったことも検討していきたいと思っていますので、そういった部分でも増収への見込みというのは考えています。

○委員長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

４番目、今度は外来のほうですかね。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。次、歳入の外来収益について、外来収益の充実及び療診連携の推進について、令和６年度の取組があれば伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　経営企画課長の黒田でございます。こちらの解答につきましては、紹介患者の受入態勢、患者の逆紹介などかかりつけ機能再検討、外来診療の在り方を見直し、外来療法、検査、医薬管理及び指導体制などの外来診療の充実を図ってまいります。

具体的には、こちらもプロジェクトチームをちょっとつくる形で今、考えているんですけれども、外来診療枠の最適化ということでプロジェクトチームをつくらさせていただきまして、具体的な内容としては、外来診療枠の見直しや外来業務体制の見直し、あと要健診受診者の要精密検査の受入態勢の見直しなどを検討しております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁を終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。今、外来の最適化というのがあるんですけど、ちょっと収益状況で大変申し訳ないんですけど、簡単にいうと、最適化をして外来をよりたくさんのというか、効率的かつたくさん受け入れるようにして、結果的に収益が回転していくと

いうような、そういったイメージなのか、より窓口を、裾を広げていくのか、そういった意味でまた考え方を伺えればと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　経営企画課長の黒田でございます。基本的に今おっしゃっていただいた効率化のところに視点を置いております。外来診療、枠をスムーズにすることによって患者数の数を効率よく回していくとございますので、そういったところでは、先ほど言っていただいたメリットの部分につながるかなと思っております。

また、外来診療の在り方の見直しの部分の中でも、一般病床、急性期病床をちょっと病床を先ほど言ったように、休止をさせるという中で、少し外来の加算のほうが一部取れる部分になっておられますので、そういったところでの増収のほうにも効果があるのかなと考えております。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。この件、関連で質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけども、マイナンバーが保険証がわりということで、今どのぐらいの方がそういう使い方をしているのか。

○委員長（小林博文君）　関連しています。

○１２番（織部光男君）　職務が、業務が増えちゃうのかどうか、その辺をちょっと。

○委員長（小林博文君）　せっかく出ましたので、お答えをお願いします。鈴木医事課長。

○市立病院医事課長（鈴木久也君）　ちょっと今、件数のほうがはっきり言えないんですけど、パーセンテージ的には５％程度の利用者がいるということで、業務的にはやはりまだ不慣れな面がありますので、案内とかその部分ではちょっと業務負担というのは発生すると考えております。軌道に乗って皆さん、慣れて使うようになれば、確認等は今よりもスムーズに使えていくのではないかと考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。よろしいですか。そのほか関連ありますか。よろしいでしょうか。

では、５番目、同じく渥美委員から来ております。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレット５ページの給与費についてなんですが、１、組織開発の促進と人材確保について、令和６年度の取組を伺います。２、組織体制の見

直しと行改革コスト削減について、令和６年度の取組があれば伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。私のほうから、１番目の組織開発の促進と人材確保について、令和６年度の取組があれば伺うという件に対してご解答いたします。

組織開発の促進については、令和２年度から人事評価制度の効果的な運用と中期計画を達成するために、職員の成長と職員間の関係性、また試行の質の向上を図ることを目的に、病院の組織改革、意識改革と位置づけて、職員研修を実施しております。

令和６年度については、主任や係長以上の職員に対して、組織、文化の成熟と職員一人一人が自らの意思で経営に参画し、継続可能でかつ地域ニーズに柔軟に対応できる病院を目指すこと、新たなリーダーシップを組織内に広めることを目標に研修を実施する予定でおります。

この研修を令和２年度から行っておりますが、実際には離職の防止にも数件つながっており、有効な会だと認識をしております。

続いて、人材確保についてですけれども、募集をかけてもなかなかどの職種も集まらないのが現状です。こちらからそうしたようなこともあるものですから、待っているだけではなくて、こちらから大学等の就職説明会への参加や看護師協会が主催する就業相談会に参加して、再就職を考えている方に当院での就業について説明を行っています。

令和６年度についても引き続き行うとともに、紹介会社さんや保険会社さん等に応募をかけるなど、情報収集を行って人材確保に努めてまいります。

また、議員の皆さま、ご承知のとおり、今回、給食業務、なかなか次の業者さんが見つからないといいますか、大変な時期があったんですけれども、来年度からしばらくの間、入院患者さんの朝食を病院で調理、配膳を行うこととなっています。この調理師、調理補助の募集についても、ＳＮＳでの発信やポスター掲示、こういったことを行って募集をかけているんですが、まだ、実際調理師の人数が足りていない状況です。こちらについては、引き続き、確保に努めていきたいと思っております。

１番については、以上です。

○委員長（小林博文君）　２番目の答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　私のほうから、２番目の組織体制の見直しと業務改良、コスト削減についての令和６年の取組についてご説明のほうをさせていただきたいと思

います。

組織体制の見直しにつきましては、現在、総務課にあります経理係を経営企画課に移管し、予算編成から決算までを一元化し、病院会計の強化を図ってまいります。

業務改革、コスト削減につきましては、各部署の生産性向上に向けた業務改善、ＩＣＴ化の推進による業務改革、増大資料の提出を図ってまいります。昨年度から給与費明細を紙での配付からメール配信に変更しまして、印刷から配付までのコスト削減を実施しております。現在も年末調整の申請を各自のスマホから申請することを検討しているところでございます。

そのほかにも医療材料費などの中東遠圏域での共同購入の推進や第５次中期計画に基づく小目標の設定の見直し、目標共有による改善の推進を検討してまいります。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。人材確保についてなんですけど、申し訳ないんですけど、地域の採用をやっていくと同時に、経営プランにも書いてあるんですけど、大学とかそういったところと関係をつける中で優秀な先生を来てもらうというのもあると思うんですけど、そういった部分が何ていうか、取組っていうか、現状というか、考えをお聞きします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。医師の確保といったところでよろしいでしょうか。医師の確保については、常勤の先生、医師につきましては、浜松医大からの派遣の医師になりますので、浜松医大からの移動の医師になりますので、年に３回程度、院長と長谷川市長、一緒に学長のところにご挨拶に行って、意見交換、こちらのほうからのお願いごとですとか、そういったことをして、顔が見える関係性をつくっております。

そういったところで、不足する医師だったり、そういうところをお伝えして、こちらのほうに派遣していただくというようなことをしております。

それから、非常勤の医師につきましても、基本的には大学からの派遣の医師になっております。しかしながら、大学でもどうしても先生が足りない医局というか、診療科がございます。そういったところは自力で、病院単独で紹介会社さんを利用して確保するというような形を取っております。

過去に、小児科が常勤の医師がいなくなってしまう事態になってしまうということで、そのときは大学からもそれこそ派遣は無理ということだったものですから、そのときは紹介会社を使って１人確保することができまして、今もその小児科の医師は当院にいてくださって

いて、小児の不登校のところをかなり貢献をしてくださっていて、市内外の小中学校の支援のほうにつながっていると思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。この件、関連で質疑はありますか。よろしいですか。

６番目、内田委員から。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。簡単なことを聞かせてください。タブレット６ページになります。経費が3,000万円増えているんですけど、この主なものは何ですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　経営企画課長の黒田でございます。3,000万円の増となった理由なんですけれども、具体的に細々したものの積み重ねが3,000万円になっておりますので、主なところを２点ほどご説明させていただきますと、燃料費のほう、重油のＡ重油のほうなんですけど、こちらが単価高騰によりまして、前年度比で217万3,000円の増なんです。あと委託料ですけれども、全般的に人件費、物価高騰によりまして前年度比5,569万7,000円の増でございます。こちらが経費の3,000万円が増額になった主な理由です。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。委託料の主なものっていうのは、基本的には人権費ということでよろしいですかね。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　次の質問にもちょっと関連する部分でありますが、人件費の部分、これについては増額したと。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑はありますか。

では、次、７番目、倉部委員から出ております。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ちょっと今のと被っているかと思いますけど、経費の委託料の中で、物価高騰で経費が伸びたものがあればお願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　経営企画課長の黒田でございます。

倉部委員の委託料の中で物価高騰により大きくなった経費は何かというところなんですが、

物価高騰が直接というよりかは、どちらかと言いますと、人件費の増によっての委託料の増ということが実質上、大きくなっております。

主なところで言いましと、事業の中に業者が代わったことに伴いまして、人件費の増となりまして、前年度比で398万6,000円の増、あと整形外科の手術検査が増えたことによりまして、中材業務、こちらのほうが前年度比2,138万4,000円の増で、委託業者変更に伴いまして給食業務が少し増えましたので、前年度比で1,474万9,000円の増となります。こちらが主な経費増となっております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。よろしいですか。この意見に関連質疑ありますか。よろしいですか。

８番目行きます。５番　渡辺委員、お願いします。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。タブレット９ページのクレジットカード、電子マネーが使用可能にする考えはあるかということで、これ以前、菊川市が経済対策でペイペイを使えるようにしました。そういうときに病院も使えたほうがいいなというふうな感じもありますので、考えをお願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。鈴木医事課長。

○市立病院医事課長（鈴木久也君）　医事課長の鈴木です。渡辺委員から質問のありました、他の電子マネーが使用可能にする考えはあるかについてお答えをいたします。

ＱＲコードや電子マネーによる決済につきましては、社会全体に急速に進んでいる状況にあり、支払い時の時間短縮や業務負担の軽減、非接触での支払いが可能になるなど、導入のメリットが多くあるものと認識しております。

当院につきましては、クレジットカードの決済の導入は行っておりますが、ＱＲコード決裁等につきましては、手数料のほうが２％から３％代の利用率を取られるところが多いということで、現在のクレジットカードの手数料より費用が多く発生してしまうということや、業務の効率化の面におきましても、ＱＲコードの決裁等につきましては、多くの自動支払機の業者におきましては、今後、対応を進めていく予定となっている状況にあり、医療機関におけるキャッシュレスサービスにつきましては、全国的に遅れている状況となっております。

今後、日本におきましては、会計時の利便性の向上や負担軽減に向けまして、他病院の事例やキャッシュレスサービスに関しまして調査を行い、導入に向けた検討を進めていきたいと考えております。

以上とします。

○委員長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　そうだと思います。なかなか手数料のことで問題になっているというのは、ほかの飲食店とかそういうような、なかなかクレジットカード以外には進まないのが関東でもそうですので、しょうがないことだなと思います。分かりました。

○委員長（小林博文君）　ご意見ですか。質疑ございますか。ほかに関連で質疑ございますか。では最後の。私と内田委員とを代表して内田委員、お願いします。

○１５番（内田　隆君）　15番です。款、項、目、１、２、２の保育所運営です。保育所運営が問題のあるので意見を出しているが、このことについてどう対応しているのか。これは同じことだと思いますが、決算時に院内保育については令和５年度中に検討し、結論を出すとあったが、どのような検討となったのか。令和６年から９年度の債務負担行為が9,000万円ついているのは、これについてご説明をお願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。内田委員、小林委員からのご質問にお答えします。

１番、２番を通じて回答したいと思います。保育所運営ですけれども、現在、医師が２名、看護師が３名、管理栄養士が１名、以上６名がさくらんぼ保育室を利用しております。今年度は、保育室の利用者を増やすためにチラシの作成や保育室の見学会、給食の試食会を行いました。ご参加いただいた３名の方が保育室の利用を決めて入所をされています。

来年度につきましては、新たに正規職員で赴任する精神科の医師が１名利用することが決まっておりまして、４月の時点では医師の利用が３名ということになっております。このため、やはり、医師、看護師、技師さんが使うというところで、保育所を閉じるということはできないと考えております。

費用対効果を保育室の運営のみの観点から見たときには、やはり委託費を賄えるような収入がありませんけど、大学からの医師の派遣が優位になることや、看護師採用の一助になっております。病院収益はもちろん、地域医療への貢献にこれはつながっているものと考えております。

保育所の運営について、今年度中に検討して結論を出す予定でおりましたが、給食業務や駐在業務の委託事業において、急な業者変更や契約期間の変更等があり、病院としての結論を出すところにまでは至っておりません。申し訳ありません。

病院としては、病院運営という大きな観点で、保育所の運営の有無を決めるべきで廃止という選択は難しいと考えておりますけれども、保育所の必要性についてアンケートを取り、結果を参考にして来年度の契約までに運営方針を決定してまいります。

それから、債務負担行為の金額ですけれども、保育所を運営するに当たって、最低限必要な人数での固定費、保育士さんが３人、調理師さんが１人、それから運営管理費の見積もりから試算しております。保育士の人数が増えることで変動分というものがあることと、これから人件費がますます上がってくるといったところを積算して見込んでおります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員さん、質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。病院経営の中で、包括できるなら僕は全然問題はないと思っているんですけど、実際、今朝、繰出金基準とかいろんなお話が出て、やはり、ここのところで、今回、多分2,000万円ぐらいの赤字が出ていると思うんですけど、繰出金基準でやっていけるんなら僕はいいですよ。だけど、繰出金基準じゃ病院がくっつかなくなったときにどこをどうするかという話は必ず出てくると思うんですよ。

ですから、前、課長が言われたように、利用されていることはもちろん分かっていますし、ですけど、とてもペイはできないにしてみても、その分の考え方で総経費を埋めれるような説明をしていかないと、要は、お医者さんを確保するためには、2,000万円の赤字しかならないですよと、それも一つの答えなんですよね。

やっぱり、そういう組立をした中でやっていかないと、総事業費というのを、なかなか経営していくのってなかなか難しいんじゃないかなと思いますので、もし今回、これ国の予算ですけど、もう少し精査した中で、これからどうするのかは、何なら少しくっつけれるのか。

今現在、これだけの人がいますけど、この人たちがみんな小さい子を抱えているわけじゃなくて、当然、浮き沈みが出てくるということは当たり前の話でありますので、やはり、そこのところで大きな院内の中での費用がかかっているということについては、ぜひもう少し細かい分析をして将来像を作るべきだと思いますが、それは違うんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中病院総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。内田委員のおっしゃることも確かにそのとおりだとは思っております。保育室の経営というところで見ると、当然2,000万円程度の赤字が出てしまっていることについては、やはり、なかなか厳しいというところもあるの

ですが、その保育室に子どもさんを預けることができなければ、その先生、医師は来ないというか、医師を派遣してもらえなくなる可能性もあるわけで、そうすると、大きい病院収益というんでしょうか、入院収益にしても外来収益にしても、そこが影響が出てくる。その先生が１人いないことで数千万円だったり、あるいは何億円単位での収入が埋まれなくなってしまう可能性がある。そこが非常に大きいものだと思っておりますので、保育所に関しては、広い病院運営という中で考えていきたいとは思っております。

ただ、おっしゃるとおり、少しでも保育園の経営という中での収支が多少でも生まれるような努力のほうは、これはもう引き続きやっていくべきだと思いますので、希望する人がいるから見るよではなくて、今年度のように、給食の試食会ですとか見学会ですとか、そういったことは積極的に行っていきたいと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。病院そのものがそれでやってくれるというなら全然問題ないと思います。ただ、今言った中で、必要とするお医者さんにしろ看護師さんにしろ、なければ来ないよという人がどれだけいるのかちょっと分からないんですけど、当然、その人たちがそれでは、病院にいる間、ずっとこの子どもさんを抱えているかどうかっていうことが、それは人によっては違うと思いますので、やはり、いろんなことを考えていただいて、続きをもう少し変えれるのか変えれないのか分からないんですけど、もう少し、幅広いものに、広い人を広げるのかどうか、院内保育ですので、できないのかもしれないですけどね、でも、やっぱり、できるだけ赤字を出さない体制の中でどうしたらいいかということは、ぜひ検討していきたいと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。私からちょっと質問をさせてください。

保育所なんですけども、開園している時間ですかね。夜間もやられるかどうかということと。もし、夜間を利用しているんであれば、本年度、今６名ですか、看護師さんも３名利用していることで、夜間の利用というのはどんな状態かというのを教えてください。

濱野総務課総務係長、よろしいですか。

○市立病院総務課総務係長（濱野　　君）　総務係長でございます。今現在、昨年度までは看護師が１名、夜間の保育を利用しておりましたが、本年度につきましては、利用者はおりませんでした。時間ですけれども、15時30分から翌朝の10時までの預かりとなっております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　田中総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　すみません、病院総務課長です。補足でございます。

平日の日勤帯であれば、朝の７時半から夜の20時までは、希望があれば保育はしております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　もう一点、この時間帯が、夜間がどうしても発生するんで、なかなか外の保育園に預けるのが難しいのかっていうところもあるのかと思ったんですが、それ以外に、以前にちょっと質問で出たんですが、院外の保育所に預けられている方も当然いらっしゃいますね。その辺の方の理由っていうか、こちらも、病院のほうで預かっていただけるんなら預かってほしいというような要望とかっていうのはないのかどうか。ちょっと、単純に考えるに、自分の住んでいるおたくのところに通われたほうが、小学校関係もあると思いますんで、必要かと思うんですが、そういう、院内だけに限っていえば、もっと使ってくれということもあれば効果っていうのもある程度、あるかと思うというのがあるんですが、その辺の、そういう使われない人の意見というのを、前に聞いたかっていうこともあるもんで、その辺は検討するに当たってどういう考え方なのかお聞かせください。

田中総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。当院の保育室を選ばない理由というところですけれども、まず、兄弟で上の子が民間さんの保育園に行っていれば、親としては当然同じ保育園に預けたいと思うのが一番なのが一つ。まずこれがあります。それから、どうしても当院のさくらんぼ保育室が３歳までしか保育ができません。その後、小学校に上がるまでの残りの３年間がまだあるんですけれども、やっぱり一連で預けれるところがあれば、そこを第一に選択したい。それからあと、今は菊川市においては待機児童がないというような状況になっているものですから、実際に当院の保育室を使っているのも、市外の医療職になっております。

○委員長（小林博文君）　もう一点、最後に。この保育所が今あった、必要だというところが、確かにほかの病院なんかでも、やはり、保育所ありという形での募集があって、これが、あることがプラスっていうことなのか、逆にないこと自体がもう、必須でないこと自体がマイナスの減点対象みたいな感じなのか、その辺が、あることが売りなのか、なければ、そういうマイナスの、来る人の、医師の来てが欠けるとかという、そっちがどっちの方向なんでし

ょうかというのをちょっと確認しておきたいと思います。

田中総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。基本的にプラスであると理解しております。やはり、採用募集をするときに、どの職種であっても保育園がありますよっていうところが、必ずアピールポイントにもなるというところになります。

それから、国のほうからも、こういった病院に院内保育所を置くということは、推奨されておりますので、そこはマイナスではなくプラスだと考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　私のほうからは以上です。関連で質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。内田委員が言っていることも分かりますし、田中総務課長が言っていることもよく分かるんですけども、やはり、医師１人がいるだけで1億円稼ぐとも言われております。ですから、保育所のメリット、やはり、売りだということを私も賛成します。

それに代わるものを、それでは、ここにいる皆さん方が、医師、看護師以外でどのように経営健全化に向けて活動するかということを考えなければならないと思うんですね。

議会でこういうことを言う議員もいると。しかし、なくすわけにはならないと。そういったところで、私は、ここにいる皆さん方の残業時間も働き方改革で調べました。ほとんど問題はないですよね。皆さん、努力してやってくれているというのは、十分、分かっております。ですから、この件に関しましては、私は存続すべきだという意見でおります。ですから、今の説明、そのまま共感を示します。

以上です。

○委員長（小林博文君）　保育園でしょうか。

○　番（　　君）　保育園。

○委員長（小林博文君）　分かりました。そのほか、この件に関連で質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。例えばですけど、６歳まで延ばすということは全然考えられないんですよね。島田市民病院のほうは６歳まで預かったりはしているんですけど、逆に、そういう、そしたらずっと預ける人がいるのか、そこまで経費は持てないのか、どうなんですかね。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中病院総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。６歳までというのは、確かに考えたところはあるんですけれども、何より……

〔「施設かな」と呼ぶ者あり〕

○市立病院総務課長（田中妙子君）　やはり施設的な問題もありますし、やはり子どもさんたち、運動会とか、そういう、何というんですかね。よその保育園と。

〔「ですね」と呼ぶ者あり〕

○市立病院総務課長（田中妙子君）　大きく運動会とかやったり、いろんな発表会とかやっているとは思うんですが、なかなか当院の敷地内での応援になりますと、そういう保育の十分な提供ができないというのが現状だと思いますので、やはり今の時点でうちがやれる範囲としては、３歳までなのかなと考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。よろしいですか。関連はほかにありますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。保育士さんの定着率、そういったものはどうでしょう。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中病院総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。当院の保育室は、運営を委託しております。ですので、必要な子ども、医療保育の子どもに対しての必要な保育士さん、調理師さんのほうは確実に確保をしていただいております。

委託で来てくださっている保育士さんや調理師さんもこの近所にといいますか、市内だったり、近いところに住んでいらっしゃる方たちが来てくださっておりまして、自分ももう病院に配属されて15年目になるんですが、その頃から保育さんはほとんど変わっていないというか、見たことがあるというか、面識があるような方たちでできておりまして、関係性は大変いい関係性であります。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○１０番（赤堀　博君）　何で聞いたかというとね、やはり子どもさんも先生が変わると不安定になる。だから、それをちょっと聞いて安心しました。

○委員長（小林博文君）　そのほかありますか。関連で。よろしいですか。

では、以上で事前通知の質疑を終了します。関連で質疑のある委員は、挙手をお願いいたします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。一般質問では聞かなかったんですけれども、若宮看護部長もいますので、働き方改革、医師のほうは分からないかもしれないんですけれども、看護師さんの現在における平均残業時間というのは分かりますか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。若宮副院長兼看護部長。

○市立病院副院長兼看護部長（若宮智美君）　若宮です。平均値は、平均、大体、10から15ぐらいで、部署によって少し差はありますけれども、それくらいで大体毎月収まっていると思います。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　非常に少なくてすばらしいなと思いましたけれども、医師については分かりますか。平均。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中病院総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。すいません。本日、ちょっと資料のほうをもうそろえてこなかったんで、確実なお返事には、回答にはならないんですが、ご了承ください。

医師につきましては、令和４年度の実績で、年間470時間ぐらいだったかと思います。令和４年度の平均が470時間になっております。今それこそ960時間未満での運用を４月からやる中では、470時間平均というところは問題ないというと変な言い方ですけれども、先生方、大分ご苦労されて、効率よくやってくださっているんじゃないかと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。非常に安心した数字を出していただいてよかったなと思うんですけれども。

ただ、病院経営全体を見ますと、やはり11億以上の持ち出しがあって、今年は10億ちょっとということですけれどもね。やはりここにいらっしゃる皆さま方で病院経営を真剣に考えていただきたいと思うんですよね。

やはり治療から予防へというような時代ですし、私は今、菊川病院でやっているのかどうか分かりませんけれども、移送とか寄附というのは取り入れて今、いるんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。田中病院総務課長。

○市立病院総務課長（田中妙子君）　病院総務課長です。寄附につきましては、コロナの関係もありまして、医療従事者の皆さまにということで、表純子さん、プロゴルファーの方から寄附を頂いたりですとか、はいはい、頂いたりですとか、あとは、民間かの方からご寄附、

個人の方からご寄附というものを頂いております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　その辺のところを、やはり市民に対してＰＲをする。最近、全国的には、亡くなったときの前もっての寄附を表明しとくということもかなり一般化されてきておりますので、そういったことをも含めて、経営改善に向けて皆さんが知恵を絞ってやっていきたいと。そのための事務的な会議というのは、実際、やっていらっしゃるんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　寄附に関してということですか。

○１２番（織部光男君）　いやいや、寄附等含めて、病院経営に関しての改善をするということに関しての会議を。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　病院事務長です。経営に関する最高決定会議といえば、毎週行っている管理会議でありますし、これまでの第４次中期計画の中でも、経営改革ワーキングというもので、それぞれ検討されたものをそこに持ち寄って、最終的に、今後どうしていくかというふうな話合いは継続して行ってきているつもりではあります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。12番　織部光男委員。

学校では、４月から、何でしたっけ。

〔「コミュニティ・スクール」と呼ぶ者あり〕

○１２番（織部光男君）　コミュニティ・スクールというものを取り入れるんですよ。学校と地域とを結びつけるという。私は、病院経営も全くこれ、この感覚は必要だと思うんですよね。これだけ大変だというのを。でも、病院は維持しなきゃいけないと。そのためには、市民の方にもこういったことを協力してくれということで、逆指名とかいうことで民生委員になって、もうもすばらしいことをやってくれているんですけど、それ以外にもできることがね、あるのではないかと思うものですから、ぜひそういった意味で、今後、活動をしていっていただきたいなと思いますけど、その点はいかがですか。部長。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　病院事務長です。今織部委員からのご提案というか、ご意見も含めまして、当然、そういったことも取り入れながら、病院経営を最優先でね、全職員挙げて取り組んでいかなきゃいけないなというふうには感じております。

院長のほうも、常々、自分の弱みというか、を正直にさらけ出して対応していくというふうなこともね、おっしゃってくださっているもんですから、具体的になかなか今、厳しい世の中というか、患者さんが来てその分収益が上がって、今年は黒字かと思いきや、人件費が上がってしまったり、燃料費が上がってしまったり、なかなかそのバランスを取るのが難しい。

では、その赤字部分を少しでも削減しようと、保育所のことも、もちろん、考えておりますけれども、それを削減してしまったことによる影響というのが、非常に、何というか、今すぐに答えが出ない、はっきり答えが出ない部分での検討ということになってしまうんですから、なかなかはっきりした答えが出せないまま、これまでは来てしまっているなという感じはしています。

ただ、これで第５次の中期計画の中で、我々も覚悟を決めて、市のほうから基準内の繰入れで経営支援のほうはもう頂かないというふうに計画の中でもしっかり盛り込んでいる限りは、自分たちの中で自立した経営ができるような形で進めていきたいと思っておりますし。ただ、それによって、脅しみたいな言葉になってしまいますけど、もしかしたら市民の皆さまに影響が出てしまうような結論になる可能性もあるものですから、その辺は、議会の皆さんともご意見をいろいろお伺いしながら、進めていけたらというふうに思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○　番（　　君）　ちょっと今、関連で。私、代表質問のところで、もうちょっと突っ込みたかったところ、ごめんなさい。（笑声）今ちょっと絡むんですけど。基準内繰入れ、もう10億数千万で、全体会でもあったんですが、結構ですという、一番多いときは13億ぐらいですと言っていましたっけという話になって。今コロナ加算とかもこれからなくなるという中で、基準内繰入れで頑張りますというのは、私たちが逆に大丈夫かなという心配もあったりして、当然、何ですかね、ちょっと今、新しいプランを詳しく見ていないんで何とも言えないですが、何が、今までのところを変えて、ならば、もっと前にできたのかなというところがちょっとふと思うもんですから、経費を削減するというところの何か目玉があるのか、収益を上げるという目玉なのか、その辺もちょっと、プランの中で基準内繰入れで頑張れるという、その意気込みをぜひ聞かせていただきたいんですが、よろしいですか。

○委員長（小林博文君）　原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　意気込みを述べなさいと。これまで私、病院に40年勤めさせていただく中で、病院の収益を上げるといってもなかなか目玉となる、これで患者さん、ぜひいらっしゃってください。どうぞというふうなものが、実はあまりなかったというのが正直なところです。

ただ、今年の４月から整形外科の体制が非常に、大学のほうからの支援もありまして、かなり、これまで以上の機能を提供できるような形ができてきましたので、ここを中心に、とにかく進めていくということで、病院の中でもその辺のことは一致しておりますので。

ただ、先ほど言ってきたように、看護師の数だとか、オペ室の、例えば、規模だとかいうところでどうしても限界はございますが、その中でもできる限り、どうしていったらいいかというところを、各タスクフォースというか、プロジェクト会議の中で話し合いながら、最適なところに落としていければ、何とか繰入れ内の基準でやっていけるのではないかなというふうに感じております。すいません、話が長くなってしまって申し訳ないんですが。

あと、とにかく令和10年度までは病院建設時の、とにかく、建物の起債の負担が非常に大きいもんですから、そこまでは基準内の繰入れの中で毎年赤字を出さずにというのはなかなか難しいかもしれないんですが、一時借入れをうまく利用しながらでも乗り切れれば、その先は何とかなるのではないかなというふうには、部長としては考えております。

以上です。

○　番（　　君）　もう１点、前の事務部長が、家庭医がすごく菊川は、何ですか、終身なのか、終末医療も含めて、家庭医がすごく全国から注目を浴びているようなお話もあったんですが。その辺というのは、やはり強みとしてあるの。今もあるのか。今後、そういうところというのはかなり必要になってくると思うんですが、その辺についてお伺いしたいんですが。

○委員長（小林博文君）　原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　家庭医の養成に携わって、もう十二、三年になるんですが、大分、全国的にも各地で総合診療医の育成というのが始まってきて、始めた当初に比べると、なかなか、何というか、ライバル関係で医師を確保するのが厳しい状況にはなってきております。

ただ、今は大学のほうと、さらには、この中東遠地域の磐田、中東遠も交えて、５病院の中でその協議会のほうを進めていっております。

今というか、これからの時代、あくまでも在宅医療だとか、医療と介護の連携という部分では、今ここに、菊川市に家庭医療センターがあるからこそあまり問題になるところが目立たないとは思うんですが、実際にこれ家庭医療センターがなかったら、菊川市の在宅医療というところは非常に今、もうどうするのというような厳しい状況にね、きっと置かれているような結果になっているのではないかなというふうに思いますので、何とかこの在宅医療、終末期医療のところを担っていただけるように、これからも家庭医の確保に向けては、病院の中でも努めて、取り組んでいきたいなというふうには考えております。

以上です。

○　番（　　君）　すいませんが、もう１個だけ。会計のほうの全部移管というのがありますよね。そこが、何かすごくメリットだというお伺いした。ちょっと素人的によく、全部移管すると何がメリットになるのか、よく見えないんですが、その辺ちょっと分かりやすくというと語弊が出るんですかね、ちょっと教えていただきたいんですが。一部しかやれないというところにね、ちょっと不意な面が、何かどういう不具合があるか含めて、それも。

○委員長（小林博文君）　原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　今回の第５次中期計画の中で、公益業法の全部適用というものに移管をしていったほうが経営的にメリットがあるのではないかという中で検討を進めるというふうにはなっております。

全適になりますと、今現在、一部適用の中での事業管理者は市長ということになっておりますが、全部適用になりますと、事業管理者を別に立てて、その方の権限のもとで、人事だとか、給与だとかいうようなものが独自で決めていける部分もあるもんですから、そちらに移行したほうが経営的な自由度は増す。さらには、事業管理者としての経営能力がある人の責任のもとに進めていけるというところで、可能性としては、経営的には多少のメリットがあるのではないかと言われていますが、結果的にはなかなか、それだけでは全国の病院の中で経営改善が成功したという事例が、じゃあ、全てかというと、なかなかそうでもないというところもありますので、事業管理者の選定も含めて、まだまだ検討しなければいけない課題がたくさんあるのかなというふうには感じております。

以上です。

○　番（　　君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　ほかに質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。治療から予防へということで、病院を造って黒字

化にするんではなくてね、やはり予防に関して利益が上がるようなことということを考えると、私が思い浮かぶのは、最近、女性の乳がんが増えています。女性の乳がんは、何というんですか、サーモグラフィーというんですか、圧力をかけてすごく痛いという、女性が嫌がる。しかし、今は医学が進んで、それをやらなくてもできるものがありますよね。ああいったものを売りにして、機械が幾らするか私は分かりませんけれども、そういうことをこの辺の静岡県が幾つ持っているのか分かりませんけどね、売りになるんであれば、そういうことに投資するということをお考えになったことはあるんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。井上診療技術部長。

○市立病院診療技術部長（井上忠之君）　診療技術部長の井上です。現状は、マンモグラフィーというＸ線を使った、挟んで検査ですけれども、それが今、国の指針ガイドラインによっての裏づけが取れている唯一の機械となります。

委員がおっしゃっている、いろんな痛くなくても検査できるものというのは、世の中にはあります。それも検討してきて、学会等で紹介していただいたこともあるんですけれども、まだまだ裏づけが取れる、その病気を発見するまで、または確定するまで裏づけが取れるというところまではまだ行っていない状況であります。

ただし、そういう苦痛を与えるような療法、医学というのはあまり好ましくないと思いますので、そういう苦痛がないような、また、汎用的に皆さんが利益を享受できるような機械をこれからメーカーさんのほうにも要望させていただいて、取り組んでいけたらなというふうに思っていますが、現状はなかなか難しい状況ではあることだけはご理解いただきたいなと思います。

○１２番（織部光男君）　いいです。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。先ほど企業債10年までで、建物のところは終わる。今、ここで５億9,000万載っているんですけど、建物分というのはどのくらいあるんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　病院事務部長です。建物分として、私が調べた限りでは、令和６年度に建設当時のものの起債分が４億4,000万、７年度に４億3,000万、８年度に３億8,000万、９年度、10年度で２億6,000万で、建物分の起債の償還は終了するというふうに、自分としては理解しております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。15番。

○１５番（内田　隆君）　今朝、代表のときに、交付税算入されるものが５億4,000万くらいありますよという説明があったんですけど、多分、この企業債の中にもあるのか、それともこれ別枠にするとよ、ただ10億ぐらいになるので、今、大体、10億ぐらいの基準で出していますよね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　これはどちらで入っているか分かっていますか。要するに……。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　企業債を含めた５億4,000万か。

○１５番（内田　隆君）　そうそう、企業債の中に。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　10億というのが、４億、４億と今の５億4,000万。４億の（　　）10億くらいかということですか。

○１５番（内田　隆君）　いいですか。交付税をこのうちの今、借入金のうち、交付税はどれだけ（　　）されますかといったとき、５億4,000万と、多分、言ったと思うんですよね。ですから、今４億4,000万の中にまだ交付が出ないというのは、もう、要は、また別枠になっちゃっているもんで、ちょっとコロナをたつとやっていた10億のお金が、要するに、環境省やらどっかから出てくるところの通達の中で、例えば、資本的な建物については出しなさいよと言われていて、４億くらい出ているのかね。そういう計算をすると、大体、10億ぐらいかなと思ったので、今残っているお金の中で、それで、それもそっくりそのまま同じように動いているとすると、来年は、これから1,000万とか、その次の年が2,000万ぐらい、だんだん減ってきますよね。今だんだん、ちょい割れているみたいにね。ちょっと経営で少しはだんだん楽なのかなというふうに思いはしたんですけど。

ただ、基準外の中の中にこの金額が下がっていったら何も変えれんもんね。毎年、償還金が下がった分だけ基準がどんどん下がり始めると、何も経営のほうが変わらないもんでね、その辺を何か当局のほうから教えられている分があるんですか。

〔「教えられている分」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　要するに、こうだよという、基準外数値というのは、こういうことだよということの説明があって、経営を立てられているんですか。

〔「交付措置の試算みたいなものですよね」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　はい。

○委員長（小林博文君）　鈴木医事課長。

○市立病院医事課長（鈴木久也君）　医事課長です。ちょっと繰入金の中には、一応、償還金というのが含まれているんですけれども、償還する額につきましては、元利均等で返しているもんですから、年数のある一定の来るまではその額が、一応、率で、３分の２とか２分の１とかいう額で決まっている額になりますので、償還があるまでは一定の額が繰入金の中に入ってくるという形になっています。急激に下がるものというものではない。

○委員長（小林博文君）　再質疑はありますか。15番　内田議員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。先ほど言ったのは、要するに、繰出しの中で病院の金額を10億５千万、そのくらいのお金のことを言ったので、そうすると、そのお金のね、積算根拠みたいなものはちょっと縛っていますかということを聞いているんですけどね。病院側としては。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　繰出基準につきまして、金額につきましては、総務省のほうから出されましたその年の繰出基準に基づいて、市のほうの財政部局と相談をしながら、例えば、救急医療を確保するための経費として算出の方法はこうでした、根拠としてはこれで、こういう金額になりましたということを調整しながら、全体の繰入れというか、繰出基準というか、金額が確定していくというふうな流れで毎年進めさせていただいております。

○１５番（内田　隆君）　建物の返済は、具体的に今２分の１とか。

○委員長（小林博文君）　黒田経営企画課長。

○市立病院経営企画課長（黒田　　君）　そちらの建物のほうにつきましては、３分の２。

○１５番（内田　隆君）　３分の２。定額で10年まで３分の２、定額、ほぼ定額。財政課に聞いたほうがいいですか。（笑声）

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　先ほど申し上げましたように、繰出基準に基づきまして、企業債の償還利子に要する経費として、その利子の平成14年以前の事業の利息については３分の２、平成15年以降の事業の利息については２分の１だとかという細かな計算方法に従って、毎年はじき出しているものとなります。

○１５番（内田　隆君）　元金についてはないのかな。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　元金についても、平成14年以前の事業分の元金に対する３分の２。

○１５番（内田　隆君）　それも一緒なんですか。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　そうです。そういう基準がそれぞれ決まっている中で対応、算出させていただいております。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ということは、10年に開院しているもんで、９年までに、多分、起債をかけているんじゃないかなと思うんだけど。そうすると、それはもうずっと３分の２、元利というものが、要するに、計算上入っている、入ってきて、入れられているということになりますよね。その後の10年こっちのこと、別の短期的、医療費とか、医療機器とかいろいろな起債がかかっているところなんで、それについては２分の１というふうに、そんなふうに理解してよろしいんですかね。

○委員長（小林博文君）　原中病院事務部長。

○市立病院事務部長（原中達彦君）　事務長です。そのとおりだそうです。

〔「そのとおりです」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　ぜひね、しっかり聞いておいてもらわないとね、ごまかされちゃうんでさ。どっちどっちじゃないんだけどね。最終的には、我々もそういうことで、お金が減ってくる場合はこっち側で使えるお金が増える可能性もあるし、ただ、病院も先ほど院長が言われたみたいに、ああやってぎしっと決められちゃったら、果たしてうまく行けるかなということが非常に心配をしているので、ぜひその辺はね、当局とも話し合ってもらって、じゃあ、少し貸しといてもらって、ここでここで下がってくれば、この分をこっちに入れるとかね、いろんなやり方があると思うので、ただ漠然と、赤字が出たから何とかしてもらいたいというだけじゃなくてね、いろんなことをぜひ研究をしていただきたいと思いますので、お願いします。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。そのほか質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。すいません、事前に出していないんですが、介護保険のほうで私、出してしまっていたんですけれども、医療と介護の両方必要とする状態の高齢者について、関係機関が協力して、多職種の共同していくということで地域連携質もあったりして、私、大変お世話になり、ありがとうございました。

それ勧めに当たって、療養と相談係とかもあるわけですけど、やはり高齢者が入院したとき、その先どうなるかが全く病状とかによって見えていないのが現実で、実際、説明されると、療養病院ですか、在宅しますかというのをいきなり聞かれたりすることがあって、でき

れば、どういう形が在宅なのか、療養病院は、一体、どういうところで、どれぐらい経費がかかるとかという、事前説明をしっかりしていただかないと、なかなか選択できないのかなという、実際、自分が経験して思ったんですけど。その辺の療養相談とか、あと地域連携室の働きとか、また、今後、この多職種共同の体制を今後進めていくに当たって、何か改善点ですとかありましたらお願いしたいのと、あと、レスパイトがあるんですけれども、やはりちょっと使い勝手が悪いというと申し訳ないんですけど、空きがね、なければ使えないんだとは思うんですが。在宅で見ていくとなると、このレスパイトとか充実していただいていないと、病気を持っていると特養はもう全然、特養じゃないや、ショートステイは見てもらえないもんですから、その辺、レスパイトがある程度使えるんであれば在宅で見ようかなという選択も生まれてきますので、その辺は病院の収益につながらないのかもしれないですけど、この辺、レスパイトとか、今後についてどういう体制が取れるかお願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。藤田係長、お願いします。

○市立病院地域医療支援課主幹兼地域連携・福祉相談係長（藤田　　君）　地域連携・福祉相談係長、藤田です。

まず、１点目です。医療と介護の連携につきましては、患者さんが入院になったときに、全員の方について療養相談の看護師や、場合によってはソーシャルワーカーを含めて、この方の退院ができなくなる要素に、医療以外のについて、必ず評価をするようにしています。これは、入院になった方が全員です。病気がよくなっただけで退院させて困ることがないかを全員で評価するようにしております。

あと、その中で、やはり療養型であったり、老人保健施設などを利用したほうがいいという方、そういうご希望がある方もいらっしゃいます。なかなか入院の２日目、３日目にいきなりそういう話をしてしまうと、まだ状況が見えないとか、あまりにもいろんな職種が説明した直後で、慌ただしく説明をしてしまうんですけれども、皆さんでちょっと落ち着いて、なるべく早い時期で、主には、私たちソーシャルワーカーになりますけれども、今おっしゃられたいろんな施設の種類について、それぞれの費用であったり、その方の世帯の状況に応じて減額認定の対象にならないか、あるいはこのほかに使える制度はないかというところで、費用の目安なども含めてお話ができるようにしております。

あと、２つ目のレスパイト入院、在宅介護支援入院についてです。

やはりこれも地域医療支援課のところでご相談を受けて、入院を調整しておったんですけれども、基本的には７日より前に、７日以前前に申し込みをしてください。

あと、入院期間に関しても14日以内に決めてはいますけれども、実際のところは、７日を切っていてもご相談があれば、可能であれば、空床があればという調整は、緊急的にはしております。

あと、入院なさった後で、ほかの病院決めて入院なされますので、それでたまに対処するということはあるんですけど、予定では入院なさるんですけれども、実際、病状の変化によって入院が長くなることもありますし、そのほかの状況によって入院が延びるということもあり得ますので、必ず入院日が、順次に決めた日が来たら退院というふうなふうにはしてしませんので、そういった形で対応させていただいています。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑はありますか。

○１３番（倉部光世君）　積極的に丁寧にしてください。

○委員長（小林博文君）　そのほかありますか。関連で。堀川地域医療支援課長。

○市立病院地域医療支援課長（堀川　　君）　それこそ、入院というのは、人生の中でもそんなに、再々、あってはならないというものです。実際に入院して、その後の選択というところの中で、こちらが説明していても、実際、ご家族の方がなかなかそれを頭の中ですっと入るものではないと思っております。実際に老健と言われて、老健は何というところの世界だと思いますし、ある程度事情が分かっている、そういったことを知っていらっしゃる方の中でも、病状とかその兼ね合いの中で、こちらのほうの情報提供不足というところもあったりとか、そういったことでなかなかお互いにその中での面談とかご相談というのは承知をしております。

我々も、ソーシャルワーカーのほうも、そういったことを毎日はやっているものの、日々、勉強というところになってしまうところもございます。ですので、いろんな患者さん、あるいは患者さんのご家族には、いろんな思いをさせていただいたことがありますので、本当にそのためごとに申し訳ないなと思っております。

答えになっていないですが、レスパイト入院、確かに倉部委員がおっしゃるとおり、医療系のレスパイト入院というのは、使いづらいという部分が、正直、あると思います。例えば、近くの病院のほうに療養型の病棟があって、さらに、介護系のレスパイトがあって、医療系のレスパイトも受け入れますよ、そういったところですと、仮に、その後、患者さんが経過を見ながらその後の展開というのも見えてきたりとか、療養系を持っているということは、その後の余生といいますか、そういったところも長けていますし、安心して受け入れるとい

うことができるというような感じに感じております。ですので、うちのレスパイトは使い勝手が悪いとか、こういった話とかを聞いてはおりますが、いろいろ、ちょっと医療系の中でレスパイトでご利用いただけるメニューとかも勉強しながらやっておりますので、また機会があれば、開院の先生方にご相談いただければと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。再質疑はありますか。13番倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。半分自分事で申し訳ないんですけど、医師の説明とこの療養とかの説明のタイミングがすごい、ちょっと合っていなかったりして、先生から療養にしますか。在宅にしますかといきなり途中で聞かれて、ちょっと待ってくださいというふうになったりしたこともあって、ケアマネさんに相談して、いろいろ病院の調整をすごいしていただいたということがあるんですけど。できれば、このタイミングが合っていくと、私、患者の家族も考える余裕があるんですけど。何か医師の説明と療養に対する考え方のタイミング合わせみたいな調整はされる場所があるのか、どうなっているのでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。藤田係長。

○市立病院地域医療支援課主幹兼地域連携・福祉相談係長（藤田　　君）　相談係長です。一応は医師が病状説明することがあると思います。突然のときもあるとは思います。そして、病床全体の状況によっては、では、在宅どうお考えになるのかとしているところです。かなり、何日くらいで、目安なんですけれども、何時間で考えましょうというのが短かったりすることもあるとは思います。そういった中で、ご家族にかなり短い期間に考えていただくことも実際あり得てしまうんですけれども、そうしたときに医師も説明するし、看護師であったり、私たちソーシャルワーカーも説明をする中でなるべくその戸惑いが少なかったり、あと、不安にも寄り添いながらとか、十分な情報とかも大急ぎの中で持ちながら、一緒に考えられるようにということを努めさせてもらう対応になると思います。

どうしても新しい中なので、お一人お一人の説明なんかも、順番なんかもかなりスケジュール、少しややバタバタする中ではありますけれども、このような対応をしていきたいですし、させてもらっている、そのつもりではあります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。現在も入院のお見舞いというか、入れるのはすご

い規制がかかって、週２の10分というのは継続されているんだと、ですよね。結局、自分の家族の食事をしている様子とか、日常がどうなっているか全く見れていない中で、それで在宅かどうか選んでくださいというお話がちょっとあったことがありまして、それはどれぐらいと、何か飲み込みがあんまりできないんですよとかと聞くんですけど、聞いたんじゃやはり分からなくて、実際、やっているところとか、担当している方と話を聞きたくて、お願いしたらやっていただけたんですけど、それはやはりお願いしないとやってもらえないので、気がつかない方はやはりできずに、じゃあ、もうちょっと無理だから療養病院に行こうとなってしまったりするんじゃないかなと思うんですけど。その辺の患者本人の様子を家族が見る機会みたいな、いろんな対策で、長く会えないのは仕方がないんでしょうけど、本人の状態の、何というんですかね、説明みたいなものができる機会とか見せていただく機会を与えていただかないと判断ができないと思うんですけど、何かその辺の調整というのは、どうなんですかね。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。藤田係長。いいんですか。藤田係長。

○市立病院地域医療支援課主幹兼地域連携・福祉相談係長（藤田　　君）　福祉相談係長です。今倉部委員もおっしゃられましたように、ご家族からしたら、ご本人の様子がなかなか分からないということがあると思います。ちょうどリハビリスタッフが説明してくれたりすると、確かに状況が分かることがあったりはしますけれども、看護師さんから普段の様子を話してもらったりとか、それもリクエスト、ご要望していただかないと、なかったりすることもあったりします。

なかなかこれは、理想論なのかもしれませんけれども、そのご家族がお考えになる上で、どういったところの不安を感じているかということを治療者側が思い図って、こういったことを言ってあげたほうがよいということをきちんと伝える必要があるんだと思っています。これはなかなか難しいですけれども、そういったことを、いろんな職種がご家族、ご本人に関わってきますので、それぞれの職種の視点で経験が必要だと思いますけれども、なるべく分かって、知っていく必要があると思っています。やっていきたいと思います。

私からは以上です。

○委員長（小林博文君）　関連で。若宮副院長兼看護部長。

○市立病院副院長兼看護部長（若宮智美君）　看護部長です。先ほどのご面会の件もですけれども、まだ週２回で、時間制限もかけさせていただいております。これに関しては、コロナが５類に変わったということで、面会のほうも大分見直しはしましたけれども、やはりまだ

コロナのほうもね、はやっておりまして、病院に一度持ち込まれるとなかなかそこを制御するのが大変ということがありますので、引き続き病院に関してはやらせていただいております。

限られた時間の中で、お家に帰るということをやはり大事にしていますので、患者さん個々に合わせて、そういった指導が必要だったりとかっていうのは個別の対応をしております。あと、介護のところでできることといいますと、地域連携室がうち中心になっていますけれども、そこの看護師が今まで１か所に集まっていたものを、今病棟配属にしております。なので、そこですぐに対応ができるというところを今取り組んでおりますので、患者さんの御家族に対しても、過去にまた受け持ちの看護師と相談しながら対応していきますので、そういった御家族の御希望とかありましたら、またぜひ言っていただければ、そこで対応していきますので、また御協力をよろしくお願いしたいと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。そのほかありますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○委員長（小林博文君）　それでは、質疑なしと認め質疑を終わります。

それでは、ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めものとする」との規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

今回のところでは、やはり病院の経営に関するところ、入院外来の稼働率、それから今後の６年度の新たな取組等についての話とか、保育所、それからいろいろ出ました。経営に関することがありました。皆さんのほうから御意見がありましたら、挙手の上発言をお願いいたします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。やはり地域医療として病院はやはり欲しいと思うんですからね、何とか改善して経営的に操出金も10億円以下にね、できるだけ少なくするように努力してもらいたいなと思います。我々議会としても、やはりその辺の重要性を考えた発言をしていかなきゃいけないと思いますので、過去にはそういった議員の発言によって病院が駄目になったというような例もあるもんですから、ひとつ慎重にやっていかなきゃいかんなと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　そのほかございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。保育所なんですけど、債務負担をかけるということ自体はそれも含めて今から否決に出てくるもので、残すということを前提にするなら、もう少しやれることをもう少し並べてもらって、じゃあもう残す以上は人が早く入ってこない限り赤字減らないですよね。残した以上は１人いても５人いても10人いても多分同じだと思いますのでね、そこをちゃんともう少しこうどういうことをして、全て、半分ぐらい赤字を減らすためには何人ぐらいの人たちが園児を抱えたらいいのかとかね、なんかもう少し経営感覚を持たないと、ここのほうが仕方ないって言っていたのでは、多分これから先も200万円取るのに2,000万円お金かけるような話になっちゃうと思いますので、もう少し最後の話でやれることが何があるのか、先ほど話してあったみたいに、病院守るために外で抱いてる子も中に入れて、園児としてなんとか、あそこをまとめるようにしようって、ずっとじゃない、とにかく２年だか３年しかないやつですのでね、やっぱりその辺のところまでやっていかないと、これが本当にお荷物になるんじゃないかなと思って非常に心配をしています。

以上です。

○委員長（小林博文君）　私はちょっと、説明を聞けば、やむを得ないかなと私自身の中で思ったんで、今、内田委員がおっしゃるとおりで、やはりそれがこういう効果があるというところを、やっぱりしっかり示していただくということをしてくださいということが、前回の決算のときにも出てたと思うんで、その辺が僕の中ではちょっと説明の中では聞いていて、やむを得ないかなというのは、やっぱり夜間とか、今言った20時までやってるっていうと、なかなか民間とか一般の市内では難しいなっていうのがあったんですが、それもあるんで赤字になるんでしょうけど、なるべくその赤字にならないと、それから、ここの保育所があったから私は医者としていますっていうのは見えないもんですから、そこがちょっと難しいところかもしれませんが、ある上でプラスになるのであれば、そのプラスを十分に生かしていっていただきたいなと思いました。

そのほか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。その院内保育園についてですけど、さっき６歳までは見ないんですかっていうのも聞いたんですが、実際、島田の市立病院のとこにあるのは６歳まで見て、いろんな人数を預かってはいるんですけど、菊川市内だと大分空きもあるので、人数がないのかもしれないですけど、結局、よそに預けている看護師さんたちは、３歳から預けるところがないんで、院内じゃなくて一般のところに預けていますよっていう方が

多分市内の方ほとんど、話聞くと。今回も市内で入れない人たちが、ここに取りあえず預けているよっていう、市内の人より市外の利用が多いっていう話があるので、看護師さんより、医師を確保するのに必要であれば、ある程度は必要だと思うんですけど、あとは長期休暇のときに保育園も休みになっちゃうところも市内にあるので、そのときの預かりもここでもしますよとかっていう、ほかのサービスみたいなのがつけたりしているところもありますので、ただ今までどおりやるんじゃなくて、ほかの利用もしてもらえるとか、やっぱり利用者を、やっぱり一人見ているんじゃおかしいので、マックス見れるようなことはやっていっていただかなきゃいけないと思いますけど、むげにこれをじゃあやめて、一般の民間にポンとお願いできるかっていうと、ちょっとそうではないものですから、例えば民間で今出てきている、小規模が代わりになるぐらいの長期の預かりまでやりますよっていう交渉ができるのかどうかとか、そういうところも少し検討していっていただかないといけないんじゃないかなと感じています。今日と明日、これをやめたぐらいの予算の話では、全体からすれば一部なんだとは思いますので、その辺、少しはやっぱり努力はしていっていただきたいなと思います。

○委員長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　多分できないよって言われますけどね、例えば病児保育みたいなものを、菊川の場合全然やれてないもんで、もしそういうものでも受けてもらえれば、それは別立てで100万円なら200万円、子育て支援として別途に出してやるとかね、特殊性を持たらせて何かとにかく、ただ今言ったように、数字だけ並べられるから確かにこんなのやめたほうがいいじゃんとかしか思わないんだけど、そこにいろんな負荷をかけて、価値観をもっと上げたりすれば、またそれ確かに評価があると思いますので、いろんなことを考えてもらって、できる範疇で考えていただきたいなというふうに思います。

○委員長（小林博文君）　10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。病院の経営努力というのは、これからもやってくれるということなんですけども、市民に対して菊川病院の広聴という意味で、11月に感謝デー、いろんなことをやって、先生の講演もありますけど、親子が楽しむようなイベントもやってくれたり、医学療法士の出前講座もあったり、それから地域医療を守る会の人たちが医療従事者に感謝ということで、市民の皆様に菊川病院のいろんなことを広めてくれたりしているもんで、そういったものもありがたいなと思っているところです。

○委員長（小林博文君）　そのほかございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。さっき最後に申し上げた事前質疑なかったんです

けど、全体で病院と介護のことも地域連携しながら、介護のことをやっていくということで、多職種連携はずっと委員長前からおっしゃっている話ではあるんですけど、実際に使ってみると、本当に分かりづらいと言ったら申し訳ないですけど、全然情報提供がほぼなく、たまたま私は多少分かっていても分からない。これってどうなっているんですかという、事前説明ほぼなしです。いきなり先生に、どっち、自宅で見ますか、療養病院行きますか、明後日までに決めてくださいと言われたりとか、うちの母親が今食事を取れているかどうか、どれくらい食べているか私は見ていないので、在宅できるかどうか全く判断がつかないんですよということを言って、結局ケアマネさんが一生懸命やってくれる方で、一生懸命調整して、全員集めて話をする機会をつくってくれたりとか、介護のスタッフ全部集めて看護師さんとかから説明を聞いたりとかということをやってくれたりして、なんとかなったみたいなところがあって、ああいう機会をきちんと誰が、病院側が率先してやるのか、例えばケアマネが率先してやるのか、介護の仕組みと病院の仕組みって、一般の方には本当に分からなくて、お元気、若くて入院してパッと退院できる方はいいです、御本人も分かっているし、それはもう流れが皆さん見ているけど、特に高齢者に関しては、病気になった後介護することと、ただ元気になって帰ってきて介護するって全然話が違うので、結局流れとルートと預かる先がどことどこがあるっていうことすらも、皆さん分かっていないので、先に説明しているんだけど、全然されていないので、療養病院に入ったら月に20万ぐらいお金がかかるよということも聞かないでどっちにしますかって言われても、選べないと思うんですね、一般の方はね。自宅で在宅するならどれぐらいの支援があって、何があって何があって何があって、これぐらい経費かかりますよ、っていう説明はケアマネがするのか、どこで誰がするのかね、市役所の担当がしてくれるのか、そこがすごい不明確であるので、介護と病院の連携しますという話はすごいあるんですけど、もっと市民の利用の方に分かりやすい仕組みづくりをしていっていただかないと、今後もっと対象者が増えていくに当たって、皆さんが御苦労されるのかな、御家族が一番御苦労されると思うので、もうちょっと分かりやすい仕組みづくりを是非、地域連携室あるんで、もうちょっと連携してほしいなということがあったので、質問しちゃいましたけど。

○委員長（小林博文君）　12番　織部委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけど、今の倉部さんのお話は本当に切実な問題だと思うんですよね。ですから、本当に縦型でやっているような感じを受けるんですよ。だから、誰かが言ってた横の串出しをということですけどもね、そういう話合いの場をなぜ持たない

のかなって、私はもう本当におかしいと思うんですよね。市民のクレームに等しいようなことに対してのそういう会議をね、やっぱりもって対処しなきゃ駄目だと思うんですよ、行政は。市民に対する安心、安全というようなことをうたっていますけどね、全くそれに反していることだと私は思いますので、議会としてもそういったことを訴えていかなきゃいかんでしょうね。

以上です。

○委員長（小林博文君）　質問ございますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。保育所もそうなんですけど、全体的にもそうだと思うんですけど、経営について経営計画というのはしっかり委員会で確認していくというのが大事だと思うんですけど、一方で、それでコストを削減、削減ばっかりやって、ある意味バッファーというか余裕がなくなってしまうと、思わぬところでひずみが出てきてしまうというようなこともあったりですとか、本当に必要なときに使えなくなってしまうといったことは、やはりあってはならないことなので、委員会としてもそこら辺のバランスといいますか、それを踏まえた上で経営についてやっぱり考えていって、あまりにもコスト削減ばっかりではなくて、ある程度はやっぱり余裕も必要だなという考え方も必要かなと思っています。

以上です。

○委員長（小林博文君）　そのほかどうでしょうか。よろしいですか。

ちょっと１件、やっぱり令和10年って聞いていたんですけれども、建物の返済については、かなり経営的にはこの辺がネックになっているのかなというのがあって、10年までもてばってよく聞いたものですからね、それがやっぱりなかなか大きい返済だなと思ったんですけど、補助率も結構あるんです。そうするとそんなにもならないかもしれないですけれども、この辺のあと５年というのが正念場なのかな。ほかの病院もいろいろ他市の病院もあります。見ていると思いますので、その辺もしっかり見ていかなければいけないかなと思いました。よろしいでしょうか。

それでは採決いたします。議案第25号　令和６年度菊川市病院事業会計予算について、原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（小林博文君）　挙手全員。ありがとうございます。よって、議案第25号は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、議案第25案の審査を終わります。

なお、委員会報告の作成については、正副委員長に一任願います。

以上で、本日予定しておりました予算審査を終了いたします。

明日は、こども政策課、子育て応援課、福祉課、健康づくり課、長寿介護課の一般会計予算審査と、介護保険特別会計の予算審査が予定されていますので、８時30分までに御参集ください。

本日はこれをもって散会といたします。お疲れさまでした。

○　（　　君）　これをもって終了しますので、御起立お願いいたします。相互に礼。

〔起立・礼〕

閉会　午後　５時０８分

開会　午前　８時３０分

○書記（伊村　　君）　それでは、互礼をもって始めたいと思います。ご起立お願いします。相互に礼。ご着席ください。

初めに分科会長よりご挨拶お願いします。

○分科会長（小林博文君）　おはようございます。令和６年度予算の審査２日目ということで、昨日に引き続きましてよろしくお願いいたします。

ちょっと昨日言い忘れました、東日本大震災から13年ということで。併せて能登の地震のほうへも皆さんの思いを寄せていただいたということで、市内でも、黙祷を捧げていただいて、うちの娘にやったかって聞いたら、やりましたということで、ちゃんとやっていただいて、13年たちましたけど、その思いを忘れないでいきたいと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

○書記（伊村　　君）　ありがとうございました。それでは、ここから先の進行は、分科会長、お願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　ただいまから、一般会計予算決算特別委員会、教育福祉分科会を開会いたします。

これより議事に入ります。本委員会に付託されました、議案第20号　令和６年度菊川市一般会計予算のうち、教育福祉分科会所管に関わる項目を議題といたします。

それでは、これより質疑を行いますが、課ごと順番に質疑を行います。質疑答弁に当たっては必ず事前に挙手をし、指名を受けてから発言するようお願いします。質疑の事前通知を出している委員は、質疑通告一覧順に質疑を行うようお願いします。また、発言する際には必ず冒頭で番号、役職名等を述べ、はっきりと大きな声で発言するようお願いいたします。限られた時間を有効に活用するため、議員個人の意見については、後に予定しております自由討議で述べていただき、ここでは、簡潔明瞭な質疑答弁にご協力をお願いします。

なお、本件につきましては、３月25日に開催予定の一般会計予算決算特別委員会にて採決を行います。

初めに、こども未来部の審査を行います。森下こども未来部長、所管する課名等を述べてください。森下こども未来部長。

○こども未来部長（森下路広君）　皆さん、改めましておはようございます。こども未来部です。所管する課は、こども政策課、子育て応援課となります。

ただいまからは、こども政策課、続けて、子育て応援課のほう、審議のほう、よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　続いて、西川こども政策課長より、出席者の紹介をお願いいたします。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。隣が、統括園長　松村です。隣が、赤堀こども政策課長です。その隣が、木下幼保こども園係長です。後ろに行って、こども政策課の指導主事の大木です。

〔「名前はっきり言って、聞こえない」と呼ぶ者あり〕

○こども政策課長（西川多摩美君）　小笠北幼稚園長の石川です。こども政策係長の主任主査の後藤です。調整室の松下です。

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。事前通知を提出された委員は、挙手の上、事前通知に従って、質疑を行ってください。

１問目、４名の委員から出ていますが、代表して渥美委員からお願いいたします。１番渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美委員です。タブレットページの４ページ、保育事業費について、１、物価高騰対策緊急支援事業費支援金の算式は、保育対策総合支援事業のスポット支援員分とは。２、昨年独自施設でおむつ引き取りがあり、ほかは検討中とのことだったが、

現状はどうなったか。３、保育対策総合支援事業費補助金（保育支援事業者）について、ニーズ調査をどのように行っているか、また、保育宿舎借上げ支援事業及び保育補助者雇上げ強化事業についてのニーズはどのようなものだったか伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。渥美委員、内田委員、渡辺委員及び織部ひとみ委員の保育事業費に関するご質問についてお答えします。

１つ目の、物価高騰対策緊急支援事業費支援金の算出は、保育対策総合支援事業のスポット支援員分とはについてですが、物価高騰対策緊急支援事業支援金については、園児１人当たりの支援額は、学校給食センターが後期で負担する食材費高等分相当の年額5,880円を見込んでおります。保育所や認定こども園の園児数を対象となる、10園の１号、２号の利用定員の合計である710名と見込んでおり、実際には国や市の副食費免除の対象となる園児は対象外となりますので、上限の利用定員数で算出しております。

保育対策統合支援事業のスポット支援金分については、登園時の繁忙な時間帯やプール活動時などの一部の時間帯にスポット的に支援員を配置する場合に補助を行うものです。

２つ目の昨年６施設でおむつ引き取りがあり、ほかは検討中とのことだったが、現状はどうなったかについてですが、現状の状況としましては、公立園も含め全ての園で、使用済みおむつの処分を実施しております。

最後に、保育対策総合支援事業費補助金について、ニーズ調査をどのように行っているのか、また、保育士宿舎借上げ支援事業費及び保育補助者雇上げ強化事業についてのニーズはどのようなものだったかについてですが、当初予算の算定前に、市内の園に来年度の実施希望調査を行っております。

保育対策総合支援事業費補助金については、各園へ補助制度の内容や変更点などの情報提供を行っております。保育士宿舎借上げ支援事業、保育補助者雇上げ強化事業については、特に各園からの問合せや実施希望はありませんでした。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。３つ目の補助金の件なんですけども、ニーズの調査といいますと、補助金っていろんなメニューがあるじゃないですか。その中でどういったものがニーズがあるかというのは、まず前提としてこういったものがあるというのを皆さんで理解した上で、その中でこういったものが必要かなという、そういったことが必要かなと思

うんですけど、結構メニューがいっぱいある中で、皆さんにこういうメニューがあるというのを細かく説明したりとか、皆さんそうやって理解した上で、ニーズ調査というのは行われているものなのか、どういった実態なのかを伺いたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長です。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。この件につきましては、渥美委員が言われたように、補助メニューはたくさんあります。

毎年国で来年度、国の予算はこういうものがつきますよというのが送られてきます。その情報につきましては、メールで一旦園には送信しています。新たに毎年、ほとんど同じ事業でありますので、新規事業につきましては、別に養護施設連絡会で周知をしております。そこで希望がある園につきましては、うちのほうで予算計上するかどうかで課内で相談し、上げております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。というと、例えば既存の事業、質問でも具体的な１個あると、借上げ支援事業とかそういったものは既存の事業なので、説明資料だけ、もしその保育事業者さんの中で、こういったもの希望ありますよという連絡があったら、その段階で検討するというか、そういった流れになっているのか、ちょっとお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。既存の補助金につきましては、渥美委員の12月の一般質問のほうでこの事業のことについて質問されたと思うんですけども、保育園につきましても、渥美議員からこういう質問がありましたよということで、園の方にはお伝えをしておりますし、もし使うようであれば、園のほうから希望を取っております。ただ、昨年も多分申し上げたと思うんですけど、宿舎借り上げ料というと、事業主が契約をして、事業主の４分の１の補助をしなきゃいけないので、なかなか難しいというご意見は聞いております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。最後にちょっと確認なんですけど、いろんなメニューがある中で、ただ何でもかんでもできるわけじゃなくて、当然、予算、予算の中で優先順位をつけてやっていると思うんですけど、その中で、やっぱり希望を聞いてやっていくだ

けじゃなくて、ある種、市としても全体的な戦略というか、その中で優先順位をつけながら、ある種、こっちからも提案していくという考え方もあるのかなと思うんですけれども、そこら辺のスタンスというか、市としての補助金に対する考え方とか予算の在り方というのは、ちょっと最後に伺いたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。渥美委員が言われたように、必要だと思います。コロナのとき、コロナの感染対策は絶対必要ですので、皆さんに取っていただくように周知はしております。先ほど言われたように、園がこれをやりたいよということであれば、その内容について、私たちのほうも聞き取り調査をして、必要かどうかを判断して予算は上げさせていただいております。ですので、市としてやはり国の補助金を見て、これは必要だと思えば、園のほうに説明をしております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。そうすると、園の希望があれば、基本的には市としてはできるだけ活用していくという、そういう考え方は。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。園から希望があって、市としてもやはりこれは重要だとあれば、積極的に私たちは予算を上げていきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。内田委員のほうはありますでしょうか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。緊急対策のところの710というのは、定数と言ったですか。実数か。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。利用定員数。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　利用定員数というのは実数とは違うんだね。

○分科会長（小林博文君）　西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。そのとおりです。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　これまた新たな単年度の補助金要項だった関係で、また新たに補助

要項を起こすと、この緊急支援対策支援金というのは、金額そのものが書いてあるんですよね、実際。3,700幾らという数字が。１つ心配しているのは、補正予算で組んでくれて要項を変えてくれてあるかということと、それと今回も要項を変えないと金額が合わなくなるもんで、その対応の手続きは済んでいるということでよろしいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。要項の変更はその都度、ちゃんと上げております。変更で。ですので補正予算のときも要項は入っております。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。渡辺委員は。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。今の内容のことで、ちょっと自分聞いていて分からなかったのが、支払いの対象じゃない人がいて、という説明があった後に、だけど定員いっぱいで計算してあるという、なんかちょっとその辺の意味が分からなかったんですけど、説明していただけますか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。この副食費免除の対象とかっていうのは、前の所得とか、いろいろありますので、取りあえず皆さんに補助金が行き渡るように、利用定員の数で予算は上げさせていただきたいと思います。その後、精査をして国対象の副食費の免除、払わない、家庭からはお金を払わないのですから、その人に免除することはないので、その人を抜かした数字を、園の方に支払うようにしています。

以上でございます。

○５番（渡辺　修君）　わかりました。ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　織部ひとみ委員、よろしいですか。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件、関連でありますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。２番目のおむつについて、全部の園で実施しているということですけど、受け取ってくれる業者というので苦労したというのではなく、普段から園が取引きしている業者に、そのまま出せるということでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。今、赤堀委員が言われたように、普段からごみ回収をしているところで、おむつを回収をしていただいて、この負担が、おむつをやったから負担が増えたということは、今のところはないと聞いています。

○１０番（赤堀　博君）　そうですね。わかりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。ほかに関連で質疑ございますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　では、２問目行きます。私のほうから質問させていただきます。３款２項１目保育事業費、保育支援、今の同じページになりますけども、１つ目として、これ隣の５ページのところに出ています。下のほうにあります保育対策総合支援事業費補助金、保育支援者事業の増額理由。令和５年から1.5倍ぐらいになっていますか。増額理由等。もう１つは、戻って４ページのほうの特定財源の内訳の中にあるものだったんですけど、同じく、この保育体制強化事業で913万5,000円ですか、この国庫補助について対象となっている事業はどの事業なのか、この２つをお伺いします。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。小林議員の保育事業に関するご質問にお答えします。

１つ目の保育対策総合支援事業費補助金の増額の理由はについてですが、１問目のご質問で説明させていただきましたが、スポット支援員に対する補助が新たに創設されたことに伴い、保育事業者の配置を実施する園があったため増額となっております。

２つ目の保育対策総合支援事業費補助金913万5,000円について、国庫補助の対象事業はについてですが、１つ目の質問でお答えいたしました保育支援者事業が対象となります。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　これに全て入っているということでよろしいでしょうか。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。そのとおりでございます。

○分科会長（小林博文君）　分かりました。２点関連でありますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　では、次に行きます。３問目、倉部委員、内田委員から出ています。代表して13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款２項１目、説明資料タブレット６ページ福祉医療費の家庭保育支援費ですが、リフレッシュ・一時保育事業の４年、５年各園の利用実績と今年度の推定数はということで、一覧表をいただいて、今年度は説明資料に４時間未満334、４時間以上が260と載っていますが説明をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。保育事業費に関する倉部委員、内田委員のリフレッシュ・一時保育事業の令和４年度、５年度の各園の利用実績と、今年度の推定数はについてお答えします。

リフレッシュ・一時保育事業の令和４年度の利用実績は757件、令和５年度の２月末までの利用実績は859件となっており、３月の利用見込みが100件ありますので、年間の利用見込みは959件となる見込みです。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。令和５年が結構増えているんですけど、この辺、状況というか原因というか、どう分析されていますか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。５年度になりまして、コロナが解禁になったことに伴いまして、皆さまお預けする人が増えていると感じております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。例えば、希望して使えなかった方というのは、たくさんいらっしゃるのか、大体ニーズには応えられていたのか、お願いします。

○分科会長（小林博文君）　西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。リフレッシュ・一時事業につきましては、低年齢化の保育利用などから対象となる方も、減少状況にあること、また利用される方も、この月10日利用したいとかいう、固定する日の希望ではないため、利用できない方は今ほとんどいない状況です。また特定園でなくて、複数の園の利用希望の引き取りをしている調整をしております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部委員です。昨年の実績が、４時間未満558、４時間以上が401なんですけど、今年の見込みの数が、４時間未満が334で、４時間以上が260となっていますけど、数値に大分減少が見えますけど、その辺はどういう換算ですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。やっぱり１日に預けられる保護者様が増えているかという認識でおります。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　倉部です。580から330とかって、すごい少ないようになっていると思うんですけど、あと400が260。そんなに急に減ると見ているんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。松村おおぞら認定こども園統括園長。

○おおぞら認定こども園統括園長（松村良枝君）　統括園長の松村です。済みません、倉部委員の質問に答える内容かどうかは分からないですけど、おおぞらのほうが比較的多くリフレッシュのお子さんを預かっています。その主な理由としては、やはり育てにくさを感じている保護者の利用の方が多いのかなと実感しています。あと、単発で働いていらっしゃる方が、おおぞらでお預かりしている方のほとんどの理由になっています。その辺のところで、少なかったり多くなったりという、そこら辺があるのかなと、それも一因にあるのかなとは思っています。育てにくさを感じているお子さんの利用が多いので、半日でも見ていただきたいという理由が多いので、半日の利用が多くなっています。

○分科会長（小林博文君）６ページの説明書にある委託料の一番下のところの、人数がかなり減っている乖離があるんですけど、ここの理由を多分聞いていると思うんですが、それを、減ったり増えたりということは、減っている。

○１３番（倉部光世君）　利用実績の表からいくと、４時間未満が、令和５年度が558、４時間以上が401となっているんですけど、６年度の見立てが334と160なので、558が334になったり、401が260になっているのは、利用数が保育を預けている人が多いので減ると言われても、４年から５年これだけ増えていて、そんなに急に減るんですか、ということを聞きたいんですけど。見立ての仕方の計算式なのか、考え方なのか、各園で聞き取りして、これは減りそうだと思われたのか。微減ぐらいならわかるんですけど、例えば令和４年度ぐらいの数値に戻るとかならわかるんですけど、かなり550を200とか減らしているので、どうやって計算されたのかなと。

○分科会長（小林博文君）　木下幼保こども園係長。

○こども政策課幼保こども園係長（木下　　君）　幼保こども園係長の木下です。こちらの委託料のところに書いてある件数なんですけども、委託料なので、おおぞらさんの分が入っていないです。おおぞらには委託料はお支払いをしないので、おおぞらは４時間未満も４時間

以上も200件ずつ見込んではおります。その部分がどちらにも含まれておりませんので、費用件数としては、あと200件ずつはあると見込んでおります。

○分科会長（小林博文君）　そこって５年は見込んでない数入っているんですか。

そうすると、乖離は解消されない。

○１３番（倉部光世君）　書き方が違ったということですね。

○こども政策課幼保こども園係長（木下　　君）　済みません、書き方がちょっと異なってしまったと思います。ただ、今年度についてはおおぞらの分は、件数としては抜かせていただいたので、離れた件数になっております。

○分科会長（小林博文君）　再質問ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。ということは、昨年度の実績にほぼ近いような数値を見込んでいると思っていいでしょうか。わかりました。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　確かにこれを見ると、お金のところがほとんど同じで、件数だけががくっと下がっているというので、そこを気が付けばよかった。これはもう明らかに実績で334件落として、お金と合わなくなる。５年のところのお金に関するものという実績を幾つにしておけばいいか、それだけ教えてください。580というのと400というのが、このお金に絡んでいくような積算だということにすると、これを一体幾つにしておけばいいか、それだけ教えてください。

○分科会長（小林博文君）　木下幼保こども園係長。

○こども政策課幼保こども園係長（木下　　君）　幼保こども園係長の木下です。５年度の関数算を組んだときの見込みの数と一致するのかはちょっと、はっきりわからないんですけども、今年度の、先ほどご提出させていただいた資料のおおぞらの利用実績の件数を差し引いた数が委託料に含まれる部分の利用実績になると思いますので、５年度のおおぞらの４時間未満の件数が226件、４時間以上が125件となっておりますので、ここを引きますと、４時間未満が約350件で、４時間以上が275件ほどになると思います。

○分科会長（小林博文君）　件数を修正すれば、その上の金額についてはこの金額という形でよろしいということですね。

答弁が終わりました。内田委員、再質疑ありますか。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。それで結構です。

○分科会長（小林博文君）　この件関連でございますか。よろしいですか。

では、次、４番目の質問です。３名が出ております。代表して渥美委員から。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ８ページ、放課後児童クラブ運営事業費について。１、放課後児童クラブの待機児童の状況を伺う。２、放課後児童クラブ支援員・補助員はそれぞれ何人か。また人員確保のための取組を伺う。３、子ども・子育て支援事業費交付金について、常勤職員２名以上配置した場合の補助基準額の創設や人件費単価の引き上げがされているが、菊川での反映状況を伺う。４、クラブ職員向け研修の内容を伺う。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　一覧表、確認できていますか。

〔「見ていない」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　今日の日付のフォルダーの中に入っていただいています。

さきのリフレッシュの一時保育の実績も入っていますので。一般会計予算決算特別委員会教育福祉分科会３月12日のフォルダーに。11から13日の中に入っている。

実績３月３、２、１、今の質問の件が、放課後児童クラブの件が、今から答弁求めますけど、そちらをちょっと見ながらお願いします。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。渥美委員、織部ひとみ委員の放課後児童クラブ運営事業費に関するご質問についてお答えします。

１つ目の、放課後児童クラブの待機児童の現状を伺うについてですが、令和５年４月１日時点で、待機児童は、通常クラス、長期の利用希望者が28名、長期休業のみの利用希望者が23名でした。令和６年度の入所決定調整に当たり、利用希望区分の精査を行い、通常のみの利用希望者と長期休業のみの利用希望者がいる場合には、１人の枠に２人が利用できるよう調整を図りました。

令和６年度の利用決定通知は、１月下旬に送付しましたが、その後取り下げを希望している方もいるため、まだ人数は確定しておりませんが、昨年度に比べ、待機児童数は減少する見込みです。

また、３年生までの申し込み者は全員入所できる見込みであり、待機児童は４年生以上の高学年の児童のみとなっております。

２つ目の放課後児童クラブの支援員・補助員は、それぞれ何人か、また、人材確保のための取組を伺うについてですが、各クラブの職員数は一覧表のとおりとなっております。人材確保のための取組についてですが、ＳＮＳやハローワーク、求人サイトに求人情報を提供し

ております。また、職員間での呼びかけや大学訪問の際には、学生向けに公募し、職員を募っております。

３つ目の子ども・子育て支援事業費、公費について、常勤職員を２名以上配置した場合の補助基準額の創設や人件費単価の引上げがされているが、月替わりの反映状況を伺うについてですが、まず、現行では、常勤、非常勤を問わない支援員を２人以上配置した場合の補助基準で、交付金の申請を行っております。令和６年度から常勤の支援員を２名以上配置した場合の補助基準額が創設されておりますが、国が定める常勤の定義がまだ示されていないため、令和６年度の交付金申請時に示される交付要項を確認し、該当する場合は常勤の区分で交付金の申請を行う予定です。

また、人件費単価の引上げについてですが、本市のクラブの職員は、市が任用する会計年度任用職員であり、市が単価を定めております。国家公務員の人事勧告による給料表の単価引上げにより、来年度のクラブ職員の賃金も引上げられる予定です。

最後に、クラブ職員向け研修の内容はについてですが、令和５年度は、静岡県学童保育連絡協議会が主催する放課後児童支援員等の研修の中で、発達障害とは何かをテーマにした研修をクラブ長９名が受講しました。令和６年度の受講テーマは未定ですが、クラブ長会議などで受講したいテーマの希望を聞き取りをし、決定していきたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。まず１点、答弁の中で、１月下旬の取り下げがあったということの答弁もあったと思うんですけど、その中で取り下げた分の再募集みたいなのは行っているのか、その分を伺いたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。取り下げられた分につきましては、５月の調整で図っていきたいと思っております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。次なんですけども、放課後児童クラブの補助員の数、表でいただいていたんですけども、ちょっと伺いたいのが、適正な職員数の考え方について伺いたいんですけど、以前、委員会でなかなか人が足りないというお話があったので、足りないというのではないかなと思うんですけど、だとすると、大体、どういう考え方で足りな

いという考え方になっているのか、各クラブで適正な職員数というのはどういう考え方になっているのかというのを、ちょっとその点をお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。放課後児童クラブは40人に１人と支援員が、また補助員が２人の体制で必ず見なきゃいけないというのがあります。あと、面積が1.65平米の１人当たりの平米数がないと、面積要件に反しております。その要件が満たされれば、40人以下の受け入れはできることになっておりますが、やはり支援が必要というか、ちょっと発達が大変な子とかいらっしゃいますので、その辺につきましては加配の人数を置かなきゃいけないということと、その人たちもお休みをいただいたりとか、いろんなことがありますので、クラブ長が、最低ぐらいの人数でありますけれども、配置基準を満たすように、またローテーションを組むようにシフトを組んでいただいております。ですので、毎回５日間、週５日間、常勤でいる人もいれば不定期の支援員さんもいます。ですので、そこはクラブ長が苦労してローテーションを組んでいただいておりますので、できれば支援員さんとか、補助員さんがたくさんいて、そのクラブに合った配置基準、もしくはクラブに入所している児童数の支援の具合によって配置したいと考えております。今の状況では基準にはなっております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。基準は満たしているけど、職員さんの余裕とか、あとはそういう加配の関係で、もしいる人がいたら、まだ受け入れたいよということが確認できたと思います。あ、そういうことですよね。次の質問なんですが、その上でやっぱり足りないとか、もっと受け入れたいということであれば、募集をして来てもらうということが重要だと思うんですけど、先ほどＳＮＳとかハローワークで求人しているということだったんですけど、ちょっと私が簡単に調べた感じで、あまり出てこなかったりしまして、市によってはホームページに常時求人というか、勤務時間とか待遇とかも全部書いてあって、あと具体的に、ここととここととここが足りていない、このクラブを募集してますよみたいなのが常時あるんですけど、菊川はちょっと私が調べた感じだと出てこなくて、それって、もし働きたいなと思った人はなかなかアクセスできないような状況になっているんじゃないかなと思うんですけど、募集は常時しているのか、あともうちょっと具体的な募集の仕方を伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。今、委員が言われたようにホームページ上では募集サイトは、済みません、やっていないのです。少しでも働きたい方がどこが一番ＳＮＳを見るかといったら、インディードとかそういうようなＳＮＳのサイトとか、あとハローワークだと思って、今そこに力を入れて常時掲載をしております。ただ、それだけじゃなかなか働いていただける方が少ないので、口コミではありませんけども、今働いている支援員さんとか補助員さんの知り合いでもし働いてくださる方がいるかとか、あとは大学訪問のときに長期、夏休みとか春休みとか冬休みというと、長期11時間くらい見なきゃいけないことがあるので、１人８時間労働となるとどうしても人が足りなくなるので、そういう方を募集をするように、学校、大学訪問の時に広報をしております。もし他にいらっしゃったら、委員さんのほうでもご紹介いただければありがたいです。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。最後にちょっと１点だけお聞きしたいんですけど、他市とかで民間に委託している事例もあるんですけど、菊川でそういう検討状況というか、そういったものがあれば最後にお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。令和３年に放課後児童クラブの方策についてというものをつくりました。そのときに委員が言われたように、民間委託と比較してどうなんだということで、費用面についてはやはり人件費が高いので、全部で１億円くらいちょっと違ってしまったんですよ。やはり人件費に対してと、管理に対しての委託業者のものが高かったので、９クラブありますので、一部の放課後児童クラブを委託できるかということについては、課内でもいろいろ検討はしておりますが、実際に民間にというところまでまだ、検討はしております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。さっきの数のところで、１人枠みたいなところって意味がよくわからないんですけど、どういうことでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。済みません、わかりにく

くて、申し訳ありません。１人枠というのが、今まで長期で夏休み、冬休みも使う、通常も使うという人が１人います。その方は年間で１人枠を取っておりました。ただその途中で夏休みを使わないよっていう人が多々います。ですのでその場合はちゃんと区分けをするようにしました。通常。そうすると長期だけ使いたい人がいる場合に、通常を使っているときに夏休みは空きます。長期だけを使いたい人がいれる。そのような調整を行って待機児童対策しています。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　職員数ですけど、今現状の数をいただいたんですけど、必要最低限で今の定員に対して要る人数って各クラブ何人ずつなんでしょうか。どれくらい余裕がある、今あるのかないのかをちょっと知りたいんですけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。職員数の時間が限られて働いている方もいらっしゃるので、ちょっと今、資料的には持っていないんですけども、例えば、５時間勤務している方とか、２時間しか働けないよとか、３時間しか働けないよという方もいらっしゃって、この人数になっております。ですので……。

○１３番（倉部光世君）　それはいいんだけど、最低何人必要なのかの数字を教えてほしいんですけど。

○分科会長（小林博文君）　西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。六郷ですと、今95名が定員数になっておりますので、40名に対して必ず２人は必要ということになりますので。

〔「３人」と呼ぶ者あり〕

○こども政策課長（西川多摩美君）　３人。３人。はい。神尾の場合も84名ですので、３人。小笠東は35、通常だと35なので、２人。ただ、最低お２人。南も28名ですので、２人。北については、97人の定員ですので、３人。河城は、通常ですと31名ですので、２。堀之内が100ですので、３名。横地が34名の定員なので……

〔「２」と呼ぶ者あり〕

○こども政策課長（西川多摩美君）　内田も三十……。今、入所が35なので……。働いている方がいらっしゃれば、合計して22、22。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　というところで、時短の人とかいろんな方がいるので、今これだけ

いるんですけど、でも、ちょっと足りないという感じのことでよろしいでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。倉部委員が言われたように最低人数ですので、支援が必要な子ができるとか、あとは、時間があるので、これだけの人数がまだ必要ということは感じております。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ということは、余分に要る人数というのは、どこまで許容があるんですかね。言えば要るほど入れてくださるのか、条件は、結局、ありますよね。予算があるから。やりたい方がもしいっぱい来ちゃったら、みんながみんな入れるわけじゃないですよね。そのシフトの中で何人かというのはあるわけですよね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。そうですね、今支援員さんとか補助員さんの年齢が高年齢化しておりますので、やはりちょっと長期、いろいろ働くとなると支障が出たりとか、あとは、インフルエンザ、コロナなんかは感染したりするときはもう格段と人が減ってきてしまいますんで、これについて、もう少し人数が必要かなと思うのと、あとは、今倉部委員が言われているシフトを組む関係で、どうしても扶養の範囲内で働きたいとかという方もいらっしゃるので、そこはクラブ長がシフトを工面して、それでも足りないよとなれば、やはりクラブの支援員さん、補助員さんは補充していくべきだと考えています。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。募集なんですけど、例えば、市のホームページとか、市のＬＩＮＥとかというところでは流れてきていたんでしたっけ。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。先ほども申し上げましたけど、市のホームページには上げて、毎年上げていませんし、ＬＩＮＥも上げていないかと思うんで、今度、検討して上げていきたいと思います。

○１３番（倉部光世君）　やれることが全部やったほうがいいかなと思います。

○分科会長（小林博文君）　ほかに質疑はありますか。よろしいですか。この件、関連で質疑のある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

では、次、５番目、倉部委員からです。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款２項１目の幼児言語教室指導費、タブレット説明資料11ページで、毎回聞いていてすいませんが、ことばの教室の利用状況をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。幼児言語教育指導費に関する倉部委員のことばの教室、各教室の利用状況についてお答えします。

幼児ことばの教室は、小笠東小学校及び堀之内小学校に教育委員会の所管する学齢児童のことばの教室に併設して開設をしております。

令和５年度は４月から２月までの利用数は、小笠北小学校幼児ことばの教室が23人、堀之内小学校の教室が20人の合計43人が利用されております。

指導数は414回、保護者の相談対応は47件となっております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。これは、この２か所で、この人数でと、皆さんも人数は、合っていると増やす必要は今のところないと考えていいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。今のところはこのお２人体制で賄っておりますので、そういう対象者が増えれば増やしていきたいと考えておりますけど、今の状況ではそのままで行きたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

〔「分かりました」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑はありますか。よろしいですか。

続きまして、６番目、３名から出ております。代表して倉部委員からお願いします。13番倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款２項１目地域子ども・子育て支援事業費、タブレット説明資料で12ページです。

①として、こども計画策定のアンケート調査の内容は。②こども計画策定業務委託料、既存の各法令に基づく都道府県計画、市町村計画と一体のものとして作成することができるが、どのように策定されるか。策定に当たって、国の交付金はないのか。お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。倉部委員、内田委員、織部ひとみ委員の地域子ども・子育て支援事業に関する質問についてお答えします。

１つ目のこども計画策定のアンケート調査の内容はと、２つ目の既存の各法令に基づく都道府県計画、市町村計画と一体のものとして作成することができるが、どのように策定されるか。関連がありますので、併せてお答えいたします。

こども計画は、これまで国が別々に作成、推進してきた少子化社会対策大綱、子ども・若者育成支援推進大綱及び子どもの貧困対策に関する大綱を１つに束ね、こども政策に関する基本的な方針や重要事項等を一元的に定めたこども大綱を勘案して作成することとされております。

また、子ども・子育て支援事業計画等を包含する形で市のこども政策に係る総合的な計画として策定することができるとされていることから、本市においては、既存の第２期菊川市子ども・子育て支援事業計画の方針に合わせて計画を拡充し、菊川市こども計画として新たに策定してまいります。

今回の業務委託において実施するアンケート調査は、こども計画の策定に向け、既存の子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査に加え、子ども・若者育成支援推進大綱に基づく内容に関するアンケート調査を実施する計画です。

次に、策定に当たって、国の交付金はないのかについてですが、国では、令和６年度予算において、自治体のこども計画策定を支援するこども政策推進事業費補助金を予算計上しておりますが、この補助金は令和５年度中に着手する事業は対象外となっております。

予算規模を見ると、全国で50自治体ほどを補助するもので、採択される可能性は低く、全国一斉にこども計画の策定業務が動き出すことにより、受注者の取り合い、計画策定の遅れが生じる可能性があるため、本市においては年度内に業務委託契約を締結し、よりよい計画とするために国や県の動きを見ながら、計画策定を進めていくことといたしました。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。すいません、年度内の業務委託計画等は５年度ということですか。５年度着手は対象外とおっしゃっていたんですけど、年度内に業務委託契約するというのは、令和５年度中にしたということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。債務負担行為を取らさせていただいて、業務委託を、３月に業務委託をさせていただきました。

○１３番（倉部光世君）　だから、対象外になってしまったという。それあれですね。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。さっきの51自治体しか交付税を取っていただけないというところで。

これ例えば、対象にしようとすると、交付金の補助の決定されるのはいつ頃だった、なんですか。６年度の計画にして、一応申請して、補助金が下りますよとなるのは、どのくらいのタイミングだったのでしょうか。12か所。そうそう。

○分科会長（小林博文君）　要りますか。よろしいですか。赤堀こども政策係長。

○こども政策課こども政策係長（赤堀　　君）　こども政策係の赤堀です。ちょっとはっきり令和６年度の補助金のスケジュールがまだ出ないので申し訳ないんですけど、手挙げをする時期が１月、今年の１月頃の手挙げをして、募集を受けておりました。ちょっと交付決定の時期がどれくらいかというのは知り得ていないもんですから、ここでご回答できませんけれども。

○分科会長（小林博文君）　よろいしですか。答弁が終わりました。再質疑はありますか。倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　１月時点でやめようということで、もう今年度中にはと、どんどん早めにやっていこうということが決まったということですよね。

あと、第２期の子ども・子育て支援事業計画にプラスアルファでということですけど、ちょっとこども計画自体がなかなか分かりづらいんですけど。やはり子ども・子育て支援事業計画もつくる。大綱の中に入れてしまう。どちらの考え方ですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。子ども・子育て支援事業計画と、あと、子どもとか、先ほど申し上げました少子化対策とかそういう大綱とかいろいろ全部含めて、こども計画として策定をいたしますから。

○１３番（倉部光世君）　わかりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　国の補助金をもらわないということを選択して、菊川市に合った独

自性のものに持って出るということはあるんですか。要するに、国の状況とは違うものが必ずどこの自治体にもあると思うんですけど、それを菊川市に合わせたような、要するに、合体ですか。今の計画書に持ってこれることは可能なんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。こども大綱がまずありますので、それに基づいた計画になります。今内田委員が言われたように、菊川市に合ったこども計画を策定していかなければならないと思っておりますので、委員の皆さん、庁内、あとは、子どもとか若者のご意見を聞きながら、策定をしてまいりたいと考えております。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ということは、ある程度骨格については、国のものが、なしではいけないと思うんですけど、自由度がある程度あって、要するに、それがこれから先に菊川市として使っていけれるものになるということでよろしいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。やはり菊川市の計画ですので、菊川市に合った計画をしていかなければならないと考えておりうますので、菊川市に合った計画をつくっていきたい。基本は、国の計画がありますけど、菊川市に合った計画をつくっていきたいと考えております。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。委託業者はどうなるか分からないんですけど、非常に金太郎あめみたいなものをつくるところの業者にぜひ頼まないように、本当に菊川市の将来的なものがつながるような計画の業者を選ぶようなことをぜひ心がけていただきたいと思いますので。何かこれ掛川と同じじゃないかというようなことが絶対にないように、ぜひお願いしたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。ご意見ということで。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　もう一回、もう一度、倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。この業務委託ですけど、普通に検索すると、もう各市町、島田の昨年の執行が令和５年４月１日ぐらいとか、あと、一斉に今年やはり６年になって、すごいたくさんのところが公募をしているんですけど、策定業務ができる事業者はどのくらいの数があるというか、どういうところがあるんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀こども政策係長。

○こども政策課こども政策係長（赤堀　　君）　こども政策係の赤堀です。事業者数がどれぐらいあるかというと、はっきりはちょっと分かりませんけれども、一般的な行政計画を策定するような事業者を我々も見積りの徴取をお願いしたりですとか、業者選定の中でピックアップしたりということで進めさせていただいております。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。例えば、規模にもよるんでしょうけど、相手の事業者がどのくらいの数の委託を受けたりしているかというのは、何となく把握できるんですか。一遍に何十個もやったら、それこそ落ちないんじゃないけど、何かみんな同じになっちゃうんじゃないかなと思ったりするんですけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀こども政策係長。

○こども政策課こども政策係長（赤堀　　君）　こども政策係長の赤堀です。発注前にどれぐらいほかで受注しているかというところは特別確認はしておりませんけれども、倉部委員言われたように、各市町が一斉に発注をしていくことになりますので、もう既に手いっぱいだという事業者があるということも伺っている状況でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。もう一回、内田委員。

○１５番（内田　隆君）　ごめんよ。

〔「いやいや」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　まず、第一歩目のところでアンケート調査というのからスタートすると、アンケートの内容というのは、こちらのほうで、要するに、こちらの菊川市に合ったようなアンケートにもう素案として持っているんですかね。アンケート内容で。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀こども政策係長。

○こども政策課こども政策係長（赤堀　　君）　こども政策係長の赤堀です。アンケート調査の内容につきましては、当然、これまでの第１期、第２期の子ども・子育て支援事業計画を策定する際に、各保護者、未就学児、就学時の保護者を対象に取ってきたアンケート調査がありますので、基本的には、そこをベースに新たな調査項目を追加しながら実施していくという計画でおりますので、ベースはそこの部分、これまでのアンケート調査の部分を持っている状況でございます。

ただ、子ども・若者育成支援推進大綱に基づくアンケート調査というのは、これまでやったことがないので、そこについては、事業者と、決定した業者と相談しながら、他市の状況を見ながら、調査項目を設定していくという形になろうかと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。これも要望かもしれないけが、ぜひね、子どもの数がもう試算320、この数年間で100人ぐらい減ってきているというようなことも踏まえながら、ぜひ菊川市に合ったアンケートを持ち込んでいただきたいと思いますので、お願いします。

○１３番（倉部光世君）　これ聞いて。

○分科会長（小林博文君）　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。これ策定に当たりまして今、子ども、若者が協議会みたいなものができているんですけど、そういうところの意見交換とかそういうこともしていっていただけるんでしょうか。アンケートだけじゃなくて。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀こども政策係長。

○こども政策課こども政策係長（赤堀　　君）　こども政策係長の赤堀です。そうですね。昨年11月に地域支援課のほうで菊川市のこども・わかもの参画宣言というものを発表しまして、そういったこともありますので、地域支援課のこども・わかもの協議会とは連動しながら、そちらが、協議会のほうからも計画策定に当たって意見を頂きながら、市の子ども・子育て会議のほうでも協議をしながら、計画を策定していく計画でおります。

○１３番（倉部光世君）　ありがとうございます。いいです。

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑ありますか。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部ひとみです。多分、大綱となる基本というのがやはり日本の基本、国から下りてきたものが、多分、基本になるので、割とそこら辺はほかのあれとか変わってくると思うんですけど、菊川市は外国人の方がいるもんですから、そういったところの内容も含まれるような形にされるんでしょうかね。内容として、そういうのをプラスアルファという形でアンケートの中に入れるような形は考えていらっしゃるんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀こども政策係長。

○こども政策課こども政策係長（赤堀　　君）　こども政策係長の赤堀です。アンケート調査は、対象の方を無作為に事前に拾って調査を実施する予定ですので、その中に外国の方がいらっしゃれば、アンケート調査を実施するという形になろうかな。計画そのものについては、

今のこども大綱がライフステージ別につくられているもんですから、うちの計画を予定している、こども計画もそれと同じような形で策定をしていくことになろうかと思います。

外国人のお子さんがどのステージに多いのかというところはちょっと見極めながら、外国籍の方が多いところの内容については、そういったところも反映しながら、進めながら策定する必要があるのかなと思っております。

○４番（織部ひとみ君）　お願いします。以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件、ほかに関連でありますか。いいですか。

では、次、７問目、内田委員から出ております。お願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。養護施設整備事業ということで、タブレットの17ページになります。

予定では、多分、７年、６年度ということですから、４月だと思うんですけど、結構、12月に完成して３月までにある程度のお金が入っているというふうに予算書に読み取れるんですが、これのスケジュールというのをもう一度説明を頂きたい。

それと、備品のほうに1,000万円ほど予算案の決定があると思うんですけど、内容的にはどんなものが計画されているのか。

それと、３点目は、この頃、男性保育士が、結構、増えるというより入ってきても困るので、なかなか採用されていないという部分があるんですけど、この辺のところは、今回の施設計画の中ではどのぐらいのことが配慮されているのかを教えてください。

○分科会長（小林博文君）　幼稚園の建設の件ですね。答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。内田委員の養護施設整備事業に関するご質問についてお答えします。

１つ目の12月から３月までの費用が入っているが、スケジュールはどうなっているかについてですが、建築工事の工期は、令和６年４月から12月となっており、竣工後の開園準備期間において、電気やガスなどが必要となることが考えられますので、その間の予算を計上しております。

また、竣工後には、警備業務や自家用電気工作物保安管理業務も必要となっておりますので、これらにつきましても予算計上をしております。

２つ目の備品の主なものはどのようなものが計画されているかについてですが、備品の主な購入予定費は、一般事務備品は、事務机、椅子、洗濯機等となります。園児教育用備品は、新しく１、２歳児保育が始まりますんで、乳幼児用の机や椅子、玩具等を購入いたします。

また、厨房用備品として、ボウルや鍋等の調理器具や園児用の食器等の購入を計画しております。

３つ目の男性保育士への対応はされているかについてですが、おおぞら認定こども園と同様、男性用のトイレや更衣室を計画しております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。12月が工期になっているということで１月、12月に引渡しになるのか、４月になるのか分からないんですけど、４月までの３か月間というのは、基本的には、準備はもちろん必要だと思うんですけど、園児が入っていないという中においての経費というのについては、できるだけ削減もすべきだと思うんですけど。その辺はどの程度まで最低限としてやられているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。基本料金とかはどうしてもかかってまいりますので、そこのガスや電気等の計上はさせていただいております。

また、今、竣工後には内覧会、落成式、引越しの搬入等が予定されておりますので、今後、協議しておりますが、令和６年度に卒園する園児たちの利用とかも、また、卒園式等で新しいところでやれればなと考えてはおりますけど、それは決定をしておりませんが、そういうとも考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。夜間業務とか、清掃業務というようなものが委託に載っておるんですけど、今、別に３月に使っちゃいけないと言っているわけじゃないです。３月、たとえ、１か月２か月でもね、要するに、できるだけ、それからの新たな、例えば、基本料金、ガスとか消耗品そのものも買えるものはぎりぎりいっぱいまで持っていっても大丈夫じゃないかなとは思う部分がありますのでね、やはり今から、これから竣工をしていくときに、本当に利用するときになって、最大限、下げない年が、最低のものを契約する。その間は仮でやれるものがあるならやるとかね、ぜひそんなことをやっていただいて、たとえ僅かでもお金を残していただきたいなと思いますので、ご検討をお願いします。

あとは、備品とあれはもう、男性については、それぞれ対応されておるということでした

ので。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件に関連で皆さんからありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。12月までに完成して、準備がありますよね。準備に当たるスタッフというのは、今の北幼稚園の方たちがするのか、別で何か人を調整するのか、どうなるんでしょうか。保育は続けていくわけですよね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。人件費とか予算を取っておりませんので、北幼稚園の先生ももとより、園長、まず私たち事務方もお手伝いをして運び出すとか、土日にやるとか、そういうことについてやっていきたいと考えています。

○１３番（倉部光世君）　大変です。分かりました。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。よろしいですか。そのほかに関連で質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。令和６年度入園数がそろそろ決まっているかと思うんですけど、北幼稚園は今、何名でしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。石川小笠北幼稚園園長。

○小笠北幼稚園園長（石川　　君）　小笠北幼稚園　石川です。

〔「大きい声で」と呼ぶ者あり〕

○小笠北幼稚園園長（石川　　君）　小笠北幼稚園　石川です。令和５年度の園児数は、年少が10名、年中が15名、年長が22名の合計47名です。来年度、令和６年度に関しては、年少が９名、年中が９名、年長が15名の合計33名の利用です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。男性保育士という問題がありますけれども、性犯罪者、教諭等に就職する場合の全国ネット組織が、インターネットチェックができるようになってきておりますけれども、菊川市はそれはできますか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。松村おおぞら認定こども園統括園長。

○おおぞら認定こども園統括園長（松村良枝君）　統括園長　松村です。できます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○１２番（織部光男君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連でこの件、質疑はありますか。いいですか。

では、最後、８番目、赤堀委員から出ております。お願いします。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。公立認定こども園総務費、タブレット25ページ、保育所苦情等処理第三者委員報酬費とあるが、委員は単独でいるのか、兼務か。どのような苦情が寄せられたのか。苦情があった場合の対応は、園長も交えて対応するのか。また、返事は対面でするのかをお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。赤堀委員からの公立認定こども園総務費に関するご質問にお答えします。

保育所苦情等処理第三者委員の報酬があるが、委員は単独でいるのか、兼務か。どのような苦情が寄せられたのか。苦情があった場合の対応は、園長も交えての対応か。また、返事は対面かについてお答えします。

現在、委員は、菊川市保育所苦情等処理規定に基づき、主任児童委員と民生委員の２名の方に依頼をしています。

苦情内容については、令和元年度に１件ありましたが、それ以降はありません。

そのときの内容については、担任の園児に対する思いと保護者の思いに違いが生じ、園での対応に不信感を頂いたので、園に実情について話を伺いたいという内容でした。

園では、苦情があった場合は、まず、受付担当の園長が対応し、苦情解決責任者であるこども政策課長に訪問をいたします。

苦情内容にもよりますが、容易に解決するものについては園長のみが対応し、解決をします。内容によっては第三者委員の方の立会いや助言を求めることもできます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。赤堀委員、再質疑はありますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。ありがとうございます。就園児童委員と民生委員の中からお願いしているということですが、選出の基準とか何とか決めたもんがあるんですかね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。松村おおぞら認定こども園統括園長。

○おおぞら認定こども園統括園長（松村良枝君）　統括園長　松村です。菊川市保育所苦情等処理規定に基づいて、そこの第三者委員の中に、第５条のところで定義されています児童福祉法に規定する児童委員のうちから市長が委嘱とありますので、この規定に基づいて委嘱を

しています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。予算は6,000円載せてありますけれども、実際に苦情を受けなかった場合なら、予算の執行はないですね。あるんですか。年間あるのか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。松村統括園長。

○おおぞら認定こども園統括園長（松村良枝君）　統括園長の松村です。委嘱している段階で委嘱料金とか発生するので、お金をお支払いしています。

ただ、必ず、年に１回、第三者委員会を開催しなくてはいけないので、そういったときに園児の１年間の実績でしたとかについてお話する機会を設けさせていただいております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○１０番（赤堀　博君）　結構です。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。関連で質疑はありますか。よろしいですか。

以上で、事前通知による質疑を終了します。関連で質疑のある委員は、挙手をお願いします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。保育士の配置基準についてお尋ねしたいんですけれども、こども庁ができて、部長が誤ったことを言って、慌てて取り消したりしておりますけれども、具体的には令和７年度から、４歳５歳児は30名が25名に実施される予算も１兆円以上が取ってありますけれども、これが始まりますと、約２割の保育士の増員が必要になってくると思うんですよね。それを令和７年度の初めからというわけにはいかないと思うんですけれども、令和６年度で、これを民間に全てね、任せてしまうということでいいのか。公立の場合はどうするのか、そういったところの計画は何か立てていらっしゃいますか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長でございます。今、民間園の方も30名に１人ということで、30人に１人がついていないわけではなく、補助員の関係で架配でついていらっしゃっております。ですので、民間園の方も30人の定員というところがあるところばかりやなくて定員数の少ないところもあるので、そこは見極めて指導をしていきたいと思っています。

公立園につきましても、一応、30人に１人とかというんではなくて、もう１人ついているので、30人、25人以上、50人、50人までは預かるような体制で今、公立園は少なくなってい

ます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　確かに、先ほど内田委員の質問にもありましたとおり、園児が減っていくという現実になりますので、必然的に30が25にもう現状になってしまっているというようなね、こともあり得るとは思うんですよ。でも、１歳から３歳までのほうもこのような形でやりますとね、４市の不足問題というのは、私は解決できないと思うんですね。ですから、そういったところをやはり常に頭に置いて、この事業というのはいろんなことをやっていかなきゃいけないんじゃないかと思うんです。

　質問を変えまして、こども庁ができて２年目になるんですけど、令和６年度でこのこども庁ができたことによって変わったことはありますか。

○分科会長（小林博文君）　織部委員、事前に質疑を出していませんので、今、大分時間が押していまして、その辺の……。

○１２番（織部光男君）　最後にそれを答えてくれますか。

○分科会長（小林博文君）　また、担当課に質問をお願いいたします。そのほかに関連で質疑はありますか。

〔「ちょっといいですか」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　15番。

○１５番（内田　隆君）　15番です。先ほどね、どこの部署がやっているか教えてください。子どもさんが大分減ってきているということに対して、この前、倉部さんが質問をしたときに企画が答えていたんですけど、あれは企画がやる話であって、こども政策課がそういうことに対する対応、それについてのやる部署じゃないということです。ここは、とにかく人口減の話というのは非常に大きな問題が出てきていると思うんですけどね。そこのところを検討するところというのは企画政策課ですか。こども政策課というところである程度いろいろなことを、何というかな、検討するというか、対応を考えていくという、そこの仕事というのはどこでやることになるんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。森下こども未来部長。

○こども未来部長（森下路広君）　それこそ、基本的な、原則的な考え方ですけど、少子化だったり、定住化に関しては企画のほうでやっていく。うちのほうは、こども未来部のほうは、それこそ園の関係だったりとか、子ども全般に関して、要因、資質というか、保育というか、環境を整えているという部分で、うちのほうは担当を担っておりますんで、あくまでも少子

化だとか子どもが減っている部分に関しては、企画が音頭取り。もちろん、企画課ばっかりに任せるんじゃなくて、それに基づいた協力、協力というか、いろんな、じゃあ、こういうことができる、ああいうことができるというような関わりは全庁的に取り組んで、それに関しては進めていくのと感じております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。企画のほうへ行きます。

〔「ほかにいい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　これで北とかもできるんですけど、全体の、各市立園とかの定員変更とかについてのちょっと考え方をお願いして、なかなか１年２年たたないと変わらないとかというのも今までもあったんですけど、市立園の定員を変えていくことについての考え方をちょっと教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。西川こども政策課長。

○こども政策課長（西川多摩美君）　こども政策課長です。１年と変わらないとおっしゃっているのは、多分、昔の話で、前、織部議員の一般質問のときにもお答えしたと思うんですけれども、小笠、南とかの建物に対しての補助金を頂いているので、なかなか定員変更はできないよというお話をさせていただいたと思います。

今の段階では、各園とも定員変更については、随時、私たちのほうと相談をしまして、定員変更をさせていただいております。市の全体の保育の数も勘案しながら、園と相談をして決めております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。そのほか関連でありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで執行部の皆さんは退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとするとの規定に基づき、委

員間の自由討議を行います。

今回は、放課後児童クラブの関係、それからこども計画、この辺、多くの質問があったと思います。ご意見のある委員は挙手の上、発言をお願いいたします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。今、私が確認した令和６年度北幼稚園33名というような、建築予定のものが90名以上というような定員でね、これが無駄遣いでないのかということを私は思うんですね。執行部は何を考えて、こういうようなことをやるのか。明快な回答を議会として求めるべきではないかと私は思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　関連でありますか。その他でもよろしいですが。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。北のほうは、やることには関わりですけど、私も皆さんも代表質問のほうでも言っていますけど、今、聞きましたが、全体の定員の考え方とか、今まで立てていた計画、子どもは子ども子育て支援計画、第二期つくるとは言っているんですけど、コロナが始まってから、この数年、今５年くらいか、の間の子どもの減少の状態が本来思っていた菊川市は、緩やかに減るっていうところから、本当に400ちょっとかなと思ったかも、ほぼ近い出生数変わってきてしまっているので、ゆっくり計画があって言っているんですけど、至急見直しをかけて至急やらなきゃいけないことはやっていかないといけないと思います。織部委員、確か北のほうも無駄だというお話もありますけど、じゃあ、やるんであれば何をやっていかなきゃいけないかということを考えないと、去年と同じことをまた６年もなんとなくやっていくんでは困るわけで、７年になって北もできておおぞらが民営化されるという事態をどこまで真剣に考えてくれているのかなというふうに感じます。

市立園のほうの皆さんはすごい危機感を感じていらっしゃるんですけど、何かそこへの支援施策があまり見えていないような気がします。

先ほどのリフレッシュの話もそうですけど、ここに挙げている数字の根拠が何かぶらぶらしていたりですとか、もう少し全体把握をしっかりして目標を決めていただきたいと思いますし、代表質問とかで言いましたけど、市立園の小笠の園、必ず減るのは見えているわけなので、そこに対して何をやっていけばいいか、市内全体、平準化して子どもたちが預かれる環境づくりっていうのを、自分たちのほうで北を建てるということを決めてあるわけですから、その辺も送迎をするとかというのを出しましたけど、真剣に考えてほしい。予算ないんで無理ですじゃなくて、真剣に考えていただかないと、本当に市立園、市立だから関係ないという話ではないと思いますので、真剣に考えていただきたいと思います。

定員もすぐ変えていますと今、言っていましたけど、園から聞くとそうでもなかったわけですので、この辺の全体の考え方をもう少ししっかり、今のうちに決めていただいて、各園に対する対応をやっていっていただきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　ほかの委員の方、どうですか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。ちょうどこの定員の話のときに、スポーツ少年団の父兄の話になったときに、もうこれでやっていけないよという話が出た中で、昔の、じゃあ30人いるよという中でも、構成が外国人の子とかが増えているのと、あと圧倒的に片親の方が多くなっちゃっているというのがあって、そうすると、今までの定員が何名だからどういうふうにっていうよりも、さらに深く、その辺を傾向を掴んで対応してあげないと、難しい面が出てくるなあと思いますので、その辺。ちょうどスポ少の解散のほうで大変だねえって話をしたときに、こうだからという説明を受けたので、じゃあ、保育園のほうも、保育のほうも変えていかなきゃなあっていうことを思いましたので、よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、皆さんからございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。先ほどね、少子化の話をしたら企画だって話したけど、そうじゃなくてね、基本的にはもう、今、倉部さんが言ったように、民間の保育施設をここのところが管理していると思うんでね、そこのところの、要するに菊川市の人口問題もあるけど、そこの人たちが今にやれなくなっちゃうっていうことも、やっぱり自分のところから発信をしてもらわないと、なかなか今、言ったような具体的な案とかいろんなことにつながらないと思うんですよね。

何か皆さん、昨日の話も、自分のところが何とかなりゃいいっていうような発想みたいばっかで、もう少し自分のところの議員が来てるんだっていうことをやっぱり認識してほしいなあと思いました。やっぱりそれが子ども計画のところにどう反映してくるか、ですから当然、昨日も言ったように、菊川市の状況っていうのは一気に100人っつったら５％くらいずつ減ってきているんですよね。これだけ動いているってこと自体はもう、今にも300というのは時間の問題だっていう、300切ったらもう保育園がどっか潰れていくっていう話にまでつながっていると思うんですよね。その辺が、やっぱり本当に菊川市にあった実態をもう少し政策課のほうから上に向かって発信をしてほしかったなというふうに思います。

以上です。

それともう１点、織部委員のほうから25人の話が出てきたんですが、保育士だけじゃなく

てね、要するに、一部屋を大体30人ずつつくるだろうって、体育館みたいなところで25人で、またお豆腐切るみたいに割っていくなら別ですけどね。25の枠のところでやれば25にすると、もう５人は別のところでやらないといけないって、そうすると施設が足らなくなったりね。そこの部屋で30人にして２人にするのかも、いろんなやり方あると思うんですけどね。やっぱ、ああいうところで元々の計画が変わり始めるってことは、いろんなところへ影響するってことは、ぜひ認識の中に置いていただきたいなあというふうに思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほか皆さんからご意見がございますか。よろしいですか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。放課後児童クラブ、私たち昨年いろいろ状況見させていただいて、議員の方からのお話聞いたんですけど、本当の定員より数はたくさんいらっしゃるんですけど、高齢化と時間の選び方で、これだけいってもまだ足りないと言っている。じゃあ、どれだけ本当に足りないのという数字が出ているかというと、何となく聞いているとそうでもないのかと思いますし、募集しています、していますと言いますけど、渥美委員もおっしゃいましたけど、調べたけど出てこない。ちょこっと調べても出てこないようなのは募集じゃないんですね、本来ね。

市のＬＩＮＥもありますし、今、チラシ配るのはやめていますっておっしゃっていますけど、募集する機会って幾らでもあるわけで、せめて市のＬＩＮＥで定期的にこういう人たち募集していますって流れてくれば見てあれって思う方もいると思うんですけど、何かどこまで真剣にそれ募集しようとしているのか、何か工夫しているのかというのを全く申し訳ないですけど、全く感じられないなあと思っています。

ホームページ、うちの何か支援員、職員募集コーナーみたいなのがあるかというと、多分そうでもなく、だったらトップページで時々出てくるようにしてもらうとかいうこと、幾らでもやりようが、ポスターつくってあっちこっち貼るとか、何にも工夫しないでいないいないって言っているのはどういうことなんでしょうか。真剣に本当にいなくて困っているのかなと感じてしまいますので、もう少し積極的に、本当に必要なら積極的にきちんとやっていただくといいんじゃないかなと思います。

で、ですね、人口減少対策とか、園児の減ることに関して、あまりに危機感を感じないので、できるんでしたら、私、今回の予算を出すときに、附帯決議か何かで人口減少対策を積極的にやるとか、養護のことを、もう少し全体の数字の把握をしてきちんと、子どもの減っ

たことに対応ができることをやってくれるならいいですよぐらいに附帯決議をつけていると言ったときに、今回、特にあまりに減ったことに対しても何か予算的反応が少ないと言ったときにするので、これはぜひ委員会なり、全体で考えていただけたらと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。12番　織部委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。全くそのとおりでね、この人口減少に伴い、菊川の財政を見たときの、令和６年度のこの大きな予算、こういったことを組むこと自体が、もう私は時代錯誤だと思っております。

だから、危機感がないっていうのは、まさにそのとおりで、全くと言っていいほどない、人口減少問題がどういうことにつながるのかという先が見えない、俯瞰的に物事を考える人がいないんじゃないかと、私は思っているくらいです。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　総務課、何かありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。放課後児童クラブは、本当に倉部委員、おっしゃったように、もうちょっと何か工夫の余地があるのかなと思うので、そこはまた研究してほしいなあと思いました。

子ども計画なんですけども、国の補助金がないということなんですけども、それは一方で、市としてかなり前向きというか、ちょっと前のめりにやっている現れでもあるのかなあと思うので、この点は市の姿勢としては、自分は評価できる部分もあるのかなと思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　以上で、こども政策課の予算に係る審査を終わります。ただいま出されましたご意見等を基に、分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。

分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、次は、応援課です。

トイレ行く、入れ替えの、はい、戻り次第始めさせていただきます。

休憩　午前１０時０８分

再開　午前１０時１３分

○委員長（小林博文君）　続きまして、子育て応援課の予算審査を行います。

初めに、堀川子育て応援課長より出席者の紹介をお願いします。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課の堀川でございます。それから、子ども福祉係長の鈴木です。

○子ども福祉係長（鈴木　　君）　よろしくお願いします。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　主幹兼母子保健係長の武藤です。

○主幹兼母子保健係長（武藤　　君）　よろしくお願いします。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　発達支援係長の中村です。

○発達支援係長（中村　　君）　よろしくお願いします。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長（小林博文君）　それでは、質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１番目、私からです。

３款２項１目、タブレットの29ページになります。児童館運営費です。

これは、６年度に向けた予算の提言書で11月に出しましたものです。令和６年度当初予算編成に対する提言書にある小笠と菊川の児童館の休館日が同じ月曜日であることの是正措置について、これまでに協議はされたのか、されていない場合、本年度の児童館運営委員会に諮るのか、お尋ねいたします。

答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。児童館の運営については、地域の子ども・子育てニーズを把握し、事業者を増加させることができるよう就学前の児童の保護者及び小・中学生を対象にアンケートを実施しているところです。このアンケート結果をもとに、令和６年度に児童館運営委員会と協議しながら、令和７年度以降の休館日について検討していきます。

今後、児童館が子どもの居場所としての機能、役割を発揮していくことも必要であるため、高校生の意見も参考にしていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　私からは終わります。関連で質疑ありますか。よろしいですか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。休館日だけじゃなくて、何ていうの開館時間とかも検討されるんですか。高校生の意見も聞くとあったんですけど。

○委員長（小林博文君）　答弁求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　一応ニーズのほう把握しまして、運営全般は確認しようと思いますが、委託先のほうとも協議しながら、あと、高校生については、今やっている事業につきまして、また今後どのような事業が必要かということと、あと居場所ということで、意見等を聴取していきたいと考えています。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　関連でありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。次、２番目、内田委員からになります。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。タブレットの説明書は30ページになります。

運営委託金が1,400万ほど伸びておりますが、この理由を教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。子育て支援センターの運営業務委託料につきましては、人件費の増により運営費も増額となります。これは職員の定期昇給及び非常勤職員の最低賃金の引上げ増等に伴うもの及び人事異動により単価の高い職員が児童館から支援センターへ移動になったことによります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありませんか。

○１５番（内田　隆君）　結構です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。３番目、渡辺委員、内田委員から出ております。代表して渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　小笠児童館管理費で、タブレットの31ページです。

床清掃等委託料の増額理由を教えてください。それから、エアコン分解クリーニングということが関係するなら、これは毎年かかってくるんでしょうか。お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。床清掃等委託料の増額理由はエアコン８基分の分解クリーニングを実施するため、これに伴う清掃代が増額となっております。今後も定期清掃を実施していく中で、分解クリーニングの必要があれば実施をいたしますが、毎年度は予定しておりません。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　私はありません。

○委員長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。最後のところに年一回というふうに書いてあったので、そうするとこれ毎年かなと思って書いたんですけど、じゃあ、ちなみに今回やる前のときっていうのは、要するに６年度には実施するんですけど、それ以前と言うといつやったか分かりますか。

○委員長（小林博文君）　周期的なものですよね。答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。毎年２回ほど清掃のほうをしておりまして、今回特にカビの発生が大変ひどかったということでやっておりますが、今までは特には分解まではしていない。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。今までというのは、ちょっとスタートのときに教えてくれれば。（笑声）

〔発言する者あり〕

○委員長（小林博文君）　堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。小笠児道館を新設の今の土地のところに造ったのは、平成24年４月１日からこちらの運営をしております。今回オーバーホールということで分解して作業のほうをやらせていただいております。

〔「初めてね」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑はありますか。

４番目、倉部委員から出ております。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款２項１目母子福祉費、タブレット32ページです。

ひとり親の家庭数、最近の増減の状況を教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。独り親家庭の数につきましては、菊川市内全ての数を確認することは困難ですので、児童扶養手当の受給者数等の数を答えさせていただきます。

児童扶養手当受給資格者は令和４年の１月末時点では318人、今年令和５年１月末時点は304人、令和６年１月末時点は315人、ほぼ横ばいで推移している状態です。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。いいです。

○委員長（小林博文君）　関連質疑ありますか。いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　では、５番目も倉部委員からになります。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款２項１目子育て支援事業費、タブレット説明資料35ページで、ファミリーサポートセンター事業負担金、増額になっているが、利用者は増えているのでしょうか、お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。ファミリーサポートセンター事業負担金の増額理由は、人件費の増及びＬＩＮＥ公式アカウント開設に伴う事業費の増によります。利用状況については、令和４年度と令和５年度の同時期１月末合計件数で比較をいたしますと、令和４年度は50件、令和５年度は58件であり、８件の増となっております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　数のほうはあまり変わっていないということですけど、この研修受けた方というのは、令和５年度どのくらいいらっしゃるんですか、サポーターの。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長です。申し訳ないです。今年度講義のほうを受けた方、こちらのほうでは数を把握しておりませんので、実際依頼、提供会員、講義を受けた方、提供会員もしくは両方会員になられると思うんですが、そちらの数も増えたり減ったりというような状況で、特に大変増えているという感じではないんですが、変動があるので年度途中で増えてまた減ってというような形は取っておりますが、すみません、受講者数まで今把握していなくてお答えができなくて申し訳ありません。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。菊川市の方で受けた数も把握できていないですか、全体じゃなくて。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。今現在持っている数字がなくて申し訳ないんですが、お答えできないです、すみません。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。以前ちょっと質問をさせていただいて、本気で増えてやってほしいという体制が取れているのかという感じをしていたんですけど、何かその辺、そんな何十人も多分受けるわけはないのですから、菊川市で受講した人の数字を把握したりですとか、積極的に受けてくださいというようなことはやっていただかないといけないと思うんですけど、ファミサポについて推進するのにどのくらいのことを来年はされるんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。事業の認知度の向上を図ることはもちろん大切、もちろん使いやすい制度にするためには提供会員さんを増やすことは私どもも必要だと思っております。

今年度は事業周知ということで、社会教育課の講座生のほうですとか、あとは広報紙、ＳＮＳのほうにも周知、提供会員さんを増やすことで周知をしておりますが、来年度はまた花の会さんであるとか、１％交付金のＮＰＯ団体さんのほうにも関連される方、ご興味がある

方にも事業のほうを周知して、ご協力のほうを仰ごうと考えております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ＬＩＮＥの公式アカウントをつくるということですけど、これはここから申込みしたりとかができるようにするんですか、ただＰＲするためだけのものですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。ＬＩＮＥの活用内容ですが、まず会員さんに対して講習等のお知らせで使用するということと、後々は利用申請ですとか、提供会員さんの広告書の提出のほうもこのＬＩＮＥを使った形で運用していきたいということでございます。

以上です。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。よろしいですか。関連質疑ありますか。５番渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。ＬＩＮＥ公式アカウントというのは、初期から人が増えていった場合に何人まで初期で受けられるでしょうか。数が増えれば基本料金が上がるんですか。

○委員長（小林博文君）　分かります。

○５番（渡辺　修君）　いいですけど、もし上が分からなければ。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。ＬＩＮＥのほうは、ＬＩＮＥ登録アカウントをつくりまして登録を会員さんですとかにしていただく中でやっていくと思われますが、指導料のほう月に5,600円ぐらいということで聞いておりますが、すみません、ちょっとその辺の規模が大きくなると金額が増えるというところまでちょっとこちらのほうに資料がない、申し訳ございません。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。渡辺委員いいですか。

○５番（渡辺　修君）　はい、大丈夫です。

○委員長（小林博文君）　関連で質疑ありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それでは、次の渥美委員、倉部委員から出ております。代表して渥美委員。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレット37ページ。子ども相談事業費（児童福祉）について。

１、子ども家庭センターとして、これまでの家庭児童相談室から変わる点は。

２、家庭児童相談システムの委託料及び借上料が合計約200万円増額する理由を伺う。

３、子育て世帯訪問支援事業について、対象者と具体的な内容を伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。１つ目の子ども家庭センターがこれまでの家庭児童相談室から変わる点についてですが、現在、家庭児童相談室は、子育てや家庭に関する悩み等を相談できる窓口となっています。令和６年４月に子ども家庭センターが設置された後も、家庭児童相談室の機能は継続し、子ども相談係で対応することとなります。これに併せ予算については、事業名を家庭自動相談室総務費から子ども相談事業費（児童福祉）に変更しています。

２つ目の家庭児童相談システム委託料及び借上料が増幅する理由ですが、システムの導入が令和６年１月からであったため、令和５年度予算は令和６年１月から３月までの３か月分を計上したものでしたが、令和６年度は４月から令和７年３月までの12か月分を見込んでいるため、委託料が増額となっています。

３つ目の子育て世帯訪問支援事業の対象となるのは、特定妊婦や保護者の養育を支援することが特に必要と認められる児童のいる家庭。食事・生活習慣等が児童の養育に関し不適切であると認められる家庭。虐待のおそれやそのリスクを抱える家庭。ヤングケアラー等がいる家庭です。具体的な内容は、対象家庭を訪問し、調理や洗濯、掃除、買い物等の家事に関する援助を行います。子育て世帯訪問支援事業は、家庭や養育環境を整え、虐待リスクを未然に防ぐことを目的としております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。３番目の件についてなんですけども、対象者の中で虐待というのも入ってくる中で、その他もそうかもしれないですけども、市として訪問の必要性を感じた場合でも、その家庭のほうで受け入れるか受け入れないかという問題もあると思うんですけど、特にこの虐待というのはなかなかそこら辺が難しい部分だと思うんですけ

ど、そういうのは市として必要性を感じたときは、市として積極的に訪問として働きかけるのか、それとも家庭の希望があれば行くのか、そこら辺がどういう考え方になっているのかというのが伺えればと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。鈴木子ども福祉係長。

○子ども福祉係長（鈴木　　君）　基本的には希望されるお宅、同意を得なければいけないというのがあるかと思いますが、そこら辺は強制的にというよりは、認識がもともとある家庭というのが前提にありますので、必要性、まずは家庭環境を整えるというところから始めましょうかということで、同意を得られるように説得ではないんですけれども、一緒に相談に乗っていく中で、そこは同意を得られるようにこちらもやっていかなければいけないかなと思います。

　委託業者にそのままお願いするわけではなくて、まず相談員のほうが前提に入ってつなぎをしっかりして、同意のもとでやるというのが前提かなと考えております。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。すみません、あと１点だけなんですけども、子ども家庭センターができる中でこの前、全協とかでもいろいろこういったことが新しく始まりますよ、拡充されますよということが具体的に示していただいて、全部具体的にすごいあったんですけど、１個だけちょっとほかが具体的な分、１個だけちょっと分からないことがあったんですけど、支援団体との連携強化というのも上がっている中で、その中で、子育て相談機関とか教育委員会とか学校とか民間資源と連携するということが示されているんですけど、この部分がこれまでと変わる具体的にどういった部分が変わるのか、そこだけ最後に伺えればと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。今現在も連携ということはもちろん必要ですのでやっているんですが、それがもっとスムーズになるための方法ということで、会議を開く中でサポートプランというのもつくらせていただきますので、その辺の支援計画の情報を情報共有するということもありますし、あとは、私どものほうで地域資源を発掘していかなければいけないので、支援していただけるところ等を探し、そういう機会を与えるということもやっていかなければいけないと思っておりますので、そちらのほうもまた強化していきたいと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。先ほどの訪問支援事業ですけど、相談があった方が対象ということですけど、相談に来ない方を発見したりする仕組みとしては何かあるんでしょうか。

あと、訪問支援事業の事業者ってどういう方が行くんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。相談する中で今先ほど説明したように、今までつながっている中でというケースもありますし、児童相談所が入ったケースから市のほうに下りてくる場合ももちろんあります。あとは、通報等、民生員さんとかご近所の方からのご相談ということもあるので、そういう中でつなぎを持ちながら、そういう方を把握しながら支援を行います。

派遣して訪問してもらう事業者ということで、今１件、管理支援等を行ってくれるところの事業所と、内容のほうも説明しながら交渉させていただいて、こちらのほうに協力していただけるかどうかという相談をさせていただいている事業所がございます。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。１件しかないということですけど、これは清掃とか食事つくったりまでやるのか分からないですけど、今まで出産した方の後の支援でもそういう方が入っていたかとは思いますけど、それとはまた別なのか、例えば、シルバー人材センターでも家事支援とかやっていらっしゃると思うんですけど、そういうところではないということでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。鈴木子ども福祉係長。

○子ども福祉係長（鈴木　　君）　現在対応しているところは１か所なんですけれども、現在もＮＰＯ法人というかそういったところで活躍されている事業所さんになりますが、当面はどちらかというと調理や洗濯とかというところはできている保護者さんもいるんですが、家の中でまずお掃除を前提に考えておりますので、そういった中でできないところ、買い物とかも含めた援助は考えていますが、メインはお掃除を考えております。

ほかの事業所も今後ちょっと当たっていこうかなというところ、今働きかけをしようかと思っているところでございます。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑ありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　では次、７問目、13番　倉部委員、お願いします。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款２項２目児童手当給付費、説明資料が39ページです。

10月から増える対象の高校生の数をお願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。令和６年10月分以降から児童手当支給対象となる高校生の数は、対象年齢人口から所属長で手当が支給される公務員分を差し引き、さらに転入者分を含めて1,424名分を見込んでおります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。８問目、渥美委員、倉部委員から出ています。代表して渥美委員のほうから。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ40ページ、予防接種費（子育て応援課）について。

１、子宮頸がんワクチンの延べ人数の算出根拠は、また、健康管理システム改修費について具体的な内容を伺う。子宮頸がんキャッチアップ接種について、通知方法を伺う。

２、予防接種委託料について、交付税措置を踏まえた市の実質的な負担額を伺う。おたふくワクチンの助成の具体的な内容を伺う。また、ふるさと納税の財源が4,300万円以上あるが、もっと助成額を増やせなかったのか伺う。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。１つ目の子宮頸がんワクチンの延べ人数の算出根拠につきましては、定期接種は対象者である中学１年生から高校１年生の女子900人のうち、今までの実績値に基づいて算出した接種率22％を見込んで198人掛け

る３回として延べ594人としました。

キャッチアップ接種対象者については、令和５年度の実績と同等の月46人として年間552人を算出、合計1,146人となっております。キャッチアップ接種の今回の通知方法につきましては、令和６年度がキャッチアップ接種最終年度となることから、未接種者への接種勧奨通知のほかに、市の公式ＬＩＮＥ、広報等で周知してまいります。

健康管理システム改修費の具体的な内容につきましては、令和６年６月のデータ標準レイアウト改正に伴い、令和５年４月から定期接種化された９価子宮頸がんワクチンに係る予防接種情報のマイナンバー情報連携対応のための改修費用となります。

２つ目の予防接種委託料について、交付税措置を踏まえた市の実質的な負担額につきましては、平成25年の予防接種法改正時より、定期予防接種に係る経費については、その９割が積算基礎として普通交付税に算入されております。しかしながら、予防接種に係る財源は明確ではありませんので、市の実質的な負担額は、予防接種委託料総額の１億3,697万1,000円となります。

おたふく風邪ワクチンの予防接種助成の具体的な内容及びふるさと納税の財源が4,300万円以上あるが、もっと助成額を増やせなかったかについてですが、おたふく風邪ワクチン予防接種は、１歳児に１回目、集団生活に入る前の５歳以上７歳未満に２回目を接種することが推奨されております。１回の接種について助成額は2,000円となり、医療機関で2,000円を差し引いた額を窓口で払う方法となります。

また、ふるさと納税は、事業の必要性や内容を検討する際には財源として見込んでおらず、一般財源を減らし、事業を行いやすくするために充てられております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。１番目の子宮頸がんワクチンの件なんですけども、22％というのを１個基準にしてやっているということで、なかなかやはりできるだけ多くの人に打ってもらうことが本当に命を守るためにも大事かなと思うんですけど、その中で22％の数字よりもっと高くしてほしいなと思うんですけど、市としてこの接種率を向上していくための何か取組があれば、お伺いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。武藤主幹兼母子保健係長。

○主幹兼母子保健係長（武藤　　君）　母子保健係長でございます。渥美委員の今のご意見ですけれども、まずは、未接種者の方にはとにかく最後の機会であるということをしっかりと

お知らせするという意味で、接種勧奨通知というものをやっていきたいと思っております。

また、先ほど課長もおっしゃいましたように、市の公式ＬＩＮＥや広報等の周知はもちろんのこと今、学校のほうでも思春期講演会というものをやっておりまして、そういったときにも生徒さん、ご本人たちにもそういった予防接種の大切さというものとか、命の大切さというものを伝える中での子宮頸がんワクチンのことも、菊川病院、市立総合病院の先生のほうが伝えていただいていたりというようなこと。あとは、なるべく分かりやすいようなホームページ等の周知等も考えて、皆さまに判断できるような材料をたくさん周知でやっていきたいなと思っております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。次なんですけども、ふるさと納税と、あと、おたふくワクチンの助成についてなんですが、ちょっと答弁で分からなかったのが、９割で交付税措置されるというのと、ただ一方で、自主的な負担はそうじゃなくて、明確なものはなくて１億幾らだということだったんですけど、感覚的には９割返ってくるのであれば、１割が自主的な負担なんじゃないかなと思うんですけど、そこら辺の考え方は、ちょっともう一回聞ければと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。普通地方交付税の算出と利用の仕方というのが、基準財政需要額、もっと大きなこの事業のみだけではなく全ての必要なものの中から、基準財政収入額といって税収ですとか、いろんな収入が引いて、最終的に財源不足となるところが交付基準額となりますので、例えば、うちの予防接種の費用の中に収入源をどれを充てたからどれだけ不足ということがないという形になるのか、９割相当を積算の中には入っているというように国のほうから聞いておりますけれども、それに対して、収入がどれだけ差し引かれ、不足がどれだけということというのは算出がこのものについてできませんので、交付税というものは一般財源によって考えられておりますので、今のが総額がこちらのほうが全て実質的な負担がということで今お答えをさせていただきました。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。そうすると、簡単に言うと９割以上という基準はあるんですけど、交付別措置の中でいろんな変数、構成式の変数があって、本当に９割返ってくるか正直分からないから、実質的には10割の部分がかかると考えるしかない、そういった

ことなんですかね。

○委員長（小林博文君）　答弁求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。うまく説明ができないかもしれませんけど、全部の中に、市の中に溶け込んで入ってくるものですから、キーポイントでこの予防接種の分に幾ら充てたというところが出ないような形となっておりますので。

○委員長（小林博文君）　標準的なこのまちの規模に対して国がこの多いまちはこのぐらいのお金がかかる。実質的に市にどれだけの収入があるか、その差額分が交付税措置されるので、その予防接種だけを特化してということにはならない。例えば道路でも同じメーター数でも傷みやすいまちと傷みにくいまちがあるんだけど、それは標準的に見てしまうので、それが必ず道路に使わなければいけないかというところはないので、一般的に地方交付税措置されたものは、一般財源としてどこにでも使うということが、流用されているのが一番使いやすいものとして、自治体としては利用しているというところが特定できないというところです。

１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。おっしゃることは分かるんですけども、一方で質問させていただいているのは、税金って基本的には普通に納税して、使い道は選べないんですけど、ふるさと納税というのは、ある種特別で使い道を選んで納税ができるという非常に珍しい税金なのかなと思うんですけど、その中で、すごく多くの人が子どもとか子育てに使ってほしいという中で、やってくれている中で、こういうやり方をすると正直本当に子どもに使われているのかというのは、ちょっと議員として確認できない部分があるので、どうしても予算を見ていく中で気になってしまう部分もあるんですけど、「子どもがいきいき育つまち」寄附金というのは、じゃあ、最後に１個質問なんですけど、実質的に子どもたちにこの分使われている、自分はこれだと言えない、分からないんじゃないかなと思うんですけど、これは分からないようにあえてしているのか、何でこういうあえてここになっているのかというのを最後に聞きたいと思います。

○委員長（小林博文君）　これは分かる。（笑声）

〔発言する者あり〕

〔財政課か企画課なんかで割り振るんですよね」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　こちらは幾らかかりますということしか分かんないんじゃないか。答弁を取ります。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。割り当てはそちらの財政課

のほうから、財政課のほうからですが、一応「子どもがいきいき育つまち」ということで、目的に合った事業ほうに充てていただいていると考えております。

予防接種の委託はとても大きいところで、それこそ子どもの健康を守るためということで、こちらに充てていただいていると考えております。

○委員長（小林博文君）　多分あれですよね、今年すごく子どもの部分とか多かったので、これを見込んでいろんな所で割り当てているのに使っているから、財政課でどう、どういうかによると思うんですけど、実際こんだけ入ってくるというのはまだ未定ですので、予算ですので、ということで、再質疑ありますか。よろしいですか。

倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ちょっとここに全然関係ないんですが、最近、子宮頸がんワクチン、男性も打ったほうがいいという話がちょこちょこ出ているんですけど、そういう情報が入っていますか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。武藤主幹兼母子保健係長。

○主幹兼母子保健係長（武藤　　君）　母子保健係長でございます。男性があってもが良いというお話ですけれども、外国等につきましては、やはり接種をしているというようなことは話がよく入っております。ただ、今私たちのほうでは、いわゆる国の予防接種法で定められている定期予防接種といわれるものをやっておりまして、そちらにつきましては、まだ国のほうにつきましても、そこまでの話は出ていないというか、私たちのほうに入っていないというのが現状でございます。

以上です。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連でこの件、皆さんからありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。９番目、13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。４款１項５目母子保健事業費。説明書追って、タブレット42ページになります。

こんにちは赤ちゃん祝い金プレゼント新生児が281となっているんですけど、算出根拠をお願いしたいです。

同じページの健診の委託料額妊婦330、乳幼児330になっているので、ここでちょっと差があったりするんですけど、どういう考え方でしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。こんにちは赤ちゃん祝いプレゼント事業の新生児281人の算出根拠についてですが、出生等転入も見込みまして、330人のうちプレゼントの注文率を85％、今までの過去の経緯から85％と見込んで281人と算出をいたしました。

以上です。

〔「注文しない人がいる」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番。自動的に全員にやっているのかとちょっと思っていましたが。

〔「違うんだね」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　注文しない方は要らないって思っているのか、気づいていないのか、ちょっとめんどくさくてやっていないのか、自動的に生まれたらあげればいいのにと思ってしまうんですけど、そういうものではないです。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。武藤主幹兼母子保健係長。

○主幹兼母子保健係長（武藤　　君）　こちらの事業につきましては、こんにちは赤ちゃん事業という全戸訪問のときにチケットをお渡しして、ＱＲコードを持ちまして、そこでご本人様に申し込んでいただくというような方法をとっております。それを申込みいただいて、それが自宅のほうに郵送されるというようなやり方をとっております。今おっしゃられたように100％ではないというところで、昨年が初めての事業だったんですけども、初めてやったものですからアンケートをとったんですけども、そのときにもやはり私たちの方では期限も迫っていますから申込みをしてくださいというようなことをさせてもらったんですけれども、アンケートの中には、確かに要らないというようなご意見もありましたけれども、まあ、数％でございました、それは。ほとんどの方がうれしいとか喜んでいますというようなことで、こちらの事業につきましては、全国のほうの自治体ワークスのほうにも紹介をされていまして、そういった意味では他自治体からも大変問合せがあるような事業ではございます。

こちらにつきまして、注文率のほうを上げるような取組として、来年度につきましては、６か月児相談というのを毎月やっておりまして、必ず皆さん来ていただくので、そのときに必ずもう一度その場で申込みを頂くような促しをしたりとか、本の使い方もそこで紹介をしながら、もう一度なるべく注文していただくよう、注文率を上げるようにしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　すみません、堀川子育て応援課長です。ちょっと付け加えさせていただくと、この絵本なんですが、赤ちゃんのお名前が入るということで、出来上がるものを差し上げるというよりも、ご本人さんにお名前を入れていただく作業がございますので、個々の注文という形を取っております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　やってってそこで書いてあげるわけにはいかない。（笑声）

○委員長（小林博文君）　お持ちいただいても。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　表紙にお名前が入るのと本人が主人公になって名前を入れさせてもらっています。あと、保護者様からメッセージと名前の由来が入るような形を取っておりますので、事前注文というよりは、ご本人様に必要なものを書いていただくというようなことで、チケット制の注文というような取り方をさせてもらっております。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　この件関連ありますか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　では、10番目、内田委員、渡辺委員から出ています。代表して内田委員からお願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　母子保健医療費、説明資料の44ページになります。

不妊治療費の金額、助成金が38件から12件まで減っておりますので、その理由をお願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。不妊治療助成件数が大きく減っている理由につきましては、体外受精や顕微授精などの特定不妊治療や人工受精の一般不妊治療が、令和４年４月１日から保険適用となり、菊川市の助成についても保険適用外のみを対象としました。

不妊治療費助成の申請については、保険適用となった治療が多くを占めていたこともあり、令和５年度については申請件数が大幅に減少しましたので、令和６年度の見込み件数も減らしてございます。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。保険対象内外いうのはどういう人たちですか。

○委員長（小林博文君）　いいですか。武藤主幹兼母子保健係長。

○主幹兼母子保健係長（武藤　　君）　母子保健係長でございます。保険適用外というものにつきましては、保険が年齢によっても回数が決められています、治療の。例えば40歳未満であれば６回まで使えます。40歳それ以上超えるとか、年齢にいろいろあるんですけれども、そういったようなもので、同じ治療につきましても年齢や回数で対象外になってしまうことがございますので、そういったものにつきましては助成の対象とさせてもらっております。そういったものが保険適用外。あとは先進医療につきましても、まだ保険適用とはなっておりませんので、そういった先進医療につきましても保険適用外という判断で助成のほうをさせていただいております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。

○１５番（内田　隆君）　結構です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。渡辺委員、再質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。今年になって保険適用が増えたわけだね、で減ったってことだね、その新たに保険適用になったものを教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁求めます。武藤主幹兼母子保健係長。

○主幹兼母子保健係長（武藤　　君）　主にですけれども、体外受精、あと顕微受精、人工受精が主な治療のものの保険適用となったものとなっております。

○５番（渡辺　修君）　体外受精、すみません、もう一度お願いします。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　体外受精、あと顕微受精、顕微鏡の顕微受精、あとは人工受精が主なものとなっております。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　大丈夫です。ありがとうございます。

○委員長（小林博文君）　関連で質疑はございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。不育治療については保険適用ではないんですよね。不妊じゃなくて、不育。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。武藤主幹兼母子保健係長。

○主幹兼母子保健係長（武藤　　君）　母子保健係長でございます。不育治療につきましては、今までも保険適用外となっておりますので、治療費につきましては助成のほうさせてもらっております。

以上でございます。

○１３番（倉部光世君）　結構です。

○委員長（小林博文君）　関連ありますか。ほかによろしいですか。

11番目、13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。４款１項５目発達支援事業費、説明資料、タブレットの15ページです。子ども家庭センターでの発達支援事業が18歳までに拡大されましたが、事業概要に記載がないけれども、どの部分で行われていきますか、お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。こども家庭センターの開設に伴い、センターの中に位置づく子ども発達係において、令和６年度から発達に関する相談の対象を修学前から18歳までに広げます。

現在の職員体制の中で、保健師等が相談対応いたしますので、予算上の増減はございません。

また、事業概要書、事業内容の発達相談の実施に該当する事業となります。

ご相談を受けた際は問題の整理やアドバイス、情報提供を行います。

対象地の支援はもちろん、保護者の悩みや不安な気持ちに寄り添い、対応して参ります。

必要に応じて関係機関と連携を取りながら、子どもの発達に沿った支援に努めてまいります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。この変わることに関しての周知は、どうやって行っていくのでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。今現在、こども家庭センターのリーフレットを作成しておりますので、そちらのほうに記載をさせていただくとともに、ＳＮＳや広報ですとか、ホームページのほうも活用してまいりますが、チラシのほかにもポスター等も記事のほうを考えておりますので、広く周知できるようにしてまいりたいと

思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質問ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。人員、今のままでということですけど、この18歳までに拡大されることで、相談件数が増大するかと思われますけど、どのぐらい件数が増えるとお考えでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。金井発達支援係長。

○発達支援係長（金井　　君）　発達支援係長です。今現在も就園前までということに任せていただいていますけれども、就学時の相談が今まで件数は、はっきり取っていないんですけども、体感の中では五、六件程度あるかと思います。

今、学校のほうとも連携をさせていただいていて、そちらで受けていただいていたりとかする場合もあると思いますので、必ずしも子ども相談係のほうにだけの相談ということではないと思いますけれども、10件とかそのぐらいにはなるのかなあと思っています。

また来年度、ちょっとこちらに来るばかりの相談だけではないので、どのぐらい増えていくかというところは、来年度、集計を取ってその後の人員配置であったりだとか、相談件数、専門職の配置だとかも考えていく中の資料にしていきたいと考えております。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質問ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。私、これずっとお願いしていたことですけど、掛川のびる～むのほうに、以前は、菊川の方も結構いっていらっしゃって、１人当たりやはり相談時間が結構１時間、２時間かかってしまうので予約制でやられていたという現状があると思うんですけど、そういう辺は考えて、学校に相談できなくて困っている方は本当に多いもんですから、こちらに相談に来たい方というのは、すごくどんどん増えていくと思うんですけれども、この辺は、どれぐらい考えていらっしゃるんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。金井発達支援課係長。

○発達支援係長（金井　　君）　相談件数に関しましては、やはり１人にかかるお時間、かかると思いますので、あと職員もほかの事業等で外に出ている場合もありますので、基本的には、ご相談をじっくりさせていただく場合は来所相談で、お時間を予約を取らさせてお約束を取らさせていただいて対応とさせていただくように考えております。

ただ、曜日の指定だとかをしてしまうと取りにくい部分もありますので、まずご相談を頂いたときにどのように相談を進めていくかというところ。あとお時間をどこの場所でいただ

けるかというところを相談させていただきまして、臨機応変に対応していきたいと考えております。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。例えば、相談するのには電話でなきゃいけないとか、メールでいいとか、ＬＩＮＥとかで相談窓口をつくっていただくとか、相談しやすい体制づくりはどうなって考えていらっしゃるでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。金井発達支援係長。

○発達支援係長（金井　　君）　相談方法は必ずしも面談、電話ということではありませんけれども、その方の相談しやすい方法、ただ私たちの実感としては、対面でお話しないと、電話だとかメールだけでは、話しているニュアンスだとか、感じ方だとかというのがつかみにくいというところは、今までの相談業務の中でありますので、できればお電話であったりだとか、面談という形で、直接ご本人様たちとお話ができる形にしたほうがお話が、時間の融通はメールとかのほうがつきやすいかもしれないんですけれども、直接の支援というほうが私たちが入るという意味にもなっていくかなと思いますけれども、ご本人様とのどのように進めていくかというところは相談の上でしていきたいと思っています。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質問ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　相談じゃなくて私は窓口、きっかけの窓口の話をね。

○発達支援係長（金井　　君）　きっかけ窓口はどのような話。

○１３番（倉部光世君）　できるだけ広げていただきたいという話をさせていただいたんですけど。

あと、すくすくファイルがあると思うんですけど、あれは、それこそ欲しい方にいて欲しい方に配るという形でよかったでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。金井発達支援係長。

○発達支援係長（金井　　君）　発達支援係長です。すいません、相談の対象の窓口という形はどのような方法でも、メールであったり、ＬＩＮＥであったり、電話、直接方法、来ていただいたりでも、どのような形でも受けさせていただきます。

すくすくファイルということで、そのファイルは保護者様が自分が、ご自身が関わるいろんな支援先、相談先だとかと情報をつなぐためのものになりますけれども、今現在、発達支援係のほうでつくらさせていただいているものがどの年齢でも使っていただけるんですけれども、ちょっと載せさせていただいている内容が就学前まで、ちょっと小さいお子さんたち

の内容になりますので、今年度、学校教育課のほうとも連携を取らさせていただいて、コーディネーターの先生方に、ちょっと就学時のところで載せてもらいたいページだとか、そういうのもありますかということで調査をさせていただいています。

また今後、就学時に関するページも少しずつ入れさせていただきながら改良していきたいと思っています。

今、すくすくファイルは発達支援係で相談、発達に関する相談をさせていただいた方にお渡しさせていただいていますけれども、もしそちらのほうが就学時とか、それ以外の方でもご希望があるようでしたら、お渡しできるように用意はさせていただいております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。これつくるときに、ぜひ当事者のお母さん方の声をね、入れていただきたいと思いますので、この辺やっているほうじゃなくて使っているほうの使い勝手を聞いてつくり直すのであればやっていただきたいと思いますけど、その辺いかがでしょうか。

すくすくクファイルとか、いつまでに申請してきたらなとか、はがきが来た気がしたんですけど、それすくすくファイルじゃないのかな、違うのかな。はいいいですけど、ちょっとその内容について、意見を求めます。

○委員長（小林博文君）　金井発達支援係長。

○発達支援係長（金井　　君）　ありがとうございます。ちょっと保護者の方たちのご意見をどのようにつくり上げていくかというのは、今後の課題かと思っておりますので、はい、またそちらのほうも検討させていただければと思います。ありがとうございます。

○１３番（倉部光世君）　はい。

○委員長（小林博文君）　再質疑よろしいですか。関連で質疑はございますか。最後の質問、渥美委員。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ47ページ、子ども相談事業費母子保健について、通訳付テレビ電話についてレンタルするシステムの商品名を伺う。また利用が見込まれる外国人の方はどの程度いるか伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。翻訳付テレビ電話についてレンタルするシステム商品名ですが、テレビｄｅ通訳というシステムとなります。タブレッ

トを使い、14か国語以上に対応するものとなります。

利用が見込まれる外国人の人数につきましては、きめ細やかな支援が必要な要保護児童７世帯に加え、外国語版母子手帳発行時におよそ30人、乳幼児検診におおよそ130人を見込んでおります。

以上です。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　以上で、事前通知による質疑を終了します。

関連で質疑のある委員は挙手をお願いします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。先ほど、倉部委員の独り親家庭の数が扶養手当というのは、親と同居しているとできない、もらえない制度で、正確ではないと思うんですよ。本庁でこれを把握しているところはどこですか。独り親家庭を。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長でございます。うちの当課のほうでは、扶養手当と独り親の医療費ということでご離婚をされたり、死別された方、窓口のほうでお手続をされますので、申請に見えた方につきましては、うちの課のほうでは把握はしております。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありませんか。

○１２番（織部光男君）　人数を把握しているということですね。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。堀川子育て応援課長。

○子育て応援課長（堀川訓子君）　子育て応援課長です。児童扶養手当の申請をされた方、独り親医療の申請をされた方の人数については把握をしております。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　そのほか関連質疑ありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それでは質疑なしと認め、質疑は終わります。ここで執行部の方は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の市長提出議案に関して審議し、結論を出す場合、議員総務課の議論を尽くして合意形成に努めるものとするとの規定に基づき、委員会の自由討議を行います。

今回では、こども家庭センターの見回し、それから各ワクチン接種の集計覧の話、不妊治療のほうもちょっとありましたかね。この辺で出ていました。

ご意見などある方は挙手の上、発言をお願いいたします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。こども家庭センターに移行ということで、基本的には今までやっていた業務をくっつけていくということですけど、併せて、子ども関係集約してやっていくというので、まあ大きな組織の変更はないのかもしれないですけれども、やはり、今までこの抜け落ちていた部分ですね、縦割りで途切れていた部分をしっかり情報共有してやっていっていただかないといけないかと思います。

先ほどの支援事業との、本人から相談があったらやっていきますということですけど、本当に欲しい人は相談のある人ではなくて、相談のないけど困っている人たちだと思いますので、その辺を学校とか、民生委員さんとか、近所の方とかっていうことでしっかり見守り、発見する仕組みをしっかりつくっていただかないと、これやる意味が全くないわけですので、体裁だけつくっても駄目だと思いますので。各署で言われていますが、縦割りでなく、横でつながってできるような体制づくりを積極的にやっていただきたいと思います。

発達支援員のことで申し上げましたけど、受入れの窓口が結局、来ないと駄目ですよみたいなところが未だにありますので、とにかく導入でつながりすれば来てくださいとか、いろんな方にあった支援ができるけど、来ていただかない限りは、何もできないというのが現状ですので、どれだけ門戸を広げて、敷居を低くして、来やすくしていくかというところは、きちっと考えてやっていただかないと、やってあげる人とやっていただくとか、対象の方の意識ですごい乖離している場合が多いですので、できるだけ市民に寄り添った形にしていただきたいと思います。

今、発達支援事業ですけど、今まで本当に就学前までを子育て応援課の発達支援係でやっていて、小学校に入ると全部学校に行ってしまうということで、保護者が学校に相談しにくいことがすごく、その子どもの育ちとか、家庭でのこととかっていうのは学校の先生に話しても全く解決していなかったのが現状です。

また例えば、小学校に上がるとき、今度、小学校から中学に上がるとき、中学から高校に上がるときの相談、誰にすればいいんですかというと、全然する場所が今までなかったんで

すね。

学校生活と子どもの発達の体や心の成長というのは、別の部署でやるべきということをずっとやってきて、やっとちょっと一つになりかけているんですけど、ちょっと今のお話を聞いているとそれが一つになることに対しての情熱が少し足りないのかなと感じています。

掛川市のびる～むというのがもう何年か前に設置されて、発達支援の大人まで全部相談を受けるという仕組みにつくられていて、菊川市の方、最初のうち菊川にないので、のびる～む利用していたんですが、利用者が増えたんで菊川市はもう見ませんと言って途中から断られてしまったという現状があります。それだけニーズがあったのに今までやらずに来ていたということで、これからやっていくに当たっては、やはり当事者の声を聞いて、さっきのきくすくファイルじゃないですけど、行政のつくってお母さんたちすごい使いにくいってずっと言っているわけですから、当事者の方たちの団体で、個人で活動している方たちもいるわけですから、そこをしっかり聞いていただいて、ちょっと聞く耳をしっかり持って、本当に必要な支援はどこで何をやらなきゃいけないかというのは、この家庭センターつくるのをきっかけに積極的にやっていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。こども庁ができて、この子育て応援課というような、こういうことにも本当に無償で全てを手助けする母子家庭が苦労しなくてもいいような社会をつくらなきゃいけないというのがこども庁の設立の目的だと私は思うんですね。少子化対策でもあるわけですね。やはりそれをやったのが泉市長なんかがやってくれているんですけども、国が遅れながらやっと腰を上げたんですけどね。こういう市政の問題について、やはり基本的な考えとすれば、もう子どもを産んで苦労なく育てられるという環境をつくらなければならない、そういう社会にしなきゃいけないと私は思っております。ですから行政の方々もこういったことを根底において仕事をしてもらいたいなというふうに思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　ご意見ございますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。自分は、ふるさと納税なんでけど、ちょっとどうしてもここは自分の中で引っかかっているというか、今、答弁でも自主的な負担という説明あったんですけど、それも菊川駅移動と説明しているのはやっぱり交付税措置もプラスマイナスして実質な負担額というのを議会にも住民にも説明をしているとは思うんですけど、そこ

の言い方もちょっとダブルスタンダードな部分もあるし、あとは、言い方悪いですけど、この子育て寄附金という１個の明確な財源がここに入ることで明確じゃない財源にちょっとある種、ロンダリングじゃないですけど、そんなふうにちょっと見えてしまう部分があるので、もちろん、こういった使い方が使いやすいというのは分かるんですけど、もしこういうやり方をやるのであれば、実質的に、じゃあ、どういった部分がこの寄附金が使われているのか、もしそこまで示せなくても、ちゃんとこうこども未来部の中で一般財源として使われているですとか、何かそういうのがないとちょっとどうしても引っかかってしまうというか、本当に子どもに使われているのかなというのが、これじゃあ分からないなというのはちょっとどうしても思ってしまう部分なので、ここはちょっとまた検討してほしいなと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　どうでしょうか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　子宮頸がんワクチンと倉部さんが男性も打ったほうがということを聞いたときに、向こうの回答が、国からのことでやっていますというだけで、ワクチンがいい悪い別にして、例えば、男性にしてもパートナーが26歳以下で打ったほうが効果はあるでしょうということまでもあるので、そういうことも考えていただきたい。推進するとかそういうことじゃなくて、一応、一人でも子宮頸がんで亡くなる女性を減らしたいということであれば、その効果はあるのかないのかということもちょっとは考えていただきたいなあと思いました。

以上です。

○委員長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今、ちょっと子宮頸がんの話ですけど、国から来ていないっていう知らないよみたいな感じっていうような。

〔「そうなんです」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　やっぱ積極的に調べていただいて、まずお金が絡むので市単でできることではないのかもしれないけど、やっぱり積極的に、世の中的に話が出ているんであれば、今、調べていますよとかっていうふうにしていただきたいのかなっていうのは少し。

〔「回答は」と呼ぶ者あり〕

ふるさと納税ですけど、渥美さんおっしゃるのも分からないでもないんですけど、ここの担当の人に言っても難しい話で、分配してる基に全体会とかで言っていただいたほうがいいんですけど、もちろん子育てに使ってくださいって出されたものをこれとこれとこれ使いま

したっていうふうな表示は多分あまりしてないので、本来であれば、例えば、このホームヘルプサービスに使いましたとか、赤ちゃんの本買いましたとか、何か遊具買いましたとかっていうふうに示してあげたほうが、やった人にはやった感があるよということを渥美さんの言いたいのかなと思ったんですけど。

例えば、見えないところに使っていても例えばこういうところに、子どもの注射に使っていますよとか、やっぱりそれはどこかに出してあげれば、そういうところに子育てにお金出せばいくんだなっていうのは支援の方には伝わるので、本当に一般の方だったら幼稚園につくるお金に入れましたとかってやってあげたほうが確かに分かりはいいので、財政課の使い勝手の都合よりは、何かもう少し分かりやすいようにしてあげたらいいのかなと私も思いますので、振り分けるほうほう方にぜひ言ったほうがいいかもしれないですね。

○委員長（小林博文君）　その他ご質問ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　子宮頸がんの件は、男性のほうが持っていて、性交渉によってその菌が女性に来るんで発病するということ。今の日本では、当初のね、最初の副作用の件でかなり受ける方がなくて、そこでまず女性、まずかかる当事者の本人に広めるっていうところで、保険適用で補助投資ができてるんで、その辺がある程度、海外と併せて広まってくれば、男性も打てば間違いなくそれで減ってくるとは思うんですけどね。なかなか国がそういう形で補助できないものを市でって言うと難しいのかもしれませんけど、そういう情報がね、出てきていると思いますんで、まあその辺は国からも追々来ると思いますんで。特化してね、ほかのこの子宮頸がんに限らず、ほかのところでもいろんなところで補助っていうのは出て、よくうちらの年代になると帯状疱疹の話とかも補助とかっていうのもあるんで、この辺は国がどこが必要かというところを見定めていくんで、お金がない中で菊川市独自って難しいのかなって聞いてるところでした。

あと今言った、ふるさと納税の振り分けなんですけど、何かこう、どっちがいいのか分かんないんですけど、このふるさと納税をこの予算として計上してくるときに、必ず来るからっていうところが分かるんで、そこで、まあ、いわゆる子育てってところでここに来てるんだと思うんですけど、実際にね、蓋開けてみたら、今言った急に来なかったのかとなるときにどうするんだっていうところがあると、その辺がどういうところに割り振るかっていうところがすごく重要で、まあ言い方が悪いんですけど、まあ最悪ここならなくても大丈夫かっていうところで振り分けるっていうところもあるでしょうし、名前でそのもらっているなら、

今、言ったちゃんと子育てに行くことに、必ずこれは充当するとかっていうところがある程度、今、倉部さん、おっしゃったように、まあ財政課がやるのか、企画課がやるのか分かんないですけど、必要かなあと。あくまでも予算なんで、この変更がまた出てくると思うんで、その辺どうしたかということころも確認も必要かなと、そういうふうに感じました。13番倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。先ほどから言っている人口減少とか、１つの減少に、直接関わってるのがこの担当なわけで、ここでまあいろんなことやるから増えるかっていうわけではないかとは思うんですけど、ここでやってる事業をしっかりと伝えていくことで、ああ、菊川市だったら子どもを産んで育てるのにすごい安心できるかなっていう安心感をやっぱりしっかりと伝えていっていただきたくて、以前からそのネウボラとかっていうこの言葉をね、使って分かりやすくしたほうがいいんじゃないかっていうことも提案は結構してるんですけど、まず本当いろいろやっているんですけど、何かそのやっている出し方がいま一つというか、島田と比べるとやっていること同じなのになんかすごい島田だとやってる感満載に見えるんですね、やっぱりホームページ見ただけでも。その辺で同じ内容であるなら、分かりやすくっていうか、結局これは特に出産のところは若いママさんたち、２０代とか、３０代のお母さんたちが見てくるわけなので、その人たちに訴えかけられるようなＰＲというと変でしょうけど、そういうことをやっていかないといけないのかなっていうところで、やはり全体で連携して少子化対策のプロジェクトみたいなのをぜひ立ち上げてやっていっていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　そのほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。それでは、以上で、子育て応援課の予算に関わる審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を基に分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会に報告させていただきます。分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任に願います。

休憩　午前１１時２５分

再開　午前１１時３０分

○分科会長（小林博文君）　それでは、健康福祉部の審査を行います。

初めに、諏訪部健康福祉部長、所管する課名等を述べてください。諏訪部健康福祉部長。

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　健康福祉部です。所管する課は福祉課、健康づくり課、長寿介護課になります。よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　続いて、吉川福祉課長より出席者の紹介をお願いいたします。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長の吉川です。本日は社会福祉係長の平井、それから生活福祉係長の鈴木。それから障がい者福祉係長の中村が出席しております。よろしくお願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　それでは、まず12月の補正の件でありました、奥の谷のコミュニティプラントの件で説明がありますので、そちらからお願いいたします。福祉課、課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

前回の12月定例会において令和５年度一般会計補正予算（第４号）におきまして、３款１項１目、事業番号５の人権・地域改善推進費に計上いたしました奥の谷地区の地域し尿処理施設コミュニティプラントですね。こちらの修繕費の審査の際に将来を見据えた今後の施設の当面の見通しについて、検討をするように御意見をいただきました。その後の経過について少し説明のほうをさせていただきます。

当コミュニティプラントは、現在は14日から均等割として世帯ごと月額1,000円、そして人数割として１人当たり月額1,300円を負担金として徴収をしております。これにより電気料及び施設の保守点検料、管理に関する簡単な修繕費等を支出しております。なお収支の状況から、最近では平成27年度に負担金の人数割の部分を1,000円から1,300円へと上げているような状況となっています。

地域内の世帯の状況ですが、平成27年度当初には、住民基本台帳上の人口ですが、こちらが55世帯134人であったものが、この令和６年の２月末の状況で46世帯98人と減少しております。この中でも老人施設等への入居者がおりますので、そちらを除きますと41世帯92人となっております。今後このまま人口減少が進めば、再度の負担金増額についても検討が必要となります。

また、地域内には17件の空き家が現在存在しまして、そのうち７件が放置された状況とな

っております。

そのほかにも80歳以上の一人暮らしが５件、二人暮らしは１件になっており、地区内の高齢化率は46.7％というような状況となっています。

一方で、外国人住民、先日もお話ししましたけれども、外国人住民が３世帯、今現在、空き家も購入とか借りるなどして人口増加があったこと。今年度に入り、一方で放置空き家が２件解体されるなどして、使用する世帯数にも不確定要素が幾つかございます。

肝心のそのし尿処理施設に関してですが、業者に確認をしたところ、今後２０年程度は使用可能であること、その間に今回入れ替えたばっ気ブロワというのが交互運転をしている関係で、もう１台に不具合が生じればその交換も必要であるし、施設内のほかの原水ポンプなどや配管などが修繕等の必要が生じる可能性はあるとのことでした。

あと今後の管理の財源として何がないかということで確認をしましたが、新規建設等に活用できる補助金というものは該当するものがございませんでした。またもし各戸に合併浄化槽を設置するというふうに変更した場合にも、浄化槽の補助金、市でもやっておりますが国県の補助金を活用して浄化槽設置事業費補助金というものですがね、こちらがコミュニティプラントからの変更に関しては少し該当にするのはちょっと難しい、可能性が低いという、該当にならない可能性が高いということで回答を得ております。

また、コミュニティプラントの新規建設により個別設置への変更のほうが、事業費は安価になる予想ではありますが、各戸の状況により、地区内見ていただくと浄化槽が入れられないそういうお宅がある可能性があるということで、確認をしながら進める必要があると感じております。

これらのことから奥の谷自治会とは今後について継続して話合いを持つようにお願いをしております。以上、今後の委員会の後の経過についての報告とさせていただきます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　説明が終わりました。質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。根本的にこの施設というのは、市の財産になっているわけですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　前回もお話をしたように、市の施設として、市の財産としてなっていますので、台帳のほうにも今回載せるようにということで、財政課と話をして決算書のほうには載るような手配をしております。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　私有財産ということになると、もう直すか直さないかというのは、基本的には行政側の判断だと思うのだけど、そのときに使用量が高いとか安いとかそれを別として見ても、今ここの人たちとは私有財産をどういう形で、何て言うのかな、委託契約なのか、お金もここだけでやっているみたいなもんで、どういう契約がしてあるわけ。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長です。

前回もお話ししたように、覚書においてし尿処理組合のほうで、その支出のほうは管理をするということで、その年間の運営状況というのは市のほうに報告をされています。大きな修繕というか、市のほうで処理をするような修繕が生じた場合には、その都度報告をしていただくような仕組みとなっております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑はよろしいですか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。そうすると、使用貸借っていうのが、要するに覚書っていうのはちょっとよく分かんないんだけど、要するに市の施設なもんで、当然、貸し付けるという形を取って、それが覚書になっているということ。その中に期間があったり、いろんなものが入っていると思うんだけど、覚書っていうのはちょっと意味がよく分からないんだけど、普通は公共施設の財産を特定の自治会に貸し付けるならそれはなんとか契約というのを結んでやっているというのは、そういう正規のものはなされているわけですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　覚書と言っても契約書と同じ形式を持っていて、契約書の意味を持つということなので、それはそれでいいとは思うんですけれども、ただその内容に疑義がなければ１年更新ということで、ずっと継続して、当初より継続されている契約となっております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　それともう補正予算で組んであって、先ほど言ったように予算組んであるので、今後のこともこれじゃうまくないと言われても、今言われたようなことはその時点で説明してくれればどうするかという話になると思うんだけど、事業とすると５年度に浄化槽を改修するということでは予算組んで執行しているということはもう、後ろの先ほど

言った選択肢というのは基本的にはないけどね、実際。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　その件に対しては、前回の話の中では、予算についてはそれがやること、契約上でこちらで払うことになっているということに対して合意をいただけていると感じております。ただ、今後について、そのコミュニティプラントの在り方ということはしっかり考えるようにということで御助言いただいていますので、それに対しましては新しい施設、見た目古い施設となっていますが、建設から時間がたって不具合も出る中で、まだ事業者に聞けばあと20年ぐらい猶予があるよという中で、新たにここでお金が発生するというよりはその認めていただいた以降のことで、今後の在り方について考えておきなさいということでしたので、地元とはそのコミュニティプラントを続けるのか、それとも個別の合併浄化槽に変えていくのかという選択というものを今後していく必要があるという岐路に立っているのかなと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　ということは、先ほど今この後のところで個別とはなんだかんだと言ったら、20年後の話ということでそういうことで、そういうことですよね。分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。じゃあコミュニティプラントの件は以上。

それでは、６年度予算のほうへ入ります。

それでは質疑を行いますが、はじめに事前通知を提出された委員の質疑から行います。質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

福祉課は１番目、内田委員から出ております。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。３款１項１目の社会福祉協議会、補助金が140万ほど伸びていますけど、この対応を教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

御質問の補助金増になった理由についてですが、運営費補助金のうち人件費部分が昇給により増額となったことによるものとなっております。

以上でございます。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑ありますか。よろしいですか。

２番目、渡辺委員、織部ひとみ委員から出ています。代表して渡辺委員お願いします。

○５番（渡辺　修君）　成年後見制度促進費でタブレットの９ページです。

１つ目が成年後見制度利用促進委員会の詳細を教えてください。

２つ目が５年後の後見人養成講座委託料が成年後見制度利用促進委員会設置業務委託料に変わり、大きく減額されているのが、詳細説明をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

まず１つ目の成年後見制度利用促進委員会の詳細についてですが、成年後見制度利用促進委員会は、委員会と検討会で構成しており、菊川市、掛川市、御前崎市の３市共同で運営をしております。

検討会は、成年後見制度を推進のために各市に設置された中核機関から用いられた、成年後見人に関する事例を弁護士、司法書士、社会福祉士を交え、検討するため毎月開催をしております。また、委員会では市民後見人の育成や成年後見制度の理解を進めるための講演会の開催、家庭裁判所との定期的な情報交換などを実施しております。

２つ目の令和５年度の養成講座委託料から利用促進委員会設置業務委託料への変更と減額の理由についてですが、今まで養成をした市民後見人が独り立ちをして活動を始めたことにより、令和５年度に菊川市、掛川市、御前崎市の３市で市民後見人養成講座を再度実施しまして、３市全体で６人、うち菊川市においては２人の研修修了者を確保することができました。市民後見人は各市の社会福祉協議会が行う法人後見事業により実績を積むことから、各社会福祉協議会で受け入れられる人員を考えまして、来年度令和６年度におきましては養成講座を行わず、利用促進委員会のみの実施となるため、委託料が減額となっております。なお、次回の養成講座の開催は令和７年度を予定しております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質問ありますか。渡辺委員ありますか。

○５番（渡辺　修君）　ありません。

○分科会長（小林博文君）　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。関連で質疑のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

では３番目、３名から出ています。代表して倉部委員。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。3款1項1目避難行動要支援者支援費、タブレット説明資料で10ページです。

①として、避難行動要支援者支援プランの推進方法について、モデル地区事業について説明をお願いします。

②個別避難計画について、具体的推進方法や優先順位の考え方を伺う。

③避難行動支援システム補修について、現在のシステムの補修方法について現在のシステム内容と今後の改善方法を伺います。お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

１つ目の避難行動要支援者避難支援プランの推進方法とモデル地区事業についてですが、避難行動要支援者プランの要めは、本人及び家族の避難行動に対する意識の醸成等、誰もが被災者となり得る中での地域の支援者の確保のための啓発であると考えております。来年度のモデル地区においては、グループワークなどを行いながら啓発及び個別避難計画の作成を進めていく予定でおります。

２つ目の個別避難計画の具体的推進方法についてですが、個別避難計画の作成は来年度のモデル地区事業などで成功例を積み重ねまして、検証データをよりスムーズな作成方法の紹介などにより推進をしていきたいと考えております。また、優先順位の考え方についてですが、居住地区におけるハザードの状況と避難行動要支援者自身の心身の状況や独居等の居住実態により、作成方法及び優先順位を決定します。なお、本市においては、頻度の高い洪水の危険性を重視して考えております。

３つ目の避難行動支援システムについてですが、現在のシステムは避難行動要支援者名簿の調整をメインに運用しておりまして、クラウド化はされておりません。次回、リプレイスにおいては、災害時に備えクラウド化するとともに、今後個別避難計画の作成を進めるに当たって、避難経路の記載も必要となりますことから、地図検索機能を用い、自治体情報システムの標準化、共通化により整理される市が持つデータベースからより効率的にデータを取り入れられるようなシステムを選定していきたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。倉部委員、再質問ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。モデル地区はどこですか。

○分科会長（小林博文君）　回答求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長です。

現在ちょっともめておりまして、考えておりますが、地区の民生委員さんと相談をしながら今選定中でございます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　モデル地区は幾つですか。

○分科会長（小林博文君）　吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

１地区と考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　モデル地区をつくってということですけど、これは１年間様子を見てほかに広げていくのか、少し、例えば夏まで様子を見てほかも広げていくのか、モデル地区もやりながらほかもやっていくのか、どういう形になるんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

できれば、同時進行ということも考えられるんですが、実際には地区を広げていくということはなかなか難しいと思います。そこではなくて個人で個別避難計画を作成できる方に対してどうしていくかということを、モデル地区を進めながら同時にそこのところを広げていければと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部。実際のところ小笠の東地区とかは、それこそマップに全部困っている方を落としたりとか、この間も菊川市防災審議会の人たちとワークショップをやったりとか、かなりやっている内容が進んでいらっしゃると思うんですけど、そういうところではやってもらえないんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

既にできているところも上げていくのか、それともなかなか進んでいないところも上げて

いくのかというところで、今現在調整中ですので、またその辺りは年度末までに整理をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今年度末ってことですよね。できれば先進とゆっくりとダブルでやったほうが比較対象できていいと思うんですけど、できているところは要はできているわけなので、そんなにこちらも手もかからないので、できているところの課題をもらってできていないところをやっていくというほうが効率的と私は思いますけど、いかがでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ございますか。よろしいですか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。３つ目のシステムの点なんですけども、クラウド化ということで、入力とかそういった部分で非常に便利になるというのが答弁で、入力というか管理ですね、が分かったんですけど、持っているデータを出力というか有事の際に実際に使うときに見る人とか、そういったところが何かしら改善されるのかなと思うんですけど、そういった部分はどんなふうな。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

今のところそこのところは、今当たっている事業者では出力のところまで賄えるかという事は、ちょっと対応していないと思われるので、まだ機種選定までに時間はありますので、その中でよりよく値段が折り合うようなところで決めていければと思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　ちょっとそれに疑問なんですけれども、そのクラウド化とか地図の検索とかがある中で、じゃあその出力のときは現段階では想定してはなかったのか、データはクラウドだけど出力のときは紙かなんかで出力するという考え方なのか、ちょっとそれについて伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

今現在は紙ベースでお渡ししているというのが現状でして、それに関してデータを飛ばせるかという問題がある。個別の機器にデータを飛ばせるかどうかまた別の問題になりますので、それについては機種選定の中で検討していければと思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。クラウドって多分一番のメリットというのは、どこからでもアクセスできるというのがやっぱり一番だと思うので、何かしらそういう業者さんもシステムもあるんじゃないかなと思うので、できたらアクセスする方もスマホとかパソコンでアクセスできるようなシステムっていうのは研究していただけたらと思います。

ちょっともう１個なんですけど、避難支援プランですとか個別計画をつくる中で、計画も重要なんですけど、一方で受入れる避難所というのも大事だと思うんですけど、支援プランの中で福祉避難所の直接避難ですとか、福祉避難所の機能強化ですとか、あと最後に一般避難所での要配慮者のスペースの確保ですとか、そういった部分の改善した部分があるのかちょっとお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

今回の避難行動要支援者避難支援プランの策定の中では、むしろ重度の方に対して、今まで各事業所さんは一時入所とかショートステイの制度を使うということをあまり前向きではなかったというところがありましたので、そういったところを国で示している内容を確認すると、そういう方は制度を使いなさいという内容がありますので、そこのところを広げて聞いています。うちのその福祉避難所の持ち方というのが、介護員がいるところに来ていただくという一時ショートステイのような、一時的な使用をするというショートステイのようなものというものとはちょっと違うんですね。その要支援者の方と御家族の方が一緒に来ていただいてということでしていますので、そこのところで何ができるかというような話合いは重ねています。これから福祉避難所の対象者については、その福祉避難所のイメージが対象利用者の方に伺うと、ショートステイのように使えるんじゃないかというイメージがちょっと違いますのでね、今ちょっと今年度から今年度末から来年度にかけて福祉避難所の在り方の検討をしていますが、その中でどういうふうにそれを啓発していくか、そういうようなことも同時に進めてはおります。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。そうすると、ちょっと分からなかったですけど、今後検討していくということなんですけど、ショートステイの可能性としては考えていくということなんですが、ちょとそれを……。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

福祉避難所のもともとの考えの中に、一般の避難所、今までは一般の避難所から直接一般の避難所から福祉避難所へということが基本となっていたところを、移し方、直接避難ということも考えに入れながらということになっています。ただ一方で、今までの福祉避難所の考え方でいうと、一般の避難所から病院に行かなきゃいけない方、あるいは施設に入らなきゃいけない方というのをそこで選別するというようなことになっておりましたので、そこら辺はちょっと分かりやすくしていく必要があると思っています。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。最後に１点。最初に一般避難所の部分での要配慮のスペース、ちょっとそれだけ、最後１つだけ。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

実は、一般の避難所の要配慮者スペースというのは、危機管理のほうで管轄をしております。一応、そういうスペースをつくらなきゃいけないとか、そういうスペースにどういう方が対象となるよと考えられるこういう要配慮者というのがあるよというところには、障害のほうも加わってお話はする部分があるんですが、そこのスペースの在り方というのは、申し訳ございません、こちらで計画するものではなくて、承知をしておりますが、以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　以上ですか。よろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　大丈夫です。

○分科会長（小林博文君）　織部ひとみ委員は。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連で、13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。掛川の特別支援学校があるんですけど、あちらの

ほうで利用している人たちは、直接そこに来れるようにこれからなるというか、今なっているというか、というふうになっていて、一般の方の受入れはできるだけしないといふうになっていると思うんですけど、その辺も考慮してつくられるということでいいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

配慮をして個別避難計画につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑よろしいですか。関連質疑ありますか。その他の委員の方からありますか。

時間になりましたけど、ここを福祉課の部分は終わらせたいんですけど。よろしいですか。自由討議まで終了したいと思いますので、続けて行います。じゃあ４番目、内田委員お願いします。

○１５番（内田　隆君）　内田です。簡単な話ですけど、戦没者遺族支援費のところで、新と書いてあったもんで、過去どうしていたのか、遺族会の案内状というのは今までどうしていたんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

御質問の遺族会向きの式典案内通知ですが、令和４年度より菊川市として新たな形での戦没者追悼式を開催しておりますが、令和４年度には一般の遺族会のお知らせを遺族会の連絡網により行わせていただいて、参加を募る形、コロナの関係もありましたのでそうした形で実施をしました。令和５年度については、同じように同じ形で行おうとしていたところ、遺族会からの提案によりまして、参加者を増やす目的で、個人宛にはがきにより出席案内を通知をしました。結果的に当日の悪天候の予報によって、式典が中止となったため効果は不明ではございますが、遺族会の要望により引き続き令和６年度においても個別の通知を行う予定としております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。５年度ははがきを使ったという、そうすると５年度は一般的な消耗でやったということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

５年度については、遺族会の予算のほうからそのはがきを出していただいております。ただ、本来であればこちらで用意するべきものとして、来年度につきましては、こちらの予算のほうに計上させていただいております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。よろしいですか。関連質疑ありますか。

５番目、渥美委員、織部ひとみ委員から出ています。代表して１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ27ページ、障害児通所支援について。

１、児童発達支援利用助成金の新設理由と自己負担金分の助成者数を伺う。

２、居宅訪問型児童発達支援費計上の理由を伺う。

３、児童障害児計画相談支援給付費625万1,000円の算定根拠は、令和５年度当初予算説明資料には310人分で、735万5,000円、令和４年度279人分、667万円で計上されていた。今回提出された予算説明資料では、令和５年度163人分、735万5,000円で計上されている事業内容や単価に変更があったか伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

１つ目の児童発達支援利用助成金の新設理由と助成者数についてですが、本事業は菊川市障害児通所支援（児童発達支援）利用助成金支給要綱により、令和３年度から子育て応援課が実施していた事業となります。年少児未満により保育料無償化から外れる親子通園の利用料につきまして、利用促進はなかなか障害の受入れも親子さんができない中、なかなか通うというハードルが高いことから、利用促進のため自己負担分の助成を行うというものとなっております。児童発達支援としては、サービスの事業費を福祉課予算により支出しておりまして、状況を福祉課で把握しやすいことから、令和６年度の事業文書を見直しにより福祉課のほうに移管することとしました。なお、対象者数は親子通園の菊川市分の定員が14人から18人程度増加しておりますので、18人と想定しております。

２つ目の居宅訪問型児童発達支援費の計上の理由についてですが、このサービスは重度の障害や医療的ケアにより、通所型のサービスが受けられない子どもさんが保育士等の訪問により療育を受けるものとなります。現在は利用者がいませんが、利用の検討を進めている該当者がおられることから計上をしております。

３つ目に障害児計画相談支援給付費625万1,000円の算定根拠についてですが、令和５年度の当初予算概要書で310人分としていた内訳は、実人数とモニタリング、その意見の計画策定に伴って、１か月ごととか、あるいは３か月ごととか、６か月ごとに行うモニタリングの報告分の延べ人数を合算したものとなります。モニタリング報告数を入れることでちょっと増加数が分かりにくくなっていたため、今年度から実人数での表記といたしました。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。

○１番（渥美嘉樹君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　大丈夫ですか。織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑ありますか。

では６番目、内田委員と織部ひとみ委員から出ています。代表して、内田委員からお願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。一部事務組合の負担金ですけど、過年度分担金調整金というのは今回初めて出てきているんですが、この内容をまず説明してください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

御質問の過年度分担金調整分についてですが、東遠学園組合の経費に対する構成市町の分担金は、東遠学園組合の規約により、その算定方法が定められています。算定は、均等割、人口割及び入所者、通園者及び利用者割で構成しておりまして、この人口割の部分は、予算の属する年度の前年の10月１日に現在における住民基本台帳に記録された人口とされております。

実は、平成24年７月９日に、外国人登録制度というのが昔はありましたが、それが廃止されまして、外国人住民についても住民基本台帳も適用対象となりました。ですが、法改正後も以前と同じく日本人人口のみにより算定を続けてきたことで、分担金の調整が必要となりました。そこで昨年度、令和５年度分の当初予算計上時点から協議を始めまして、地方税法と自治体が徴収する税や料金の構成処理機関に準じて、平成30年度から令和４年度までの５年間分を生産対象とすることを組合議会の構成市町で決めまして、令和６年度分の分担金と相殺する方法で生産を行うことと決めました。なお、菊川市は外国人人口が多いことで追加徴収されることとなっております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。再調整というのは要するに、24年７月９日から住基に変わったということは、どこの町も同じことだと思うんですけど、今回、外国人の人口が多かったから322万円増えたというのか、それとも24年の７月９日の住基の変更後においても、各市町村とも今までの住基どおりのことをやっていたというのか、そこはどっちなんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

計上において東遠学園組合でこの法改正を知らなかったことによって、日本人住基上の人口ということで、それを算定根拠として25年度分の計算からずっと継続してきました。実際には10年分なんですが、いろいろなものと併せまして５年分を徴収することということで、追加徴収というところが菊川市は分担金の考え方として総支出のところで足りない部分を３市１町で賄うという計算方法ですので、人口割、均等割、利用者割という部分の人口割の部分でいうと、菊川市が外国人人口が多かったことで322万円を追加で払う必要、その間に外国人がいたとして計算すると、それだけ追加して払う必要があった。代わりに掛川市では147万7,000円、これを返してもらう計算になりますので、来年度の分担金からそれだけを引いた金額で今回は計上をしているということで、ほかの市町は外国人人口の割合が低いことで追加徴収はありませんが、菊川市のみ追加徴収という形になりました。ということになっております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。そうすると、５年間分をもう一度全部をやり直しているということではなくて、あくまで昨年の10月１日のところの人数が、過去５年間同じ人数がいたという計算の中で住基の分だけを再計算しているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

各年の分担金なので、30年度は30年度でもう一度再計算をした上でその差額を出して、令和元年度も２年度も３年度も４年度もその５年間分を６年度の分担金から相殺して請求ということにしております。各年度、計算のし直しをしております。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。そうすると当面、要するに決算を打っちゃってある計算があって、そのものに対して今言ったように、それぞれ基本と住基と利用者割、幾つかようがあって、住基の分だけを全部もう一度、各年次の、従来でいうと外国人も入った住基の人数でもう１回再計算をして、それで積み上げた結果として、今度は菊川の場合については320万円出さなければならなかったということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　そのとおりでございます。

ですので、再計算をした。その決算額が変わらないように、その計算をし直して、その分は来年度のところで相殺をしたということになります。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　確認ですけれど、そうすると６年度に322万円払ったほかのところはその分この322万円に対して、掛川の場合は147万円少ないから、計算上少ない額で６年度の分担金を集めているということでよろしいわけですよね。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。

そうなります。菊川市は追加で徴収しているし、掛川市はそうではなくて、その分を引いた形で計上されているということになります。

以上でございます。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　私ちょっと理解できなかったので、掛川市の場合は外国人の分はもう既に入ってなかったということで。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。この計算をしているのが東遠学園でありますが、東遠学園自体が法改正を知らなかった、認識をしていなかったので、外国人住民を含まない日本人人口も教えてくださいと毎年度言っていた。そこを調整した結果、どこの市町も同じ条件で外国人人口が出されていない人口で計算をしていたところを、それを正したということになります。

○４番（織部ひとみ君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

関連で質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。

では７番目、私のほうから３款３項１目、生活保護費です。要求内容の19節になります生活扶助費、住宅扶助等、対象者数の増加の要因について伺います。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　はい、福祉課長です。御質問の扶助対象の増加の要因についてですが、令和４年度末に78世帯81人であった生活保護受給者は、令和６年２月末時点で92世帯105人となっております。これは、全国的にも令和５年の生活保護申請件数が４年連続で増加したとされておりまして、前年比7.6％の伸びであったという報道が最近されております。

厚生労働省では、コロナ禍や物価高騰の影響で貯蓄を切り崩す人が増加したことで、生活保護の申請が増加傾向が続いたと見ているということでした。

本市の状況においては、本市の生活福祉係の生活相談の窓口においては、高齢や傷病、それから障害などの理由別の集計を取っているんですが、その構成比に大きな変化はございませんが、様々な理由で仕事を辞め、貯蓄が底をついたため申請をしたという理由が増加していると感じております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　その貯蓄が底をついたというところになると、コロナの影響という特定はできないということですね。貯蓄が底をついたという理由というのは様々あるということでよろしいでしょうか。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。その理由というのは特定できない。ただ、状況によって仕事を辞められた方ということは共通しているかと思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　分かりました。

この件、関連で質疑ありますか。よろしいですか。

では、最後、８番目、渥美嘉樹委員から出ております。代表して１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　渥美です。タブレットページ43ページ、生活困窮者自立支援事業について、新規の就労準備事業とひきこもり支援推進事業について、具体的な内容を伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　生活困窮者自立支援事業は、自立相談支援事業と住居確保給付金

の支給というこの２つの必須事業のほかに、就労準備事業や、本市でもう既に取り組んでおります家計相談支援事業などの任意事業を、地域の実情に合わせて組み合わせながら実施するというものになります。

ご質問の就労準備支援事業の事業内容ですが、生活保護受給者や生活困窮者が就職活動を行うための生活習慣の形成、例えば睡眠と健康についてとか、生活リズムの改善の指導とか、日常生活訓練とかそういったもの、そして就職に向けた意欲の向上や、就職活動を行う前段に最低限必要な知識やマナーの習得、これは社会人基礎マナー研修とかコミュニケーション研修とかいうものですね、それから一般就労への就職に向けた技法や知識の習得、これは履歴書の作成とか、あるいはハローワークの同行支援とか面接同行支援、そういったものになりますが、などの支援を実施する予定でおります。

なお、本事業につきまして、当初国からの通知では、来年度から必須事業となる予定とされておりましたが、結果的に実施が努力義務とされた事業となっております。

次に、ひきこもり支援推進事業ですが、ひきこもりの状態にある方に対する見守り、発見、それから相談から適切な制度につなぐなどの支援体制づくり、また居場所づくり、家族への講演会、家族交流会などの生活の支援をするもので、就労準備支援事業などと組み合わせて実施する予定です。

障害者手帳を既に取得している方などは、障害福祉サービスにつなげることで就労を導くことができるんですが、持たない場合のはざまの事業としても、この就労準備支援事業と組み合わせて活用できると考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

再質疑ありますか。1番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。非常に重要な事業だと思うんですけども、一個聞きたい。国が必須事業になるというのがあったと思うんですけど、この事業を新しく始めるに当たって、何かそういう対象者ですとか背景とか、そういったものがあればお伺いいたします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。もう既に生活保護の方でも生活困窮者の方でも、就業の支援というものは既に行っている中で、やはりそれこそ履歴書の書き方とか、マナーであるとか、生活習慣というところがネックになっているというのが日頃から感じて

いるところですので、そこのところを補完できる事業になるようにしていくべきかなということは考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

再質疑ありますか。赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。就労準備事業と、もう１つひきこもり支援。最近の年代別で数字的にはどうでしょう、増えているのか、大体例年一緒ぐらいの数か、大体でいいですよ。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。吉川福祉課長。

○福祉課長（吉川淳子君）　福祉課長でございます。数字的に取りまとめたものはちょっとないんですが、例えば生活保護に至っている状況の中で、ひきこもり状態であるということが一つのキーになっている方が増加していると感じております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

関連で質疑がありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。こういう支援事業が返済時期が始まってきているかと思うんですけれども、その辺の問題点というのは今把握されていますか。

そして、令和６年度に予算化というのがされているでしょうか。返済。こういう支援事業でね300万円ぐらい融資しているじゃないですか。

○分科会長（小林博文君）　ちょっと違います。

○福祉課長（吉川淳子君）　社協の関係の貸付けの関係とか、若干違います。

○分科会長（小林博文君）　そのほか関連ありますか。よろしいですか。

以上で、事前通知による質疑を終了します。

福祉課関連で質疑のある委員は挙手をお願いします。よろしいでしょうか。

それでは質疑なしと認め、質疑を終わります。

執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の市長提出議案に関して審議し、結論を出す場合、委員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとするとの規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

避難行動の支援プランの質疑があったかと思いますが、ご意見のある委員は挙手の上、発

言をお願いいたします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　この避難行動の要支援者のプラン、前から言っているんですけど、遅々として進まずというところで、今回少し進むようにはなっているんですけど、さっき質疑したように、モデル地区やって、それ様子を見てからまた来年みたいな、ちょっとゆっくり過ぎるんじゃないかなと思っていまして、本来、本当に必要な人というのはすごくたくさん実はいなかったり、特に例えば寝たきりとか、本当に誰かに助けてもらわなければいけない方、あと家でヘルパーとか頼んで見ているような方とか、家では見えないような方から優先して決めていかないと本当はいけないと思うんですが、地区じゃなくて、本当に必要な人からやっていかないと、本当に今来たら、じゃあその人たちどうするんですかという話だと思うんですね。当事者の方から、やはりケアマネを頼まず自分たちでプランを立てていく方は、うまくここに入ってこないらしくて、私たちどうしたらいいんでしょうかというお話も実際受けているので、私はじゃあ地区センターに行けばいいんですか、地区センターに行って待っていて、いろんな機器が要るので、それでどうするんですか、けやき行けばいいんですかとなっているわけなので、要る人からどんどんつくっていくべきで、福祉避難所も本来決めてはありますけど、実際そこの施設にいる方とか普段利用している方がいて、じゃあ職員皆さん避難してきて、突然増えますかといったら、逆に少ないぐらいですので、じゃあ本当に受入れできるんですかという、まずそこからやっていただかないと、取りあえず決めておいても、今までほかの災害でも、福祉避難所と決まっていてオープンできたところはほとんどないというのが、特にここんとこは実態です。なぜかというと、支援する人がいないからですよね。そこの辺を見ながらやっていかないと、地区で云々かんぬんとかいうよりは、本当に要る人がどれだけで、その人たちをどうするか、体育館じゃなくて直接病院ないし介護施設に連れていって、じゃあ後どうするかというところからやっていかないと、ちょっと厳しいんじゃないかなと思うので、モデル地区つくって、のんびりやっている場合ではないと私はちょっと感じていますので、進め方が少しどこを対象にやるのか、とにかく要支援になっている方全員を対象なのか、どうしてもという方だけどんどん決めていくのかというところが、ちょっと詰めが甘いような気がしています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　どうでしょうか、そのところ。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。内田委員が戦没者の質問をしておりますけども、やっぱり平和都市宣言をしている菊川市がですね、この戦没者の慰霊ということでやっては

いるんですけども、これをやっぱり平和活動につなげるような事業にしていかなければということで、以前私も提案をしたことがあるんですけども、一向にそういった考えを執行部は持たない、やらないということでですね、これでいいのかという疑問を感じていますので、一つ考えてもらいたいなと思っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　避難等の支援プラン、その他でも大丈夫ですが、皆さんからご意見ございますか。よろしいですか。そのほかございますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。支援プランなんですけど、倉部委員の言うとおり、いろいろ課題があるので、やっぱり議会としても確認したり、あとは執行部には実効性のあるものにしていただきたいと思います。

また、システム改修なんですけど、やっぱり今クラウドって、セキュリティの面でもかなり強化されている部分があるので、何かしら何かいいものがあるとは思うので、そこら辺もしっかりとＩＴの部分も研究していただきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　ちょっといいですか。今の件で、能登へ行った職員の方から、もうクラウドのデータがあるんで、あっちのほうは。タブレットのほうも、やっぱりああいうことがあると、メーカーからタブレット等を援助で渡されるんですね。そうすると、もうそこへクラウドになっていれば乗っかってこられるので、そこがすごく重要で、職員の方が言っているのは、そういう面で自分たちもやっぱりそういう知識というものがないといけないし、市としてもそういう、住んでないけど行ったらそういうことがあったんで、菊川市でも災害があれば、もういきなり渡されて使い方に困って持て余していたら大変なんで、そういうところをやっぱりデータ化というので、クラウドというところでやればすごく重要だと思いました。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。先ほど障害者の話も出てましたけども、国策でですね、東遠学園のように学校関係のところまではあります。しかし、あそこを卒業した方、成人者ですよね、その方々の国策、法律がない、非常に今民間に頼っているということでですね、いろいろな問題が出ております。認知症と違って、障害者の方を残して親は死んでいくという問題があるものですから、やはりこの辺のところを単費を使ってやっていかなければならない。今回、令和６年度広域で協議会を発足するとかということも決まってはいるようですけど、やはりそういったところに関心を持って我々議員もいかなきゃいかんのかなと、

そんなふうに思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　質問した内容とちょっとつなげられない。

そのほかございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　要支援というとこなんですけど、それこそ本人の承諾がなければ分からないという、いわば乗らないと。要するにデータ一つにしても乗らないというのが現実の話みたいで、だけど、何かあったときにはどこで誰がどうしているというのが全く外に、うちの前にも１人いるんですけども、全然そんなことをやってくれなくても結構だと言っている。どこにいつも寝泊まりしているかも分からない。元気な、元気と言ったらおかしいけど、本当に分かっている人は頼りにしなきゃいけないと思っているみたいですけど、そうでない人はなかなか行政を頼りにして、それをオープンにしていいという話になっていかないもので、いろんな形をつくっても、本当に最後のときにうまく実態に合ったような支援施策がとれるのかなというのが、非常に疑問に思っているんですけどね。皆さんもこういうふうにできればいいと思っているかどうかその辺分からないんですけど、本当に困っているというのはおかしいですけど、支援しなければいけない人が、何となくこういう土俵に乗ってきてくれないという結構実態があるみたいな感じが非常にしています。ですから、いざ出陣のときに、みんな置いていかれちゃうじゃないかなというふうに本当に思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　もっとありますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　私も民生委員９年やらせてもらった。あの時代には、高齢者のお宅に行っても、どこへ寝ているとかまで教えてもらって、そういうのを書き込んで、自治会の民生委員台帳に落としたときがあったんですけど、今はもう個人情報だなんだといって、なかなか入っていけないので、行政も大変だなと思うけども、犠牲者をなるべく出さないようなことを、ぜひ市としても積極的にやっていただきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　ただいまの課長の話ですと、その辺、個人情報ってもうなくて大丈夫ですという話であったんです。自治会のほうがまだ思ってるのかなと思ったんですけど、その辺もやっぱり重要ですよね。

○１０番（赤堀　博君）　市として、出してくれない人の情報を持っているんですけど、自治会へは渡さない、了承してくれた人だけ。市は持っています。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　結局、じゃあどうしますかというと、結局近所の人が助けてくれる以外に、たくさんいらっしゃるわけで、じゃあ救急車要りますかと、無理なので、結局自主防、特に自治会の自主防の中できちっと把握しておいて、さっき言った小笠東地区ですけど、本当にみんなで集まって、ここに全部この家この家この家こうやって、全員で把握してるわけですよね、地域の人たちが。それをやらないと、幾ら何とかつくって取りあえずその人来てくださいと。その人行けるかどうかなんていうのは、来てしまったら、今回の能登を見ていれば分かるので、本当に近所の人であの隣の誰々さん、寝たきりだからどうするのかということをやっていかない限り無理なんですよね。何か計画だけつくって、形ばっかり整えても、実際と本当にかみ合ってこないのかなと。うちのところ、マイタイムラインと私のダブルになっているんですけど、水害が危ないからって言うんですけど、マイタイムライン、水害のことだけですね。私の避難計画は、一応両方書いてきてということになってるので、今までマイタイムラインやってたんで、私の避難計画はちょっとだんだんやりますみたいになっているんですけども、だから、どっちにするのかはっきり決めて、本当に全世帯やってくださいぐらいやっていかないと、一般の方もそうだし、特にこういう福祉の関係のある方というのは、ケースに言ってくれないから分からないとかという話ではないですので、まあアパートとかなってしまうと、本当に把握はできないんですけれども、やっぱり自助共助ができる体制をやるしかないみたいな、やってもらうしかないので、やっぱり一番分かっているのは近所ですよね。内田さんがおっしゃったみたいに、うちはいいからいいからと言われちゃえば行けないんですけど、それはそれでもう仕方がないわけですので、とにかく助けてと言ってくれている人を助けられることからどんどんやっていったほうが、何か全部つくっておいて順番にやっていこうじゃなくて、もう端からどんどん手をつけていって、じゃあ各自治会とか地区でもうそういうのは進めてくださいよと、そこがやりやすいやり方をやってもらうのが一番いいわけで、こっちで決めたのをこうやってやりなさいと言うからみんなやらないので、自分たちで、じゃあどうしますかということを考える機会というのをつくっていっていただくことも、危機管理と相談しながらやってもらわないといけないのかなと、皆さん自分事にしてもらうというのが一番ここは大事と、この能登のことがあって、余計皆さん今考えている時期ですので、そういう振り方していくべきじゃないかなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　今小笠東地区の話に出たんですけど、そういうのができるのって、一

人の中心人物が動き始めて、みんながついていくんですよ。その今の話と、防災も今度防災委員の真ん中になった人が、その同じ地区に住んでいて、その中心人物と。それで、毎月防災委員を全部定例会で集めて、問題点とか、それこそまたマップを作って、先ほどのマップと連動させるようなことも考え始めてくれているということで、ああ、こういう人がいれば安心だなというのは思いますけどね。やっぱりそういうモデル地区というのを、やっぱりこんなことをやっているよというのを伝えれば、例をたどっていくのは簡単なので、それが全部に回っていけば、自治会長とかそれを全部マップにして、また全部大きい模造紙を地区に持っていって広げてやるんですけど、大変だとは思うけど、やっぱりやり始めると、引き継ぎで普通にみんなができていくようになるので、各地区、モデル地区は先進のところの例を上げていけばいいなと思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。よろしいですか。

それでは、以上で福祉課の予算に関わる審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を基に分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。

分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

それでは、ここで13時40分までいいですか、半まで。長寿課が１件だけなので、そこでちょっと挽回できるかな。５時には終わると思います。じゃあ、13時40分からでお願いいたします。そろい次第始めます。

休憩　午後　０時４０分

再開　午後　１時４２分

○分科会長（小林博文君）　それでは、休憩を閉じて会議を再開し、健康づくり課の予算審査を行います。

初めに、諏訪部健康福祉部長より出席者の紹介をお願いいたします。山内健康づくり課長は欠席となっております。諏訪部部長、お願いします。諏訪部部長。

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　本日の出席者ですが、健康づくり課主幹（ワクチン接種担

当）の黒田と、それから、健康づくり課の成人保健係長の山田でございます。よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　お願いします。

それでは質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。４款１項１目医療救護費、タブレットの説明資料は66ページです。

１、医療材料費の増額理由は、２、ボランティアナースの登録状況について、どのような方が登録されているか、登録数の目標は、お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　成人保健係長　山田です。倉部委員と渡辺委員のご質問にお答えします。

１つ目の医療材料費の増額理由についてですが、これは、救護所に配置された救急医療資材の中で、令和５年度は１年更新と、プラザけやきの輸液などの更新でしたが、令和６年度は、１年、２年、６年更新と、家庭医療センターの輸液などの更新、雑品セットの２年、４年の更新を実施します。交換時期が令和６年度に重なったものが多く、増額となりました。

２つ目のボランティアナースの登録状況について、どのような方が登録されているのか、登録数の目標はについてですが、現在の登録人数は、看護師や保健師の資格を持つ方19人です。登録者の内訳としては、開業医や病院、企業や施設へ勤務されている方が10人、市役所の会計年度任用職員等で勤務されている方が４人、在宅の方が５人となっています。

登録者数の目標は、令和７年度に17人としており、人数は既に達成しておりますが、災害等有事の際を想定すると、可能な限り多くの登録者が必要と考えており、引き続き、医師会や看護協会、近隣市等と連携して確保に取り組んでいきます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。大丈夫です。

○分科会長（小林博文君）　渡辺委員、再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　大丈夫です。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連で質疑はありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃ、２問目。渥美委員のほうからあります。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ70ページ、新型コロナウイルスワクチン予防接種費について、１、ワクチン接種の時期及び周知方法を伺う、２、ワクチン接種の自己負担の方針を伺う、３、看護職員及び一般事務員の事業内容を伺う、以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　渥美委員のご質問にお答えさせていただきます。

１つ目の新型コロナウイルスワクチン接種の時期及び周知の方法についてですが、接種の時期につきましては、現時点での国の説明におきまして、65歳以上の方及び、60歳から64歳で対象となる方には、重症化予防を目的に令和６年の秋冬に定期接種として行われます。令和６年４月１日以降で定期接種の時期以外にも任意接種として受けていただくことができますが、その時期等の詳細は未定です。

周知につきましては、ホームページや広報菊川、茶こちゃんメールなどの活用、チラシにより関係機関と連携した情報発信に努め、より多くの対象者に伝わるように取り組んでまいります。

２つ目の新型コロナウイルスワクチン接種の自己負担の方針についてですが、国の説明会などでは、定期接種に係る費用は7,000円と伝えられましたが、任意接種に係る費用は示されておりません。

現時点で、定期接種はインフルエンザワクチン接種と同様に、本市の公費負担の下に、一定の自己負担をしていただくことになると考えております。

今後、国からの説明を基に、補助などについては、近隣市の状況や医師会への相談もしながら検討を進める予定です。また、任意接種につきましては、全額自己負担になると考えております。

３つ目の看護職員及び一般事務員の業務内容につきましては、看護職員は、主にワクチン接種に係る電話や窓口相談、一般事務員は、主に令和５年度の接種実績に基づく支払い事務や接種記録のシステム入力、付随する書類整理及び、令和６年度中の接種事業に係る調整事務支援、各種証明書の発行などを予定しております。

なお、看護職員につきましては、保健師の採用を予定しております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。まだ詳細が決まっていないようなことが答弁で分かったんですけど、大体、具体的に決まってくるのがどのぐらいになってくるのかというのをちょっと伺えれば。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　私どもも市民の皆さまに早くお伝えしたいものですから、静岡県ですとか、そこを通じて問合せはしておるところです。

はっきりする時期というのも、僕らのほうも国のほうからは、しかるべきときが来たら自治体説明会でお話ししますということしか聞いておりませんので、そうはいっても、任意接種が４月１日からということで国のほうもおっしゃっているものですから、近々そういった説明会もあるんではないかなと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。ちょっと詳しくて申し訳ないんですけど、一遍じゃったって、なんかイメージだと、病院にそのまま行ってやるってイメージなんですけど、コロナ、秋冬はまた別だとして、コロナの任意接種というのは、そこへ市が絡むということになるんですか、ちょっとそこら辺が。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　令和６年以降のワクチン接種につきましては、これまでのように集団接種とか、私どもが絡むということはもうほぼないという形で、それぞれ個別の医療機関のほうにお任せするような形になります。

ただ、有益な情報につきましては、私どもを介して医療機関のほうに届くようなこともありますけど、接種については個別の医療機関でお願いすることになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。ちょっと、③番のところに関連するんですけど、それ、ちょっと答弁にあったかもしれないんですけど、その病院ということになると、そうしたらその看護職員さんとか一般事務員さんはどういう作業とか、病院に任せれば要らないの

かなと思ったんですけど、その辺がちょっと、すみません、もう一回。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　看護職員、先ほど保健師ともお伝えさせていただいたんですが、やはりワクチン接種にかかりましては問合せ、やっぱり接種に関して情報が必要な方、打った後に、打った後の状況で副反応的な相談ですとか、そういった相談がやはり窓口ですとか電話では、やはり今の時期でもそういったことに連絡が来ています。そういった方の不安を和らげることと適切なアドバイスは、やはり続く限りは必要でありますので、そういった面で保健師の方につきましては必要になってきます。

事務員さんにつきましては、やはり、これまで接種事業に関しましては、多くの事業、事務を発生しておりますので、令和５年度のそういった残務といいますか、そういったものと、令和６年度が速やかにいくように、そういった実務の部分、事務、書類整理だとか確認チェックですとか、そういったものを主にお任せするような形で考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。

○１番（渥美嘉樹君）　以上で。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。一つ、初期の頃、すごい冷凍庫が必要とかって話があったんですけど、それは、今は必要なのかどうかと、あと、本当に、実際打った人が効いているのかっていうのを、僕は皆さんから聞かれて、打って効くのって聞かれるんですよ。それに何て答えていいのか分からないのと、市内で、これ、言っていいかな、ワクチンで亡くなった方はいませんかって、これ、本当に聞かれるんですよ。何と答えていいか分からないので、もし、あったらお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　まず、ワクチンの冷凍庫というのは、保管用の冷凍庫ということでよろしいでしょうか。

○５番（渡辺　修君）　はい。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　こちらのほうは、ワクチンのものにもよるんですけれども、マイナス75度の特殊な冷凍庫とか、マイナス25度というものがあるんですが、令和６年４月１日以降、今のところ一つだけワクチンの情報であるのは、ファイザー社のワクチンの情報がございます。そちらのほうは冷蔵保存の状態で10週間というこ

とで、出荷してから10週間もつということですので、そういったものを扱っていただければ、個別の医療機関さんでも対応可能ではないのかなと思っております。

２つ目に、本当に効果があったのかどうかというところなんですが、そこは、私も専門的なところで何とも言えませんが、今、予防効果と重症化予防ということで、仮に、そこもなかなか、一定の効果は出ているものと私は思っておりますが、本来、コロナにかかってしまったとしても、熱が短い時間とか日数で済めば、かかってしまっても効果があったとか、その人の感覚によってしまうかもしれませんが、効果はゼロではないと思っております。

それから、亡くなった人はいたかということなんですが、私どもが聞く範囲では、ワクチンの影響で亡くなったというお話は、市内では聞いておりません。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　ここでいいです。ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　そのほかに関連質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけども、ウイルスに関しては、インフルエンザも言えると思うんですけども、予防接種の数というのを把握されているんですか。予防接種をした方の数というのは。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　新型コロナワクチン以外にもということでよろしいでしょうか。

○１２番（織部光男君）　だから、インフルエンザの。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　インフルエンザ。数のほうもちゃんと把握しています。

〔「病院でやったやつも全部……」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　引き続き、黒田主幹、どうぞ。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　今のところですが、実績が出ているのは令和４年度が今、最新となります。高齢者インフルエンザの予防接種、こちら定期接種のほうになるんですが、令和４年度ですと、接種されたのは8,325人、接種者は8,325人、失礼しました、対象者から申し上げます。対象者が１万3,312人、接種者が8,325人、接種率は62.5％ということになります。

○１２番（織部光男君）　これは、子どもも入れてという。

〔「高齢者」と呼ぶ者あり〕

○１２番（織部光男君）　高齢者だけですか。

〔「補助対象」と呼ぶ者あり〕

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　定期接種会場で。

○１２番（織部光男君）　普通で、医院に行って打っている方のは把握されていないんですか。そういうのは。

○分科会長（小林博文君）　諏訪部健康福祉部長。

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　健康福祉部長です。任意で接種する方については、もう全て病院にお任せしていますので、その数は把握しておりませんで、小さい子どもさんも自由だと思うんですけど、65歳以上の方については、一部障害者の方も入りますが、65歳以上の方については、市から補助を出しておりますし、それで把握をしております。

以上です。

○１２番（織部光男君）　ありがとう。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１２番（織部光男君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、ありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、３問目に行きます。赤堀委員から。

○１０番（赤堀　博君）　タブレット71ページの病院費です。急患診療所負担金450万円ほどの減額は患者減を予想しての予算か。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　成人保健係長です。赤堀委員の急患診療所負担金450万円ほどの減額は患者減を想定しての予算か、の質問にお答えします。

急患診療所の負担金は、運営事業費から診療報酬を差し引いた額を掛川市、御前崎市、菊川市の３市で、患者数割合で負担割合を決定して算出しています。そのため、今回の減額については、令和５年度と比較し令和６年度の患者数の増加に伴い、診療報酬が増加することが見込まれることから減額となっています。

以上でございます。

〔「診療報酬が見込まれる」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　関連質疑はありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、４番目、織部ひとみ委員になっています。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部ひとみです。４款１項６目の精神保健事業費で、タブレットページの73になります。その中のゲートキーパー養成講座の、このたびは予算の中に入っていないんですけれど、講座の内容を伺いたいです。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　織部委員のゲートキーパー養成講座の内容説明のご質問にお答えします。

ゲートキーパー養成講座は、健康づくり推進委員への研修や、市民皆さまへの出前養成講座等により、自殺の現状や国などで行われる自殺対策、自殺に至ってしまう方の心理背景や自殺の危険因子、自殺を防ぐための防御因子について学んでいただく内容となっております。

そして、参加者自身がゲートキーパーの立場として仮定し、自ら考えていただく機会を設け、悩んでいる人に気づき、必要な支援につなげ、見守ることができる人への養成に取り組んでいます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部ひとみです。すみません。出前講座の開催数というのは決まっているんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　山田です。開催メニューってご存じですか。

○４番（織部ひとみ君）　なんか、ここで開催って、今、これ、内容の中に開催と書いてあったもんですから、年何回かやるというふうな予定があるんでしょうか。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　はい。昨年はあまり件数がありませんで、年１回であったと記憶しております。

ただ、出前講座のメニューの中には入れておりまして、ぜひ、皆、呼んでいただきたいということで、出前講座のメニューは「あなたも心のサポーター　お聞き上手　つなげ上手」というメニューでやっております。

また、今後、広報やＳＮＳ等で募集をして、働く世代の方等なので、企業などにも周知をして、講座を実施できるように再度予定しております。

以上です。

○４番（織部ひとみ君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。よろしいですか。関連で質疑ありますか。12番　堀部光男委員。

○１２番（織部光男君）　出前講座というのは、こちら側が呼ぶんですよ、市民が。市民が、開催をしてくれと呼ぶんです。それで、県にも出前講座あるんですけど、この前も添加物のことの出前講座ないかと言ったら、ないんですね、もう、政府に反対するような。

○分科会長（小林博文君）　関連ですか。

○１２番（織部光男君）　だから、そういうものを取り入れてもらいたいというのが、私のほうの要望ですけどね。

○分科会長（小林博文君）　自由討議でお願いいたします。

〔「よろしく」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　関連質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。じゃ、次に行きます。

５番目、渡辺委員と織部ひとみ委員からです。代表して、渡辺委員、お願いします。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。タブレットの74ページ、健康増進事業費ということで、その中で、アエル市制20周年記念事業の内容はということで、それとあと、チラシが出るそうですが、どんなチラシでしょうか。

以上、お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　渡辺委員と織部委員のアエルでの市制20周年事業の内容は、のご質問にお答えさせていただきます。

令和６年度に市制20周年を迎えるに当たりまして、全庁的に記念事業が企画されている中で、健康づくり課では、農林課、茶業振興課、菊川病院との連携により、菊川健康フェスタと題して、令和７年２月の24日月曜祝日の開催を予定しております。

事業内容ですが、健康増進に係る協定先、杏林堂様、明治安田生命様などの企業との連携による健康チェックや相談に加え、健康な生活を維持するために地場野菜の販売などにより、

食を通じた健康づくりの普及と啓発を図ります。

また、講演会につきましては、菊川市立総合病院が担当となり、講師として、菊川病院の医師だけでなく特別講師も招いて、菊川病院と市民の皆さまが交流を通して、健やかではつらつとした人生を送れるきっかけとします。

また、ご質問にありましたチラシの件ですが、まだ、こちらのほうは事業のほうの最終的な詰めをしながら、皆さま方によく伝わるチラシのほう、それぞれの農林課ですとか、茶業振興課、菊川病院さんたちと、よりいいものをつくっていきたいと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。渡辺委員、再質疑ありますか。渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。参考までに、この中でやるんですよね。室内です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　渡辺委員のおっしゃるとおり、小ホール、大ホール、あと、近くにある会議室と、室内でやる予定で考えております。

○５番（渡辺　修君）　大ホールもある。すごいね。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　大丈夫です。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。織部ひとみ委員はよろしいですか。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　関連質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

では、６番目、渥美委員から出ています。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ76ページ、総合検診費について、１、会計年度職員報酬86万円、パートタイム職員期末手当47万円増額の理由を伺う、２、がん検診の令和５年度の実績を伺う、また、令和６年度の受診率向上のための取組方針を伺う、３、希望の虹プロジェクトが無料配布している受診勧奨資材について活用方針を伺う、以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　成人保健係長　山田です。渥美委員のご質問にお答えします。

１つ目の会計年度職員報酬86万円、パートタイム職員期末手当47万円増額の理由についてですが、令和５年度において、健康増進事業の需要増加に伴い、総合検診の対応、電話や窓口対応のために、会計年度任用職員の勤務時間を４時間から７時間に変更することについて、９月補正予算でお認めいただいたところです。令和６年度も引き続き、健康増進事業、総合検診事業の充実を図るため、会計年度任用職員の勤務時間を７時間とすることから、令和５年度予算要求時の４時間勤務と比較すると、報酬と期末手当が増額となります。

２つ目のがん検診の令和５年度の実績と令和６年度の受診率向上のための取組方針についてですが、がん検診の令和５年度の実績は、がん検診自体は１月末で終了しておりますが、令和６年３月末までに検診機関からの報告を頂くようになっており、令和５年度の実績が確定するため、現時点では確定に至っておりません。現時点では、令和４年度と比較すると同等程度になる見込みです。

また、令和６年度の受診率向上のための取組方針については、がん検診などの対象となる節目年齢の20歳、30歳、40歳、60歳の女性と40歳、60歳の男性、また、過去５年検診の申込登録がない65から69歳の方に通知にて受診勧奨をしております。

そのほかに、検診申込みをしたにもかかわらず未受診であった方への再勧奨、広報、茶こちゃんメール、市公式ＬＩＮＥでの受診勧奨、健康づくり推進委員及び医療機関等との連携として、かかりつけ医の医師から受診を進めていただくように、受診勧奨のポスター掲示とチラシの配布を小笠医師会菊川支部の先生にお願いしているところです。

以上、これまでと同様に実施し、令和６年度はさらに、「茶ちゃっと！出張健康チェック」など、健康増進事業において、対面での受診勧奨機会を創出します。

３つ目の希望の虹プロジェクトが無償で配布している受診勧奨資材の活用方針についてですが、現在、本市のがん検診受診勧奨は、感染症予防事業等国庫補助金要綱に規定される新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業として、財源を確保しつつ、当該要綱に沿った勧奨通知などとの内容の精査や、受診しやすい環境づくりに配慮し実施しております。

例年４月に、節目年齢などの方を対象に受診勧奨通知を発送しておりますが、勧奨資材のデザインを無料で受けることができる希望の虹プロジェクトの活用は、これまではしておらず、令和６年度予算においても、リーフレットの印刷費用も見込んでおりません。

しかし、受診勧奨通知については、ナッジ理論を活用した内容にしたり、無償のリーフレットを配布したりして受診勧奨を行っております。

受診率向上を図るためには、伝わるメッセージが大切ですので、様々な資材の活用や受診

率向上の取組を研究し、実施方法については更新していきたいと考えます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。実績の部分なんですけど、令和４年と、まだ令和５年が出てないということで、同程度ということなんですけど、令和４年がどんな感じだったか、ちょっと聞いてみたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　山田成人保健係長。

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　替わります。

○分科会長（小林博文君）　諏訪部健康福祉部長。

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　健康福祉部長です。今年、ちょうどスグラパグラフを策定している年なんですけれども、一つずつ申し上げると、胃がん検診とかですけど、令和４年度の通知になりますけれども、胃がん検診の受診率が6.3％、大腸がんが11.9％、肺がんが9.4％、子宮頸がんが18.5％、乳がん検診が24.0％、以上です。

決して高いほうではないかもしれませんが、いろいろ職場で受けている方もいらっしゃいますので……

〔「そっちが入るんか」と呼ぶ者あり〕

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　そちらの数値までは入っていませんが、来場者に対し、市で検診を受けた方というふうな数値になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。この、やっぱりがん検診といえば、すごい重要というか、それでがんが見つかって、本当に命に直結する大事なことなので、やっぱりパーセンテージを上げていくということが非常に重要かなと思うんですけど、先ほど、ナッジ理論ですね、そういった工夫をされているということだったんですけど、何かそう工夫をしていく中で、やはりパーセンテージを上げていくという考え方だと思うんですけど、何か目標みたいな考え方とか、そういったものが設定されていて、それに向けてやっていくということになっているのか、ちょっと最後にそれを伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。諏訪部健康福祉部長。

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　健康福祉部長です。それこそ、スグラパプランで医療地位

というものを決めさせていただいていて、今回のスグラパプランは10年間ということでかなり長くて、令和17年度までになるんですが、今までの現状値を踏まえての数値になりますが、胃がん検診につきましては6.6％以上、大腸がんにつきましては12.5％以上、肺がんについては9.9％以上、子宮頸がんは19.5％以上、乳がんについては25.5％以上ということで、劇的な大きな目標値にはしておりませんけれども、徐々に増やしていく形でという目標をプランでは立てております。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　以上でよろしいですか。関連で質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃ、７番目、渡辺委員と私から、代表して渡辺委員のほうからお願いします。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　タブレットページの77、介護者リフレッシュ事業費ということで１つ目、12節委託料の県支出金が前年度事業費14万4,000円のうち７万1,000円に対し、本年度事業費７万9,000円のうち７万8,000円となっているが、補助内容の説明を、２つ目が、難病患者介護家族リフレッシュ事業の回数が12回から６回に減っているが、その理由はということでお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　渡辺委員のご質問にお答えします。

１つ目の12節委託料の県支出金が前年度事業費14万4,000円のうち７万1,000円に対し、本年度事業費７万9,000円のうち７万8,000円となっているが、補助内容の説明を、についてですが、この件につきましては、おわびを申し上げます。

当該予算科目について予算要求及び予算査定の過程において、歳出予算要求額の減額時、同時に、歳入予算要求額の減額をすべきところを失念してしまいました。そのため、正しくは本年度事業費７万9,000円に対し、県支出金は２分の１以内で３万9,000円でございます。このたびの事務ミスにつきましては大変申し訳ございませんでした。

令和６年度の進捗状況、実績に応じて補正予算により対応させていただきたくお願い申し上げます。

〔「補正するって」と呼ぶ者あり〕

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　はい、申し訳ございません。

２つ目の難病患者介護家族リフレッシュ事業の回数が12回から６回に減っているがその理由は、についてですが、難病患者介護リフレッシュ事業における申請は、令和５年度に１件ありましたが、対象者が入院したため、事業の利用には至りませんでした。

過去３年の利用実績は、まだ２件となっており、予算要求時点においても新たな相談がないことから、これまでの実績を加味して回数を減らし、予算要求したものです。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。渡辺委員、再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　ないです。いいです。

○分科会長（小林博文君）　私のほうから。１問目のほうが、ということは、県の補助率は２分の１というところが補正で出るということで、制度としては２分の１が補助率というところでよろしいでしょうか。答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　おっしゃるとおりで、２分の１が県の支出金となります。

○分科会長（小林博文君）　分かりました。これは、じゃ、６月に補正して、これはまた頃合い見て。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　補正の時期につきましては、こちらの申請の状況に応じまして、６月か９月か、またそのときには委員の皆さまにもご審議いただきたいと思いますので、またよろしくお願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　分かりました。私からもありません。関連で質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。

続いて８問目、倉部委員、織部ひとみ委員から出ています。13番　倉部委員、お願いします。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。４款１項６目健康マイレージ事業費、タブレット説明資料78ページです。健康マイレージ事業、昨年度実績と効果の検証、目標、全体的な見直しをされるか、電子化の検討状況はいかがでしょうか、お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　倉部委員のご質問にお答えします。

健康マイレージ事業、昨年度実績と効果の検証、目標、全体的な見直しについてですが、令和５年度の実績は、達成者目標数350人に対し328人でした。また、達成者アンケート結果

を見ると、初回参加者26.2%、２回目以上の継続参加者が73.2%でした。令和４年度は、達成者が638人ですので、達成者は大幅に減少しています。

令和５年度の達成者アンケートのうち、健康づくりに関する自身の意識変化があった方が57.9%、自身の健康づくりの目標の継続については86.3%が続けられそうと回答しています。

このことから、健康づくりに対する意識の変化を感じ、継続した行動へ意欲を持っていただいている方が多く、参加者の生活習慣変容への一助となっていると考えております。

また、課題としましては、初回参加者の増加及び若年層参加者の増加であり、令和６年度には、コロナ禍で中断していた市内企業への訪問活動などを再開し、より多くの方に本事業の取組を紹介し、市民の健康管理の一助としていただきたく啓発していきます。

令和６年度は、今年度の課題等を踏まえ、マイレージシートの見直しも行いました。６年度に向けて見直しをしています。前年度以上の参加者数の確保に努めていきたいと思います。

本事業電子化の検討状況については、アプリ化、一部電子版、媒体利用などを含めて、現在の他市町の状況等、情報収集をしておりますが、導入費用、ランニングコストともに多額の費用が必要となることから、導入には慎重にならざるを得ません。

しかしながら、スマートフォン、アプリが手軽に利用されている時代であり、本事業の課題である若年世代の利用者増加につなげるためには、電子媒体には効果が見込めるため、引き続き電子化を研究するとともに、令和６年度は、健康マイレージ事業の利便性向上の一環として、取組結果をウェブ提出が可能となるように計画をしております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。これ、ちょっとなんか年々減ってきていて、リピーターのほうが多くなっているところで、課題も今、おっしゃっていたんですが、毎年、多分同じような反省が出ていて、なかなか見直しがされていないのかなと思います。

予算がそんな大きな額ではないので、継続してやってくださる方がいるんなら、やってもいいとは思うんですけど、その辺、アプリ化もありますけど、アプリの膨大なお金を聞きまして、かける必要はちょっと、私はないと思いますけど、例えば民間であるものの推奨をするとかという検証はされていますか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　マイレージの達成者へのアンケートを例年やっ

ておりまして、その中で、次年度については、健康アプリの利用状況の質問を追加し、利用状況を確認しながらまた、次につなげて検討できたらいいかなということで準備しております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。オリジナルじゃなくて民間でもいっぱい、いろいろなのが出ていますので、その中で、これを使ってやってみませんかみたいなのとか、例えば、事業者と連携して、こちらの経費はあまりかからずに、お試しでやっていくようなことをやるとか、独自のアプリはもう本当にお金がかかるので、私は要らないと思っていますので、そういうお金はかけないけど、菊川のオリジナリティを出すというような考え方をしなきゃいけないんじゃないかなと思いますけど、そのアンケート内容が、例えば、アプリがいいですかだけじゃなくて、なんか違うふうなことを考えられますか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。諏訪部健康福祉部長。

○健康福祉部長（諏訪部晴美君）　健康福祉部長です。取りあえず今、山田係長が説明したのは、そういうアプリを使っているかどうかというのを来年度やるものですから、結局、この時期にならないと、その集計が出ないということになってしまいます。

ちょっと、自分も、あの人、ちょっと詳しくはまだ調べ切れていないんですが、例えば今、明治安田生命様と協定を結んでいるんですなら、明治安田生命も健康アプリをたしか使っていたと思いますので、それがうまく活用できるかどうかは分かりませんけれども、ちょっと、そういう関連する企業さんのアプリを使うというのは、一つの手かと思いますし、やはりアプリにつきましては、初期費用やランニングコストも多くかかるというようなことは私どもも承知をしていますので、企業様で、何でそれなのって言われてしまうことがないように、いろいろ、ちょっと調べなきゃいけないなと思っていますが、なるべくお金をかけず、皆さんが使いやすいものを、広く多くの方に使ってもらえるようなものということで、引き続き、そちらのほうは調べてまいりたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。直接関係ないんですけど、ウォーキングコース、一回、看板外して見直しをすると言っていたような気がするんですけど、それと、こういうもの、市と絡めていくとかっていうこともやったほうが分かりやすいのかなと思うんですけど、ウォーキングコースとかの件はどうなっているか教えていただけますか。

○分科会長（小林博文君）　黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　倉部委員がおっしゃった、まずウォーキングコースにつきましては、今年度の予算で、まず老朽化したコースの表示については撤去は既にさせていただいたところです。そちらのコースにつきましては、せっかく従来つくられたコースですので、引き続き、ＰＲはさせていただくことと、また、以前からも申し上げさせていただいておりますが、うちだけではなくて商工観光課ですとか、教育委員会ですとか、例年、１年のうちに１回とか２回とか、そういったイベントを絡みで、そういった連携した取組をさせていただいているんですが、今後また紹介できるようなコースは、また一緒に計画はしていきたいと考えております。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。よろしいですか。再質疑はよろしいですか。

織部ひとみ委員、再質疑ありますか。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、最後の質問、倉部委員、渡辺委員から出ています。また、倉部委員から。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。４款１項８目地区組織活動推進費、タブレットの説明資料が81ページです。健康づくり推進委員の活動の内容、必要性について検討されていますか、お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　倉部委員の健康づくり推進委員の活動内容、必要性について検討されたか、のご質問にお答えします。

健康づくり推進委員は、地域の健康づくりの担い手として、知識習得、資質向上のための研修会の参加や地域での健康チェックなどの実践活動など、市の保健事業のＰＲ活動により、健康づくりの普及啓発に努めていただいております。

活動については、令和４年度に代表委員に実施したアンケートから検討を行い、各自治会で活動いただく自治会活動は負担も多く、令和５年度から必須項目ではなくなりましたが、地域の健康づくりのきっかけづくりとなる活動は今後も必要であるため、地区単位での活動に重点を置き、活動を実施していただいてきました。

コミュニティーの一員として行っている推進員の活動が市民からも好評であり、令和６年

度も委員の皆さまの負担軽減を図りながら、地域に根差した活動を引き続きお願いしたいと考えております。

今後も、効果的・効率的な保健事業の検証と実施については、健康づくり推進委員の皆さまとともに一緒に取り組んでいきたいと思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。これ、なんか昨年聞いた中で、やってもやらなくてもいいというようなふうになったと聞いていて、やってもやらなくてもいいんだったら、やらなくてもいいのかなという。

例えば、コミ協の活動の中に入れてもらって、そこでやるとか、各自治会でやっぱり１人ずつというのが、皆さん、やっぱり負担になっていたりとかして、やらなきゃいけないのか、やってもやらなくてもいいのかというのが、ちょっと分かりづらかったりするのかな。

これって国の何かで絶対やんなきゃいけないとか、県から下りてきているから、やらなきゃいけないとか、そういう事務ではないということですよね。

その辺まで少し見直しがあるのかなと思ったんですけど、継続みたいになっていたので、と思ったんですけど、取りあえず、今やりますというお話だったんですけど、やってもやらなくてもいいという基準がちょっとよく分からないんですけど、どうなんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　成人保健係長です。自治会活動は、今年度ですけども、必須ではなくなりましたが、実際31地区で実施をいただきました。実施した地域では、「やっぱり大変だったよ」という声もありましたが、「やってよかった」「喜んでもらえた」という声もいただきました。

ですので、地域から健康づくり推進委員に期待されている部分であることも事実だと感じております。

自治会地域での健康づくりの取組は進めていきたいというところはありますので、継続をしていきますが、地区でのもう少し大きい団体の活動としても実施もしていく中で、健康チェックを各地区センターまつりで、皆さんやってくださっていました。

こちらも大変好評であって、やりがいを感じるところも地区の皆さまにはあったということを聞いておりますので、次年度は地区活動に保健師や栄養士が一緒に出向いて、昨年度、

寄附で購入した健康測定器具を用いるなどして、健康づくり推進委員と共同で実施していきたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番。これ、何分の31なんでしょうかね。地区の自治会の数ですよね。

やらなかったとこの意見は聞いてあるんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　健康づくり推進委員で121自治会ありますので、そのうちの31になります。

やらなかったところの声は……。

○１３番（倉部光世君）　なぜやらなかったか。それが分からないと、継続性がないということに。たまたま、たまたまって、その年に選ばれた方がやる気があったのか、なかったのか。それとも、そもそも自治会で選出やめてしまうのか。その辺はどうなっている。

取りあえずは選んでもらうけど、本人がやるかやらないかなのか、うちの自治会やらないよとなったら、ずっとなしに多分なっちゃうと思うんですけど、その辺はどういう振り分けというか、されているんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　山田成人保健係長。

○健康づくり課成人保健係長（山田　　君）　実際のところ、自治会数、全部の自治会さんで、健康づくり推進委員を選出しているわけではございません。高齢化でやってくれる方がいないということで、選出が難しい地区もあるということは伺っています。

ただ、やらなかったところについての理由は特にはうかがっておりませんが、恐らく必須ではないので、楽になってよかったねというような人も聞いてはおりますので、それで負担を減らしながら委員さんに選出いただいて、負担のかかる自治会活動ではなく、地区活動には参加していただいてという形でやっております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　渡辺委員、再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　はい、大丈夫です。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。

○５番（渡辺　修君）　ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　健康マイレージが運動と……。

○分科会長（小林博文君）　ちょっと待ってください。今の健康づくり推進委員のほうの関連ですか。

○１２番（織部光男君）　いやいや、推進委員です。

○分科会長（小林博文君）　ん。

○１２番（織部光男君）　活動推進委員のこと。

○分科会長（小林博文君）　はいはい、どうぞ。

○１２番（織部光男君）　健康づくりというので、運動と食というのがポイントだと思うんですけども、活動推進委員で、これ６年度の内容で見ますと、研修をしたり活動をしたりするんですけども、発表の場が先ほど言った地区センターまつりのようなことなんですけども、１か所でまとめて、けやきの中で全市の発表をするというようなことは、令和６年度、全然考えていないんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。黒田主幹。

○健康づくり課主幹（ワクチン接種担当）（黒田　　君）　今、織部光男委員からいただいたように、一堂に会しての場は、今のところ考えてはおりません。

ただ、先ほどこちらから答弁させていただいたように、それぞれの地域で、より地元に近い方、お住まいの方と近い方のところで発表を身近に感じていただければ、そういったやり方も引き続きやっていただけたらと思っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　掛川の市民活動センターへ行ったことあるかどうか知りませんけども、あそこへ行きますと、掛川市の全部の活動のいろんなことが掲示してあります。

ぜひ見てもらいたいのと、それと、もう一点、ここに栄養セミナーと食生活推進協議会の委託というような問題、これが出ていますけども、先ほどもちょっと私話ししましたように、「孫にやさしい」とかというレベルの食育に対しての話だけでなくて、やはりマイナス面の食に対する、そういうものをやはりやってもらいたい。健康づくりのためには、それが必須だと思うんですよ。

ぜひそういうことも今後、課として、当然やるべきことだと思うもんですから、取り入れ

ていっていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１２番（織部光男君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　関連ほかにありますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、以上で事前通知による質疑を終了します。

そのほか関連で質疑のある委員は挙手をお願いします。ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで執行部は退席となります。ありがとうございました。

それでは、ただいまから、議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、委員会の自由討議を行います。

今回のところでは、コロナワクチンの今後の件、それから健康マイレージのほう、それから、今言った健康づくり推進委員のこととなっていました。ご意見のある委員は挙手の上、発言をお願いします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。私、健康オタクみたいなことをしているもんですから、やっぱり健康のためには運動と睡眠と食事だと思うんですよね。

私もサロンをやっていまして、出前講座を年間五、六回呼んでいるんですけども、どうしても食品添加物について学ぼうと思っても、出前講座はありません、県のほうにも。もちろん、市にもないんです。

ですから、特殊機関の、静岡の馬場利子さんみたいな方を呼ぶしかないんですけども、私はやはり今の添加物1,500種類ぐらいあるんですけども、そういったことをしている国に対して、行政がそれに反するようなことはできないという考え方が県にはあります。

だから、出前講座もつくらない。保健所に聞いても、保健所もそんなことはやらないということになっています。

ですから、個人的にそういうことに詳しい方を呼ぶ。それか、テレビじゃないですけども、ユーチューブで見るというようなことしかないんですけども、年配の方はなかなかユーチューブ使うところまでいかないと思うもんですから、何とかそういう情報を与えたいなと思

ってはいるんですけど、難しいなと思っています。

やはり病院との関係で、治療から予防ということを言わなきゃいけないですけども、経営的には病院は病人をつくって、それを治すというのが仕事になってしまっていますけども、将来は病院は要らないというような社会を夢として持っている人もいます。

ですから、そういったことも考慮しながら、我々、自分たちの生活、健康を考えていかなきゃいけないのかなと思いますので、ぜひそういった観点からも議論をしてもらいたいなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　織部委員の健康に関する関心は大変よく分かりました。

ちょっとこの関係で、コロナワクチンの件、ちょっと私も気になっていて、今度、何ですか、国からのではなくて、インフルエンザと同じになるってことで、確かに流行したときにどうするかという心配があって、後は問題は、数が本当に間に合うかというところ。

もう一個は、できればインフルエンザが一緒になったやつを、混合で１回で打てるようなことがあれば、もっといいかなと思うんですけど、そういうところが、今、渥美委員からも何回も質問していただいたんですが、全然、国から出てこないもんですから、その辺がすごく何か情報が、コロナのことに関しては、いろいろ二転三転したりしたものがあって、落ち着く中でも、そういうところもしっかり情報をいただければなと思いました。

インフルエンザもはやっている中で、ワクチン打つ人、打たない人って、なかなか把握できないかもしれない。将来的には、マイナンバーカードで保健管理を一括していけば、そこデータも残っていけば、そういうデータも残っているかなと思って聞いてみました。ワクチンについては、本当いろいろ知りたい面もありました。

そのほかどうでしょう。健康マイレージと健康づくり推進委員のことで。

○１３番（倉部光世君）　毎回。何年も同じことを聞く、マイレージと健康づくりのこと言って、なぜ全然変わんないのかなという。これに代わるもんがないのか、去年もやったんで、一応今年もやるかなという考え方なのか。

健康づくり大事大事とは言いながら、この後、出てくる長寿介護課のほうで、介護予防のこと分かるんですけど、じゃなく若い人たちとか、健康づくりのことなんですけど、結局この推進委員やるのも、地元の年配の方とかってなってしまっているので、何かもう少し健康づくりのことのやり方を変えていく必要があるけど、変えるスイッチが全然入んなくて、ウオーキングコースも大分前に言ったのに、またこれから考えますという話ですし、本当にや

る気があるのかなって、ちょっと申し訳ないんですけど。

何か今、本当民間で新しいいろんなアプリだの、ネットで調べれば、幾らでも体操から何かいっぱい出てくるんで、行政がどこまでやるのかなんですけど、やっぱり行政で言ってもらうものが信頼があるわけなんで、何か本当に菊川でたくさんやらなくてもいいので、オリジナルでやること、ちゃんとこうして決めてやってほしいなと思って、私、一般質問多分したんですけど、毎週、日を決めて、ここスタートでウオーキングしますよとかという、今やっていない人たちが、きっかけづくりできる。

紙だけ配っても、やっぱりなかなか、リピーターばかりしか、やっぱりやっていないわけなんで、リピーターの人とそうじゃない人が出会う場をつくるとか、行政のやっている場づくりとか、そういうことかなと思いますので、配って終わりとかではない。

地域に、例えば参加者集めて話合いをする場をつくるとか、そういうほうに知恵を絞っていただかないと、何か全然変わんないような気がしてしまっていますので、推進委員もそうですけど、やってもやらなくてもよければ、やらないですよね、今の自治会は。

131なんですけど、やらない人の意見はあまり聞いていませんとか、何か取りあえずやっている感を出したいだけなのか、本気にやりたいのか、本当にやめたいのか、本当に変えたいのかが何回聞いてもよく分からないので、何かもう少し健康づくりのところを大きく変えることをやってほしいなと、ちょっと思っています。

織部議員の添加物の話は、いろんな企業の関連があるので、公はちょっと、大腕を振ってとは言えないと思いますけど、私、この間、大阪ガスがやる食育のセミナー、Ｚｏｏｍで見たら、やはり添加物が発達障害の原因になっていますよというような話もありまして、私もそういう添加物とかの件は、ずっと研究したり勉強したりしているので、よくないなということで活動はしていますけど、なかなか公でできないことではあります。

ただ、農薬とか有機がいいというお話もイコールのところでありますので、健康づくりだけじゃなく、全般に公が進める中とかの話にしていっていただければいいのかと思いますが、ちょっと公に添加物反対つて難しいかなと思いますが、食推も私入っていますけど、あそこも高齢化で私が一番若いぐらいですね。

何か若い方が、ちょっと食育に入ってこれるような仕組みづくりも、ぜひ子ども育てる中でやってほしいとは思います。

健康づくり課は、ちょっと年齢層幅広くできるように、高齢者のは長寿介護課でやればいいんで、ちょっとみんなが参加しやすいものを考えてほしいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかどうでしょうか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番。食事、健康、睡眠、本当にこれ大事です。病気の人に言って、ほとんど自分で病気をつくっているような食生活、運動しない、そういったのにもう少し気をつけてもらえると、高齢によって目が衰えたりというのはあるんですけども、やっぱり気をつけること、食べ物もそうですけども、それによって健康でいられる年齢を大変延ばすっての、ぜひ皆さんも一緒にやっていただきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。健康マイレージに関してですけど、私の三軒家という自治会では、毎週火曜日と金曜日に、女性たちが20人ぐらいで運動をしてるんですよ。講師を呼んだりして、クリバヤシさんが来てもらったりしてやっているんですけど、やっぱりそういうところに補助金といいますか、ペットボトル１本でも出してというような、私は予算的には十分それでもいけると思うんですけども、やはり運動、先ほど渡辺委員が言ったように、地区によってすごいリーダーがいて、やったというお話がありましたけども、これなんかも全くそれと同じで、そういう方がいれば、スーパー公務員がいて、そういうところに、まちへ出ていくというような人がいれば、それは理想なんですけど、なかなかそこまでやる人いないもんだから、やはり代表としてそういう方が。

だから、これを上からあてがわれたではなくて、自分たちが自主的に健康をつくるという意識でやれば、もっともっと全然内容も違ってくると思うんですよね。

だから、そういう風土には、なかなか菊川の場合、ならないというのが問題であって、だから行政もこのことは一緒に、言葉では言うんですけども、協働協働と。でも、実績が何にもないわけですよ。

ですから、その辺をちょっと注意してもらいたいなと。倉部委員が３期目で、ずっと同じことを言ってきても変わらないという、そのことが如実に物語っているんですよ。新しいことをやらないというな風土が根づいちゃっていまして、やはり後退です、これは完全な。革新がないことというのは後退ですので、だから時代に遅れてしまっている、全てが。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。健康マイレージというか、健康増進のためにスポーツをと言うんですけど、ジョギングしてる人は増えているかなぐらいには思うんですけど、

市民スポーツというと、昔からあったソフトボールとか野球というのは、すごいチーム数があったんですよ。

自分も若い頃入っていて、３チームぐらい入っていて、１年間に試合数が40試合ぐらいある。本当に下手な二軍選手より、たくさん試合やっていたぐらいだけど、どんどんチーム数が減って対戦相手もなくなって、グラウンド取れなかったのが、いつも空いているという状況に今なっちゃっていて、それで、みんなが集まってスポーツをやろうという世代というのは僕らの世代ぐらいまでで、今、球技でも集まって楽しもうという、ほかにいっぱいできることがあるので娯楽が増えちゃって、健康のちょうどいいスポーツが娯楽の一つから外れちゃったみたいになっているので、何とか市民がもっとスポーツをできるように、菊川市だったらプールがあって、プールみたいなやつがあって、年食うと、プールの中、歩くほうがいいじゃないですか。

ちょっと話が……。

○分科会長（小林博文君）　違うとこに行っていますね。

○５番（渡辺　修君）　すみません。スポーツできるような環境をつくっていったらいいと思います。すみません。

○分科会長（小林博文君）　そのほかよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、以上で健康づくり課の予算に関わる審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を基に分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。

分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

〔「よろしくお願いいたします」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　休憩なしでいいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、長寿介護課になりますのでお待ちください。

休憩　午後　２時４９分

再開　午後　２時５１分

○分科会長（小林博文君）　それでは、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　すみません、では、続きまして長寿介護課の審査を行います。

初めに、落合長寿介護課長より、出席者の紹介をお願いします。

○長寿介護課長（落合要平君）　**長寿介護課長**でございます。よろしくお願いいたします。

私の右隣から、高齢者福祉係長の堀でございます。

○高齢者福祉係長（堀　　君）　堀です。よろしくお願いします。

○長寿介護課長（落合要平君）　そのまた１つ隣が、包括支援係長の山本でございます。

○長寿介護課包括支援係長（山本　　君）　山本です。よろしくお願いします。

○長寿介護課長（落合要平君）　一番右ですけれども、介護保険係の森下でございます。

○介護保険係主任主査（森下　　君）　森下です。よろしくお願いします。

○長寿介護課長（落合要平君）　お願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑を行いますが、初めに事前通知を出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は、挙手の上、事前通知に従って、質疑を行ってください。

１問ありますが、４名から出ています。代表して倉部委員、お願いします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

３款１項３目敬老会費、説明資料のタブレット52ページです。

４つあります。

①令和５年度の敬老会への出席状況は。出席年齢の見直しの必要はなかったか。

②令和５年11月に市長宛てに議会から提言書も提出しているが、前年度と比べ本年度の敬老会での変更点はあるのか。

③バス借り上げが５台から３台に減った理由を伺います。

④余興等について、参加者から感想等は聞いていますか。

お願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。じゃあ、落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。

敬老会費のご質問に対してですけれども、１つ目の、令和５年度の敬老会への出席状況は

と、出席年齢の見直しの必要はなかったかについてでございますが、令和５年度の対象者が９月１日時点で1,539人で、当日の参加者が345人となり、こちらに付添者が31人がいらっしゃって全体では376人となりましたが、対象者の出席率は22.4％でございました。

初めて開催をさせていただきました令和４年度、新しいやり方でですね、させていただいた４年度は、対象者が1,369人のうち、参加者が243人で、出席率が17.7％となりましたので、コロナ禍が落ち着いてきた中で、通常の状態に近づいてきたと考えているところでございます。

現在の敬老会の開催方法につきましては、出席者の健康面への配慮、例えば体育館で暑かったものですから配慮ですとか、対象人数がこれから増加していくということと、それに対する会場の問題。あと、自治会様の負担軽減のために、連合自治会様のほうに、２年間にわたり検討会にて協議を行わせていただきまして、今の方向と決定していただいたというものでございます。

出席年齢の見直しにつきましては、令和４年度に開催方法を初めて変更したばかりでありまして、また当時コロナ禍ということで特殊な環境下であったものですから、また、これからしばらく対象者が年々増加していき、この令和10年度には例えば本年度の参加率22.7％の方がお見えになった場合には出席者が426人になるという見込みになりまして、会場のほうの規模にも限りがある中で、それが前提で見直しを行ったところなものですから、すぐに対象者の見直しを行うということは、なかなかまあ行わさせていただいている中で現実的ではないというふうには考えているところでございます。

しかし、２つ目の令和５年11月に議会からも提言書も提出しているが前年度と比べ変更点はあるかについてへのお答えにもなりますけれども、提言書では、対象者をお祝いの節目年齢としたり、会場を文化会館アエル１か所にしたりと、敬老会の事業スタイルが見直されて本格的な実施がされた。これまでの出席者やその家族、支援を行う自治会等から出た様々な意見、要望を精査して、くだんの見直しを行い、今後の敬老会の在り方について、よりよいものとしていくよう検討すること、というご提言を頂いたところでございまして、令和３年度以降、見直しを行って令和４年度初めて実施した方法につきまして、「長寿の高齢者の方を敬い、お祝いする」という趣旨で、その趣旨を達成して、ご出席いただいている方にお喜びいただけているものにできているかということについては、私ども常に見直しをかけていく必要があると考えているところでございます。

令和４年度、令和５年度の開催におきましては、開催方法を変更したところでまだ、出席

年齢を含めました敬老会の在り方についてご意見を頂いているということはできておりませんが、来年度からは、出席者やその家族、自治会の皆さま等、ご意見を伺う機会を設けていきたいと考えているところでございます。

なお、そのほか、令和６年度につきましては、まだ検討段階ではありますが、市制20周年記念事業として、動画の放映ですとかパネルの展示、冊子の配布などは新たに行わせていただく予定となっております。

３つ目のバス借り上げが５台から３台へ減った理由についてでございますが、敬老会の開催方法を変更して実施した令和４年度と今年度のバスの借り上げの実績について、そちらが２台となりました。これは、バスのルートを５ルートでご用意した中で、申込みの人数が少なかった３ルートについて、経費節減のために、公用車による送迎に変更させていただいたというものでございます。

令和６年度につきましては、これまでの２年間の実績をもとに計画のほうを見直しまして、５台から２台減らして３台といたしましたが、バスの借り上げ以外に、公用車のマイクロバスの手配ですとか大きい車などを使って、状況によっては今までと同程度の５ルートを用意できるというような計画を考えているところでございます。

４つ目の、余興等、参加者から感想等は聞いているかについてですが、先ほども申し上げましたが、これまでの２回の開催の中で、参加者にまだ状況について直接意見を聞くことはできておりません。

ただ、来てくださった方が声をかけてくださって、余興の落語家のファンで、あってうれしかったよとかっていうご感想は頂いておりますし、連合自治会で自治会長の皆さまにはご意見を頂いたりはしております。

今後も、出席年齢を含めた敬老会の在り方について、出席者やそのご家族、自治会の皆さま等のご意見を頂きながら、よりよい敬老会とできるように検討していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。

倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

実際1,539のところ345というのがあって、今後増えていくということなんですけど、90の後が99なんですけど……

〔「うん、そこだね」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　90で行って99行ける方はね、どれだけいるかというと、この前の段階はね、この、このぐらいのレベルでいいと思うんですけど、やっぱり90過ぎの方であそこに出てこれるというのは、何か、生きがいというと変ですけど、「ああ、また来れた」みたいな、毎年の、１年１年の、もう90過ぎは１年１年の積み重ねじゃないかなと私は自分の親を見たりしていて思っているんですけど、そこは――の見直し、ここでその方が増えてもそんなに変わらないと思うんです。

例えば、この各年代が割合でどれぐらいずつ参加していたかというのは、数字は出しているんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　すみません、今ちょっと手元に各年代の出席者の数を持ってなくて申し訳ないんですけれど、まあ、調べれば分かるかなと思うんですけど。

大体、検討していく中で、今おっしゃるように、その出席するタイミングが、出られる機会とか、そういったものがこれでいいのかというのは当然検討していかなければならないということで、決算のときもこのようなお答えをしていると思うんですけれども、なかなか、じゃあどういうタイミングで出ていただくのがよいのかというのは難しいところもございまして。当時、今回は、その長寿のお祝いで出ていただいたというのは、やはり、本来からお祝いする年がそこであったので、私ども、先ほどの敬老会の趣旨でも長寿のお祝いというところであったので、その年代にもやらせていただいているということですので。

あとは、実際に実施していく中で、議員がおっしゃるように、90を過ぎてからというのが人数がどのぐらいかというのももちろん、そんなにすごく多いというわけではないと思いますので、キャパの問題とかその辺りも含めまして、検討をしていきたいと思います。

ちょっとすぐにできるか、なかなか難しいとは思うんですけれども、そこが、すみません、当時決めさせていただいた連合自治会の方との話の中もあったものですから、まあちょっと、本当にどのくらい人数が増えるのかとか、その辺りも含めながらで検討させていただければと思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。

再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。

やる人の都合じゃなく来る人の、ね、気持ちのほうが私は大事だと思いますので。

やはり、まあ書くのめんどくさいという方もいると思うんですけど、当日に、ある程度最低限のアンケートぐらいは取るべきだと思うんですね。せっかく開催しておいて来た方の意見聞かないというのは、ちょっと、片手落ちじゃないのかなって。特に変えたばかりなので、来た方の意見、少なくとも「今日よかったですか」とか余興、何か「よかったですか」、何か「どんなのがいいですか」とかね、本当は毎年来たいんですかとかぐらいのアンケートぐらいはやっぱりやっていくべきと思いますけど、今年度というか６年度はどうでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　本当に、おっしゃるとおりであったと思います。

本当、変えたばかりちょっとこちらが対応できなくて、お恥ずかしい限りでございます。出席してくださった方には、まず聞くのは当然かと思いますので、令和６年度には、どんな形かで、ご出席者の方にアンケートはさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

○１３番（倉部光世君）　よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　赤堀委員、再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。何か、含みが。

渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

バスの件なんですけども、実際には、少なくて済むということでなんですけど、ちょっとそこで伺いたいのが、一部地域でバスの送迎をしてないところがあると思うんですけど、もし何か席が余っているのがあれば、そこもついでに回って一緒に送迎してあげればいいんじゃないかなってちょっと、結果的に思ったんですけど、そこら辺の考え方を伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。

バスの送迎につきましては、今回やり方を変えさせていただいたときに、もともとのやり方のときに、各会場に着く範囲でご出席いただけていたというのを維持したくて。なので、そこから、アエルという会場に変わった分の送迎をさせていただくくらいでないと、本当は

皆さんを送迎するとか、そういう話になってしまうともうなかなか対応が難しいところがあるものですから。

そういった意味で、今までのやり方のやれていた移動手段を補完するという形で考えさせていただいているので、ですので、アエルの近く、近回りで、お困りの方についてはもう、送迎という形ではなく、ご自身で来られる方でお願いするという考え方でさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

去年もね、そのような答弁おっしゃっていて、そういうことかなと思ったんですけど、今、逆に対象外になっているところがどのぐらいの人数がいて、つまり、そこいれちゃうと席が足りなくなっちゃうから、そういう考えになっているのか。もし、そうじゃなければ、席があるのならば、乗っけてあげればいいのになって思うんですけど、その対象外になっている部分がどのぐらいの規模で、席が足りないのかというのを含めてちょっと、答弁頂ければと思うんですけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　座席については、１台……。

〔発言する者あり〕

○長寿介護課長（落合要平君）　二、三十は空いているって、１台ごと二、三十は空いているような状況もあるんですけれども、乗っていただくのに、事前にご希望を取って乗降者の確認を伺いをさせていただいているというような状況もあるものですから、そこらで、その利用の状況の整理とかが可能であればなんですけれども、かなり、出席等、そのバスの乗降の確認というのはぎりぎりの状態でなっている、私どものほうで確認をさせていただいているものですから、その時間のタイミング的に、じゃあ新しい方を募って何人とかっていう形に……、物理的にちょっと事務が、厳しいかもしれないのというのも……。

そこのところで、空いているからというのがなかなかちょっと、もともとの考え方からあるものですから、難しいところもあるんですけれども、ご意見として、お話は分かるので、またやり方については、そのバスの運行自体も含めながらで考えさせていただければと思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。最後になんですけれども。

そのもともとの考え方というのはね、よく分かるんですけど、そうはいっても、仕組みが変わった中では、逆に、うちだけが送迎ないという考え方になる部分もあるのかなと思うので、ぜひちょっと、もし可能であれば、いろいろ制約はあると思うんですけど可能であれば、検討することもありなのかなとは思うんですけど、最後に、対象外に今なっている自治会から何かそういう、何か、なんでうちだけ対象外、だから対象にしてほしいとか何かそういう声とかあったのかというの最後に伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。

個別にお問合せがあったりすることは、記憶をしております。やはり、そうですね、個別にお問合せ頂いたというのはありますけれども、最初の趣旨はご説明させていただいてお断りさせていただいているというような状況でございます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。よろしいですか。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。

令和６年度、招待状が来そうなもんで。（笑声）

余興のところでね、不評だったんですよ。いつもね、赤れんが倉庫なんかでやってもらうの物すごく面白くて、あんな、せっかく37万かけて呼んでいるもん、もう少し、いい落語家さんを呼んでください。（笑声）

まあ、テレビに出るような人は100万以上するんですよね。その予算の範囲内でまた、検討をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　余興につきましては、やはりいろいろなご意見を頂いております。２年間は続けて、対象者が変わったのでやらせていただいたんですけれども、令和６年度は変えるようにということで話は中でもしておるところなものですから、楽しいものになれるように努力をしたいと思いますので、（笑声）そのような形でやらせていただきます。

以上でございます。

○１０番（赤堀　博君）　はい。お願いします。

○分科会長（小林博文君）　ちょっと一点、すみません。

答弁の中で、動画を、今回20周年記念ということだったんですが、こっちに、予算には出てきてないですけど、20周年記念の何かで出ているんでしょうか。その辺をちょっと。

それを、何ですか、できれば、いいものであれば継続していってほしいというののが、そういう変更点みたいなのをちょっと確認したかったんですけど、その辺はどうなんですか。

落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。

まだ動画については、20周年の記念のものを、合間でどこかで流させてもらおうというような案が出ているということで、詳細がまだ決まっておりません。

ただ、独自で作るというわけでは、予算が上がってないという形ですので、状況としてね、何か流すのがよかったりとか、今年の状況でまたこれから先のことは考えていきたいと、そのように思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

さっきのバスですけど、乗る乗らないってどうやって、往復はがきか何かでやっていたんですか。電話で募集。ちょっと今回、よく分かってないんで。自治会にまとめてもらっていたんじゃないような感じなんですけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。ええと……

〔「堀」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　堀高齢者福祉係長。

○高齢者福祉係長（堀　　君）　堀です。

そうですね、敬老会の申込みのタイミングで送迎を希望するかどうかというものをお聞きしています。それによって、はがきで、申込みを、「乗りたい」という意思表示をしていただいて、それが、そうですね、敬老会の実施の３週間前ぐらいに返事をもらうようなスケジュールになっています。そこから、いろいろ調整をさせていただいて、実際にバスの手配が完了するのが２週間、下手すると１週間ぐらい前ぐらいにぎりぎりで、ルートの確認、ご本人さんへの日時と場所の指定の確認等を事務側のほうでさせていただいて実際は行っており

ます。

今年度の実際には、申込みいただいてから実際に乗るまでにやはりいろいろ変更がありまして、当然、やめられる方もいらっしゃいますし、できたら今からでも乗れないかという問合せも電話とかで入ったりしますので、本当にぎりぎりで、ルートは決まります。

例えば５ルートというのは、会場が変更になった以前の敬老会では例えば体育館であったり地区センターであったり、会場が近くで行われているところでやっていたところが、会場がアエルになるということで、通常の会場まで、今までの会場までは何らかの方法で行けたんだけれども、ちょっとアエルまでは自分の車では厳しいよと、こういったことを連合自治会のほうからご意見頂きまして、このルートの調整はできたら何とかしてほしいよという話の中から、このルートをつなぐためのバスの手配という形で想定させていただきまして、今まで行っていた会場、例えば小笠の南の小学校の体育館であったりとか、河城の小学校の体育館。まあできたらもうちょっと先まで延ばせるとかあれば、せっかく出すので、北でいうと上倉沢の公会堂であればバスのローテーションできるので、じゃあそこから、ルートとしてちょっと余分に出しましょうとか、いうところで多少は延ばさせていただいている中で、ルートの確保をさせていただいているということになります。

さきほど、六郷地区については会場がアエルから変更は特にないものですから、そこは想定とは、させていただかなかったものですから、そこの部分だけ、実際には、ルートはないよという状態にはなっています。

ちょっと時間的なものと設定のものというのはやはり、高齢者の方ですね、やっぱりいろいろ変更がある中でなかなかそこが直前になってしまうというのが、実際にはあります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部。

じゃあ自治会の関与は全然、今なくなったということですか。

○分科会長（小林博文君）　堀高齢者福祉係長。

○高齢者福祉係長（堀　　君）　昨年度、１年目、令和４年度についてはですね、自治会のほうにもご協力をいただくということで、会場、バスの乗る会場に、点呼にご協力をいただくというのと、はがきを頂くんですけれども、返事がない方がやはりどうしてもいらっしゃる。その敬老会への参加の返事がない方がやっぱり一定数出てしまいますので、できたらそこの確認は、できたら自治会のほうで今までどおりお願いできないかということで、その

２点について、４年度はお願いをしていました。

ただ、まあ一回やってみたところ、バスについての確認ってなかなか厳しいというお話を頂いたものですから、そちらについては５年度については、我々のほうで、そこについてはちょっとやってみようということで、バスの点呼、確認については、お願いを自治会のほうにするのはやめました。

なので、５年度については敬老会の出欠、行政が行った後に、返事がなかった方についての確認のご協力をお願いしているというものになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

まあ六郷地区はずっとアエルを使わせていただいていたので、私もそこしか見てなかったので、アエルでやる環境はすごくいいし、椅子ね、地べたじゃないし、いいとは思うんですけど、今までは六郷地区も結局、各自治会とか、「基本、自分で行ってください」ですけど、やっぱり行けない人は、何か拾ってきてくれたところもあったりとかっていうこと、まあ参加者の数も絞られているんで違うんでしょうけど、本当に行きたいのに行けない人は誰に訴えればいいのかなっていうのが、何かちょっと。こちらに言って駄目ならね、近所付き合いできていれば「私行きたいけど、誰か乗せていってよ」って言える人もいるんでしょうけど、何かそこで、こぼす、「取りこぼし」って申し訳ないけど、行けなくなっちゃう方がいるのは、何かちょっと、片手落ちな気がすごくするんです。

まあ「タクシー券出せ」とも言わないですけど、ね、何かもう少し、その辺は自治会の方に、ある程度お願いしても悪くはないのかなと思いますので、何か、みんなで協力して、高齢者の方がこの何年かに１回しか来れないので。多分77なら、車でほとんど来て、多分ね、いっぱい車で来ている方はいらっしゃったので、本当に、少ない方がどうしても来れないというのがあるなら、そこを、穴埋めできるようなことをやっていただきたいと思うんですけど、どうですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。

なかなかその……、来れない方に、来たくても来れない方に来ていただくのにどういう方法があるのか、ちょっと今ぱっと思いつかないのであれなんですけれども、今、委員からもお話あったように、自治会のほうに、ご協力を求めるといってもご相談をさせていただくよ

うな形にもなろうかと思います。やっていてくださっていた地区の方もいらっしゃるのが、まあ大分時間もたっている中で、人も替わっている中でどういうご理解いただけるかというのもあるものですから。

そういったこともありますけれども、自治会として、敬老会というものに参加をしなくなってしまったのは寂しいというようなお話も聞くこともあるものですから、またちょっと、何か方法がないか、自治会に相談したり、こちらでも何かいい方法があればやったりというようなことは考えていきたいと思います。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

そのほか皆さんから、関連でありますか。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○５番（渡辺　修君）　いいですか、もう一回。

○分科会長（小林博文君）　はい。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　ちょっと、議事録見てね、落合さんの夏の９月の答弁かな。それで、参加者や実施方法について、そこを見直すという検証はまだできておりません。ただ今後そういった観点も含め、敬老会の実施方法について検証していきたいと考えているところでございます、という答弁いただいて。

それで、やっぱりね、地区でやっていたときに、うちの自治会も、出欠を全部取って、誰が行くというのはまず自治会で把握して、僕が役員になったときも、その人を何とかしてもう連れていくということで、うち、地区で連れていったんですよ。そういうことをやっていたんだけど、こういうことになって、「ああ、そんなことやらなくてよくなったんだね」って自治会、楽になったねという人もいたんだけど、やっぱりね、90から99は、何としても変えてほしい。

実際に、その人の人生、そこでね、もうすぐ終わる人が多いわけじゃん。そこで、実際うちのおじいちゃんも、92歳で、呼ばれない人なんです。でも、行くかって言われると行かないかもしれないけど、行く資格がないっていうことがね、やっぱり引っかかっているんですよ。

だから、この90超えて、差別しないでよというのもあるんですよ。本当に、今しっかり生きて、それで敬老会、呼んでもらえないって、ちょっとね、寂しいし、冷たいし、今まで自

分ちが小笠東で、くすりんでやっていたときの、みんな一丸となって何とか送っていたあの状態を振り返ると、何とも、悲しい状況に今なっているように感じてなりません。

ですので、ぜひこの答弁を生か――のとおりに、見直していただきたいと、強く思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　ご意見ということでいいでしょうか。

○５番（渡辺　修君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑ありますか。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　**よろしい**ですか。

以上で、事前通知による質疑を終了します。

その他、長寿介護課関連で質疑ある方は、挙手をお願いします。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

それでは、質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

テーマは敬老会１つに絞られていますが、（笑声）皆さまから、ご意見のある方は挙手の上、発言をお願いいたします。

12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

今の渡辺議員の発言は、やはり尊重すべきだと私も思います。やはり、そこ、１人当たりのこの単価ですけどもね、どのぐらいになっているのかは分かりませんけども、まあ商品券が何千円分か出る、でしょう。

〔「ですね」と呼ぶ者あり〕

○１２番（織部光男君）　2,000円。

〔「2,000円」と呼ぶ者あり〕

○１２番（織部光男君）　ね、それ以外はさほどかかるものじゃないんでね、100名いたっても

ね、知れているものですから、ぜひそれは、やってもらいたいと。

〔「そうです」と呼ぶ者あり〕

○１２番（織部光男君）　うん。出れないのはしょうがないけども、90歳でも元気な方はいると思うんですよ。ですから、同級生に会うという楽しみが、やっぱりあるんでね。

私は、この敬老会以外にもそういう、同窓会のようなものをね、菊川市の全体の同年齢の人を集めてというようなのも私はやってもいいくらいだなと思っているんですけども、ぜひ、そういうことを進めてもらいたいと思います。若い執行部の方じゃ分からない心境だと思いますので、議会で強くですね、言ってもらわないといけないかなと、そんなふうに思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

さっき私も言いましたけど、実質、私も母が91で亡くなっていて、去年は呼ばれてないので。

本当１年１年だと思うんですよ、もうそこから先は。

〔「そうです」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　77の方は、毎年ある認識もうないのでいいんですけど、やっぱり90……、まあ80後半ぐらいの方、毎年あるのが当たり前だった人たちだと思うんです。それで何か急に呼ばれなくなったら、何か、「ええ、どうしたの」ってなるのが、やっぱり１年１年って、すごい、そこに至る重さが違うと思いますので。77は「まだ俺は敬老じゃないや」と言って行かない方、結構いるって聞きましたけど、そこから88より上ぐらいの人たちには、まだ今特に今の方は毎年、声かけるぐらいのことはやっていくべきだと思いますし、内容も、不評と、落語は不評というお話がありましたけど……

○１３番（倉部光世君）　私の周りも実質ちょっと去年の落語は、あんまりという方のほうがちょっとお聞きした限りは、長い、同じ人がずっとやっているのがちょっと無理とか、内容が、ちょっとあの多い世代にはちょっとという方が、個人で聞いただけなのであれですけど、割とあったので。やっぱり子どものやる出し物が入れ替わりとかのほうが、何か、なじみがあるよという声も結構多かったので、やっぱりちょっと最低アンケートとか意見を聞いてみるとかってことをやってから、来る人の気持ちになって、ぜひやっていただきたいと、思いました。

バスについてもしかり、ですね。まあ自治会の負担減らすのをどんどんやっていくのはい

いんですけど、それは本当に、本当にそれでいいんですかっていう、そんな関わりをどんどん切っていっちゃっていいんですかというところで。やりたくない、やれない方たちもいるんでしょうけど、やってあげたいと思っている方もいらっしゃるはずなので、みんなやらなくていいよというのも何か違うような、何か寂しいような感じも、してしまいます。

以前も、私とかも近所のおばさん全部拾って、乗っていく、乗っていくと言って拾って乗せていってあげたり、ゆとりのある方は自分でタクシー頼んだからいいよという方もいましたけど、何かそんなに、やらなくていいよというふうにはしなくてもいいのかなって、ちょっと感じてしまいました、今日の話聞いていて。

〔「同感です」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　でした。

○１５番（内田　隆君）　いいですか。

〔「いいです、どうぞ」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。

15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

もともとはね、75で、みんなお祝いしてやったというスタートからやっぱり考えてあげて、まあそれはもちろん地区だとか、もうさ、頭ごなしに「人が多過ぎる」という、それからもう、本当にお祝いをしてやる、来てもらってお祝いをしてやるという、何ていうの、感覚が全然伝わってこない。17％、二十何％、本来、来た人より、先ほどいろいろ話に出た、来れなかった人がなぜ来れなかったのかという、やっぱりそういうところをやって、できるだけ、市としても、まあ商品券がいいのか分かんないけど、お祝いをしてあげるという姿勢がやっぱりないと、敬老会、ただ喜寿とかそういう、ところどころにそういう節目があるもんで、その人たちを呼んでやっているだけが敬老会ではないと思うんですよね。

本当にちょっと、行政側の姿勢がこれじゃあちょっと、ちょっとあまりにもひど過ぎるんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　先ほど言ったことに重なってしまって皆さんと全く同じなんですけど、例えば、来年ですか、赤堀議員が敬老会に呼ばれるといっても、別に、行かなくてもいいやくらいになると思うんですよ、実際。

でも、昭和のね、あの復興の、戦後の、支えてくれた90歳の人たちが、たとえ全員に「来てください」と言っても来てこれない人ばっかりですよね、来てこれない人。だったら、増えないんだから、敬意を込めて、「お祝いしたいから、よろしかったら来てください」という言葉を贈るだけでも、実質増えないですから、ぜひそれはやってほしいです。敬意を込めた言葉で、「私たちの先輩、ありがとうございます」という気持ちを、敬老会に込めていただきたいと強く思います。

よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、どうでしょうか。いいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　以上で、長寿介護課の予算に関わる審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を基に分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

〔「お願いします」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　休憩しますか。

〔「はい。トイレ」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃあ35分まで、休憩します。

休憩　午後　３時２８分

再開　午後　３時３５分

○委員長（小林博文君）　それでは、先に年齢別の高齢者の人数のほうが分かりましたようなので、こちらの報告からお願いします。堀長寿介護課高齢者福祉係長。

○高齢者福祉係長（堀　　君）　堀です。敬老会、本年度行いました敬老会の90歳の対象の人数は191人でした。参加お申し込みいただいた方が30人強です。ちょっと実際来た方の資料までは整理、そこまでできていませんでしたが、一応申し込みいただいた方は191人対して30ぐらいです。

99歳の方が、対象年齢が26人でお一人申し込みがいただいていたということが確認できま

した。それとは別に91歳から98歳の８年齢階層の方たちの対象年齢ですが、ちょっと今時点で、どの時点でというのはちょっと今、直近の時点を見たのでその対象者としては800人から900人弱ぐらいの人が対象になろうかと思います。

以上です。

○委員長（小林博文君）　ということです。よろしいでしょうか。

それでは休憩をとじて会議を再開します。ただいまから教育福祉委員会に切り替えます。

ただいまの出席委員数は８人です。菊川市議会委員会条例第16条の規定による定足数に達しておりますので、ただいまから教育福祉委員会を開会いたします。

教育福祉委員会に付託されました議案第23号　令和６年度菊川市介護保険特別会計予算を議題とします。

初めに、落合長寿介護課長より、出席者の紹介をお願いします。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長の落合でございます。よろしくお願いいたします。私の右の隣から、高齢者福祉係長の堀でございます。

○高齢者福祉係長（堀　　君）　堀です。よろしくお願いします。

その一つ右隣が包括支援係長の山本でございます。

○長寿介護課包括支援係長（山本　　君）　山本です。よろしくお願いします。

○長寿介護課長（落合要平君）　一番右手が、介護保険係の森下でございます。

○介護保険係主任主査（森下　　君）　森下です。よろしくお願いします。

○長寿介護課長（落合要平君）　以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（小林博文君）　それでは質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。質疑の事前通知を提出された委員は、挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。１番目、内田委員から出ております。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。説明資料のタブレットの３ページのところの現年度分の普通徴収の徴収率と過年度分の未収金額を教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。現年度分、普通徴収保険料の徴収率及び過年度分保険料の未収金総額についてですが、まず現年度の普通徴収保険料の２月末時点の調定額ですが、すみません。ちょっと棒読みします。59433200、5,943万3,200円となっております。そのうち収入済額が52241800、5,224万1,800円となっておりますので、収納率は87.9％となっております。

保険料の普通徴収の納期は、６期で設定させていただいてまして、偶数月の末日付近とさせていただいておりますので、今ので差し引き残りですけれども7191400、719万1,400円は現年度分の対等額となりまして、今後、法定の督促につきまして今月20日よりちょっと前くらいになると思いますけれどもさせていただいて、今年度の出納整理期間、５月末までに収めていただくように今後求めていくというようになるものでございます。

次に、過年度分の保険料の未収金総額ですけれども、令和５年度、対応繰越分の普通徴収保険料の２月末時点の調定額ですけれども、すみません、また棒読みします。6440646、644万646万円となっており、うち収入積み額が1683723、168万3,723円となっております。

また、これに時効完済によりまして不納欠損した額が946600、94万6,600円ございますので、合計いたしまして調定額が差し引きをいたしまして、収入未済額につきましては3810323、381万323円となっております。

滞納処分につきましては、庁内会議において実施状況について共有をいたしまして、執行方法につきましては税務課に指導を受けながら実施している状況で、今後も滞納者の資産の調査をさせていただいた上で差押えですとか、執行停止処分などを適正に行い、徴収率の向上に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。まず、じゃあ普通徴収の6,651万円というのは、これは87.9でなくて、収納率は幾つで掛けてこれになっていますか。当初予算が6,651万円じゃんね、普通徴収のやつは。予算額、申し訳ありません。

だから、今の87.9までいくと、これ逆算すると調定額なるぐらいの、もっと上げたら徴収率を上げてあるかどうかという、今87.9を逆に言ってくれたもので、そうすると同じものを見るなら今年の調定額が大体に見たところで、この率を掛けると6,651万円になるのか、もうちょっと徴収率が上げようとしてあるのか、そこは。

いやいや、当初予算のじゃあ、6,651万円が当初予算に載っているじゃんね、これはそうすると調定額が見えないもので、そうすると100％見ているのか、それとも今年と同じような大体87.9なら90％ぐらい見込んだお金なのかのを聞きたい。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。当初予算の6,651万という数字は、新しい保険料の額になるものですから、金額は全体的に上がっております。徴収率でいうと、

ちょっとお待ちくださいね。すみません。

○１５番（内田　隆君）　特徴はもうほとんど99％ぐらい入るものであまり心配はしていないんだけど、並徴のほうはどのくらい見込んでいるのかなと興味、聞きたかった。

○委員長（小林博文君）　落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。徴収率で89％ぐらいを見込んで金額のほうの設定をしておるものでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。

○１５番（内田　隆君）　もう一点。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。そうすると、本当に滞繰の分だけど1,681万円って書いてあったから、大体前年度並みというなのか、それともこれも少し率から引っ張り出しているのか、これはどうなんですか。150万円みたいですね。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　滞納繰越分の金額の設定につきましては、基本的には前の状況ではなくて同様の状況でいつも計上していることですけど、ちょっと確認させます。

○１５番（内田　隆君）　前年と全く同じだもんね、多分問題ないですが。

○長寿介護課長（落合要平君）　そうですね、ここのところはいつも同じ金額で、実際にその滞納処分ができた額でこの調整額が変わっていって、収納額も変わるものですから、予算計上上は同じ額でやらせていただいているというものでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁を終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。そうすると、先ほど最後に数字を出してくれた381万円とはあまり関係なしで、150万が計上されているということでよろしいですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。そうですね、過年度分の滞繰分の最終的に年度末の残高に関係なく150万円で計上させていただいているというものでございます。

以上でございます。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連質問ありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　２番目の、倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　２番目です。同じ１款１項１目の特別徴収と普通徴収かかっておりますが、説明資料が３ページ、介護保険料は今度13段階になるんですけれども、その全体的な影響とかをお聞きしたいです。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。介護保険料が13段階になっての影響につきましては、先日、お認めいただきました介護保険条例に規定された新しい介護保険料で算定いたしましたもので、当初予算額において保険料の収入額が増額で約９億4,000万円と、令和５年度までの９段階の所得段階と乗率で算出した場合の約８億3,000万円と比較した場合で、今１億1,000万円の増額となっているものでございます。

今回の９段階から13段階の多段階化や高齢者の標準の乗率の引き上げ、あと低所得者の標準乗率の引き下げにつきましては、介護保険制度の持続可能性を確保する観点から、今後の介護給付費の増加を見据え、第１号被保険者間での所得の再配分機能を強化することで、低所得者の保険料上昇の抑制を図るということを目的で実施させていただくもので、これによりまして保険料の基準額が変わらなければ、市民への直接の影響としては低所得者については保険料が下がる、高所得者につきましては増設されました10から13段階の４段階分について、そこに該当される方の保険料が上がるということとなったものですが、これに第９期の介護保険事業計画におきまして必要と推計いたしました介護サービス費等に関する費用の増額分について、基準額を年額で500円増額させていただいたことによりまして、最終的には第１段階の方は年額で100円安くなるんですけれども、減額させていただくんですけれども、第２段階の方から100円上がり、だんだん段階で上がっていって13段階、一番上の段階の方ですと年額で５万7,200円まで増額をさせていただくと、そういったような影響であるものでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　よく分かりました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。それでは、番号飛んじゃった。４番目という部分になります。内田委員。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。説明資料タブレット７ページですけど、準備基金の繰り入れがありますけど、これはこれだけ繰り入れるとあと残額はどのくらい残っているんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。基金残額がどのくらいあるかについてでございますが、介護給付費準備基金の残高でございますけれども、まず令和４年度末時点で２億6,830万2,532円、26830253でございますけれども、今年度も介護サービスに係る保険給付の執行状況から、今年度の予算上計上しております介護給付費準備基金の取り崩して繰り入れる繰り入れ自体は、執行しなくても支出のほうが済みそうというような状況であることから、本年度末もほぼ同額の約２億6,000万円くらいは残せるという見込みをしております。

それに対して、第９期の介護保険事業計画策定にあたりまして、令和６年度から３年間の保険料の上昇を少しでも抑制するというために、１億5,000万円の取り崩しを予定をしておるところでございます。これによって保険料が少し抑えられているという状況なんですけれども、令和５年度末の見込みの残高につきまして、被保険者が約１万3,000人とすると１人当たり約２万円ほどの残高になります。

県南市を確認いたしまして、平均を見ますと約３万円ほどと本市の約1.5倍ほど所有をされています。県南市で見ると基金価格が高いほうから16番目と、１人当たりの基金積立額は高いほうではございませんが、介護保険事業計画等推進委員会の組織からも答申がありましたけれども、今後、将来的な介護保険財政の健全化を確保することと、第１号被保険者の負担の軽減とのバランスを慎重に見極め、適切な取り崩しと積み立てを図っていきたいと考えるところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ルールは分かったんですけど、今そうするとこれだけ3,458万6,000円繰り入れたときに、これを入れると幾ら残るんですか、基金は。今基金として残っているのは幾らなんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。２億6,000万円ほど今年度末に残る予定ですので……。

○１５番（内田　隆君）　４年末が２億6,000万……。

○委員長（小林博文君）　落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　すみませんでした。お待たせしました。今年度の3,458万6,000円、令和６年度の分の基金を取り崩しますと残額で２億2,541万4,000円残るという形となります。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。今説明の中で、基本的に今は２万円ぐらいあるよ。他市は３万円ぐらいあるということになると、今年の運用をやった中である程度残れば、この３万円に近づけるような基金積み立ての方向をいたしていく。それとも２万円あればいいということの中で、介護保険料を抑える方向へ向かう。どちらですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　実際に、年度末にどうなるかという話は別として、現状で立てた計画でいいますと、取り崩して２万円残ればいいという形で考えているものでございます。

以上でございます。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。５番目、渡辺委員から出ております。

○５番（渡辺　修君）　タブレットの８ページになります。歳入の第三者納付金で、第三者行為に係る損害賠償金とは何でしょうか、お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。第三者行為に係る損害賠償金でございますけれども、介護保険給付のうち介護サービスの利用が交通事故等の第三者、加害者さんがいらっしゃった不法行為によって生じたときに、市が負担します給付金９割から７割の給付金のうち、事故の過失割合に応じてその加害者、責任者に請求するお金のことで

ございます。

実際に請求にあたりましては、加害者側に支払いを求める求償事務というのがあるんですけれども、それについて静岡県国民健康保険団体連合会、国保連さんに委託をしておりまして、国保連と加害者さんが加入される保険会社さんと折衝が行われまして、事故の過失割合ですとか、その事故によって必要となった介護サービス等について決められることによって額が決まってくると。

それにつきまして、国保連を経由して市のほうに賠償金として支払いがされると。収入をすると。そういったようなものでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。過去にわたって何かこれが実際活用されたことはあるんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　第三者行為の損害賠償金というのは、事故によるものなので過去にも実績がございます。収入として、介護財政のほうに収入しますので、その後、その財源の中で給付等に充てられるというような形となっているものでございます。

以上でございます。

○５番（渡辺　修君）　分かりました。ありがとうございます。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。じゃあ、支出のほう行きます。６番目、倉部委員から出ております。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。１款３項１目介護認定審査会費です。説明資料で９ページです。現在、介護認定にどれくらい時間がかかっているのか。利用希望者にとって不都合はないか、お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。介護認定にどれくらいの時間がかかっているかと、利用希望者にとって不都合がないのかということでございますが、まず初めに介護認定の期間、時間についてでございますが、令和６年２月末時点ですが、結果が出ている1,300件のうち、出した期間ですけど平均の日数が約40日となっております。国は新

規で申請される場合と、あと心身の状態が変化した場合に申請する区分変更申請の場合に、30日で出しなさいという形になっております。

あと、継続して介護サービスを利用されるための更新日程につきましては、更新のお知らせを私どもがするんですけれども、届いてから更新期限までの間は60日間と規定がされております。新規及び区分変更の申請が約570件あるうちの、そのうち30日以内に認定できたのが80件と14%にとどまっておりまして、また更新申請は約700件とあるうち、期限内に認定できたものは550件ということで、79%となっております。

期限内に認定ができない病院といたしましては、まず主治医の先生が作成してくださる検証の作成のタイミングがちょっとどうしても時間かかってしまってというものがあることと、あと私ども認定にあたりましては掛川市と御前崎市と共同で審査会を持っておりまして、掛川市で実施する認定審査会の資料をまとめるというタイミングがちょっと生じてしまいまして、その締切りの時差の関係で少し時間が要すること、あと私どもの認定調査のタイミングなどももちろん、その内容として影響するというような形となっております。

現在も事務処理の遅延により、私どもの事務処理の日程により認定の遅れが生じることのないように努めておりますけれども、今後も認定調査員など内部的な要因で期限を超えてしまわないように、調査員の確保などに努めてまいりたいと考えております。

次に、利用希望者にとって不都合がないかという点についてですが、不都合が生じたよというような連絡があった事案というのは、今のところ特にはございません。これは、要介護、要支援認定申請をした時点で、介護度が分からないことによって支給限度額、要は確定がしませんで、介護サービスがどのくらいかという使える量というのがはっきりは分からないというのはあるんですけれども、介護サービス自体は利用が可能となるもので、申請者のケアマネジャーさんがつくんですけれども、介護度を見込む中で暫定のケアプランを立ててサービスを利用してくださっているため、大きな影響になっていないと考えるところでございます。

また、それとは別にがん末期など早急にサービスが必要な方につきましては、認定調査を早めに行って、審査会の日程も特例で繰り上げていただくなど、特別な扱いができるものもありますので、そういった形で利用者への影響を最小限にとどめると、いるものと考えているところでございます。

この令和４年度のデータになりますけれども、国からの資料を見ますと国県の平均がやはり、平均で約40日くらいと本市と同程度の今状況にあります。だからというわけではないで

すけれども、とにかく今後も可能な限り早く認定結果が出せるように努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。頑張ってやっていただいているのはよく分かります。調査員とかの充足度というか、もっと欲しいけどもいらっしゃらないとか、予算の関係で雇えないとか何かその辺はありますでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　調査員、調査ができるようになるまで時間がかかるものですから、人の入れ替えが起こりそうなタイミングではいろいろと不安定な状況にはなるんですけれども、現状でいうと幸いやっていただける方がいらっしゃるので、足りているというような状況でございます。

今後もその調査員の確保というのが課題になっていて、今やってくださっている方も大分年齢が大きくなってきていますので、今後とも継続して調査員を確実に確保できるように、都度この調査員さんを探すということについては続けていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　７番目、行きます。内田委員から出ています。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。同じページのところに、趣旨普及費という形でパンフレットを作ると書いてありますけど、これはどのくらいの間隔で作られているんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。パンフレットの発行の価格と発行部数でございますけれども、介護保険のパンフレットは制度の普及啓発と、あと制度を利用していただくことによっての目的として作成をさせていただいているもので、３年に１度制度改正が行われるごとに刷新をさせていただいております。

作成部数が１万8,000部作っております。使用の内容としますと、制度改正後に今度の４月もあるんですけれども、全世帯に１万5,000世帯ほどですけども配布をさせていただくとともも

に、市役所の窓口ですとか事業所、あと病院など関係機関に配架をさせていただくほか、市のホームページで、これは冊子ではないですけどＰＤＦデータを掲載するなどして、広く周知をして、また高齢者に関するご相談をいただいた際に窓口で支援の手引きとしてお渡しして使っていただいているといったころでございます。

令和３年度に同じように発行しておるんですけれども、現時点で800部ほど残っております。ただ、例年は足りなくて、例年じゃないですけど、前のときには足りなくて追加で作ったりというような状況もあった中で、今回はコロナ禍において利用する機会が少し減っていたというのも要因として考えております。

今後、４月以降に使用するパンフレットの作成を進めておりますけれども、作成したパンフレットにつきましては無駄にしないよう、ご協力いただける開業医などこれまで設置をしていなかったところにも配架をしていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　大丈夫ですか。関連で質疑ありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　８番目、倉部委員から。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。２款１項１目の居宅介護サービス費、説明資料で９ページです。報酬改定で訪問介護の基本報酬が２％強引き下げられました。ヘルパーの皆さんからの声が届いていますでしょうか。サービス付き高齢者向け住宅や住宅型有料老人ホームの運営する事業者のヘルパーと家庭訪問型のヘルパーでは実態が違っていると思いますが、市内の自宅介護と施設入所型介護の利用状況と今後はどう捉えていますか、お願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。今回の報酬改定に関し、ヘルパーの皆さんからの声が届いているか、居住系サービスを運営する事業者のヘルパーと家庭訪問型のヘルパーでは実態が違っているのではないかという点についてですが、現在のところヘルパーの皆さんから直接市にご意見をいただくといったことはない状況でございますけれども、居住系サービス事業を運営する事業者のヘルパーと家庭訪問型のヘルパーでは、経営の状況が違いまして、今回の報酬改定は厳しいのではないかという声は耳にしております。

報酬改定につきましては、基本、国の行う各種調査結果を基に社会保障審議会と、国の会議を経てまして決定されるもので、ご指摘のとおり事業形態によって実態が違っているのではないかと考えているところでございますが、報酬改定にあたっては国も調査結果などを参考にしているため、そういった声、一部の声も一定程度は届いているものと考える中で、私どもとしては今後の事業の動向について少し注視をしていきたいと考えているところでございます。

また、報酬改定の改定率の外枠として、改定予定の処遇改善の加算につきまして、一本化して賃上げをしていくという内容のものについて、また同じ名前で介護職員等処遇改善加算というのが設定されておりまして、令和６年度に2.5%、令和７年度に２%のベースアップにつながるような加算の引上げが行われるということで、具体的な手続について今国から進められつつありますので、今後、手続をする事業者が出てくると思いますので、速やかに対応していきたいと考えているところでございます。

市内の自宅介護と施設入所型介護の利用状況と、今後、どう捉えているかということにつきましては、市のサービスの利用の傾向はコロナ禍では施設の入所制限などで入所よりも在宅でのサービスの利用が伸びてきたという状況が顕著でございました。

その後、コロナの感染症法上の取扱いが２類から５類に変更となったあたりから、居宅介護サービスの利用よりも自宅介護サービスの利用が増えるというような状況に変化をしてきております。介護する方が働いていらっしゃって、在宅での介護がなかなか厳しいということと、介護される側も年金などがあってお子様などの介護者の支援があれば施設に入れるというような状況もある中で、施設利用が増えてきているとそのように考えております。

施設の利用者数につきましては、令和４年度12月時点の施設利用者につきましては466人であったのが、２年前の令和２年の12月だと394人と72人増えております。逆に、居宅サービスにつきましては令和４年12月は1,294人に対しまして、２年前は1,315人と21人減少しているというような状況でございます。

今後も、同じような状況が続くと見込んでいる中で、今回策定をいたしました計画の中でも施設サービスを利用する、もしくは施設の入居の待機者につきまして、在宅サービスを使っていくという方が増えていくという条件を加味しまして、サービス料の見込みをしたところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　ここで言っても仕方がないことが多いと思いますので、いいです。

○委員長（小林博文君）　関連で質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　では、９番目、内田委員、お願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。今一部説明をしていただいたのですけど、こういうふうに居宅から施設のほうへ移り始めているということに対して、市とすると何か課題が発生するんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。居宅が減って、施設が増加する際の市としての課題についてでございますけれども、今後も同様の傾向が続くと考える中で、施設利用の増加に伴って施設の定員に対しまして、必要な方が利用できないというような状況になり得るかもしれないという点については懸念をしております。

ただ、現状は施設についてはある程度まだ入れるような状況でございまして、定期的に開催されます特別養護老人ホーム各施設の入所判定会に包括支援係からも職員が出席をしておりまして、緊急度等に応じまして入所に必要な方が優先的に入所ができるように判定がされているというような状況でございます。

また、利用者の中には近所の施設はちょっと敬遠されるという方もいらっしゃいまして、中東遠圏域ですとか、牧之原や島田などの近隣市の施設なども利用がありまして、広域で施設入所を対応していくというような状況にもあります。これからも、こういった傾向は続くと見込まれる中で、現状、市としては施設を新たに建設する予定はない状況でございます。

なお、現在施設を新たに新設をしたとしても20年、30年後には高齢者が今度は減少してくるという状況のため、この施設が必要なくなる、もしくは再三が取れなくなるというような可能性がありまして、積極的にその施設の建設を事業者に求めるというのは難しく、現実的ではないかとそのように考えております。

このような状況から、今の時点で施設整備を行う予定がなく、元気で在宅サービスを利用しながらご自宅で最後まで暮らしていただけるように介護予防の充実を図っていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。施設のほうもある程度人が入らなければお金にならない

わけで、そうするとただ、今は入れるけどしばらくするとまた介護度があってもなかなか入りにくいという可能性が出てくる可能性があるんですよね、実際。もう一回入った人を出すというわけでは多分いかないということになると、その間、居宅のほうで頑張ってもらうという施策を考えているんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。現時点で、どういうサービスというような具体なものはございませんで、もともとその施設が必要な方が入れなくならないように、特別養護老人ホームについては介護度の高い方が利用する施設という位置づけでございますので、そういった方が入れるように適正な運用に努めているところでございます。

今後、サービス需要が在宅でも増えてきたときに、またどういう形でサービスの形が新しいものができるというよりは、サービス料が必要になってくるかと思うんですけれども、需要が増えてくると供給がある程度増えてくるというような実情はございますので、その中で対応していくと、そのような形で考えております。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　再質疑はよろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○委員長（小林博文君）　関連でございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　続いても10番目、内田委員、お願いします。

○１５番（内田　隆君）　15番です。次のタブレットの10ページのところで、特定入所者介護サービスが1,300万ほど増額になっていますけど、これはどんな理由があるのですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　特定入所者介護サービス等費が1,300万円の増額になっている理由についてですが、そちらは特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院など、介護保険施設に入所したときですとか、ショートステイですとか、デイサービス等にあるんですけど、利用したときの本来サービス利用費として１割から３割の利用者負担のほかに、食事の提供があるとその食費ですとか、居住費などが必要となります。

この食費と居住費につきましては、日常生活を送る中で必要となる経費なもんですから、

通常保険給付の対象外となるものでございますけれども、特定入所者介護サービス等費につきましては、施設サービス等利用者の収入や資産が一定程度の基準を下回る場合については、その一部を保険給付という形で負担するというような費用で、低所属者の利用者とその家族等の負担を軽減する制度でございます。

この特定入所者介護サービス等費につきまして、今後、施設サービスの利用傾向が今増加してくる中で、少しずつ増えていくという中で、令和６年度はこれまでの増加傾向を勘案しまして、しばらく前の予算額の上限いっぱいまで見させていただくという中で、1,300万円の増額をしたところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ということは、先ほど言った施設型のところで、人が増えてくればここのところがまた増える可能性があるということでよろしいわけですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　介護保険施設を利用される方が増えれば、その分だけこの特定入所者サービス等費につきましては増えるというものでございます。

以上でございます。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　関連質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。続きましても、11番目、15番、お願いいたします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。タブレットの15ページ、介護予防普及啓発事業費が減ってきていると思うんですけれど、500万減っていますけど、これは何か理由があるんですか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。介護予防普及啓発事業費の事業費減額の理由ですが、減額の主な理由につきましては、介護予防事業委託料でございまして、介護予防普及啓発事業として行っているいきいきサロンの業務委託料の業務内容の見直しによる費用の減額になります。

この事業につきましては、地域支援事業交付金の対象となるもので、これまで通常の交付金の上限額を上回って実施をしておりまして、個別享受という形で上回る分を交付金として

認めていただいてきたものなんですけれども、適正化を求められてきたという中で見直しをしているものでございます。

いきいきサロン事業につきましては、現在、菊川地区と小笠地区の社会福祉法人２法人に業務を委託を行いまして、菊川地区ではプラザけやきの会場と、潮海寺にあります東部ふれあいプラザの会場の２か所。小笠地区では、棚草にあります和松会の施設で、松風苑の会場の１か所、全部で３か所で行っております。

対象者は介護保険を使っていない自立した高齢者を対象に、基本チェックリストの結果によりまして社会的孤立ですとか、閉じこもり、認知症、運動機能等の項目について、低下をすることを予防する目的で開催をさせていただいているものになります。

コロナ禍もありまして、参加者の減少が続いていたというものもあったんですけれども、需要・実績に応じて適切な事業規模となるように委託内容を見直しているというものでございます。

また、現在、定員には余裕がありまして、サロンに加えられている方、今後希望される方については影響がないというような状況で、今後も効果的な事業が実施できるよう事業を見直しに取り組んでいっていると考えるところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。委託金ですからこちらで設計を組むんじゃないかと思いますけど、今まで委託をされていた側から見ると、お金、500万円減らされて困らないですか。

○委員長（小林博文君）　落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。当然、その事業を、委託を継続的にやらせていただいていたので、事業所側には相談をさせていただいて、利用人数が少なくなってきた状況に応じて開催日などを調整してもらって、雇用する方の調整等を図っていただきながら、業務の見直しをさせていただくというようなことを数年かけて進めていると、そのような状況でございます。

以上でございます。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○委員長（小林博文君）　関連はありますか。いいですか。

同じところで、次の質問に。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部ひとみです。同じところで、毎年お聞きするんですけど、

いきいきサロンの３か所の利用状況を教えてください。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　いきいきサロンの参加者の利用状況についてですが、２月末現在で、利用者ですけれども、けやきの会場で34人、東部ふれあいプラザで６人、松風苑で35人の計75人の方が週１回通われているというような状況となります。

ちなみに、平均年齢が、けやきが88歳、東部ふれあいプラザが87.1歳、松風苑が89.2歳となります。元気な高齢者の皆さんが来てくださっております。ただ、高齢の方が多い状況でもありまして、介護保険サービスへの適切な移行についても、随時、その方の状況を見ながら行っているという状況でございます。

定員に対して充足率は60％程度で、現在、推移をしております。社会的孤立ですとか、閉じこもり、認知症、運動機能低下等を予防する目的で実施をしておりますので、引き続き、需要の掘り起こしをいたしまして続けていきたいと考えております。

以上でございます。

○４番（織部ひとみ君）　ありがとうございます。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。再質疑はよろしいですか。

関連質問はありますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○委員長（小林博文君）　次、13番目、渥美委員から出ております。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　タブレットページの16ページ、包括支援事業費について。

菊川市地域包括支援センター運営協議会の事業評価結果を踏まえた改善について、令和６年度の取組があれば伺います。また、重層的支援体制整備事業について、令和６年度の取組があれば伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。地域包括支援センターの運営協議会の事業評価を踏まえた改善についてと、あと、重層的支援体制整備事業についての令和６年度の取組についてでございますが、１つ目の包括支援センター運営協議会の事業評価結果を踏まえた改善と令和６年度の取組についてでございますが、項目の中で、組織運営体制における評価で、センターの３職種、主任ケアマネと保健師と社会福祉士の１人当たりの高齢者数の状況が1,500人以下であるかという項目がございまして、その指標につきまして、令和５年度につきましては1,612人でございましたので、指標に達しなかったという評価でござ

いました。

こちらにつきましては、昨年度、人事異動で主任ケアマネが１人減少になったことと、人事異動後に個人的な事情で保健師が１人減になってしまったということによるものです。このため、令和５年度、本年度につきましては、包括支援センター職員の有資格者の確保のために、センターの職員の１人が主任ケアマネの新規資格取得研修を受講いたしまして主任ケアマネの数を増やすというような取組をさせていただいたことと、あと、保健師人材の確保につきまして組織に要望させていただいたというところでございます。

令和６年度の取組といたしましては、センター職員のケアマネジャーの資格更新研修の受講等を実施することと、あと、社会福祉法人と連携をいたしまして、職員の派遣を受けることを継続していきたいと考えております。

そのほか、評価項目の中で、介護家族等の介護離職防止に向けた支援の評価指標につきまして達していない点がありましたので、令和６年度は、家族等の介護離職防止に向け、今年度に引き続き、出前行政講座で、家での介護を始める前に知っておきたいことという講座を通じて、介護離職防止の相談ができることを周知をしながら、地域に根付いた介護の相談会ができるように検討していきたいと考えていること、あと、地域ケア会議というものをしておるんですけれども、その評価指標で、個別のケア会議というものを行い、そこで検討されたケースから地域課題を抽出して課題の解決の方法を探しまして、地域ケア実務検討会というところで実施方法を確立するという取組があるんですけれども、そのあたりのところが足りていなかったので、また、このところはちゃんと実施方法を確立できるように取り組んでまいりたいと考えているところであります。

次に、重層的支援体制整備事業についてでございますが、まだ調べを始めたばかりでございまして、県の福祉長寿政策課のほうに県内市町の実施状況について問い合わせを始めさせていただいたところでございます。

令和４年度の実績で、県内で１か所、函南町が重層的支援体制整備事業を開始をしておりまして、あと、今後、令和７年度には、県内14か所で重層的支援体制整備事業の移行を予定しているというようなお話を聞きましたので、うちの市に合う形があるかというのもあるものですから、今後、県の協力を得ながら、函南町ですとか、これからやっていかれる県内の先行市町の実際の立ち上げの状況などを調査をさせていただきまして、菊川市の支援の方法と合った形で利用が可能かどうか研究していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑はありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。１点目の改善について、いろいろ改善されていることが分かりまして、１点、質問なんですけども、介護離職の達成してない項目があるということだったんですけど、具体的に、それはどういった内容なのか、ちょっと確認でお願いします。

○委員長（小林博文君）　山本包括支援係長。

○長寿介護課包括支援係長（山本　　君）　山本です。指標の内容なんですけれども、地域に出向いて介護離職防止に関する相談を実施しているというところがありました。そのため、先ほどの答弁に遭ったような形で、そういったアドバイスを続けていきたいと考えています。

以上です。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。答弁が終わりました。再質疑はありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。ありがとうございます。

最後にもう１個、次の項目で、重層的支援の件で、この前、東さんが一般質問されて、ちょっと今日、確認で質問させていただいたんですけど、これってなかなか、実務をやっていない人間がすると結構内容がちょっと難しくて、具体的にどういった、菊川にとってメリットというか改善につながっていくのかというのがなかなか分かりづらい部分があったんですけど、ちょっと今、調査中ということもあるんですけど、簡単でいいので、どういったメリットというか改善につながっていくのか、ちょっと抽象的で申し訳ないんですけど、最後に伺えたらと思います。菊川の場合においてです。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。重層的支援体制整備事業につきましては、高齢者に限らず、障害者ですとか、子どもとか、困窮世帯等も含めまして相談を一括で受けるとか、社会とのつながりを回復するための参加支援をするですとか、こちらからアウトリーチ等を通じた継続的支援をするとかというようなものを事業メニューに加えておるもので、今、私どもは部署ごとで分かれている中で、その形もいろいろだそうで、そこをちょっと調べたいところではあるんですけれども、一括でできるような組織をするのか、体制を取るのかというようなところの整備をするという事業なんですけれども、それに対して、その事業を取り組むと交付金をいただけるというようなものなんですけれども、ある程

度要件がございまして、私どもといたしますと、今、プラザけやきの中で、それぞれの部署が、課は違いますけれども、一緒に建物の中でやっていただいて、関係する部署とはよく連携を取ってやらせていただいている中で、重層的支援体制整備事業をひくことが目的ではないので、ちゃんと困った方に対して各課で連携して対応させていただけるというような状況を作りたいと。

なので、重層的支援体制整備事業の各要件をクリアするために、今、やってないことをやってまでやるかというと、そのところは、やはりちゃんと調べたいとする中で、何が市民の方にうまく作用するのかというところを、目的を調べて、事業の利用をするかどうかというのを検討したいと、そんなように考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。よろしいですか。

この件で関連で質疑はありますか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○委員長（小林博文君）　次、14番目、渥美委員、織部ひとみ委員、渡辺委員から出ています。代表して渥美委員から。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ17ページの在宅医療・介護連携推進業費について、私のこれからノートの利用状況と具体的な周知・啓発方法を伺います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。在宅医療・介護連携推進事業に関する私のこれからノートの利用状況と具体的な周知・啓発方法についてですが、私のこれからノートは令和３年度に作成をいたしまして、きくがわ医療・介護連携多職種研修会の教材としてなど活用し、医療や介護等の専門職に周知を図ったものでございます。

令和４年度には、市民向けの講演会「これからノートつくってみませんか？」を開催いたしまして、市民133人の方にご参加をいただいたところでございます。

令和５年度につきましては、出前行政講座のメニューに「人生会議って何だろう？私のこれからノートつくってみませんか？」という新しいものを新たに加えまして、これまで市の団体、47人ぐらいだと思うんですけど、受講をいただいているという状況でございます。

また、令和５年12月ですけれども、私のこれからノートの作成体験会を開催したり、１月には、ＪＡ夢咲フェスティバルのほうに紹介ブースを設けるなど、幅広く市民への周知を図らせていただいております。

また、県の事業で、人生の最終段階における医療・ケア普及啓発事業というのがございまして、そちらにも参加をさせていただきまして、私のこれからノートを市内の医療機関や介護事業所等にも普及啓発を行いながら、医療機関や介護事業所等にも普及啓発のご協力をいただいているところでございます。

このほかにも、広報菊川や令和４年度開催の講演会の動画を、市公式のアカウントのユーチューブに掲載をするなど、いろいろな媒体を活用して周知に取り組んでいるところでございます。

今後も事業の趣旨をちゃんと市民の方に伝えながら、活用していただけるようにというような説明をしながら、周知をしていきたいと考えるところでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑はありますか。よろしいですか。

織部ひとみ委員、よろしいですか。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○委員長（小林博文君）　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　大丈夫です。

○委員長（小林博文君）　関連質疑はありますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（小林博文君）　15番目、倉部委員から出ております。13番　倉部議員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。３款３項２目の在宅医療・介護連携推進事業費で、説明資料17ページです。

ちょっと全部がここに当てはまるか分からないのですが、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者について、関係機関が連携して多職種で協働する体制を実現するとあるが病院との連携は実質的に取れているか。

現在の課題、在宅介護と療養型病院の選択について、すみません、これ間違っています。丁寧な説明はされているのかということでお願いします。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。倉部委員のご質問にお答えいたします。

１つ目の医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者について、関係機関が連携して多職

種で協働する体制を実現するとあるが病院との連携は実質的に取れているかについてでございますが、医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までできるためには、診療所や歯科医院、病院ですとか訪問看護事業者や薬局、介護サービス事業者などの連携が必要になりますが、それぞれ専門職であってもお互いの知識や対応に関する情報を持っているとは限らないことから、市内の医療介護に関わる専門職の方の相談窓口として、在宅医療介護連携支援窓口を菊川病院の地域支援課内に設置をいたしまして、専門職の相談を受けられる体制を取っております。

令和４年度の実績として、年間で245件の相談がケアマネージャーや訪問看護事業者からあったところでございます。

また、医療機関や看護事業者など専門職の顔の見える関係づくりと関係機関の連携強化を図るために、きくがわ医療・介護連携多職種研修会を毎年開催しており、今年度は２月22日に、今、菊川市の連携を見直すをテーマに開催いたしまして、市内の医療・介護関係者119人にご参加いただいたものでございます。

こうした取り組みから、在宅で暮らしを続けていただくための病院とその他の関係機関の連携については、基本的には取っていただけると考えてはおるんですけれども、なかなか全てのケースについてできるわけではなく、在宅で介護ができるわけでもないということで、より高度な療養が必要で、かつ、介護が必要な高齢者につきましては、療養型の施設として介護医療院への入所がご案内されているというような、そんなような状況でございます。

在宅医療・介護連携推進事業では、高齢者の状態の変化に応じて必要なサービスが提供できるように、より市内でよい体制ができるように整備の推進をしているところでございます。

２つ目の現在の課題についてでございますが、本事業に限ることではございませんが社会全体として人手不足が懸念されている中で、今後、ますますその状況が進むと見込まれる中で、高齢者をより効率的に支援していくことが望まれる中で、より連携した体制の構築が必要と考えております。

先日のきくがわ医療・介護連携多職種研修会では、グループワークで、同職種で異職種の強みや価値観の共有と菊川市の連携の強みについて意見交換を行っていただきまして、実は、多職種との連携よりも同職種間の連携が足りないのではないかといったような気づきもあった中で、今回の研修での気づきを各所属団体に持ち帰っていただいて同職種内で議論をしていただくなど、地域全体で、連携がより深まっていくよう働きかけていく必要があると考えているところでございます。

３つ目の在宅介護と療養型病院の選択について丁寧な説明をされていくのかについてですが、地域包括支援センターではということで、高齢者何でも相談の窓口として、プラザけやきとあかっち内の２つの窓口を設置しておりまして、在宅でできるサービスの内容ですとか費用についてと、病院でできるサービスと費用について、それぞれを説明させていただいて、ご本人や家族の希望や困りごとを聞きながら、どういった形の支援がいいのか、介護がいいのか、丁寧なご相談対応をさせていただいているつもりでございます。

また、高齢者の状態の変化に合わせて、よりよい介護の環境になるように継続して支援し、説明をさせていただいているつもりでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑はありますか。13番　倉部議員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。いろんな対応をしていただいていて、ただ、いろいろな状態の方もいるもんですから、全部が全部、当てはまらないのもよく分かるんですけど、結局、一番つないでくださっているのはケアマネージャーさんだということで、一番近くで寄り添ってくださって、ほとんどそこからの情報しか入ってこないとか、自分が聞きに行かないからでしょうけど、ケアマネさん頼りみたいなところがあって、現在、ケアマネージャーさん、ちょっと人手不足に今後なっていくとかっていうところがあるので、やはり、ケアマネの育成とか、いつも言っていますけど、結局、ケアマネージャーさんがなかなかお給料が上がっていかなかったり、お一人で抱える方もどんどん増えてしまったり、ケアマネージャーさんによっても大分資質も違ったりというところがあるんですけど、前も聞きましたが、ケアマネージャーさん、菊川市内で足りているのか、もう少し増やさなきゃいけないのか、その辺は地域包括支援センターとの連携とかでどうなんでしょうか。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。ケアマネさんが足りているかという話については、現状で、すごく足りなくなってしまって困っているというのが窓口で出てくるわけではないんですけれども、常に忙しくて不足しているというような話は聞いていて、そういう状態が続いているんだという認識はしております。

包括支援センターの業務の１つとして、ケアマネージャーさんの支援が、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業というのがございまして、その中で、市内のケアマネさんの能力の向上ですとか、あと、業務の効率化というような部分についてもご支援をさせていただく

というような内容で取り組ませていただいておりますので、委員さんがおっしゃるように、ケアマネさんがいろいろな支援のキーになっているというのは自分自身に感じておるものですから、市内のケアマネ事業に対して、包括支援センターとして、これからも支援していけるように努めていきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑はありますか。よろしいですか。

関連質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　最後の16番目、内田委員、織部ひとみ委員からですが、代表して内田委員、お願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。タブレットの説明資料の20ページになります。

介護用品支給事業費について、ちょっと質問の仕方がうまく分からないと思うんですけど、内容だと、４以上の方が何人いて、そのうちの非課税が何世帯で何人いて、そのうちのどれだけの人が利用する、最終的にはその利用人数と72万円がどう関係しているかというのを説明していただきたいと思います。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　長寿介護課長でございます。最初に在宅介護の高齢者紙おむつ支給事業でございますけれども、令和５年度まで、本年度までは、地域支援事業として実施をしてきていたもので、国のほうで地域支援事業の対象から外すという方針であることから、令和６年度から、新たに４款として、保健福祉事業として、新設して継続をさせていただくというものでございます。

紙おむつの支給につきましては、非課税世帯で、在宅で要介護４以上の方を介護している家族の経済負担を軽減するために現物支給するものになりますけれども、予算の積算に当たりましての算出方法ですけれども、紙おむつの１月当たりが2,500円を見まして、３か月ごと、年４回で支給をしておるものですから、令和４年度の実績が、４回のうちの１回が26人、２回目が23人、３回目が20人、４回目が17人ということで、平均で22人となることから、この人数に、先ほどの単価に消費税を加えた2,750円を乗じまして、その12か月分を見込んで72万6,000円という金額を予算計上させていただいたものでございます。

令和６年１月末時点で、要介護１から５の認定者のうち、非課税世帯の方が589人いらっしゃいまして、このうち、当事業の対象となる介護４以上の方で在宅で介護されている方が48

人というような状況となっているものでございます。

以上でございます。

○委員長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員、再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　こっちの数字が入って。

分かりました。いずれにしろ、この条件に見合う人が大体40人ぐらいいるという計算の中で、過去の実績からして平均すると22人で、１年間を通すと2,750円のものが必要で、今、72万6,000円の予算を組んだということでいいよね。分かりました。いいです。

○委員長（小林博文君）　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

関連質疑はありますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○委員長（小林博文君）　以上で、事前通知による質疑を終了します。

関連で、介護保険、質疑のある方は挙手をお願いします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。１点だけ。介護保険法によって、認知症の地域支援推進員が何名、今、菊川市にいますか。手短に。

○委員長（小林博文君）　答弁を求めます。落合長寿介護課長。

○長寿介護課長（落合要平君）　認知症地域支援推進員ですけれども、地域包括支援センターの窓口と、あと、長寿介護課内に今年は４人、ちょっと人事異動で変わったりするもんだから、今、４人いるという認識でおります。

以上でございます。

○１２番（織部光男君）　ありがとうございます。いいです。

○委員長（小林博文君）　よろしいですか。

そのほか関連でありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それでは、質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、

委員間の自由討議を行います。

今回の件では、基金残高や預託と施設の介護の定員、あとは、包括支援事業の内容、その辺が出ていましたが、皆さまのほうからご意見のある委員は挙手の上、発言をお願いいたします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。いきいきサロンの質問がありましたけども、この金額、予算的に2,700万円というような、３か所で、１か所700万円というような金額をつぎ込んでいますけど、私も地元でサロンをやって、月２回ですけども、１回20名から25名の間ですけども、とても予算はなくて、全くこの話を聞くとうらやましい限りで。

加茂地区では自治会で必ずサロンを開いています。１％助成金なんかを使っているんですけども、本当にささやかな助成です。

このいきいきサロンの話を聞きますと、人件費もかかっているようですけども、ある施設を使ってやっているということで、どれだけの経費がかかっているのか、会計報告をさせているのかどうかも分かりませんけども、ちょっとこの辺のところは調べる必要があると思って、今、感じております。

以上です。

○委員長（小林博文君）　この件は、多分、ほとんどが人件費。

○１２番（織部光男君）　いやいや、人件費は200万円ぐらいしか上がっていない。

500万円、もっと、委託料もにかかっているんだから。

○委員長（小林博文君）　委託料の中で、ほとんどが人件費。

○１２番（織部光男君）　いやいや、人件費は別に書いてあるから。

○委員長（小林博文君）　委託しているのが、社協に委託しているんです。その中で人を出しているので、施設は、東部もそうなんですけど、東部も、寄附した方がいて、そういうことに使ってくれということで、この前もエアコンが壊れたりして、修理は、金額が高いものは市がやるという形でやっているんですが、あとは光熱費なので。あとは、いわゆる材料費とか、人件費がほとんどだと思うんですけど。

サロンといっても、介護になる、予防のほうのサロンということで支援しているということになるので。

○１２番（織部光男君）　会計年度で476万7,000円です。

だから、委託事業として2,200万円を使われているわけだから、人件費といっても、週１回のそのときの職員がやっていると思うんです。

○委員長（小林博文君）　その辺で、ほとんど人件費だと思うんですが、予防事業に入るということでやっているので、かなり人数は減ってきちゃってるんですけど、僕が、何回も言いますけど、送迎のバスをやっていて、最初の頃は１回に10人近くいたんですけど、今は全部で６人、東部をやっているんですけど６人ということで、大体１回に２人か３人をお送りしてるんですけど。

そういう形で、場所によって、多いところがいいという人と少ないところがいいという人とがあって、これは、委託しても市の事業としてやっているので、地域でやる、自主的にやるものとまたちょっと性質が違うので、もし、そういうことがあるのであれば、加茂の方がこちらに行っていただければ、その辺で、食費を出していただければ、送迎もしているとかもあると思いますので。

その辺は、性質がちょっと違うものじゃないかと思うんですけど。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。いきいきサロンですけど、東部が６人とかっていうのは、なぜこんなに少なくなっちゃったのかっていう、そこを検証しないのか。私の母も介護に入る前に使わせていただいてたんですけど、あの頃は１日に20人とか10人ぐらいとかいて、ここに行けるのは週一ですけど、ほぼ毎日10人ぐらいは、特にけやきは人がいたような気がして。今日聞いたら、何かすごい利用者が少ないので、同じ事業をやっていて、減ったままでいいのか、なぜ、みんなが使わないのかっていうのは、ちょっと検証してもらわないと。

以前は、あまり積極的に言うといっぱいになっちゃうんでっていうのをちょっと聞いたことがあって、何でこういうのをすごいやっていますって言わないんですかって聞いたことがあるから、あまり言うといっぱいになっちゃうしって。じゃ、誰がどうやって誰に勧めてるんですかみたいな話はちょっとしたことがありまして、現状、このいきいきサロンに行ったらどうですかっていうお勧めは、一体、誰がどこでしてされているのか。介護保険ではないので、窓口に行って、うちの母がちょっと怪しいのでって言うと、こういうのがありますって紹介してくださるんです。地域包括の窓口に行くと。いきいきサロンやってますって、確かに宣伝はしてないような気がして。

ちょっと、この人数でそのお金をかけていることは、ちょっと見直しをしていただかないといけないような、減ったままでいいのか。

例えば、東部、これの人数のためにあれだけのものを置いといていいんですかっていうところは、言われてみると、ちょっと気になります。予防しなきゃいけない人が減っているの

か、予防する気がある人が減っているのか。減ったままでいいにしているのはなぜなのかっていうところは、ちょっと、今日見たら、改めて少し気になるところかと思います。

○委員長（小林博文君）　そこからいくと、多分、介護認定されて減っていくんですけども。

○１３番（倉部光世君）　要支援はいけるんだっけ。

○委員長（小林博文君）　要支援の１、２。

○１３番（倉部光世君）　１、２ですよね。

○委員長（小林博文君）　新たに入ってきたっていうのはこの頃、新しい方っていうのはいらっしゃらないんで。

○１３番（倉部光世君）　送迎つきで、お弁当代だけ払ったらお昼も食べさせてもらって１日いられるので。

○委員長（小林博文君）　２時までです。

○１３番（倉部光世君）　デイサービスが使えないけど、そのちょっと前ぐらいの方がっていう。

○１０番（赤堀　博君）　これって、10時から２時までの。

○委員長（小林博文君）　10時だと思います。

○１３番（倉部光世君）　そのぐらいですかね。その辺もあるので、すごい助かりますけど。あるということを皆さんが知らないのか、なぜ、こんなに減っちゃったのかっていう。

○委員長（小林博文君）　男性がいないんです。

○１３番（倉部光世君）　女性ですね。

○委員長（小林博文君）　前は１人、２人いたんですけど。それこそ介護認定の方もいらっしゃって。

その辺はどうなんですか。予防で来る、相談に来る方をつなげるという、予防でなかなかセンターには来ないのか。やっぱり介護認定されるぐらいになってから来るんで、そうすると、保険の適用となるところのデイサービスになっちゃうんで、なかなか、最初の予防につながってないような気もしますけど。

○１３番（倉部光世君）　予防しなきゃいけないなら、予防があるということは言っていって、参加していただいたほうがいいんじゃないかとかとは思います。

○委員長（小林博文君）　東部はちょっと、個人的に思うのは、たくさんのところが苦手な静かな方が多いので、そういうところを望まれる方はこっちのほうがいいのｋな。

○１３番（倉部光世君）　６人のためにいくら使っているんですか。

○委員長（小林博文君）　それは、だから、人数のためというのは費用対効果、効果の境がありますので何とも言えませんが、そこは、30人の場合、入れと言われたらやめちゃったら、そこでまた介護になっちゃったらどうかというところもあるので何とも言えないんだけど。

○１３番（倉部光世君）　１日２人ということですか。

○委員長（小林博文君）　今は、月、水でしかやってないです。

○１３番（倉部光世君）　３、３。

○委員長（小林博文君）　その人が、そこを見てる人なんか、そこだけやっているんじゃない。向こうの東部に行ったり、けやきでやったりとかしてると思うんです。だから、職員は専属じゃないような、で、やっていると思います。

なので、今は週２回で６人。３人ずつ。

どうぞ。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。サロンに通っていても認知症にはなります。私が平成27年からやってて、もう100回を超えてますけども、そのうちで四、五人、認知症で辞めてます。でも、月２回、運動を、パート２のほうでは運動をメインにやってるんですけども、これだけ予算があるっていうのは本当にうらやましい。これで、年度変わりで、また活動報告とか、予算書から計画まで全部出さなきゃいかんですけど。赤十字の社会保険のほうから少しもらってはいるんですけども。

やはり、地域でこういうことを、もっとこの900万円を、それを地域にまいたほうがよほど、地域でやったほうがいいと思う。

○委員長（小林博文君）　なかなか地域で広がらないです。どこか、公営で１個やらなきゃいけないんだけど、なかなかできないんで、社協に委託したっていうのが。加茂の織部さんのようにやられているところが、いっぱいやりたいところが、手が挙がればいいんだけど、逆に言えば、織部さんも大変になってきたらこういうところを頼るしかないんで。

そういうところで、今、社協に幾ら流れているかは分からないんですけども、今言った、それだけではなくて、多分、いろんなところも含めて、どういう割合で出しているか分からないですけども、やっていると思う。

繰り返しになりますけど、地域で自主的にやってる部分と、事業として、市として起こしてやってる部分っていう違いは確かにあると思いますので、予防ですから、遅らせたりするってこともあるんで、なるのは承知の上で、介護の進度を遅らせるための予防っていうのも含めてやってると思いますので、それは織部さんのところも同じだと思いますので、その辺

は、どちらにいくかで価格が関係してきますけど、そういうところもあると思います。13番倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。織部委員のところは、できれば、コミュ協さんとかの下に入って予算を落としてもらってやるべき。そのほうが、お互いに手間がなくて、地域と仲よくできますというか、そっちに予算を回してもらったほうが効率がすごくいいのかという気はしていますけど。

昨日も病院のことで言って、多職種連携とか、今、話は進んでるんですけど、本当に、だんだん使っていくと、フルでショートステイを使って、デイサービスを使って、ヘルパーさんを使って、訪問看護も使って、最後は在宅医療のお医者さんを使ってってどんどん使うものが増えていって、結局、１回入院して、出るときには全員に集まってもらって病状の説明を聞いてもらって、じゃ、受けれます、受けれませんということをやらないと在宅で見ることって全然できないんですけど、それをこっちからお願いしないと病院がやってくれないというのは、昨日、私、ちょっと申し上げたんですけど、誰でもそれができるかというと、結局、私はケアマネさんがすごい優秀な方で、病院にお願いして全員集めて、病状の説明してくださいっていう会をやってくださったのでできたんですけど、皆さん、在宅しますか、療養病院しますかしか聞かなかったら、こんな大変ならうちで見れないんで療養病院でとかにみんななってしまうのかと思うので、本当に在宅とか分けていきたいなら、説明するところ、私はケアマネ三が全部やってくださったので地域包括センターは行かなかったんですけど、その病院の地域連携室も、行ったら、いきなり療養病院がここここここがありますという説明から入ったので、うん、みたいな感じになったんです。

だから、使っている当事者それぞれに合わせて、どれくらい介護の説明とかができているのかって。冊子を配るっておっしゃってる。あれ、素人が見ても全然分かんないです。いっぱいサービスあると思うけど、うちは、一体、どこの何のどれを何点ぐらいなんで、どれとどれが使えるかは、もうケアマネさんしか分からない。だんだん状況が悪化していくと、ケアマネさんがこれも使ったほうがいいんじゃないですかとか、ここよりこっちのほうがいいんじゃないですかみたいな。デイサービスの比較対象が行ってみないとこっちは全然分からないんです。あれは何とか、いろいろ持ってきてもらって、資料を見てもピンとこないというか。場所によっては、連れていくと、うちだめですとか、お断りされちゃったりとか。本当に見えないというか、分からないというか。

１、２ぐらいの方だったら、どこでも、多分、対応できていくんでしょうけど、家まで来

て、車椅子まで乗せてくれるところと、それをやるならお断りですとか、すごい事業所によって対応が全然違うので、申し訳ないけど、当たりはずれみたいなところがあったりとか、その全容が見えるには、一体、誰に聞いたらいいんだろうという。結局、ケアマネさんにも、申し訳ないけど、当たりはずれがあるという言い方をするとなんですけど、やっぱり代えてくださいってお願いしたっていう方もいたりとか、何か自分の親の状態っていうか、見てみた状態と、あと、自分のことと、分からないことがすごい多いです。

在宅介護を何か月以上、介護３以上になると支援金が出ますとかいうのも、言ってもらってから、あ、みたいな、全然気づかなかったりとか、あと、例えば所得控除があるとかっていう話も、たまたま、病院に行ったら、あるかもしれません、聞いたらどうですかみたいなことを言われたり、まとめて誰か教えてくださいっていう。この段階になるとこうなりますっていうのが、本当に皆さん、直面していかないと分からなくて、１回やった人が講演会をやったほうがいいのかって思うぐらい。よく、認知症カフェとか、当事者の方と経験者と一緒に会って話すっていうのもやっていますけど、そういう機会を設けたりとかしていかないと、実際、やってる方の悩み相談ができる場所が大変難しくて、これからどんどん介護の必要の方が増えていくとどうなるのかって、そういうとこもあって、家で難しいんで施設に預けてしまう方も増えてきているのかと思いますけど。

介護保険がどんどん膨らんでいくばかりなりだと思いますので、できれば、予防をもう少し、いきいきサロンの件もそうですけど、予防事業をしっかりやっていただきたいと思います。

あとは事業者側の、歩くところとか、違うものがどんどんできているのでいきいきサロンに行くのが減っているのかという気もしています。民間で鍛えるところとか、あそこのウォークなんとかとかっていう、コンパスだっけ、民間の予防みたいな施設が実際に増えているので、それが増えてるなら行政でやるものを見直さなくていいんですかっていうのもあるのか。ニーズと量と、バランスって取っていかなきゃいけないのかと思いました。長くなりました。

○委員長（小林博文君）　そのほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小林博文君）　それでは、採決いたします。

議案第23号令和６年度菊川市介護保険特別会計予算について、原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（小林博文君）　挙手全員。よって、議案第23号は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、議案第23号の審査を終わります。

なお、委員会報告の作成については正副委員長に一任願います。

以上で、本日予定しておりました予算審査を終了いたします。明日は、教育総務課、学校教育課、図書館、社会教育課の一般会計予算審査が予定されていますので、午前８時30分までにご参集ください。

本日はこれをもって散会といたします。お疲れさまでした。

閉会　午後　５時０８分

開会　午前　８時２９分

○事務局（伊村　　君）　それでは、互礼をもって始めたいと思いますので、ご起立をお願いします。相互に礼。

〔起立・礼〕

○事務局（伊村　　君）　ご着席ください。

初めに分科会長よりご挨拶をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　改めまして、おはようございます。

今朝の新聞で、さわやかの創設者、富田重之会長が亡くなられたということで、菊川のが第１号店で、今の加茂の菊川橋のほうの太陽建機のレンタルさんの資材置場がありますが、あそこが第１号店ということで、私も若い頃、かみさんが、結婚する前に、夜に行ってウエイトレスさんと仲良くなったのを覚えております。

明日は全店お休みということで、知らない方はちょっと混乱されるかもしれません。そんなことで、ちょっと新聞を見て、昔、さわやかはあそこにあったよね、ちょっと朝、かみさんと話してきました。すみません。こんな、菊川にゆかりのある方です。

では、本日はよろしくお願いいたします。

○事務局（伊村　　君）　ありがとうございました。

それでは、ここから先の進行は分科会長にお願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　ただいまから、一般会計予算決算特別委員教育福祉分科会を開会いたします。

これより議事に入ります。

本委員会に付託されました議案第20号　令和６年度菊川市一般会計予算のうち、教育福祉分科会所管に係る項目を議題とします。

それでは、これより質疑を行いますが、課ごと順番に質疑を行います。質疑、答弁に当たっては必ず事前に挙手をし、指名を受けてから発言するようお願いします。質疑の事前通知を提出している委員は、質疑通告一覧順に質疑を行うようお願いします。

また、発言する際には、必ず冒頭で番号、役職名等を述べ、はっきりと大きな声で発言するようお願いします。限られた時間を有効に活用するため、議員個人の意見については、後に予定しております自由討議で述べていただき、ここでは簡潔明瞭な質疑・答弁にご協力をお願いします。

なお、本件につきましては、３月25日に開催予定の一般会計予算決算特別委員会にて採決を行います。

それでは、教育文化部の審査を行います。

初めに、岡本教育文化部長、所管する課名等を述べてください。岡本教育文化部長。

○教育文化部長（岡本啓司君）　教育文化部長です。おはようございます。よろしくお願いします。この後ですが、教育総務課、学校教育課、図書館、午後には社会教育課になりますので、よろしくお願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　お願いします。

続いて、榑林教育総務課長より出席者の紹介をお願いいたします。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長の榑林です。今日はよろしくお願いします。

出席者ですけども、石川総務係長です。

○教育総務係長（石川　　君）　石川です。よろしくお願いします。

○教育総務課長（榑林英介君）　本間施設係長です。

○教育総務課施設係長（本間　　君）　本間です。よろしくお願いします。

○教育総務課長（榑林英介君）　横山給食センター係長です。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　横山です。よろしくお願いします。

○教育総務課長（榑林英介君）　本日はよろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑を行いますが、初めに、事前通知を提出された委員の質疑から行います。質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１番目からお願いします。５番　渡辺議員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。タブレットの説明ページ、４ページで、教育委員会総務費、この中で、購入しているもの、時事通信社の情報誌「内外教育」、この購入の意義について教えてください。そのほかには何を購入しましたか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。よろしくお願いします。

時事通信社の情報誌「内外教育」購入の意義は、ほかには何を購入したのかについてですが、「内外教育」は、時事通信社が毎週２回発行している教育専門の情報誌となります。記事の内容は、文部科学省や教育の動向、大学教授や弁護士などの専門家による教育課題や法規等の解説記事、全国各地の教育現場の実践紹介などが載っております。

「内外教育」の購入の意義としましては、毎週２回発行ということで、教育関連の情報をいち早く収集することができますので、本市における教育行政の推進のための情報源としての活用を考えております。

また、そのほかに購入するものとしては、教育委員が１名任期満了となることから、新しい委員が任命された場合にお渡しする教育委員会必携と教育委員バッジの購入を予定しております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渡辺委員、再質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　週２回の発刊ということで、大変細かい情報が出ていいと思うんですけども、読まれていますか。内容について、ちょっとここで言っていいことか分かりませんけども、ちょっと変更していたり、隔たりがあるような内容はありませんか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。今回初めて買うものになるので、各学校では買っているものですから、それを少し見させていただいて、最新の情報が載っているなという認識でおります。ちょっと、その隔たりというか、そういうところまでは少しまだ目通してはいませんが、今後そういうものを、教育委員会とすると、そういう最新の情報を、

それで情報を収集していきたいと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。

○５番（渡辺　修君）　ありません。有効に使ってください。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連で質疑のある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、２問目、私から質問します。10款２項２目就学援助費、小学校費です。タブレットの説明資料14ページになります。対象児童数の算定根拠を伺います。また、対象児童数が年々増加しています。令和３年が78人、令和４年102人、令和５年108人、令和６年158人、特に令和６年は大幅増となっていますが、要因を伺います。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。対象児童数の算定根拠は、Ｒ６は大幅増となっているが要因はについてですが、初めに、対象児童数の算定根拠については、令和５年10月時点の対象児童数から、１年生の人数を新２年生、５年生の人数を新６年生という形で１年ずつスライドをさせております。新しく新１年生の人数は、現１年生の人数と同じ数字を見込んで、計138人としております。

また、年度途中における増加人数を、過去３年間を平均して20人として見込み、合計158人を令和６年度の対象児童数として算定しております。

次に、特に令和６年度は大幅増となっている要因についてですが、就学援助の申請理由は、離婚により独り親世帯になったこと、あと、雇用形態等により収入の不安定、失業等による収入の減少、障害や病気等により働くことが困難などがあり、様々な要因が複合的に影響して対象者が増加しているものと考えております。

なお、申請理由の割合は、独り親世帯がおよそ６割、そのほかの経済難がおよそ４割となっております。

また、児童生徒数における認定率ですが、令和４年度末時点の小中学校合計では、静岡県の平均で認定率が8.0％なのに対し、菊川市は5.69％ですので、県内では対象児童数が少ないという状況でございます。

しかし、就学時の健康診断へのチラシの同封や、学校を通じた保護者への周知、子育て応援課への相談を通じた制度の紹介などにより、就学援助制度の周知が進んだことも、対象児

童数の増加要因の一つではないかと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　私からはありませんが、関連で質疑のある方。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部ですけども、独り親が60％ということで、就学援助費を申請するときに、扶養手当を受けているかどうかというチェック項目はありますか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。石川総務係長。

○教育総務係長（石川　　君）　石川総務係長です。

○分科会長（小林博文君）　座ったままで大丈夫です。

○教育総務係長（石川　　君）　就学援助の申請の段階で、児童扶養手当の申請を受けているかどうかという審査項目はございません。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑はありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。今の説明を聞きまして、離婚によって独り親になったという形で、その援助をするということを知らない人も随分大勢いると思うんですね。児童手当は自動的に出ますよね。でも、扶養手当は自動的には出ませんよね、申請しませんと。審査もありますし。

だから、そういう説明をしているかどうかということなんですけどね。そういうことは一切、申請書にも書く必要はないし、窓口でもそういう話をしないんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　今、説明の中で、周知方法につきましては、僕たちがやっている就学援助の制度の周知としては、就学時健康診断のときにチラシを配ったり、あと、学校の中でもまさに通知している。

そういう方、独り親になったときに、こちらで応援課等に何らかの相談というのはしているかと思うので、そういうときにも、こういう制度があるよということで言ってはいるんですけど、児童扶養手当というのが、こちらから児童扶養手当があるよというのは、ちょっとしてないにはしていないですけど、という状況です。

以上です。

○１２番（織部光男君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。よろしいですか。

○１２番（織部光男君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　そのほか関連ありますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　では、３問目行きます。もう一問、私から。10款３項１目、タブレットで16ページになります。こちらの財源の内訳の中に、子どもがいきいき育つまちの寄附金の充当がありますが、こちらの充当事業はどれかという質問です。答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。子どもがいきいき育つまち寄附金の充当事業はについてですが、子どもがいきいき育つまち寄附金は、ふるさと納税により頂く見込みの寄附金となります。寄附目的に合った事業といたしまして、個別の工事ではなく、市単独中学校施設整備事業費全体に充当している分でございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　私からは再質疑ありません。皆さんから関連で質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、次行きます。４番目、渡辺委員から求めます。５番渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。タブレットページの19ページで、中学校管理総務費です。菊川東中学校の金工室及び木工室の備品更新の内容ということで、金工室の移動によっての更新ですが、その古いものは使えなかったのか、その辺、説明してください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。菊川東中学校の金工室及び木工室の備品更新の内容はについてですが、菊川東中学校金工室・木工室移設工事は、校舎外にある耐震性がやや不足する金工室・木工室を、耐震性のある校舎内に移設するものです。移設後は両教科を兼ねた教室となります。

現在の机・椅子や大型の備品については、金工室・木工室が建築された昭和53年に購入し、現在まで使用されているものが多くあります。それらの備品を今回更新するものでございます。内容としては、両教科で共用使用できる教員用の机・椅子、生徒用の机・椅子の更新や、木工で使用するハンドソーの本体、工具類の機械を設置するための専用台等の更新となります。

また、工具類については新たには購入せず、既存の工具をそのまま使用するため、更新は予定しておりません。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

○５番（渡辺　修君）　はい、大丈夫です。45年も使って、すばらしいことです。

○分科会長（小林博文君）　関連質疑はございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、次に行きます。５番目です。10項３項２目就学援助費、中学校費です。先ほどの小学校のほうと関連するかと、同じだと思いますが、タブレットの21ページ、就学援助費対象者数増加の算定根拠及び要因ということです。お伺いします。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。先ほどの小学校のほうと何点か重なると思いますが、令和５年時点の対象者人数を１年ずつスライドさせまして、新中学１年生は、現小学６年生の人数をスライドさせております。計68名でございます。

また、年度途中における増加人数は、過去３年間を平均して13人と見込んでおりますので、計81人を令和６年度の対象生徒数として算定しております。

次に、対象者増加の要因についても小学校と同様となりますが、就学援助の申請理由、こちらは離婚により独り親世帯となったこと、雇用形態等による収入の不安定、失業等による収入の減少、障害や病気等により働くことが困難などがあります。様々な要因が複合的に影響して対象者が増加しているものと考えております。

なお、申請理由の割合も小学校とほとんど同じで、独り親世帯がおよそ６割、その他の経済難がおよそ４割となっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　私からは再質疑ありません。関連で質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。先ほどの話の中でも独り親が60％ということが出ております。昨日の保育園でしたか、何かそちらの関係でも独り親は把握できていないということなんですけども、学校に通っている子どもに関しての独り親ということの、調べようがないと思うんですけど、把握はされていないということでよろしいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（樽林英介君）　学校では、独り親は、その家族の世帯状況等は把握しているという認識でありますので……。

○１２番（織部光男君）　そうですか。

○教育総務課長（樽林英介君）　はい。分かっておると思います。

○１２番（織部光男君）　そうですか。分かりました。ありがとうございました。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。よろしいですか。関連で質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。申請主義だとは思うんだけど、申請をして通らなかったというのはどのぐらい、（カワリ）はあるんですか。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。答弁を求めます。樽林教育総務課長。

○教育総務課長（樽林英介君）　教育総務課長です。今の段階では所得割、例年、教育委員会でいつも最終的に承認を得ている事項になるんですが、その段階で家族の状況とかまた詳細に、委員から質問があった、あることはあるんですが、実際に令和５年度においては、申請してから却下されたという事例はないです。申請を、そうなる場合の中で……。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。石川教育総務係長。

○教育総務係長（石川　　君）　石川教育総務係長です。申請段階で、世帯の状況や、その世帯の所得状況等を調べまして、収入額と需要額の数値を、割合を組みまして、1.5未満の者が就学援助費の支給対象として認定されるという形になっております。その中で、その1.5以上の数値になった世帯というのが、ちょっと割合のほうがぱっとすぐ出てこないんですが、一部あるというような状況でございます。

今、ちょっとすぐ計算いたしますので、ちょっとだけお時間頂けたらありがたいです。申し訳ないです。後で……。

○分科会長（小林博文君）　先に進めて、出ましたら、また報告をお願いするということでよろしいですか。その関連。

○１５番（内田　隆君）　もともとは1.5ということ自体がちょっと分からないので、そこからスタートしてもらわんと。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　先に質問をしておきますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。今、1.5という数字が出てきたもんで、収入と何に対して1.5になるのか、まず、そこだけ教えてください。

○分科会長（小林博文君）　石川教育総務係長。

○教育総務係長（石川　　君）　石川です。収入額と需要額というものがありまして、この需要額というのは、生活保護の基準における需要額ということで、年齢であったり、その世帯の状況によって、生活に係る費用、生活費としての金額を需要額として計算しまして、それを所得税法上の所得と、所得から控除を引いた額と比べまして、その割合のほうを計算するというような仕組みになっております。

以上です。

〔「収入が1.5倍かかるということですか。」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　ちょっとその1.5倍は、今言われたように、どっちが分母なのか、それは分からない。なので、交付税と同じように足らん分を織り込んで、補うという……。

○分科会長（小林博文君）　どちらを割るかということですね。

○１５番（内田　隆君）　そう。

○教育総務　　（　石川　君）　需要額のほうが分母……。

〔発言する者あり〕

○教育総務　　（　石川　君）　収入額を需要額で割ります。

○　番（　　君）　じゃあ、裕福だと0．幾つになるわけ。

○教育総務　　（　石川　君）　裕福だと1.5よりも大きくなります。

○　番（　　君）　大きくなる。

○分科会長（小林博文君）　１よりも大きくても支給できるということ。

○教育総務　　（　　君）　いや、1.5未満であれば支給対象になります。

○　番（　　君）　0.幾つは赤字だもんね。

○１５番（内田　隆君）　不足分を出すんじゃないんだね、全部ね。交付税は不足分を出したけん、そうじゃないんだね。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。申請というのは、通るものを申請すると100％になっちゃうんでね……。

〔「そうそう」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　希望を出したけど、審査に、要するに、今言った1.5を計算されて、要するに基準があるから、これは仕方ないですね。極端な話、1.5と1.6のとこの差って、やっぱり可能性としてあるわけね、数字でね。そういうときにどうしているのかなと思って、

聞こうとしているもんで、そういう意味でちょっとまたそれをお願いします。

○分科会長（小林博文君）　じゃあ、数値また出ましたら後でお願いいたします。

じゃあ、次に行かしていただきます。

〔「関連で。」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　関連でどうぞ、いいですか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。独り親、離婚して、単独のアパートとか、何かでいる場合には単純にその収入が分かるんですが、実家に帰ってきて、帰ってきた人の兄弟とか何がいて、規定だと収入全部足してするんでしょうけども、僕がかかった、校長のと民生委員の承諾をもらって教育委員会に出しますね。

そのときに、同居している人の収入も入れるのが普通なんですけど、兄弟の収入は抜きで許可されたってなるんですが、その辺の規定はどうなっているんですかね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。石川教育総務係長。

○教育総務係長（石川　　君）　石川です。基本的には、同居世帯の方の所得は合わせた数字で計算をしております。あえて分けたというようなケースは基本的にはございません。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　実際としては、その兄弟も、帰ってきたやつの面倒なんか見れんというのを実情で知っているもんで、それ通ったもんで、いいかなと思って。

〔「２世帯が一緒になっちょるところ」と呼ぶ者あり〕

○教育総務係長（石川　　君）　２世帯でも同じ住所の中にいたら……。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　石川教育総務係長。

○教育総務係長（石川　　君）　住民票上の同居世帯というだけではなくて、その世帯に住宅として一緒に住んでいる方を同居世帯として見ておりますので、面倒を見れないよとか、そういった形で分けるということはなく、同じ住所に住む、同じお家にお住まいの方を合わせた形で所得を合計して計算をしているという状況です。

以上です。

〔「委員長」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　再質疑ですか。赤堀委員よろしいですか。

○１０番（赤堀　博君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　関連、12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。今の話を聞いていると、児童扶養手当の審査と同じようなことを感じるんですけども、違いはありますか。

例えば需要額なんかも、自分も払っているということなら、それは証明をしなきゃいかんですね、人と同じ屋根の下でもね。そういう扶養手当の決まりがありますよね。そうすると、需要額が上がるもんですから、受けられるということになるんですけど、それと同じですね。

○分科会長（小林博文君）　分かりますか。樽林教育総務課長。

○教育総務課長（樽林英介君）　教育総務課長です。児童扶養手当と、理屈は今のお話と、児童扶養手当と一緒かというと、すみません。ちょっと……。

○１２番（織部光男君）　分かりました。いいです。

○教育総務課長（樽林英介君）　すみません。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１２番（織部光男君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　この件はよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、次に行きます。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　出ました。石川係長。

○教育総務係長（石川　　君）　先ほどの1.5以上で、認定の対象じゃなかった方の計算をさせていただきました。令和５年度では８名、計算の結果、非認定となった方がいらっしゃいましたので、割合としますと、およそ３％の方が非認定となっているというような計算になります。

すみません。先ほど新規申請の方で落ちた方はいないよというお話をしてしまったんですが、1.5未満になった方については、定例教育委員会に図る前の段階で非認定ということで通知を出すような形になりますので、定例教育委員会に上がってから非認定になった方というのはいらっしゃらないんですけども、申請段階で対象外ですということで非認定になった方というのは、今申し上げたとおり８名いらっしゃったというような状況でございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。内田委員、よろしいですか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。分かりました。それで、基本的には、一番審査が具体化されている、きちっとしている生活保護の基準を全てのところに、今言ったように数字的な境があったりしてみても、政府もそれ同じだと思うんですけどね。それでやっているということでいいわけですよね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。石川教育総務係長。

○教育総務係長（石川　　君）　石川総務係長です。内田委員のおっしゃるとおりでございます。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　岡本教育文化部長。

○教育文化部長（岡本啓司君）　すみません。生活保護の場合は、資産といいますか、そういうものも含まれていますが、あくまで教育就学援助は、世帯の生活支援ではなくて、子どもが就学できるかというか、そこへの支援なもんですから、少しそこが、考え方がちょっと違うということで御認識いただければと思います。

以上です。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。

○１５番（内田　隆君）　いいです。

〔発言する者あり〕

○１５番（内田　隆君）　あってはね、就学援助を受ける……。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、６番の質問を、10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。タブレットの24ページ、給食運営費です。給食調理業務等委託料1,761万6,000円増の要因をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。給食調理業務等委託料に1,761万6,000円の増の要因はについてですが、給食調理業務等委託については、令和５年度が委託期間の最終年度のため、本年度、公募型プロポーザ方式により業者選定を行い、現在の委託業者を委託先として決定しております。契約期間は令和６年度から令和10年度までの５年間となります。

委託料増額の主な要因は、従業員の給与のベースアップや賞与の支給、衛生面改善のための配置人数の増員や、物価高騰による消耗品・燃料費の増となります。プロポーザルにおける提案限度額は、こういった理由により、これまでより高い金額を設定しております。債務負担として設定した令和６年度の限度額１億367万5,000円に対し、業者が9,676万2,000円を提案し、委託契約を締結しております。

増額となった1,761万6,000円のうち1,489万6,000円が人件費で、増額分の約８割強を占めておりますので、人件費が増額の主な要因となっております。安心安全な給食を安定して提供するためには、人材確保のための給与面の改善、こちらが必要なものと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。赤堀委員、再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑はございますか。よろしいですか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　関連じゃないけど、13番　倉部です。これって、プロポーザルは何社か入ってきたんですか。ここ１社だけだったのか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　今回、プロポーザルで応募してくださったのは、現委託先の１社のみでございました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今のは終わりにして、ちょっと事前に出していなかったんですけど、残菜処理の委託料があるんですけど、残菜と残飯とあると思うんですけど、その割合がもし分かればお願いしたいんですけど。外側をむいたりして廃棄する分と、食べ残しとあると思うんですけど、それって分けて数えているのかというか。

○教育総務課長（榑林英介君）　残食は全部。

○１３番（倉部光世君）　残食と、調理のときに出る。

〔「作っちゃってから出る、作る前に」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　食べ終わったやつと、作る前。結構それが多いというふうにセンターの人が言っていた。

〔「作る前のやつが」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　にんじんとか、皮をむいたりとか。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。倉部委員がおっしゃったような形で、午前中に残菜、調理で出てくるもの、午後が学校から残ったものというふうに分かれてはいるんですが、今、全体の数字というのはつかんでいるんですが、ちょっと、今すぐ、午前の分と午後の分の量がというのが、すみません。すぐ出なくて申し訳ございません。ちょっと回答になっていません。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　こっちの、ちゃんと分けて、調べれば出るものなんですか。一緒に出しちゃっているものなのか。調べようがなければしょうがないですが。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。残食率、学校に持ってくるときの、配缶が終わって持っていくときの量から、食べ残しとか、お休みの子がいるときに、そういうものを含めて返ってきた量、それを差を差し引いて残食率ということで今出しているところです。その率が、２月末５％、数字はまた出してもらいますけど、そういうことで、残食量はそれで今把握しています。

○分科会長（小林博文君）　残食率出れば引き算。

○教育総務課長（榑林英介君）　含まれていないので……。

〔「引き算すればいい」と呼ぶ者あり〕

○教育総務課長（榑林英介君）　どうしても休みの子、学校が多いとかなると、食べてくれるのはあっても、やっぱり残ってくる量は主なので、食べ残しとちょっと違ってはくるのかなとは思います。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ここの残菜、残飯というのは、おかずと主食と副菜のことなんですか、それとも、この残菜・残飯の分けって何でしょうか、ここに書いてある。

○分科会長（小林博文君）　横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。残菜は、午前中に出る調理の野菜の、野菜くずというか、部分とかになりまして、残飯が、午後に出てきます学校からご飯とか……。

○１３番（倉部光世君）　残食。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　残食がという形になります。

○１３番（倉部光世君）　じゃあ、分かれているということですよね。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　そうですね、はい。

それと、今、課長のほうからお話のありました２月末の残食率、全体でありますが、量に対しまして5.82％が残食率となっています。

あと、残飯で出すときなんですが、一度こしてから出すので、水分などは飛ぶような形になるので、重量としては少し減った形で残飯としては出るような形にはなってくるので、そういった回答となります。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。残菜を何か減らす努力みたいなものというのは結構あるんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　やはり、調理の中でできるだけ減らすものとかいうのはあれなんですけど、あとは、野菜などを納入するときに、皮をむいてから納入する、どうしても１枚、２枚むいたりするので、というのはあるんですが、どこで残菜が出てしまうかというところではあるんですが、そういったところもあります。

あとは、やはり調理の中で、できるだけいろんなところを使いたいとはあるんですけど、あまりちょっと皮を使い過ぎると、やっぱり子どもとして、給食としては難しいところもあったりとかということで、検討はしているんですが、なかなか給食としての提供ということと併せながらで、難しいところではあるかなというふうには考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　例えば、ニンジンとかは、皮は絶対にむくんですかね。有機になると皮は剥く必要なくなるんですけど、何かそういう考え方はあるんですか。玉ねぎはむくんでしょうけど、ニンジンとか意外と皮つきのまま調理する方もいるけど、それは基本の、農薬対策かどうか、硬さと農薬なのか分からないんですけど、むいたりするというのが基本なんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。倉部さんの有機野菜の、そこまで行けて

いないというのが正直なところで、皮をむかなくても食べれる野菜とかという有機野菜がまだ給食のほうには登場していませんので、ちょっと答えがないところにはなります。

あと、今、残菜ですけども、出た皮とかの残りのものについては、バイオガスのほうに有効利用させてもらっているところです。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑はありますか。

○１３番（倉部光世君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。給食配送車、４台ありますね。この間ちょっと１台故障したので、残りの３台については、故障の心配とか、長期に修理に出さなきゃならんような事例のトラブルとか、そういったものは、残りの３台についてはありませんか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。現在、それこそ12月に故障しまして、少し配送車の架装といいまして、後ろのところ、コンテナ、給食を運ぶために積むところの部品が壊れてしまって、古いものなので、なかなか手配ができなくて、ちょっと時間がかかったというところはあるんですが、まず、その車のほう、少し故障が多めの車と、もう一台故障が多い車があります。

できるだけ早く直すような形というのは取って、ちょっと今回長かったんですけど、いつもですと一日、二日とかという形で修理は行っているんですが。

今、こちらの２台については、債務負担行為を設定させていただいて、来年度の８月に２台更新をするような形で、配送車２台を更新することで計画のほうをさせていただいていて、その分の予算についても今回の当初予算に、８月からリースが始まりますので、その金額も含めさせていただいた当初予算として計上を行わせていただいています。

以上でございます。

○１０番（赤堀　博君）　６年の８月に２台更新ですか。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　はい。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　関連から外れています。いいですか。先に事前通知のものをやりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「ちょっと今の関連で。」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　今の関連で。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　食べ残しを減らす努力ということで、おかわりは基本的に自由なんですか、給食。そうすることによって食べ残しが減るわけですよね。急遽休んだりして、その人の分が余っているというようなことになると、食欲の旺盛な子には食べ放題で食べさせているのかどうかという、ちょっとそれを聞きたいんですけど、学校でどういう方針でやっているのかということ。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。それこそ学校によってやり方がそれぞれというところはあるんですが、まず一度よそってから、足りないのを、例えばでいうと、先生が、まだ欲しい人ということで足す場合もありますし、食べ終わった人が、またもらいに来るという場合もあるということで。

一応その形にはなってはいるんですが、ちょっと学校ごとによって違って、正直、学校ごとで残食率というのが少し率的には異なってくるところがありますので、またそういったいい事例などは研究して、残食などは減らしていければというふうには考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。よろしいですか。

○１２番（織部光男君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　では、元に戻りまして。

〔「ちょっといいですか」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　課長が先ほどね、残菜についてはバイオマスのほうへ回している説明をちょっと言ったと思うんですけど、これ先ほど言っても、出ているときには、まとめていっちゃっているみたいで捉えていたもんで、バイオマスのほうへ回しているというのは、どのぐらいあるんですか。

固めちゃって、要するに水分を切ったのも含めて、最後に委託業者のところに持っていくのかなと思ったら、一部バイオに持っていくという話だと、そうすると、残飯は多分バイオじゃないんでしょう。

〔発言する者あり〕

○１５番（内田　隆君）　それも一応バイオ。だと、出てくるところは全部一緒ってことかね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　今お話の中であったんですけども、基本的には、全てがバイオのところへ行っているんですが。

ただ、バイオのほうで、例えばカボチャの種とか、そういった幾つかのできない、これはちょっと難しいというものがありますので、そういったものだけは事前に話をして外しているんですけれども、受け入れていただけるものについては、残菜・残飯としてバイオのほう、鈴与バイオマスさんのほうに持っていっていただいているようになります。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。はい。

○分科会長（小林博文君）　では、７番目の質疑、内田委員からお願いいたします。

○１５番（内田　隆君）　15番です。タブレットページの27ページになります。会計任用職員ですけど、栄養士が１人配置をされたというふうに、新しく入っているような説明がされていると思うんですけど、これ何か特殊な事情があって、こういう形になっているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。栄養士１名増員配置の背景は、栄養士は確保できたのか、継続的に仕事をしていただけるのかについてですが、初めに、栄養士増員配置の背景でございますが、年々アレルギー対応を必要とする児童生徒が増える中、安全第一に給食を提供するため、菊川市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルを本年度策定し、令和６年４月より運用を開始いたします。

このマニュアルは、文部科学省がまとめた食物アレルギー対応指針に基づくものとなります。

運用開始に伴い、今まで新規のみ行っていたアレルギー対応保護者面談を、毎年、更新する方も含めて、全員を対象に実施することや、除去食対応献立表の作成などによる作業の複雑化などにより、栄養教諭の業務量が増加することとなります。

アレルギー面談の件数増加により、各学校で行う食育指導の日程を確保できないこともあり、栄養教諭を補助することや、面談や食育指導の日程の確保をしていきたいと考えており、そのためには、専門知識を持った栄養士が必要と考えております。

次に、栄養士は確保できたのか、継続的に仕事をしていただけるのかについてですが、現在求人募集を行っており、現時点で複数の応募が来ております。今後、面談を行うよう予定ですので、継続的に勤務していただけるかとかの話をしていきたいと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。アレルギー対応のために１名栄養士を増員するということは分かりましたけど、それ、教育指針の中でありながら、どこからも支援は何もないんですか。財源的に。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。樽林教育総務課長。

○教育総務課長（樽林英介君）　財源があれば、ほかの補助金等はないものですから、一般財源を充当する形になります。　以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。この対応のというのは、周辺のどこの給食センターでもやはり行われている対応なんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。樽林教育総務課長。

○教育総務課長（樽林英介君）　教育総務課長です。

近隣市の状況ですけども、実際にはどこの市にも県職の栄養士が複数名います。それに加えて、市で栄養士を採用しているところが、近隣ですと、いるところといないところがあります。近隣ですと、島田市と袋井市には栄養士が複数名います。中部地区のほうが結構栄養士がいる市町村が多いです。なので、規模によっても栄養士が３名いるというところもありますので、規模によっても考え方はちょっと違うかもしれませんが、今回、市の会計年度として栄養士が必要ということで、予算のほうを計上させてもらいました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。背景は分かりましたけど、基本的には栄養士というのは県費だから、県がやるということになっていたところだから。やっぱりそういう市町村が増えてくるというとになれば、県へとまとまって何とかしてもらいたいという話は出していかないと、ここだけでずっと単費を使わざるを得なくなってくると思いますので。ぜひその辺のところは検討いただきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　ご意見ということでよろしいですか。再質疑よろしいですか。はい、じゃあ関連で、13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。アレルギー対応じゃなくて、以前も申し上げたんですが、本来、栄養教諭は学校、小中学校のために配置されているわけで、幼稚園の分もや

る必要は本来ないので、市単の人を入れてくださいということを、教職員組合のほうからも強く言われていたわけですけれども。今回はあくまでもアレルギー対応ですか、幼稚園の関係をこちらの方にお願いするということはないですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林学校教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。倉部さんおっしゃるとおりで、県の職員の範囲の中、本来の業務と少し幼稚園のほうはということで、今回、栄養士、市のほうで採用できた場合に、幼稚園のほうとかを中心に見てもらうということは考えています。面談については、幼稚園でくくらずに、３人で、皆さんでやってもらうということで、運用の中ではそういうことは考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。栄養教諭お二人だけで、数で配属されるので、菊川市二人しかずっといなかったわけで。学校を回ることと、この対応とかなり大変だったと思いますので、一人増員していただけるというのは大変ありがたいので、学校の本来の栄養教諭がやるべき仕事ができるように、できるだけ配慮していただきたいと思っていますけど。それでよろしいでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林学校教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。栄養教諭、教諭という名前もついているもので、食の指導というものも加えて、本来の業務に入っていると思いますので。安心安全な給食の献立、加えて、そういう食の指導についても十分な時間を取ってもらえるように、配慮していきたいと思っています。

以上です。

○１３番（倉部光世君）　お願いします。

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。

○１３番（倉部光世君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　関連、そのほかありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、最後に、８番目、内田委員から出ております。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。同じ給食センターの29のところで、蒸気ボイラーを替え

るということになっています。これは取りあえず設計なんですけど、この現状は今どうなっているのかということと、もう一点、これが計画的なものであるか。２点ですけど、続けてお願いしたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。榑林学校教育総務課長。

○教育総務課長（榑林英介君）　教育総務課長です。蒸気ボイラー配管更新の設計だが、状況はどうなるのかについてでございますが、給食センターには２機、蒸気ボイラーが設置されており、２機とも給食センターが建築された平成14年に設置した設備となります。20年が経過しており、配管についても同様でございます。

約20年経過しているため、蒸気ボイラー及び蒸気配管の故障が多くなっており、随時、修繕を行いながら、日々の給食提供を行っているところです。

また、定期点検においても、ボイラー機器の更新を行うよう指摘を受けており、設置から20年経過していることから、蒸気ボイラー及び蒸気配管の更新を行うための実施設計委託料の予算を計上しているものです。

こちらが計画的なものであるかということで、今後、修繕が多くなっている中で、設備についても計画的にやっていきたいという考えはあります。実際には、実行計画上は少し前倒ししている部分もございますが、修理が大きくなっているところもございますので、なるべく早く実施したいということで、今回、委託料のほうを計上させていただきました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。耐用年数からいろいろなことで、替えることはあるんですけど、いろんな施設について、そのとおりにならないにしてみても、当然、耐用年数を考えながら、いつどこでやるというのは計画書も本来あって、それにできるだけ沿った予算の中で動かすということが筋だと思うのですけど。ですから今聞いたのは、今回の蒸気ボイラーというのは、もう使えなくなって出てきたのか、それとも全体、要するに、みんな20年以上たっていますから、ほかのものも含めて、継続的に今回の業務が入ってきたのかということを確認をしたかったんですけど、そこはどうなんですかね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。過去に計画というものがあったのですが、なかなか計画的に行われていないというのが現状である中で。これからもう一度計画を行っていくという第一の中で、蒸気ボイラーというものが、蒸気が

ないと給食センターというのは調理もできない、洗浄もできないということで。まず一番重要な施設になるということで、耐用年数的にも少し過ぎているということで、まず蒸気ボイラーのほうを行い、もう一度計画については、今、過去からのものが少し滞ってしまっている、順番的に行えていないところもありますので。もう一度こういった計画というものを見直す中での蒸気ボイラーが最初に行うという形で、修繕というか、更新のほうを行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。結局、計画を立てて計画のとおりにやらなかったら、何のための計画だか分からなくなって。当然、要するに蒸気を使うところっていうのは、一番早く悪くなって、20年というと非常にたくさんもったものかなと。調理場なんかで言えば、10年蒸し器を使っていたらもう使えなくなっちゃうので。結局、そういう耐用年数に合わせながら計画が立てられてきたなら、やっぱりそれはある程度執行していかないと、一気に物事が起きてくるという可能性はあると思いますので。ぜひ今言った、計画を見直すなら見直して結構ですので、できるだけそれに沿って、計画的な更新をお願いをしたいなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑ありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○９番（小林博文君）　今のでちょっと質問させていただいていいですか。

この説明資料の事業の概要のところに、事業実施計画を作成しってありまして、その中で12節で設備更新工事設計業務委託で163万9,000円、その後ろに内訳で蒸気ボイラーの配管修理となっているんですが。この事業実施計画というのは、センターのいろんな設備全体の事業実施計画をするのではなくて、このボイラーの更新の実施計画の金額ということでしょうか、少し確認したいと思います。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。今回の予算のほうで要求させていただいています設備更新工事設計業務委託163万9,000円については、蒸気ボイラーと蒸気配管の更新実施設計業務となります。

以上でございます。

○９番（小林博文君）　概要のところでいっている事業実施計画というのは、センターの施設

設備の状況によりということは、その都度、実施計画を壊れたものについて出して、こういう形で出てくるということでしょうか、今後。大きな全体のものでの今、皆さんよく出てくる質疑の中で、全体の実施計画はないかということがあったんですが。これはそのものではないということでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。こちらのほう、ちょっと内田委員との回答ともちょっと一緒になってしまうんですが。こちらのほう、施設整備の状況ということで、過去に年数を定めてというところがあったんですが。やはり先に壊れてしまうところがあったりとか、そういったところで、ちょっと今順番とかそういったものも、今どうしても今壊れてしまったもの、直さなければいけないものを優先していて、ちょっと今その計画というものがしっかりとなっていない状況になってしまっていますので。またそちらの計画についても、見直しのほうをかけていく必要があるというふうに考えております。

以上でございます。

○９番（小林博文君）　はい、分かりました。

○１３番（倉部光世君）　関連。

○分科会長（小林博文君）　関連あります。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。その事業実施計画見直しをされるというんですけど、それについては予算なくてもできるということですか。６年でやると今おっしゃっていたんですけど、それは皆さんの中でできることなのか、委託費とか特に全然取ってないんですけど。

○分科会長（小林博文君）　横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。こちらまず、事業の概要というのが６年度実施という内容の中というよりも、給食センター全体として、今後も含めてということで考えているものになります。その中で、やはり機械なども専門的な機械もありますので、可能であれば、予算を長寿命化計画とかそういったものを頂きながら、計画はしたいと考えているところではありますが、現時点ではまだ予算化に至っていないところであります。今後またそこについても検討をしていきたいと考えております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。樽林学校教育総務課長。

○教育総務課長（樽林英介君）　教育総務課長です。実際この計画をつくるのに予算を頂けれ

ばあれなんですけども、予算が出ない範囲で、こちらの見積りとかは取るんですけども、更新計画というのは大体この設備はいつ買ったというのがあるので、それを更新するに当たって、必要に応じて見積りを取りながら、実施時期を検討していくという段階のものになりますので、予算計上まではちょっとできていないところでございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。予算化できていないんでしょうが、ずっとこの給食センターの設備については、計画的に修繕していくべきだということを、この委員会でも申し上げてきたわけで。今回いろいろずれてきているということであれば、本来なら予算計上して、きちっとしたもの、付け焼き刃じゃなくて、きちっとした、今の段階できちっとしたものをつくっていくべきではないのかなと。先ほど６年に見直しますとおっしゃっていたので、あるのかなと思ったんですけど、とはまだなっていないということですか。（笑声）

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。樽林学校教育総務課長。

○教育総務課長（樽林英介君）　教育総務課長です。給食センターについては、建物自体、長寿命化という方針の中で動いているので、必然的に計画的な整備というのは必要になってくるかと思いますので。そういうことで考えて、修繕のほうの計画等をしていきたいと思っておりますので。少し予算については、庁内全体を見る中で、また予算要望していく形にはなりますので。令和６年度については、予算のほうはつかなかったということでございます。

以上です。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　ちょっといいですか。

○分科会長（小林博文君）　関連でありますか。15番。

○１５番（内田　隆君）　15番です。本当に大きいお金のかかるものもあるということであれば、その計画がないと、市全体の財政計画にも影響すると思うんですけど。いろんなものが積み上がっていっているかなというのに。今やりたいのに、それがないっていうことになると、当局からこんなものなぜ今急に出されるかという話には多分なりかねないと思いますけどね。

ですから、お金かけて細かいものまでつくれというわけじゃないにしてみても、今、分かっている範疇でも、やっぱりこの時期にはこういうことをやりたいというものが、給食セン

ターとして持っていて、もしかしたら、先につくれるものがあって、要するに３番と５番が入れ替わっていく、それは仕方ないにしてみても、いずれかはやらなきゃいけない仕事として、組み立てるということがやっぱり大事だと思いますので。ぜひ、お金がないならないなりにそういうことをちゃんとやって、お金のかかるときにはちゃんとした設備ができるように、ぜひお願いをしておきたいと思いますけどね。

〔「要望」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　はい、要望で。（笑声）

○１３番（倉部光世君）　ちなみに、関連。

○分科会長（小林博文君）　はい、13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。説明資料の一番最後にあるこのプラットフォームの電動シャッターですけど、それこそ結構な額になっているんですけど。これは予定されていたのか、急に不具合が出たからなのか、どちらですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。まだ予定としてはなかったんですが、今、内側、外側とあるシャッターのうちの、２個あるうちの片方が今故障してしまいまして、今片方が動いているので大丈夫なんですが。その内側を修理するために、一緒に同じ時期につけたものですので、やはり点検をかけたら、モーターとかそういう頻度、使う頻度が同じなので、修繕をしたかということで、現場のほうでも確認が取れましたので。今回全部で３枚の電動シャッターを修繕を行うように、予算計上させていただいております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。ということは、内側はずっと壊れていたということですか。去年、今年。３枚のうちの１個が不具合があったので修繕するんですけど、それと合わせて全部やるということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。修繕を今回行う形の中で、11月か、ちょっと日にちまであれなんですけども、昨年の11月頃に故障のほうが発生し、ちょっと日のほうが、すみません、違っていたら申し訳ない、故障のほうが発生しまして、修繕のほう見積り取りましたら、大きな金額になる、あと壁とかを剥がしたりする関係で、休み期間でなければできないとかということもありましたので。そこで、ほか

のもう１枚ほう、壁とかも取り壊す関係もありますので、その横の内側、外側という部分も、隣り合って２枚あるような形で、片方向開いて片方向閉じるとかみたいな形のシャッターになりますので。そちらのほう一緒に行ったほうが、今後もう一度、次に壊れるとまた壁とかを壊さなければいけないということで、休み中に行わなければいけないということもあるので。計画的に行うために、当初予算に計上をさせていただいて、工事のほうを行うように考えさせていただいているところであります。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。休みにやるというのは、予算が通った３月、４月でやられるのか、８月までいってしまって不具合はないんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長です。やはり一番、夏場の虫とかというのが心配になってきますので、当初予算が可決されましたらなるべく早く発注のほうをして、例えば一つがゴールデンウィークとか、あと３連休のある日とかそういった、何日間でできるかというのをもう一回詰める必要はあるんですが、今、３日、４日ぐらいほしいということ、時間は、今見積りを取った業者ではそれぐらいかかるのではないかということで、お話も頂いていますので。そういったところで工事のほうというのは、夏場になる前に行いたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。そもそもはこのいろんな修繕計画の中で、シャッターをやる今時期ではなくて、壊れたんで緊急に直すということでいいんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　計画としては、ちょっとずれ込んでいるところはあるんですが、まだシャッターとしては修繕時期ではなかったというふうに。はい。

○１３番（倉部光世君）　ではなかった。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　はい、分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑ありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、事前通知による質疑を終了します。関連で質疑のある委員は挙手をお願いします。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。ちょっと通告なくて申し訳なかったんですけど、校内ネットワークの更新についてなんですけど。令和５年の施政方針で、２年かけて更新するということが示されて、この前補正で前倒しで計上されていたんですけど。その後のネットワーク更新の進捗状況と、あと更新によるネットワークの改善状況というのがもしあれば、伺おうと思います。

〔「学校教育課になるので」「この後の」「担当課が学校教育課」「学校教育課のほうで」と呼ぶ者あり〕

○１番（渥美嘉樹君）　この前、総務課に予算……。

〔発言する者あり〕

〔「ＩＣＴの係」「うちは体育館のＬＥＤとか」と呼ぶ者あり〕

○１番（渥美嘉樹君）　じゃあ、あっちに。分かりました。すみません、失礼しました。申し訳ありません。勘違いして、すみません。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、関連ございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　すみません、１点よろしいでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　横山給食センター係長。

○教育総務課給食センター係長（横山　　君）　給食センター係長でございます。先ほど残滓の関係で、午前、午後で出る量というのが大体でいいということで。ちょっと昨年度になるんですが、一度調べたことがありまして。先ほど言ったように、給食残飯は水も入った重さということなんですけども。そのときで午前中３割、引き算でやると午後７割、なので野菜くずが３割で７割ぐらいで。受入先のところも大体三、四割くらいが調理過程の残滓ではないかということで、認識のほうもしていただいているので。三、四割が残滓、六、七割が給食残飯という形で、昨年度の一回出しとって申し訳ありませんが。すいません、一度加えておきながらということになります。

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

〔「ありがとうございました」「お疲れさまでした」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

教育総務課では、就学援助費、小中、それから今あった給食関係で栄養士、それからセンターのお話が主に議論されていたと思います。ご意見のある委員は挙手の上、発言をお願いいたします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。栄養士の件ですけれども、先ほども申し上げましたが、県から来ている栄養教諭は、本来は小中学校のことだけをやるために配属されているわけで、幼稚園の分をやるとなると、それこそアレルギー対応の数も増えていたりとか、あと余分な仕事というとなんですけど、本来は市の幼稚園の給食は市の担当しているものなので、たまたま同じ施設で作っているというだけですので。分けて、市単の栄養の職員を入れるべきだというのは、ずっとお伝えしてきたんですけど。

今回、たまたまというと変ですけど、アレルギー対応の指針ができたことで負担が増えるといって、１人入れてもらえたのはよかったのかなとは思っていますけど。本来であれば、幼稚園用の方を入れなければいけなかったのが予算がないという理由で、ずっと断ってきていたわけですから。その辺は本来は違っていたところは改善してくれなかったんですけど、今回こういうことで、多少改善に、アレルギー指針の対応で余計仕事が増えたのかもしれないですけど。本来の教諭として、栄養指導とかということもやっていただかなければいけないので。県からの配置基準もちょっときついといえばきついわけで、二人でメニューもつくり、学校に行って指導もしという、結構な仕事量があったようですので。今回これで多少改善されて、よりよくアレルギー対応とかしっかりやっていただければと思います。

それと、先ほど給食センターの設備に関しては、毎回この予算とか決算の中で、計画的に設備の修繕をしていくようにということは、毎回申し上げていて、ここに事業実施計画を作成しと書いてあったので、ある程度つくってあるのかなと思ったんですが、詳細なものは結局できていなくて、来年やりますっておっしゃったんですけど、予算取りはしていませんというお話で。本気でやるつもりがあるのか、毎回あれですけど。結局働いている方からも話聞くと、本当に施設があちこちぼろぼろで、すごい大変ですというお話は聞いていますので。市の予算がないのは仕方がないんでしょうけど、子どもの給食を作るという一番大事な場所ですので、それはしっかり計画を立てて、予算を取ってやっていくということを進めていた

だかないといけないかと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。これ毎回、倉部さんが言ってくれていて、先ほどの話だと、ボイラーがなければ何もできないよという話が大前提にあって、ボイラーがどうなるか心配でしょうがないような状況で。僕ら、お茶工場で、今内田さんが言ったように、蒸気の当たる部分というのはすぐ悪くなるから、僕らも、いいうちでも大丈夫か点検をしてもらうと。それこそギャラリーと同じで、どういうふうに持っていくかということも大事なところで、急に壊れて何か月も給食できませんよになったら大変なことなので。点検と計画、それをしっかりやっていってもらわないと、割とその辺を甘く見ている節があるような気がしますので。ぜひやってほしい。シャッターに関しては同情の余地があって。回転部分ですごく故障にばらつきが出るというのは、電動シャッターってあるので、まあ、しようがないなとは思うんですけどね。その辺、一番大事なボイラーのところは、しっかりやってもらいたいなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　ほかありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。こども庁ができて、やはり子どもに関する対策というのは強化しなきゃいけないと思うんですね。給食もしかりで、給食費を自治体が持つというところがもう出てきております。当然のことながら、こども庁がやらなきゃならないのは、教育費に学校の事務費ですね、今の。補助金のことについてもそうですけども。義務教育は無償化だというのは原則ですよね。ですから国費が軍備に２％も増額するというようなばかげたことをやっている。そしてこども庁がやりたくてもできないというのが、この給食費無償化であり、学校に係る費用を国が持つという、基本的なことをやらない限り、少子化問題なんていうものは絶対に解決できないですね。よくなることはあり得ないと私は思っています。だから、それができないから、地方自体で余裕のあるところは、給食費を無料化するというようなことをやり始めているわけですね。ですから国の政策が間違っている、それを認識している首長については自分たちのところでやっていく、そういう財源の使い方をしているわけで。菊川市は残念ながらそれができていません。そういった考え方から、ぜひ私は、そういう全体の流れを見ながら、行政は進めてもらいたいなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　ちょっとはずれます。

○９番（小林博文君）　私のほうから。今の修繕に関して、センターが今20年経過したというところもあったので、そろそろやっぱり壊れるものが出てくる時期なのかなというところで、やっぱり今後、あると思うんですよ。すぐ壊れれば修理できるものというのもあると思うし、これが壊れたらもう、今言ったように給食センターが止まるというのもあると思うので。その辺はやはり計画をつくらないと、その辺の振り分けというのもできないと思うので。計画がまずは最初にあるべきかなというのを聞いていて感じました。

計画をつくる中で、これはまだ壊れてもすぐ修理がきくから、耐用年数をある程度見て、替える時期を延ばしてもいいと。これはもう予防保全で前もって年数を決めて替えておくとかっていうのは、計画をつくってないと実施できないと思うんですが。何か壊れたら直すっていうのが前から出てきたような感じで。概要の中にはあるんだけど、これは６年の予定ではないという、永遠のテーマのように掲げられると、もう20年過ぎていて大丈夫かという心配はしました。計画がまず第一かなという感覚があります。

○分科会長（小林博文君）　何かほかにご意見ございますか。

○１５番（内田　隆君）　いいですか。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。栄養士のところで、倉部さんの意見があまり頭の中になかったのが申し訳なかったんですけど。本来なら、こども政策課のあたりで、この話がやっぱりつながってないと、今回、栄養士が給食センターへできた、何でできたっていう話も全然つながってない。要するに、よく委員長が言われるように横串なんか何にもやっちゃなくてね。やっぱりここでこれが起きているってこと自体が、それを変えるっていうのは難しいと思うんですけど。幼稚園が入っているってことは、例えばさっきの島田と袋井の話をされたんですけど、条件が違えばもう話がずれていっちゃう。そのことすら僕ら分かってなくて、申し訳なかったですけど。

やっぱりもうちょっとトータルで話をして、今回、栄養士を入れるのは給食の中、給食の分が、保育園の分が５割ぐらいあるんだよっていうことを、こども政策課へも言ってもらって、やっぱりそれをみんなでやっていくっていう姿勢がないと、何か本当に場当たり的なものがぼこぼこ出てくるみたいな気がして。本当に必要な、僕なんかはさっきみたいに、栄養士は県がやるってことを教わってきているもんで。それ言ってみたら、市単の幼稚園が入っているもんで、その分は駄目だっていうと、ぐうの音も出ないようなことになっちゃって。

その辺はもうちょっと整理をして、何のために入れるのか。だからこれはもうどうしても市単って必要な部分だよっていうことを、やっぱりみんなで言っていって、対応していくってことは必要だと思いますよね。それと、今言われたように、計画が何もなくてやっていれば、本当につけ刃とかじゃないけど、本当に潰れたら出てくる、潰れたら出てくるの世界だと思って、ぜひこれはやめていただきたいなと思いました。

○分科会長（小林博文君）　そのほかどうでしょうか。皆さんからご意見ございますか。13番倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。先ほど残滓と残飯の話を聞いたわけですけど。ちょっと言いましたけど、オーガニック給食という話をずっとしていますが、多分全然研究してもらっていないのかなというところで。あるもの全部オーガニックにしろと言っているわけじゃなくて、一段階、一日のお米だけとか、そこから皆さん始めているわけで、そういうことをちっとも、ちっともとか言っちゃいけないね、あんまり調べていないのかなというところで。

結局このオーガニック使えば、ほとんど皮から身、全部使えるわけですね。農薬かかっているから皮むくとかっていうのが実際はあるわけなので。そういうところも研究していただいて、エコの宣言もしていたりする、それまた横串の話ですけど。ここで掲げたら、この人たちもそのことに向けて何かやるということをやっていかないと、ばらばらな政策になってしまいますので。今日、ちょっとよほど最後に、農林課とどれだけ話ししていますかと聞こうと思ったんですけど、予算にないのでやめましたけど。そういうところで協力してやっていくとか、今入ってきた新しいものについて、自分たちの部とか課は何を考えてそこに合わせなきゃいけないかという認識が、やっぱり、エコの話は環境がやっているからいいとかっていう意識をすごく感じてしまいますので。やはり全体を見て、自分たちがそこに協力できることは何かをしっかり考えて、新しい政策を積極的に調べて取り入れていく努力をするということは、やっていただきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。給食センターの委託をしているということで、菊川病院も給食の人手が足りなくて降りちゃったっていう業者があって。そういう業界のどこも人手不足。やっぱり給与面の改定とかをしないと、そういう人たちが来てくれないということで、今回、増額されたのはありますけれども、そういう働いてくれる人たちの給与の条件の改善

をして、充実した給食の提供ができるようにお願いしたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　そのほか、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、以上で、教育総務課の予算に関わる審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を基に分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

〔「お願いします」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、学校教育課に進みます。

〔「休憩するかね」「入れ替え」と呼ぶ者あり〕

休憩　午前　９時４９分

再開　午前　９時５５分

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。では、続きまして、学校教育課の予算審査を行います。

初めに、赤堀学校教育課長より出席者の紹介をお願いします。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長の赤堀です。よろしくお願いいたします。

では、私のほうから本日の出席者を紹介させていただきます。

石川主席指導主事です。

○学校教育課主席指導主事（石川　　君）　よろしくお願いします。

○学校教育課長（赤堀智生君）　大石主幹兼係長です。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　よろしくお願いします。

○学校教育課長（赤堀智生君）　服部指導主事です。

○学校教育課学校政策係指導主事（服部　　君）　服部です、よろしくお願いいたします。

○学校教育課長（赤堀智生君）　髙塚指導主事です。

○学校教育課学校指導係指導主事（髙塚　　君）　髙塚です、よろしくお願いします。

○学校教育課長（赤堀智生君）　森下指導主事です。

○学校教育課学校指導係指導主事（森下　　君）　森下です、よろしくお願いいたします。

○学校教育課長（赤堀智生君）　本日、もう一人の係長の森下ですが、所用のため今日欠席となっておりますので、よろしくお願いいたします。では、本日よろしくお願いいたします。

○分科会長（小林博文君）　それでは質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。質疑の事前通知を提出された委員は、挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１問目、内田委員から行きます。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。説明資料、タブレットページの30ページにあります事務局総務費の中に草刈機点検整備費とありますが、この草刈機そのものがよく分かっていないのもあるんですけど、使用状況がどのくらいな頻度になっているのかお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

内田委員の乗用草刈機点検整備費とあるが、草刈機の使用状況はについてお答えをさせていただきます。

令和５年度の使用状況ですが、17回小中学校で使用しております。各学校へはおおむね１週間程度貸出しをしており、使用回数については把握しておりません。

１回借りると、１週間であるとか、数日分借りるような形で各学校で作業するものですから、その全てではなくて、各学校それぞれ何回借りるかというのをトータルが17回ということになっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。決算書の財産台帳見たけど、どこに載っているのか分からないもんで、多分乗用っていうことになると、それなりの備品になっているとは思うんですけど、保管はどこでされているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　教育委員会のほうで保管をしており、その都度申請があれば貸出しをするというような形になっております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。これはいつ頃買ったものなんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　昨年度コロナの交付金のほうで買わせて

いただきました。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。今、課長のほうから17回で１週間ぐらい。この使用は、使っている人は、乗用ですので、免許証は要らないと思うんですけど、この草刈機を使う人は誰が使っているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校によってちょっと異なりますが、校長であるとか、そして校長が空いてる時間、空いてるって暇ではないんですが、使って、校長がやってくれている学校もありますし、主には教頭がやることが多いかなと思いますが、例えば男性で、もし教頭が女性の場合にということで、校長であるとか、男性の教務主任がとかということで使用していることが多いかなと思います。

○１５番（内田　隆君）　分かりました、結構です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件関連の質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

では、２問目行きます。渡辺委員から出ています。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　同じページです。タブレット30ページ、事務局総務費で既存校内サーバーリース料はなぜ増額なのか、それと外部記憶媒体の利用制限を可能とする校務用監視システムについて詳細を教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

渡辺委員の既存校内サーバーリース料はなぜ増額なのかについてお答えさせていただきます。

既存校内サーバーは、３か年をかけて更新を計画をしております。来年度が最終年度となります。

サーバーリース料が増額する理由ですが、今年度更新した既存校内サーバーは３月からリースを開始したため、１か月分のリース料でした。来年度は12か月分のリース料となるため、増額となります。

続いて、外部記憶媒体の利用制限を可能とする校内用端末監視システムについての詳細をについてお答えさせていただきます。

現在、教職員が利用している校内用端末やＵＳＢメモリ等の外部記憶媒体は、表計算ソフトで管理していますが、情報資産管理の効率化や情報漏えい対策の強化の観点から、監視システムを導入し一元管理することで、教育情報セキュリティーの強化と教職員の負担軽減を図るものです。

導入する監視システムについては、現在、本庁で導入しているＳＫＹＳＥＡを想定していますが、先進地事例等を参考に検討していきたいと考えております。

以上となります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　今の説明ではちょっと分からんのだけど、ＵＳＢとか外部媒体って、そういうこと、それが使えるということでいいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　監視システムを導入することによって、ＵＳＢメモリを逆に使えなくする。要は外部から持ってきたＵＳＢ、例えば購入してＵＳＢを差すとかということができなくなると。ハードディスク、それからＤＶＲとか、そういった端末以外の機器も接続を制限するものになります。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　意外でしたけど、今までフリーに入ってきちゃっていたんですね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。服部指導主事。

○学校教育課学校政策係指導主事（服部　　君）　ＩＴＣ推進係長　服部です。

基本的に菊川市ではネットアプリ利用規定というものを規定していまして、そこでＵＳＢを使わないということは示して、教職員の判断で躊躇していただいて、ＵＳＢを使わないというふうにしていたんですけども、それをシステム的にきちんとできなくするというような形を取るというふうに考えていただければと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

○５番（渡辺　修君）　以上です。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連でありますか。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　ここに該当するか、ちょっと分かんなかったんですけど、さっき令和５年の施政方針の中で、校内ネットワークアクセスポイントの更新ということが示されて、

２か年でやっていくということで、補正で前倒しを行われたと思うんですけど、その進捗状況と、更新によるネットワークの接続の改善状況がもしありましたら、伺いたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＴＣ推進係長です。

本年度実施したところは中学校３校、小笠３校になります。来年度実施するところは、残りの菊川地区、小学校６校になります。

来年度実施する内容ですけれども、今、入札のほうを一歩前までやっております。既に仕様書の内容は公表させていただいて、今現在、事業者を募集しているという状況であります。

来年度については夏休み、夏季休暇を利用して校内全て改修をして、できれば９月、10月くらいまでには全てを完了したいと思っております。

実際に、本年度工事を、改修した箇所ですけれども、これについては、基本６校中５校はもう間違いなく改善されて、今、情報提供が進んでおります。

ただ、１点、菊川西中学校のほうがやっぱり人数が多いものですから、同時接続となるとなかなかつながらないという状況が今生じています。アセスメントといいまして、何が原因なのか、基のネックは何のかというところを調査したところ、どうやら、後ほど質問に出ますUSBスイッチですね、こちらのほうがどうやら起因しているということで分かったものですから、来年度、このUSBスイッチを更新をかけて、さらなる改善を図っていきたいというふうに考えております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　関連質問ありますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。３問目に行かせていただきます。３名から出ています。代表して、私のほうから質問させていただきます。

10款１項２目小中一貫連携教育推進費です。タブレット33ページ、２問あります。

１問目、学校の未来を考える会とはどんな会なのか。

２問目です。それから、コミュニティ・スクール推進のほうであります。業務内容にあるコミュニティ・スクールの小中一貫教育事務補助員、それから小中専科教員補充員及び地域学校協働活動推進委員、それぞれの役割を教えてください。

赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

小林委員、内田委員、倉部委員のご質問にお答えします。

１つ目の学校の未来を考える会についてですが、令和４年度の小中一貫教育の在り方検討会にて、小中一貫教育等に関する意見書が教育長に提出されました。その中で学校規模と学区についての意見がありました。

内容としましては、児童数減少への対応として、学校再編だけではなく、小規模校としての利点を最大限に生かすことやＩＣＴの活用等、様々な角度から児童生徒の最善の利益に資する学校の在り方についても研究していく必要があります。

また、学校規模と学区の在り方については、多種多様な要素が複雑に絡み合う事柄であり、専門的な知見も必要であることから、識者を中心とした委員会を設置しまして、今後時間をかけて検討を重ねていく必要があるという内容でした。

このことから、魅力ある教育環境の実現と菊川市の学校の未来を検討するために、令和５年度に設置をしました。

本会では、今後の菊川市を考え、子どもたちに何をどのように学ばせるのか、学びたい、学ばせたいと思わせる教育とは、そのために必要な教育環境や内容などの菊川市の教育を検討し、今後の地域住民と意見交換に向けた資料を作成することを考え、現在進めております。

２つ目の補助員、補充員、推進員のそれぞれの役割についてですが、まず、小中一貫教育事務補佐員ですが、小中一貫教育「学びの庭」構想を進める中で、各学舎の統括や学校の未来を考える会を補助しております。

次に小中専科教員補充教員ですが、令和６年度より学舎ごとにコミュニティ・スクールが開始をされます。学舎内の全小学校と中学校の縦の接続をより強化したいと考えております。

その中で、菊東学舎をモデル校とし、菊川東中学校の教員が六郷小学校及び河城小学校へ赴き、実際に授業を行うことで、中学校教員の専門教科の知識や技術を小学校教員に伝えることができます。

また、子どもにとっては、中学校の教員の授業を受けることで、中学校へのスムーズな移行につながると考えております。

そのため、中学校から小学校に授業に行っている期間、当該職員が受け持っている中学校での授業をこの補充教員が担当することになります。

最後に地域学校協働活動推進員ですが、地域住民や民間企業等の参画を得て、学校と地域

が相互に連携して行う様々な活動に対し、学校との連絡調整等を行うコーディネーターとなります。

菊川市では、この地域学校協働活動推進員が、令和６年度から始まるコミュニティ・スクールの学舎ディレクターが兼ねることとなります。

主な役割は、地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画や立案、学校と地域住民・企業等関係者等との連絡や調整、地域ボランティアの募集や確保などとなります。

持続可能な取組をしていくため、こうした方々が丁寧に活動を進めていくというふうな形になっております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　簡単なほうが１つ、小中専科教員の補充教員なんですけども、教員が小学校へ赴く期間というのはどのくらいを想定していますか。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

令和６年の９月から実施を考えております。一応３か月を予定しており、そして、まだ実際にどうした教科をというふうなことの具体は決定をしておりませんが、一応こちらが考えたのが実技教科で行えたらというところで、例えば体育であるとか、美術であるとか、技術家庭であるとかというような、そうしたまずは取りかかりとして実技教科を考えております。

一つの単元というものがあるもんですから、そうしたものが大体おおよそ４から５時間ぐらいを１つの単元として、それを、授業を行うということを今考えております。

○分科会長（小林博文君）　それから、１番のほうの未来を考える会でやることとしては、教育の充実のようなことと再編、これからどう学校の再編、地域と関わるかということだと思うんですが、今やる中では、教育の拡充というか、見直しみたいなこと、学校の再編とか学区の区割りについては未来を考える会ではやらん、まだ考えていないということでしょうか。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

そちらのほうも、当然これから子どもたちが、何年後、５年後、推移を見たときに減少しているという状況には予想されておりますので、そうしたことも当然考えていくということにはなりますが、まず再編ありきということではなくて、小さな、小規模の学校でも、当然これは大規模も中規模もそうですが、メリット・デメリットもあるわけですけども、小さな学校であってもメリットを最大限に生かせるような教育をとにかく提供できないかというところを考えながら、その中で子どもたちにとって、学びを深めたりであるとか、いろいろな

つながりを持ったりであるとかという、いろんな教育ができないかというところを考えていくというということを今計画をしております。

そのためのどんな教育ができるかなというところの、幾つかの想定するものもあるんですが、そうしたものをまた土台にしながら、来年度よりどうしたものが考えられるかというところを考えながら、会を進めていきたいと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　もう一つ、もう一回、今、未来を考える会なんですけど、今出てきている小規模の学校どうするかというところもあると思うんですが、再編というところも行く行く出てくると思うんです。学区を再編するのか、学校をもしかしたら１校やめて統合しちゃうのかというところも、そういう話にも進むと思うんですが、その辺というのは前から言っている地域の方をぜひ巻き込んでいただきたいんですが、その辺はまだこの会の中がよく見えないものですから、その辺に一般の住んでいる方の意見はどういう形で聴取していくのか、その辺をちょっとお伺いしたいです。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　教育課長です。

こうした未来の学校の在り方を考える会、学校再編ありきではないという話をさせていただきました。こうしたことに関しては、やはり学校というそもそものものが地域にあって、コミュニティーが当然あるもんですから、当然子どもたちの教育をどうするかということもそうですが、そうしたコミュニティーで、地域の方々において学校が大切なものだというものは当然あるので、そうしたところのやっぱり思いであるとか考えというものも、当然大切にしていきたいなというふうに考えております。

そうした中で、地域の中で人選をしていくわけですけども、地域の方にもその会に入っていただくような形で、当然、こちらもまだあれなんですが、若い人というか、これから子どもたちをそうした形で学校へ入学させていくというような若い人たちの声も、ぜひ大切にしていきたいなというふうに考えておりますし、この会だけではなくて、いろいろなところで意見をもらいながらというところで進めていきたいなというふうに考えております。

○分科会長（小林博文君）　私からは以上です。

内田委員、いいですか。内田委員、ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　未来を考える会なんですけど、やっぱり教育部門からだけの前提が、合併を考えないということから入っていかないと、いろんなことがどんどん交錯してくると思うんですけど、今の状況の中で６校と３校ある中での、これは残そうとしている中で、こ

れをどうやってやっていけるかということなら僕は教育委員会からだけでも十分できると思うんですが、ただそれはもう少し変更して、小規模校というのは最低でも150人ぐらい欲しいよという話が出てきちゃうと、今言ったような再編のほうへ入り込んでいっちゃうんで、その辺が、どの辺のところまでやるのかというのと。

それと６年度においては、今言ったあまりメンバーもしっかり、今課長が言われたみたいに地域の人も入れていなければという話をすると、すごくがっちり固まったものがないんじゃないかなというふうに思えるんですけど、６年度のスケジュールというのは大体どんなことを今考えられているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

まず６年度のスケジュールについてですが、先ほど申したどんな教育があるかなというおおよそのパターンを、今年度幾つか出してはいます。これをこの中から選択するというわけではないんですが、そうした幾つかのパターンを持ち寄ってそれを土台にして、たたき台にして、よりよいものというか、こういうことが考えられるねというようなところの話合いをこれから、来年度から、６年度から進めていくというのが一つです。

あと、今後タイムスケジュールがあるものですから、６年度からいつぐらいでというところのスパンを考えながら、その計画づくりをきちんとしていくということも６年度行っていきたいと考えております。

あと、確かに検討の状況に応じては、当然教育委員会の中でも学校教育課というだけではなくて、建物のこと等々が絡んでくると、当然教育総務課であるとか、その地域のというふうに考えると、さらにもう少し教育委員会だけではないほかのところも交じえながらというような検討が必要になってくるかなというふうにには思いますが、現時点では今そのタイムスケジュールをどうしていくかということも考え、そしてどんな教育ができるかということも考え、そうした中で子どもたちの人数の状況も当然あるんですが、逆に規模を本当に割っていってしまうのか、持ちこたえられるのかという推移を見ながら、他の機関、部署等と連携していくというところは今後検討していきたいなという考えでございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。結局検討するときに、取りあえず８名という人数が決められているんですけど、この８名の内訳がよく分からないもんで、どこまで入り込むのか。先ほど課長が言われたみたいに、現状の中を一応６校を残すことの中において、この学校に

はどんなことがメリットとしてあり得るかということであれば、教育関係だけでも構わないと思うんですけど、そこから一歩踏み出そうとすると、この８人というのは一体どんなメンバーが入ってくるのか、非常に影響力の大きい話になってくる関係で、今メンバー決まっているのかどうか分かんないんですけど、メンバー決定とか、８人、回数分の謝礼というのが２万4,000円というのが、3000円だとこれだけ参加人数いるし、これだと何も、回数１回しかないと思うけど、その辺がお金と回数と詰めていく内容とかというのが、スケジュール的にはある程度見えていればあれかなと思うんですけど、今スケジュールも漠然と言われているだけで、取りあえず５年度のときにやったものをベースにというのが、５年度のところの案も分かっているわけじゃないもんで、その辺がこれからどうなっていくのがたまらん、我々とすると考えなきゃいけないことは事実ですけど、どういうことのスケジュールで組み立てていくのか。

それで教育委員会がやろうとしていること自体が、後、市全体の中でどういう影響をしていくかというのによって、随分事態が変わってくると思うんですけど、その辺がちょっと分かったら教えていただきたいなと思うんですけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

令和６年度ですが、先ほどからお伝えしております菊川市の教育、どんな教育をというふうなところを検討、そして小規模校の活性化という、先ほども言ったメリット・デメリットがあるもんだからということで、どんな教育ができるかなということを６年度検討し、そのメンバーも一応学習経験者を長としながら、事務局、そして校長であるとか、教員であるとかという代表を中心にということで考えております。

令和７年度からですけども、地域住民との意見交換というところを進めていきたいと考えております。そのための準備を令和７年度していきながら、実際には令和８年度から地域住民との意見交換をしていくというところで今考えています。

以上となります。

○分科会長（小林博文君）　岡本教育文化部長。

○教育文化部長（岡本啓司君）　教育文化部長です。

学校の未来を考える会につきましては、今ちょっと少し一般の方が入っていない状況です。学識経験者、それから校長、教員等、少し内部的な検討になるんです。今年度と来年度につきましては、今課長が言ったように、一般住民に、簡単に言うと一般住民の方の検討をして

いただきたいものですから、その土台づくりとして提供できる資料のようなものを内部で検討しています。

ですので、７年度から、議員からも要望がありますけれども、一般の住民を交えた検討を７年度からしていくということで、それに対する準備を今、５年、６年かけてやっておりますので、検討会の中のスケジュールでは今のところそういうことです。

地域住民としては、複数年少し検討をさせていただいて、方向性を決めていくと、そんなような予定でおります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。ちょっと確認ですけど、ずっと６年度は、要するに教育方針みたいな教育の中での未来を考えるような検討をなされるというその範囲で取りあえずは止まって、次６年度以降それを一つの検討材料としながら地域住民の中へ入っていくということでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今、未来を考える会の大まかなスケジュールを伺いましたが、地域住民の話はありましたが、生徒ですとか保護者の関係についても同じようなスケジュールと考えていらっしゃるのか、少しタイミングがずれるのか、その辺はいかがでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　今年度検討を進めてきました。また来年度、この会を継続していくような状況になるのですが、来年度に向けて、どういうような方をまた検討委員として選出をしていくかということは、今後、６年度に考えていくというふうに今は考えているという状況であります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　生徒、保護者の意見を聞くのはどのタイミングでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

地域住民と同じように、一応今、現時点ですが、７年度からそうしたものができたらということで今考えております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ほかの課でも委員のほうから申し上げているんですが、ここ本当に三、四年で生まれるお子さんの数が100減っているのですけど、こんなゆっくりスピードでいいんでしょうか。検討するのが、もう少しスピードアップするべきではないかと感じられますけど――ではないでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

いろんな推移を私たちも見て行く中で、当然５年であるとか６年後、そうしたところで減少がぐっと進むという状況は把握をしております。

本当になかなか難しい問題というところも十分承知をしておりますので、決してゆっくりということではないんですが、やはり丁寧に進めていく必要があるという押さえの下、来年度以降、当然そうした減少というところを見据えながらも、そのときになって慌ててどうしようというふうな結果には絶対にならないように、来年度丁寧にその状況を見据えながら、今後もその状況を見据えながら進めていこうというふうに思って、今頑張っております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今後の意見聴取ですけれども、よくあるのは、アンケートを取りましたと、特定の方だけを選んで聞きましたということが多いんですけど、できるだけ興味のある方の多くが参加をして、意見聴取のできる形は取っていく予定はあるんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

現時点で、細かくこういう人たちというところの限定は当然しておりません。そこまで、すいません、検討は進められておりませんが、本当に地域に住む方々は、幅広い年齢層の方が当然いらっしゃいますので、当然年配の方々もそうです。そして現時点で、子どもたちが小中学校に通うという世代もいると思います。

どこも大切にしたいんですが、特にこれから子ども、自分の我が子が小学校、中学校に上がっていくというような世代の方々の意見ということもすごく大切になると思いますので、

そうしたことを踏まえながら、バランスよく意見が聴取できるような形を考えていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　今の件はいいです。今の中の別枠は。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　考える会はもういいです。

○分科会長（小林博文君）　３問目のほうは、関連で皆さん、ほかにご質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。では、４問目に。

〔発言する者あり〕

○分科会長（小林博文君）　お願いします。倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。コーディネーターの方がいらっしゃって、学舎についていた方がコーディネーターをやるということですけど、基本今やっている方が継続ということで、元校長先生たちとかの方ばかりでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　教育課長です。学舎ディレクターについては、来週の定例教育委員会で承認をするというような方向で今進めて、承認されるかというところで進めております。

今、倉部委員がおっしゃいました現時点でちょうど移行のところでありますので、現時点ではこれまでの経験であるとか実績を生かせる方ということで、今現時点で行っていただいている方をそのまま継続でというふうに考えておりますが、ただ、今後ずっとそういう方ということではなくて、やはり持続可能な取組にしていきながら、これからより地域の方との関わりであるとか、そうしたところが重要になってくるところもありますので、今後元教員ということにこだわることではなくて、そうした地域の中で適した方がいらっしゃれば、そうした方に任せて、お願いをしていくというところも考えていきたいと思っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。この中で、コーディネーターではなくて、各学校の中で協議会の委員というのが選ばれる、156人、回分謝礼とあるんですけど、その方の委員

はどうやって選ぶんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　委員ですけども、各学舎全て同じようなことでお願いをしているんですが、委員として各学舎の校長、そして園代表者、そして委員をその学舎の各校でそれぞれ２名以上お願いをして、選出をしていただいております。

こちらの方については、それぞれ学校のほうでこの方にということで、地域の方の中から選出をしていただいております。本当に普通にお勤めをされている方もいらっしゃいますし、ＰＴＡの関係でということで学校にご尽力いただいている方もいらっしゃいます。それは各校に２名以上ですので、２名もしくは３名の選出をお願いしているという状況になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。３番目の質問の件で関連質疑がある方いらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　４問目、私のほうから。10款１項２目教育活動推進費の中にあります、７節かな、報償費が増額している要因はというところで、説明の中にあるので、一番多いのは教職員研修会講師ここにあるところが上がっているのかな。要因を教えてください。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。

小林委員の報償額増額の要因はについてお答えさせていただきます。

小学校教育振興費で計上していましたＩＣＴ活用研究・授業改善推進講師の謝礼を小学校に限らず市立小中学校全校が参加するＩＣＴ活用研究等とすることから、本事業費に移行したものになります。

これまで、昨年度までサトウ教授が小学校のある学校を、横地小学校で研修をというところで、そこが母体というところで研修を進めてまいりましたが、本年度はマスカワ教授に講師が替わりまして、マスカワ教授の謝礼に当たるものになるんですが、小学校から、今年度から菊川東中でその会を開くというところになったもんですから、移行したというような形になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　増額の主な要因としては、どんなものになるのでしょうか。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。

先ほど課長のほうの答弁にもあったように、小学校教育振興費に計上していたものをこちらのほうに移行したという形になります。マスカワ先生、東京のほうからおみえになられるもんですから、こちらの回数であったりとか、そういったものを増やして、さらにＩＣＴ教育を進めていきたいというふうに考えております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　私からは以上です。この件、関連でありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　ちょっと関連なんですけど、これっていうのは、令和元年の施政方針の中で示された令和の日本型学校教育の推進ということなのか、ちょっと確認で。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。服部指導主事。

○学校教育課学校政策係指導主事（服部　　君）　学校政策係指導主事です。

そうですね、その中にあった日常的なＩＣＴ活用で実現する令和の学び研修会に当たるものになりますので、令和の日本型の学習教育を推進していくための研修のための講師というふうに考えていただければと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。ありがとうございます。タブレットのほうから、ちょっとこっちで質問させていただこうと思うんですけど、研究校があって研究をして、その成果を市内の全校に広めていくよということだったんですけど、今後どういう感じでスケジュールというか、どういう感じで市内全域に広めていくのか、ちょっと簡単なスケジュールというか、方針みたいなのを伺えますか。

○分科会長（小林博文君）　服部指導主事。

○学校教育課学校政策係指導主事（服部　　君）　学校政策係指導主事です。

本年度も、菊川東中でやっている研修会のほうに本年度は２回実施して、そこに各教員全員必ず参加をする、ちらかに参加をするという形で進めておりました。

来年度に関しては、本年度、研修の趣旨等は理解していただいたということで、来年度は９月に一度公開研修会を行う予定でおります。そこには各校の研修や、ＩＣＴ推進委員や、管理職等、各校の中心となる方々に来ていただいて、それを基に９月にありますので、それ

以降の研修やその翌年の研修計画等に関わっていただくという形で横展開をしていくというつもりで考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　最後に１点だけ、この研究する中で、何か具体的にこういった部分が改善されたというか、ここがこうなったとか、そういうのがあれば最後に聞きたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。服部指導主事。

○学校教育課学校政策係指導主事（服部　　君）　本年度、自分も学校に入らせていただいているわけですけれども、特に大きいのは、一つは推進校でやる中で、いろんな学校が、格差が、クラスでも格差が、先生でも格差が出てしまうというところがあるんですけど、菊川東中でコーディネートする中で、全員がＩＣＴを使えるようになっているというところ、それからクラウドを活用するというところが一つでは、学びでは大事になっていますので、そういったものを活用しながら、先生が言ったときだけじゃなくて、子どもたちが考えて下地に使っていくという場面が多く見られるようになってきているなというのを感じていますので、そこを推し進めながらさらに広げていくというように進めていきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　私どもも、今年度１回研修、全体研修会に参加をさせていただきました。その中でマスカワ先生、実は前からつながりもあって、いろいろ研修会に出たことがあったんですが、やはり教師が授業をやるに分かりやすい内容のアドバイス、説明をしてくれたりやとか、本当に日頃の授業実践にどう生かしていくのかというところを考えながら、そしてとにかく授業を進めていく、子どもの姿がこう変容していくねっていうところをやっぱり着眼点に、子どもたちが学びを深めていくためには、どういう手だてでこのＩＣＴを上手に活用したらいいかということを、具体的にやっぱりご説明を教師自体にしてくれているもんですから、やはりなかなかそういう機会、各校でそんなに講師を呼ぶことは当然できない状況が、今講師謝礼分等もあるので、なかなかできないんですが、こうしてマスカワ先生を菊川東中というところを母体にして呼びながら、いろいろな全部の学校の先生がそれを聞いてもらえる、研修をすることができたというのは、非常に大きな意味があったかなというふうに思います。

今年度に限らず、一応２年ということで来年もやるもんですから、今年のものをまた土台にしながら、来年もう少しまた広がりを持って先生方の授業改善が進み、それが子どもたちに還元できるような形が、２年でどこまで進めるかっていうのはありますが、でも大きく前進してくれればいいなというふうには考えております。

○１番（渥美嘉樹君）　よく分かりました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。すいません、戻って申し訳ありません。報酬費今140万7,000円なんですけど、去年が104万7,000円、36万円増額しているんですけど、これ７節見ると講師謝礼がそこにほぼほぼ該当しています。その中に、教職員の研修会講師、巡回相談員、発達検査員、教職員研修会等講師謝礼というのは、これ具体的にどこの部分が36万円増額なのか。さっき言ったその東京から来るんで、その分の交通費がその額になるという考え方でよろしいのか、ちょっととにかく見えなかった。もう一度ご説明お願いします。

○１３番（倉部光世君）　額が書いてある。

○分科会長（小林博文君）　どの人の名前。

○１３番（倉部光世君）　ＩＣＴのところ。

○分科会長（小林博文君）　ＩＣＴというのは、この一番後ろの教職員研修会報酬２回あるんですけど。

○１３番（倉部光世君）　研修会講師、研修会が２つある。

○分科会長（小林博文君）　職員が４人いるの。研修会の講師２人いるのか、よくこれ見えないんですけど、７節のとこの説明資料のところをちょっともう一回説明していただきたいんですが。はい、大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。今言われていますマスカワ先生の部分ですけれども、全体額で大体30万ぐらいになります。その他の発達検査員の謝礼とか、若干増やす感じがあるもんですから、全体でその額が増えているという形になります。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　というのが、増えている要因ということですか。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　はい、分かりました。講師の２つある部分については、別の人という考え方ですか。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　はい、別の人で、申しませんでした。

○分科会長（小林博文君）　はい。この件関連でありますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　では、次に行きます。５番目、内田委員から出ております。15番内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。学校安全総合支援事業というところですけど、去年も同じ形なので、そのときに聞けばよかったんですけど、これ全く単費が出されていないんですが、そういった関係で市がこの中に介入する余地があるのかどうか。

それともう一つ、危機管理マニュアルはどのような管理がされているのかをお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。内田委員の全学県費の授業だが、市が入る余地があるのかについてお答えをさせていただきます。

学校安全総合支援事業ですが、国、文部科学省になりますが、国の委託事業であります。事業実施は県から市へ再委託という形になっております。委託事業となっておりますが、市で考えた計画を申請することになっておりますので、市に裁量があります。

ただし、本事業は県内市町の手上げ方式になっているため、活用希望件数が多いと採択されない可能性があります。事例につきましては、先日県、静西教育事務所ですが、菊川市でこちらも引き続き実施ができるという報告を頂きました。

次に、危機管理マニュアルはどのように管理されているかについてお答えをします。

危機管理マニュアルは、学校ごとに立地状況や地域性を基に作成をし、毎年の教育課程にて見直しを行っております。見直しを行った危機管理マニュアルについては、学校運営マニュアル等により職員全員に配付をしております。新年度新たな組織体制になったところで、職員会議等で確認をして全職員で周知を共有しております。

また、危機管理マニュアルの一部については、学校内に掲示をするなどして見える化も図っております。

さらには、各学校の危機管理マニュアルを防災担当指導主事により点検及び補完をするとともに、菊川市危機管理課との共有をしております。

以上となります。

○分科会長（小林博文君）　はいどうぞ、再質疑になりますか。15番。

○１５番（内田　隆君）　15番です。学校ごとにそれぞれ危機管理マニュアルがつくられると

いうことですけど、この項目とかある程度の基本方針みたいなものは教育委員会が指導してつくられているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。髙塚指導主事。

○学校教育課学校指導係指導主事（髙塚　　君）　学校教育課指導係髙塚です。危機管理マニュアルについては、平成29年に学校保健安全法のほうにつくることを定められておりまして、文部科学省のほうから学校の危機管理マニュアル等の評価見直しガイドライン等が示されております。

それに基づいて各校が作成することとなっておりますので、大型のひな形というものは国のほうから示されているんですね。それについてどのような方向を定めなければいけないということは、国のほうが示してくれています。

ただ、各自治体ごとに立地条件が異なりますので、例えば液状化が心配されるところなのか、土砂災害が心配されるところなのか、またそこに在籍しているお子さんにとってはアレルギーのこととか、そういったことも多岐にわたりますので、そういったところは各学校ごと定めているというところになりますので、大きなひな形については国のほうがガイドラインによって定めているところです。

以上です。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　この件関連で質疑ありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　６番目、倉部委員から出ております。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。10款２項１目小学校管理総務費、説明資料のタブレット38ページ、入学時健康診断への養護教諭の関わり方はどうなっていますか。入学時健康診断の内容について検討したことはありますか、答弁お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。倉部委員の入学時健康診断への養護教諭の関わり方はについてお答えします。

就学時健康診断は、次年度の新１年生を対象に中央公民館を会場として、内科健診等と知能検査を２回に分けて実施しております。そのことからも、小学校の養護教諭が事前打ち合

わせを行い、前日の準備及び当日は健診記録業務を行っております。

続いて、入学時健康診断の概要について検討したことはあるかについてお答えをさせていただきます。

就学時健康診断の内容については、学校保健安全施行令第２条で定められた検査項目を実施しております。また、就学時健康診断終了後には、次年度への改善や動線を含めた健診方法等の打ち合わせを行い、改善を図っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。これちょっとなぜ質疑させていただいたかというと、養護教諭の仕事の負担が大変大きいということで、やっぱりこういう場に出てしまうと、学校を空けなきゃいけないので、そうすると今１人ずつしか配置されていないもんですから、「いない間はどうなるんですか」っていうような話があったりですとか、ここにはないですけど、やっぱり修学旅行について行かなきゃいけないとかっていうところも、やはり１人しかいないというところの負担の多さと、学校が空になるということの大変問題があるということを聞いていましたので、ちょっと確認させていただきたかったんですけれども、あと内容についてということなんですが、決められていることもあるんですが、実は幼稚園でやっていただけるような内容もあるんじゃないかとお話があったんですけど、その辺は全部このときに全てやらなければいけないのか、幼稚園とかで事前にやっといていただいていい項目もあるのかを伺いたいです。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。髙塚指導主事。

○学校教育課学校指導係指導主事（髙塚　　君）　学校教育課指導係指導主事の髙塚です。就学時健康診断については、教育委員会が行うことというふうに定められております。内容については、内科、歯科、耳鼻科、眼科、そして視力・聴力検査、そして発達に関する調査ということを行っています。

まずは教育委員会が行うこととなっておりますので、今学校によっては倉部委員のほうからお話があったように、養護教諭が１人抜けてしまうと大変手薄になってしまうというのは、おっしゃるとおりだと思いますが、学校によっては学校規模が小さくところで小回りが回るところもありますけれども、学校規模が大きい学校では養護教諭１人が、この今言ったような検査を各学校ごとに行うということで、非常にそういったところがまた負担になっているという声もあるんで、協力体制、菊川市については、中央公民館を使ってやっていくという

形で、連携をしていくということでよりスムーズな、また保護者の方々にとっても負担が少ない形ということで行わせていただいているところであります。

園の協力を得ながらということも、もちろん今後私たちとしては大変ありがたいところですが、教育委員会が行うことというふうになっていますので、まずもって私たちが行うべきことというふうに捉えているところです。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ちょっとやっぱりこのとき養護教諭ではなく、別の方を派遣というか、依頼して頼むということは可能なんでしょうか。お金、予算のこともあるでしょうけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。髙塚指導主事。

○学校教育課学校指導係指導主事（髙塚　　君）　指導主事の髙塚です。実際には養護教諭だけではなくて、各学校から学級学校支援員、市のほうで配置している会計年度任用職員のほうも来ていただいて行っていますが、人数についてはいくらでも足りないような状況の中でやっておりますけれども、養護教諭の方と学級学校支援員の方、また菊川市については外国籍のお子さんもいますので、外国人支援相談員のほうも来ていただいたりという形で、かなり総動員でやっているものですから、何とか菊川市はうまく、それが外国籍の方もスムーズに検査のほうを受けていただけますし、ご理解いただいているというところでやっているところであります。

学校によっては、そういった方々が体調不良で来られない場合については、管理職の方が来ていただいていることも場合によってはあるもんですから、ただそういったところで手厚く支援のほうをすることによって、ここまでスムーズにできているというところは、菊川市のちょっと強みかなというふうに捉えているところです。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部。養護教諭は必ずいなくちゃいけないんですか、この場は。それはないんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。髙塚指導主事。

○学校教育課学校指導係指導主事（髙塚　　君）　髙塚です。養護教諭の方になっていただいているところについては、例えば内科医について、そこで検査結果を記入するといった専門

的な業務のほうになっていただいておりますので、やはり養護教諭でないと、なかなかそこのところは難しいところがあります。

学級学校支援員の方については、お子さんの誘導であったり、保護者との引き渡しであったりとか、あと簡単な検査、視力検査とか聴力検査の中の補助というところをやっていただいておりますので、そこは役割が異なるというふうに考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　はい、答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　はい、分かりました。

○分科会長（小林博文君）　赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。今髙塚のほうから説明がありました当日ですが、本当に総動員で取り組んでいるという現状があります。当日については、学校教育課のそこのところも私以外は全員そちらへ参加をするということで、電話が何本も鳴ると取り切れないんですが、そういう状況の中で行い、そして社会教育課のほうにもご協力を頂きながらというところで取り組んでいるのが現状になります。

そうした中で、養護教諭でなくてはならないというところを、養護教諭にお願いをしながら、それ以外のところをいろんな方でサポートしているというような状況になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。再質疑ありますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑ありますか。よろしいですか。

じゃあ、７番目、渥美委員、内田委員から出ています。代表して渥美委員からお願いします。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ40ページ、外国人児童指導費について、１、外国人相談員２名について、対象児童数と業務内容を伺う。２、定住外国人児童生徒就学促進協議会負担金の増額理由を伺う。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。渥美委員、内田委員の外国人相談員２名について、対象児童数と業務内容を伺うについてお答えをさせていただきます。

令和６年度は、市内６校の小学校において、２名の日本語指導教師、６名の外国人支援相談員が勤務をしております。そのうち、ブラジル国籍の児童生徒については、６校で183人の

児童を対象としております。

そのうち、ブラジル国籍の児童が123名、フィリピン国籍の児童が55名、日本語国籍ではありますが、言語支援が必要な児童が５名となります。

業務内容につきましては、児童の支援、通知の翻訳、保護者面談の通訳等を行っております。

２つ目の定住外国人児童生徒就学促進協議会負担金の増額理由を伺うのご質問にお答えをさせていただきます。

小笠地区定住外国人児童生徒就学促進連絡協議会は、掛川市、御前崎市、菊川市の３市で組織された協議会です。小笠地区に定住する外国人の子どもの就学に必要な支援として、初期指導教師の運営を特定非営利活動法人静岡県教育フォーラムに委託をしております。

令和５年度の委託契約期間は、４月１日から翌年の３月15日としていたところを、来年度令和６年度は、４月１日から翌３月31日までの年間委託としたことによる経費増に伴い、３市で案分した結果の負担金の増額となります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質問はありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。外国人の児童生徒がかなり多いということで、こちら代表質問でもちょっと質問させていただいたんですけど、施政方針の中で西部中東遠の各市町と連携するということが示されて、答弁の中で日本語教育という部分も示されたんですけど、具体的に実務としてどのように進めていくのかっていうのが１点目と、もう一つは、この政策として具体化されるというのは大体いつ頃なのか、そこら辺スケジュール感がもしあれば、伺いたいと思います。その２点伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。森下指導主事。

○学校教育課学校指導係指導主事（森下　　君）　指導主事の森下です。外国人の支援員につきましては、外国人支援相談員、それから日本語指導講師がおりますが、あくまでも支援という形になります。学校には日本語を指導する教員もいますので、具体的な日本語指導に関しては特別の教育課程を組み、日本語指導を行うという形になりまして、こちらの外国人支援相談員や日本語指導講師は、また異なる業務となるかなというふうに思います。

具体的に学校にいる教員、日本語指導をしている教員ですが、日常生活に必要な日本語、学校生活に必要な日本語を指導し、加えて各教科に必要な教科特有の日本語を指導をしてい

ます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。ちょっと自分が聞きたかったのは、その施政方針で示されたその西部中東遠が広域の市町と連携していくよということが示されたと思うんですけど、市長から答弁を頂いたんですけど、その学校教育課とかあと部とか課として何かその部分について実務的に今後どうやってやっていくことがあれば、その部分を伺いたいなと思ったんですけど。

○分科会長（小林博文君）　市長側から出ています。教育委員会のほうはその辺の話は行っています。

〔「出てない」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　出てないですか。行政側のほうの市長の答弁だということですね。

○１番（渥美嘉樹君）　はい、分かりました。じゃあ、もう一回。

○分科会長（小林博文君）　１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。そうすると確認なんですけど、趣旨等はそういうような施政方針という答弁おっしゃっていたんですけど、教育委員会としては、そこら辺がまだよく関わっていない部分ということなのか、ちょっと最後に。

後は、今後関わっていくのかどうかというのを、ちょっと伺えばと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。現時点で今後どうしていくかというところの検討であるとか、何かを頂きながら検討していかなくちゃいけないかなというところまで、まだ当然行っていない状況であります。

今も続いておりますが、菊川市、掛川市、御前崎市で連携をしているという部分はありますので、そちらの部分で継続しながら取組を進めていくというところがあるんですが、新たにじゃあこれからどうしたことを通した期間、どういうふうなスケジュールでやっていくかというところまでは、当然検討されていない。そしてまだうちのほうも十分把握をしていないという状況ですので、以上になります。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。いいですか、渥美委員よろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　はい、以上です。

○分科会長（小林博文君）　内田委員のほう再質疑、15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。負担金が増えた理由というのが、20日間ぐらい延びたもんで増えたということですけど、これただ単純に月で割っていくと、それで足らないと思うんですが、これはこれでよろしいんですか。

○分科会長（小林博文君）　はい、答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長でございます。教室自体の運営費は200万程度上がっています。それは物価向上もありますし、期間が延びたこともあります。ただし、国庫補助額も若干ですけども増えていますので、その割合が出ていて、それを３市で割ると今回の負担額という形になります。

以上であります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連で質疑がある方いらっしゃいますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。はい。では８問目、内田委員から出ております。お願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。タブレットで最初にたまたま六郷小学校を上げてあるだけなんですけど、振興費っていうのが各学校にそれぞれあるんですが、中身を見ると非常にばらばらでしたので、この振興費を予算化するときには、何か査定があったり、枠が決まっていてその中で自由度があってやっているのか、もう少し何か必要度みたいなものを査定をかけてこれやっていられるのか、そこをちょっと伺いたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。内田委員の各学校の管理費と教育振興費はどのようにして予算化されるかについてお答えをさせていただきます。

次年度の児童生徒数や学級数及び前年度の執行額を参考にしながら、各学校の学校管理費と教育振興費の総額を算出しております。

その総額内で学校が必要科目に応じて予算化をしているという状況になります。枠のある中で各学校は自校でいろいろ検討をしながらということで大変苦労しているという状況になっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　はい、答弁が終わりました。再質疑ますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。例えばっておかしいですけど、備品なんかが非常に充実しているところもあるし、一般単年度で消耗しちゃうようなものは特別問題ないと思うんですけど、将来に残ってくるようなものであると、学校間で非常に差が出てくるということについては、何かコントロールされているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。各学校の備品につきましては、各学校のほうから欲しい備品について要望を頂いております。その備品内容を確認して、本当に必要かどうかを査定させていただいて、必要であればこちらのほうにつけるという形をさせていただいています。

それで、全体的な学校の備品の標準化というのは、特に考えていないんですけれども、その学校に必要な備品について、こちらの方で審議をしているということをご理解いただければというふうに思います。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。先ほど一応枠を決めているとか、学校のほうの要望に沿ってほぼ予算化されてくるというふうに理解をしたんですけど、例えば今言った一定のところにそういう制限を加えたりすると、そうすると枠が優先してくれば、その部分をどっかへ回すというようなことも可能になってくると思うんですけど、やはり備品については、ちょっと本当に数年間は多分使えるものであって、学校間で段々差が出てくるということについては、それまで一応コントロールはされているということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　例えばですけれども、後ほどの質問に出てきますけれども、横地小学校は去年備品をテントが欲しいということで、優先的にテントを購入したいという希望が入ったので、テントのほうに予算をつけて、教育振興費の備品のほうにはつけなかったというような経緯もありますし、その都度標準化は各学校によって難しいと思いますので、必要な物品についてこちらのほうで査定をさせていただいて、予算のほうを配分させていただいているという状況になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。やっぱりそうは言っても、結局は当年度で単年度の中でつけざるを得ないものが当然出てくるというような話になってくると、どこかで一度は備品の台帳みたいなものの中で、遊具にしてみてもいろんな形のものが出てくる、あるわけですね。

備品、これで買えるかどうかは別としてみても、やはり単年度の中で終わっちゃうものは、もちろんそれで構わないと思うんですけど、将来的に残るものについては、ぜひ後からどうしてもつけなくてはならないような事態にならないような工夫を、ぜひしていただきたいなと思いますけど、それはできないですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。備品もかなり金額的に上から下まであると思うんですけれども、今回も各小学校と中学校に印刷機をつけるとか、この予算枠とはまた別立てで欲しいものについては査定をさせていただいて、必要な備品についてはつけているという状況になります。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部。すいません、環境推進のほうで集団回収のほうの交付金とかをやめるっていう話があったんですけど、結構それのお金で学校備品とかを今まで購入していた例がたくさんあるんですが、それがどれくらいあるかっていう把握は、教育委員会はされているんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。各学校のその古紙回収の補助金を使って購入している備品の額等については、こちらのほうでは把握はしてなくて、あくまでＰＴＡに対する補助金ということで伺っていますので、そちらでどのような物を買ったとかいうことについては学校のほうで把握をしていて、教育委員会のほうにはちょっとすみません、把握はしていないという状況になります。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。というか、本来欲しいのに予算が下りないので、そこからずっと出してきたという経緯があるので、本来それを把握して集団回収のほうがなくなっていくのであれば、こちらの予算を増やしていくとかということを検討、広報していかなきゃいけないと思うんですけど、その辺はいかがでしょう。

○分科会長（小林博文君）　大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。先ほど内田委員の質問にも答えましたように、本当に必要な備品についてはこちらのほうで予算枠とは別立てで予算をつけているという状況になります。古紙回収の補助金で購入していて、今回の予算枠の中では買えないということであれば、その都度相談に乗りながら査定をしたいというふうに考えております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○１３番（倉部光世君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　いいですか。この件に関連ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。法律で言うとね、学校はそういった寄附を受けた場合は、行政に連絡するということに必ずなっているはずです。ですから、そういったことをＰＴＡが学校の備品を買ったときに報告はしているんですか。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＰＴＡが買って寄附の報告をしているというのは。

○分科会長（小林博文君）　大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＰＴＡが購入をして、そちらのほうを寄附いただければ、こちらのほうに報告が回ってきますので、必要な手続について踏ませていただいているという状況になります。

以上になります。

○１２番（織部光男君）　オーケーです。

○分科会長（小林博文君）　関連のほうありますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　はい。じゃあ、９番目、倉部委員お願いします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。10款２項２目小学校教育振興費、タブレット説明資料で42ページです。デジタル教科書導入の状況はどうなっているかお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　はい、学校教育課長です。倉部委員のデジタル教科書導入の状況はどうなっているかについてお答えさせていただきます。

小学校の指導者用のデジタル教科書については、音楽以外の教科により導入している状況となります。

学習者用のデジタル教科書については、国の実証事業として実施しており、算数・数学の小学５年生から中学１年、英語の小学校５年から中学３年となっております。

中学校につきましては、現在のところ教科書がどのような構成になるか示されていませんが、デジタル教科書を充実させていく傾向があることから、同様の導入状況になるんではないかと想定をしております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ちょっとあまり細かく私も調べていなくて分からないんですけど、全教科が移行していくではなくて、併用でいくという考え方でいいんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。服部指導主事。

○学校教育課学校政策係指導主事（服部　　君）　学校政策係指導主事、服部です。学習者用デジタル教科書については、国のほうでも段階的にというところで考えられております。ちょっとそれが何年度からだって、今データがついていませんけれども、しばらくはまだ紙の教科書とデジタル教科書の併用をしていくという形になっているので、この算数・数学と英語に関しても、デジタル教科書でタブレットで見られる、プラス教科書でも配布されているというような状況に今なっております。その後どうなっていくかという詳しいことについては、まだ国のほうからもおりていないので、これからになってくるかなと思います。

１点課長の答弁の中で、算数・数学が小学校５年から中学１年となっていますが、小学５年から中学３年まで原案に入っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　はい、分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連で質疑のある方はいらっしゃいますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　はい。10番目、３名の委員から出ております。代表して渥美委員、お願いします。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページで43ページ、小学校教育振興総務費、学校教育課について、１、ＧＩＧＡ端末購入費、小学１年生及び２年生用とあるが、次年度以降２学年ずつ更新予定か。また、国庫補助は20％弱しかないのか。

２、ギガ端末購入費について１台当たりの費用と補助金の額を伺う。

３、ネットワーク機器借り上げ料について具体的な内容を伺う。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。渥美委員、赤堀委員、織部ひとみ委員の、ギガ端末購入費小学１年生から２年生用とあるが、次年度以降２学年ずつ更新予定か。また、国庫補助は20％弱しかないのか。ギガ端末購入費について１台当たりの費用と補助金の額を伺うについて、併せてお答えをさせていただきます。

現在、小学１年生から２年生用の１人１台端末については、平成27年度に導入したタブレット端末を使用しております。このため、老朽化が激しく、使用できるアプリケーションが限定されてしまうと、情報共有に支障を来しているため、来年度更新するものであり次年度以降については、現在利用している１人１台端末の状況を確認しながら、更新を継続していきたいと考えております。

１人１台端末の１台当たりの費用ですが、参考見積りから７万3,000円強を試算しております。ただし、最近国庫補助額に合わせた機種が発表されました。県が共同調達する可能性もあるため、金額についてはまだ変動する可能性があります。

国庫補助額については、国の基準で１台当たり定額５万5,000円の３分の２とされているため、来年度については総額で3,300万円となります。

続いて、ネットワーク機器借用料について具体的な内容を伺うについてお答えをします。

今回更新するネットワーク機器は、教育情報セキュリティーの向上と校内ネットワークの脆弱性を解消するため、校内からインターネットに出る前のファイアウォールとレイヤ３スイッチとなります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。県が共同調達する可能性っていうご答弁があったんですけど、ちょっと結果的には共同調達したほうがコストは下がって、そっちのほうがいいなと思うんですけど、それは菊川市としては、もし共同調達ができるんだったらする方針なのかというのと、その共同調達ということは、機種がある種選べないというか、共同のものになると思うんですけど、その場合、今はｉＰａｄだと思うんですけど、その変わっちゃう可能性も出てくるのかというのを、もうちょっと伺いたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。まず、共同調達については、国から県が共同調達をするようにという指示が出ただけでして、まだ実際に共同調達するかどうかは未定です。

県のほうに確認をしたところ、来年度いわゆる１人１台端末を購入しようとしている市町がかなり少ないということで、もしかしたら共同調達が実施されずに、市単独で調達をしなければならないという状況に陥る可能性はあるんですが、共同調達するならば今コストメリットはやっぱり大きいと思いますので、その辺動向を見据えながら検討をしていきたいというふうに思います。

共同調達ですけれども、３ＯＳ、いわゆるｉＰａｄ、それからＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋ、それからＷｉｎｄｏｗｓサービスですね、この３機種ごとに恐らく部会が開かれて、それぞれの端末について指標が示されて、それぞれで調達がされると思っていますけれども、これについても県がどのように判断するかはまだ未定ですので、ちょっとすいません、今の情報の状況では答えることはできないといういう状況になります。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。次に、３問目のネットワーク機器の借り上げなんですけど、ちょっとこの具体的に分かんなかったですけど、これはどういう利用方法というか、どういったこの意味というか、これを導入することの必要性というものを、分かりやすくちょっと最後に説明いただきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。先ほどの渥美委員のほうから質問がありましたネットワークの調子はどうだということで、西中学校のほうが人数が多いものですから、かなり混雑をしてしまって、ネットワークが厳しいという状況の中で、いわゆるアセスメント調査をしたところ、どうやらレイヤ３スイッチの方がボトルネックになっているというのが分かったものですから、今回そのアセスメントに基づいてファイアウォールとレイヤ３スイッチを更新するという形になります。

これがインターネットで前の機器になるものですから、最終的にここでセキュリティーを保っているという状況になりますので、必須な機器になるということで認識していただければありがたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　赤堀委員、再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。来年度購入する機種というのは、種類は市単独の、先生方が他市町に転機になった場合、機種が違うと戸惑っている場合があるということですけれども、他市との連携はなくて菊川市独自で今回900台導入するのか、その辺は。

○分科会長（小林博文君）　大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。基本的に今赤堀委員がおっしゃったように、教職員は多分異動があるものですから、できる限り同じ機種を扱っていきたいというふうに事務局のほうでは考えております。

この中で、実はｉＰａｄを使っているのが掛川と菊川、それから磐田と袋井の一部程度しかないのが実情です。残りはほぼほぼＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋを使っているという県内の状況でして、あとＲｅａｄｉｎｇＤｅｅｐｓといって先進地事例ですね、そちらのほうもほぼ全部といっても過言ではないぐらいＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋを使っています。

そのような状況を踏まえた中で、教職員の方に使っていただきたい端末を選定して選んでいきたいというふうに思っていますので、今後調達する際には、もう一度業者、それから学校のほうと協議をしていく中で、使用の効果をまた見ていきたいというふうに考えております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１０番（赤堀　博君）　以上です。

○分科会長（小林博文君）　織部ひとみ委員、再質疑ありますか。

○４番（織部ひとみ君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　大丈夫。はい。この件、関連で質疑がある方はいらっしゃいますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。今のお話聞きますと、機種がまだこれからですけど、この７万3,000円ってｉＰａｄの金額と思っていいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。ｉＰａｄではないです、Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋの。

○１３番（倉部光世君）　Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋで７万3,000円。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　はい、７万3,000円ですけれども、これについては１人１台端末、先ほどもちょっと課長の答弁もあったように、こちらのほうの参考見積りが出て、３か月後程度にこの国からの５万5,000円という基準が出ました。今、ＡＳＵＳ等は発表しておりますけれども、５万5,000円に合わせていくということで、各業者今調整をしているところなものですから、訪問費用とか、それから機種選定、先ほどの答弁に回答していただいたように、近隣市町の状況等を確認しながら機種選定をしていきたいというふうに考えております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部。６年の１月に文科省からＧＩＧＡスクール構想の学習用コンピューター最低スペック基準というのが出ているんですけど、そのこれから購入するものに関しては、各メーカーがここに合わせて調整をしてきて、それを購入するという感じでよろしいんですよね。

○分科会長（小林博文君）　回答を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。お見込みのとおりです。ただ、スペックは決まっているんですけれども、やっぱり例えばダッチペンをどこに置くとか、そういうところがやっぱり機種によって全然違うものですから、どれが一番安定しているかをまた考えながら、機種を選定していきたいというふうに考えております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ということは、例えば予算通っていって、実際に入れ替えるのはいつ頃、秋以降なんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　県の共同調達の様子を見ないと、正直動けないというのが実情としてありまして、まず県の共同調達が前提条件になっているものですから、県がもう共同調達を実施しないというスケジュールが固まらないと、僕らはもう動けないので、ちょっと全くの今未定状態となっております。

以上になります。

○分科会長（小林博文君）　答弁は終わりました。再質疑はよろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　はい、分かりました。

○分科会長（小林博文君）　そのほか関連でございますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　はい、では次の質問ですが、次私から。10款２項２目、タブレット58ページです。先ほど内田委員の質問と絡んで、答えもいただいているんですが、17節、横地小学校教育振興費です。17節の教材備品購入費49万5,000円で購入する備品とは何かお願いいたします。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。小林委員の17節教材備品購入費49万5,000円で購入する備品とは何かについてお答えをさせていただきます。

横地小学校の購入予定備品ですが、電子オルガン、音楽室の音響設備、スピーカー、アンプ、ＣＤプレイヤー、ストップウォッチ、ホワイトボード、水晶パネルの購入が計画をされております。

以上です。

○１３番（倉部光世君）　水晶……、水晶は出るでしょう。あれ、水晶確認です。水晶確認です。先ほどテントって言って間違ってました。テントは何のテント。

○分科会長（小林博文君）　すみません、テントは違うものかも分かりません。

○分科会長（小林博文君）　大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　すみません。ＩＣＴ推進係長です。テントは今年度、備品として……、すみません。

○１３番（倉部光世君）　分かりました。

○５番（渡辺　修君）　エレクトーンとは違うか。

○分科会長（小林博文君）　エレクトーンは商品名ですので。

○分科会長（小林博文君）　この件に関連質疑のある方いらっしゃいますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。テントはそうすると、この振興費じゃないんですよね。

○１５番（内田　隆君）　だって、今年度ゼロって書いてあるもんで。備品だから。

○分科会長（小林博文君）　答弁どなたですか。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　はい。ＩＣＴ推進係長です。

テントは管理のほうで備品として購入させていただきました。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。関連でありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃ、最後、12番目。渡辺委員から出ています。

はい。５番　渡辺修委員。

○５番（渡辺　修君）　タブレット47ページ。中学校教育振興費ということで、令和７年度から使用する教師用教科書の単価と数字を教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。渡辺委員の令和７年度から使用する教師用教科書の単価と数量はについてお答えします。

教師用教科書の単価は、令和７年３月頃、文部科学省から公示をされた金額となります。また、数量については、来年度秋頃に各学校へ必要総数の最終確認をし、決定をしていきます。

今回、当初予算で計上した額は、このように、単価及び数量が未確定であることから、前回実績を参考に算出したものとなります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑はありますか。

○１５番（内田　隆君）　私はありません。

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑のある方いらっしゃいますか。

12番　織部光男議員。

○１２番（織部光男君）　３月８日の議案第34号の市有財産、これはどうしてこれ、こんなに遅れて議案提出になっているんですか。理由を教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。（コウ）主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長です。教科書の単価が示されたのが令和６年度２月末なので、先月末に示されたので、そこまで価格が決められなかったので、どうしても遅くなってしまったという実情をご理解いただければと思います。

○１２番（織部光男君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。そのほか関連でありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。では、以上で事前通知による質疑を終了します。

その他関連で質疑のある委員は、挙手をお願いします。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。働き方改革の教員の超過勤務の件ですけども、東中学が、まあ69時間以上のオーバーが出ているわけです。で、一般質問での回答で、部活指導員制度を随時取り入れていくというような回答が出ていますけれども、令和６年度、この予算の計上はどこかに入っているのでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。髙塚指導主事。

○学校教育課学校指導係指導主事（髙塚　　君）　指導主事の髙塚です。部活指導員制度については、今、未来の部活等在り方検討会の中でも、教職員の負担軽減の策の一つとして検討を進めているところです。

来年度については、もう本年度中に部活指導員になる方のめどが立っていて、予算の方を11月頃から、もう正確な実数を県への方に伝えながら、国の方に要望をかけていくという制度になっておりますので、来年度については、菊川市については部活指導員の方が今、ゼロ人という形になっております。

ただ、令和７年度からの部活指導員については、来年度早い時期から、在り方検討会でもそういった話題も出ておりますので、各校に、まず部活指導員をやっていただく方のめどが立たなければいけないんですが、それが非常にハードルが高いという実情もございます。兼職兼業で、実際に生計を立てているお仕事の先から、そこの許可を出していただくことであったりだとか、市の会計年度職員扱いであるというようなところになりますので、市として研究を重ねた上で、やっていただく方を任用する方向をしていくということで、１年がかりで進めていくことになりますので、一応そういう形で今、検討の方を進めているということをご理解いただきたいと思います。

以上です。

○１２番（織部光男君）　はい。どうもありがとうございました。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

そのほか、関連で質疑ありますか。15番　内田議員。

○１５番（内田　隆君）　今のだけ。

○分科会長（小林博文君）　今の質問じゃなくて。

○１５番（内田　隆君）　すみません、先ほど倉部委員が言われた廃品回収の費用と、要するに学校備品と学校でのいろんな資金提供なんですけど、環境推進課で公聴会を開いたら、少し意見は出てきたけど、皆さんに了承されたというような答えをもらっていますので、そのときの出された意見と、それとあと、僕は６問したんだから６問したのしか分からないんですけど、遊具１個にしてみてもなかなか買ってもらえずに、そういう積立ての中で買っているというような実態がある中で、これから請求とかそういう要望が出てきたら、教育委員会としては予算をつけていくという姿勢で、それは要らないですよというような結論を出したのかどうか、そこだけ確認をしておきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。岡本教育文化部長。

○教育文化部長（岡本啓司君）　教育文化部長です。当初予算については、学校予算も当然そうですけど、企画課の予算についても、どこもみんな下げているという現実があります。

ですので、そこに向けてみんなちょっと苦労して、編成してきたという現実があります。今言った学校の備品について、リサイクルの面を考慮しているかという面ですけど、実際には今考慮はしていない状況です。ちょっとそこは自分は想定していなかったものですから分からないですが、なかなか学校予算も潤沢に組めるかというと、そうでもなかなかないものですから、そういう事情があるようでしたら、また今後の参考にもしていきたいと思いますので、ちょっとそれが全てを増やせるかというと、なかなか厳しい状態ではあると思いますので、その点はご理解いただければと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質問ありますか。15番　内田議員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。実態の中ではあまりたくさん話してくれなかったんですけど、やはりそれは貴重な財源だからというようなご意見も出たというふうに伺っていますので、そこのところが最終的には何か条件がついて、要するに、要は６年度はいいんですけれども、７年度からやめろと言っているもので、そうすると、今言った、じゃ、トイレット

ペーパー１個にしてみても、ある程度足らなくなる。そこのところから運用していたというのも、現実の話として出ている関係上、そこのところを何らかの形で補填をするという約束事が取れればいいのですが、取れないなら、やはり地域の協力も得ながらやっていることについて、そう簡単にやめていいのかなという気持ちがありますので、その辺の学校側としてどうだったのかなということを、ぜひはっきりお答えいただきたいなと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。赤堀学校教育課長。

○学校教育課長（赤堀智生君）　学校教育課長です。先ほど経緯、ちょっとした今統一化、形で、環境推進のほうが説明をしていただいて、校長の方も幾つか意見を上げたのですが、それでも了承しましたという形で会が流れてきたというところは確認しているわけですが、それぞれ学校の諸事情であるとか予算的なもの等々の異なってくるところもありますが、必要とされる、してきた予算の部分でもありますので、もう一度そうしたところを学校とも確認をしながら、本当にその部分の必要性が今後、それがなくなることによって出てくるのかというところは、私も確認していきたいなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　15番　内田議員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。くどくて申し訳ないんですけど、環境推進課は、自分たちのリサイクルはもう使命を終えたという言い方をされて、６年、７年度からやめるということを言っているのです。ですけど、一回やめちゃうところをまた戻ってくるということはなかなか大変な話になると思いますし、もともと基本的に古紙の場合について、基礎ベースがあって、皆さんそれぞれ持ってきてもらって、また地域で学校に直接協力できなくても古紙を集めているというなら、それを協力してくれているような人も実際はいる中において、コミュニティスクールにしてみても、地域とどうやってくっついているかというところをみんなどんどん切っていくと、学校自体がなかなかこれから大変、お金だけの面でなくてもね。その辺を考えると、横串ではないですけど、一つの事業を進めたりやめたりするときには、よっぽどのフォローアップができるような状況を言っていただかないと、なかなか仕事をすると難しくなってくると思いますので、そこら辺はぜひ区長さんにお願いをしたいと思いますけどね。教育を進めるという上でやっぱり必要なものというのは、ただ学校があればいいというわけではなくて、いろんな地域の協力が必要になってくると思いますので、その辺はぜひもう一度考えていただくようにお願いをしたいと思います。

以上です。

○１３番（倉部光世君）　関連でいいですか。

○分科会長（小林博文君）　はい、関連。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　すみません。ＰＴＡの会計というのは、教育委員会に報告とかはあるんですか。各学校管理になっているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。大石主幹。

○学校教育課主幹兼ＩＣＴ推進係長（大石　　君）　ＩＣＴ推進係長でございます。ＰＴＡの予算については、各学校管理ということになっています。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部。ということは、そこで高等な備品を買っているというのは、さっきもおっしゃっていたけど、把握ができていないということでいいんですよね。

以前、六郷小とか扇風機までそのお金でつけたことがあった記憶が私の中にありまして、最近は古紙の量も減っているので、そんな大きな額が動いていないのかなと思いますけど、その辺をぜひ教育委員会としても把握をしていただくべきかと思っておりますので、要望になっちゃいましたけど、お願いします。

○分科会長（小林博文君）　今の件なんですけども、おととしでしたか、議会のほうの意見、ごみ削減の話の中に出てきて、他市町では今や、掛川市はそういう補助していないということがあって、それが今、ごみの数に入って、実数を把握するので、リサイクル分もごみの量に換算されるので、ごみの量が最近はそれをやっていないので少ないというのがあるというのもあって、その辺の検討というのを、議会からも出している手前、その辺でそういう形で削減するというところも出てきたかなというのは、私の個人では感じています。

それをただ、そこまで想定しなかったのは、その部分が削減されると、今言った、今買えていたものが買えなくなるという課題は出てくるものですから、議会側としてそういう提案をした中で減らしてしまったところは申し訳ないんですが、そういうところをまた協議会、委員会の方でも増額というか、検討する材料として、何かご意見として出していただければということで、今の皆さんのご意見とご理解いただきたいと思います。

そのほか関連で質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいでしょうか。

それでは、以上で、質疑なしの認め、質疑を終わります。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

図書館の問題が２問か。

ちょっとじゃ、自由討議終わってから。

○分科会長（小林博文君）　その後また自由討議がありますので、５番でよろしければ。じゃ、１番の問題で。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の市長提出議案に関して審議し、結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとするとの規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

今回、学校教育課では、学校の未来を考えるためのコミュニティスクール、それからＧＩＧＡ端末の更新、ネットワークの関係、それから今出ました備品等々のリサイクルの関連、その辺の議論が出ていました。ご意見のある議員は挙手の上、発言をお願いします。

13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。未来を考える会ですけれども、ほかに部活の件もそうですが、あと制服の件とかですね。

菊川市は、なぜか方針というか進み具合がすごく分かりづらくて、実際、当事者の保護者の皆さんとかから大変不安に思っているというのが実態でして、今いる人たちとこれから入ってくる人たちの保護者も、一体これから学校はどうなるのかなという不安は皆さん持っていらっしゃるので、もう少し方向性とか期間とか、そういうことをはっきりと、どこを検討するのかとか、いろいろ学区のねじれとかいろんな問題はあるわけですけど、どこを目指してやっていくのかというところをしっかり出していただかないと、何か教育委員会の中だけでどんな教育があるのか、何か大分前からこの話が出ているのにもかかわらず、そして子どもの数がこれだけ減ったというのを前課の課長にもお話ししていますけど、何となく切迫感がないというか、緊急性を感じていないというか、というところが散見しているように思われますので、ぜひもう少し、一番子どもたちを守るのに大事な部分でありますので、教育委員会とこちらと分かれてはいるとはいえ、全体としてもっと積極的に進めていっていただきたいと思います。

そしてコミュニティスクールの中身が全然見えなくて、大変不安に思っていますので、委員会としてもしっかり今後関わっていくべきと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　学校にございますか。15番　内田議員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。部活についても、結局、去年もそうだったんですけれど

も、とりあえず１年生は、３年間はこの部活ありますと言うては、今年、それでは、どういう説明をするのかと、全然先の見通しをつくろうとしないという形でやっている。子どもさん自体もかわいそうなんです。途中でやめられちゃったとか変なふうになったじゃ、せっかく部活入ったのにというような、なんか本当に、もう少し５年間は大丈夫ですとか、何かもうちょっとしっかりした指針を、それで、そうすると逆に言うと、この学校に行くのやめるとか、こういう子どももいるみたいで、やっぱもう少し何か、ぎりぎりまで持ってるんじゃなくて、何かな、菊川市の指針をちゃんと出してあげるべきだなというふうに思いますけどね。

○分科会長（小林博文君）　私から、じゃ、どうぞ。12番　織部光男議員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。部活の説明会っていいますか、学校説明会、西中のやつに私行ったんですけども、部活は３年間、このまま地域の応援を仰がないでやるということを明言していました。

私の一般質問で、そういった制度があるからなぜやらないんだと、西中の残業が多いっていうのは部活だということをはっきり言ってるわけですね。先生方のことを考えたら、当然それを令和６年度からやれるんだったらやらなきゃいけないはずなのに、さっきの答弁なんか聞いてると、大変だというのを言うだけであって、その大変さに立ち向かうという姿勢はないように私には聞こえるんですよ。

だから、そういったところの、今のコミュニティスクールの問題もそうですけども、真剣味がないと。上から言われてそういう制度は取り入れると、内容についてはあまり真剣に考えてないような印象しか持てないんです。今度の土曜日は、卒園式とかいろいろあると思いますけども、そういったこともコミュニティスクールをやる以上、絶対に必要なことだと思っては私はいます。

やっぱりスクールガードの問題なんかがそこのところへ出ることによっての、やはり学校と地域という結びつきの本当に重要な人たちですから、そういったことを考えていないんじゃないかと本当に思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　私が思ったのは、部活のことを見たら部活の在り方検討会というのもあったりして、会はいろいろつくられてるんですけど、内田委員おっしゃるとおり、そこでどこまで決まったとか、ここまではもう、ここはもうやらないとか、ここからもう今、令和７年から移行する土日とかっていうのも出てきてるんです。そういうところを事細かに

出すべきだと思うんです。突然、全部決まったことを最後にどうって出されても、当事者の経緯とか、生徒さんが困るだけで、その辺がもうちょっと情報を早く公開してほしいというのは、教育委員会は特にそういう感じが強いんで、ちょっとその辺が何かもっと、ここまでが決まりましたという、今ここ検討中です、皆さんから意見を求めますぐらいの、そういう幅広さが欲しいような気がしてるんですけど。その辺は僕が感じてる。何か、聞いてても、この人が何をやるのか、聞けば聞くほどわからない。難しい話だなと思って聞いていました。

このたびは何かそういうことはございますか。はい、１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。外国人児童の指導員というか、こないだの施政方針で、広域の部分が示されて、教育という部分もキーワードを持ってたんですけど、ちょっと答弁聞くと、そこがなかなか連携ができてないのかなと思ったんですけど、ただやっぱり、外国人の教育となると、地域支援化というよりはむしろ、教育委員会の支援と、虹の架け橋とか公教育の部分が大事になってくるんじゃないかなと思いますし、虹の架け橋っていうのはもう既に広域でやってる部分もあるし、公教育も課題は共通する部分もあるのかなと思うので、委員長もおっしゃってた、これこそ横串を刺していってほしいなというのは強く思いました。

あと、ＧＩＧＡ端末についてなんですけど、これも共同購入とかコストの面もあると思うんですけど、やっぱり１番は子どもたちがしっかりと授業で使えるという部分が大事だと思うので、教育現場の先生の声ですとか、子どもたちの声というのをしっかり聞いた上で、端末についても考えていってほしいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　その他、皆さんからありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番。全般的というと、結局、当事者とか関係する人の声を全然聞いていないというのが実態かなと思います。

中で、一部の先生と大学教授で方向性を決めて、それを下ろしてと言っているんですけど、菊川市全般にそうですけど、やりながら、結局、子どもたちや保護者が何を望んでいるか分からないのに方針なんて決められないと私は思っていますので、ぜひ聞きながら、部活も、じゃ子どもたちやこれから来る、保護者が何を望んでいるかを分からなければ、在り方検討もできないと思うんですね。

その辺がもう少し当事者、なので当事者たちも不安になってきてしまうわけなので、ちゃんと声を聞いて、じゃ皆さんの声を生かすために専門家が考えますよというやり方をしてい

かないと、勝手に決められ、勝手に下されたというふうに多分皆さん認識してしまいますので、本当に、多分今の小学生ぐらいは不安に、特に部活はなっていると思いますし、毎年、教育の評価みたいなものも来るわけですけど、そこの部分の評価というのが全然されていないような感じがして、文句ばかり言っているようなのですけど、なぜ教育委員会が閉じているのかなというのは、すごく不思議に思いますので、もう少しオープンにしっかり、せっかく授業の中でみんなで集まって話すということを今進めているのに、子どもたちが意見を言う場をつくっていない、そして、子ども若者宣言を市で、こっちでやっているのに、学校の方でそれを聞く機会をきちんとつくっていないんじゃないかなと思って、結局横串がという話になりますけど、本来はみんなで話して作り上げるという教育を進めているけど、一番大事なところを、そこをやってあげていないと思いますので、その辺はやはりたくさん声を聞くとまとめるのが大変になるのかもしれないですけど、そうではないと思いますので、今の時代、子どもたちにしっかり自分のことを考える機会をつくる上でも、子どもの声を聞くということをしっかりやっていただきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　12番　織部光男議員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。菊川市の悪いところは、言葉では公民連携とか言うんですけど、実際それがなされているかというと、政策には全くなされていないと。ここを認識してもらわないと、やはり政策に対して賛同が得られないと思うんです。今のコミュニティスクールもしかりです。北幼稚園の、それからおおぞらの民営化の問題もしかり、駅の問題もしかりです。結果的にこうなったという発表だけ、そういったことの考え方というのは、私はもう、議会にも責任はあると思うんですよ。それはあると思うんですけども、執行部に対しても、やはり議会として言わなきゃいけないことだなと、私は思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　今聞いていると、教育委員会のスローガンが、小中の縦の連携と地域の横の連携、地域と横と連携というのがよく言われるんだけども、もう一個思ったのは、３次元で、上なのか下なのか分からないけど、行政とも連携しないといけない。だからその辺が、連携というのをうたっているんだけど、全く見えない。その辺は大事なところで、やっぱり連携をうたうのであれば、幅広く議論が必要だと思います。そこは感じて、最初からスローガン見直したんだけど、ああそうか、地域と連携するって書いてあるけど、どうなっているのかなというのを思いました。

15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。去年からずっと、学校の未来を考える会議というのが、ようやっと６年度は教育のところだけやると言ってくれたんだけど、まだ、ああそうなのかなと思ったんですけど、学校って行政そのものより影響してくる話なもんで、自分のところでできる部分はこの分野で、この時点の中でこれをどう行政とつなげていくかというような、大きなスケジュールが何も示されなくて、ここのところでどんどん今までやっていた人にそのまま頼んでも、結局まちづくりにはつながっていかないものが出たときにどうしようもないですよね。

なので、一丁頼んで、本来なら教育委員会がやる仕事じゃないくらいのことだと思うんですけどね。ここのところがどうも、行政側もこのところへタッチしてこようとしないし、多分学校で行くと小規模校のいいところという以上に、やっぱり競争をしなきゃいけないもので、ある程度の人数は欲しいというところへどうしてもたどり着くと思うんですよね。

ちょっと、どこまでこの人たちにやってもらうのかということは、教育委員会と要するに行政ともっと話し合ってほしいなというふうに思います。そうしないと、途中から何でそんなことまでお前らに言わないといかんなというような話にもなりかねない。せっかくお金をかけて、時間かけてやったのに、そうやってまた結論が出るのは５年とか６年先の話になるというような、本当に先ほど答弁で言ったのでも、100人単位で子どもの数が減ってきて、学校自体がもう、もつかもたんか分からないというようなことを考えたときには、本当に行政全体で物事を考えてほしいなと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再編が先なのと、僕は逆だと思うんですよね。あ、再編が先じゃないの。今言った小規模の今言う処理、いつできるか分からないの、小規模のどう在り方を考えるかというのを、先に再編して小規模が維持できるかということを考えないといけないような、今言った100人単位で減っていくのが５年かかったのを関連していますから、そこら辺の順番を、これは聞いていいのか分からないんだけど。

○１３番（倉部光世君）　５年たったら激減です。

○分科会長（小林博文君）　激減ですもんね。今言ったように、100人を、小規模をどうするか考えている前に小規模がなくなっちゃうかもしれないと思うんだけど、ちょっと順番も何か聞いていてどうなのかと思いましたけど。

10番。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。学校再編、もう何年も前に、議会報告会で、横地の人か

ら、お前ら何を考えているんだ、こんだけ減っているのに。教育委員会に問い合わせると、全校で100人いれば地域の文化もあるということで、残したいということを言っていましたけども、河城小学校ももう、ほんの数年前まで300人以上いたのにもう253人、父兄も180人、どんどん減っていって、各学年１クラスになってしまって、本当にもうちょっと早く教育委員会は考えてもらいたい。

それともう一つ、さっき倉部さんが言ってくれた、養護教員の大変さ、平成の15年から後、保健室登校というのがすごく増えて、教室に入れない生徒が保健室にあふれていたということですけど、今はそういう不登校の子どもたちを受け入れる施設に大分できてきて、そういう生徒も救われているんですけど、あれ、各学校１人と決まっているの、今は。

○１３番（倉部光世君）　１人。県から来ると。よっぽどマンモスにならない限り、もう何百人いたって忘れちゃいました。

○１０番（赤堀　博君）　本当に養護の先生、大変だと思うよ。もう少し、そういう大変な生徒が大勢いるところはもう一人増やすとか、学校の人数によってもう一人増やすとか、そういったものをちょっと考えていただきたいなと思います。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　やはり、掛川とかは学校再編についてですけど、市長がもう大なた振るってる感満載のやり方して、各ワークショップなんかに市長も必ず来ていたりとか、両方でやっているなという感じがして、そういうのがパフォーマンスなのかどうかはちょっと分からないですけど、やはり市全体で考えて、学校再編のことを真剣にやってますよという姿勢を見せているので、人数の少ないところの人たちも協力をしているという形かなと感じているので、菊川市、本当に市長部局が教育委員会の方に口を挟むというのがほとんどないとか、すごい遠慮しているというか、確かにこっちも予算をたくさん、どんどんつけてほしいなと思うことも多いんですけど、学校再編って本当に教育委員会だけの話じゃなくて、どちらかというと、施設管理計画のほうに直結しているわけですので、単発で考えるんじゃなくて、設置面で、じゃ各地区別の市町村の減少のグラフをちゃんと作ってくれるとか、それをやらないと、どこの地区がどれだけ子どもが減るかが見えてこないわけですから、そういう細かい分析をして、地区ごとの課題をしっかり出しながら、市長部局と教育委員会とで話を進めていっていただかないと、在り方だけ検討していても何も変わりませんので、もう少し積極的に、市全体としてこの学校のことは関わっていただきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　その他ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。それでは、以上で学校教育課の予算に係る審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を基に分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。

分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

ここで、13時まで休憩といたします。

休憩　午前１１時５８分

再開　午後　０時５６分

○分科会長（小林博文君）　それでは、休憩を閉じて会議を再開し、図書館の審査を行います。

初めに、伊藤図書館長より出席者の紹介をお願いいたします。

○図書館長（伊藤欽文君）　本日はお願いいたします。図書館長の伊藤です。本日の出席職員ですが、図書１係長の鈴木係長、菊川文庫のほうにおります。図書２係長の平出係長です。平出係長は、小笠図書館のほうにいます。この３人で審議していただきます。よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　お願いします。

それでは、質疑を行いますが、初めに、事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１問目、３名から出ています。代表して渥美委員から。渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ、132ページ、図書館総務費について、１、電子図書館導入スケジュールの説明を、文苑きくがわ等のオリジナル冊子の取扱いは。２、電子図書館システムについて、市内小中学校と具体的な関係を伺う。電子図書館使用料の購入型と有期型について具体的な説明を伺う。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。

まず１つ目の、電子図書館導入のスケジュールの説明です。

一般市民に向けたサービスの提供は、令和７年２月から開始する予定です。導入に当たっては、電子図書館システムを含めました、図書館情報システム全体の更新に関する業者の選定をプロポーザ方式で行います。６月の公募開始、８月頃契約締結を計画しております。

２つ目の文苑きくがわ等のオリジナル冊子の取扱いはですが、電子図書館には市が持つ独自資料を電子化してデータをアップロードすることで、電子書籍と同様に閲覧する仕組みがあります。広報紙をはじめ、各課に可能なデータの提供を呼びかけまして、随時掲載していく予定です。その際、著作権の処理や電子化は各担当課が行い、私ども図書館では、その資料の書誌データを作成して、電子図書館への公開作業を行いたいと考えております。

次に、２問目の１つ目の電子図書館システムについて、市内小中学校との具体的な連携を伺うですが、学校における活用を推進するため、児童生徒が持つ一人一台の端末に電子図書館のショートカットを表示させ、各学校を巡回している学校司書を通じた働きかけを行いたいと考えております。また、学校現場における活用を想定しまして、複数の児童生徒が一度に同時アクセスができる電子書籍も導入する予定でおります。

学校における活用方法といたしまして、朝の読書や授業などが考えられますが、同じ本をクラス全員で読むことができ、調べ学習や読書活動への活用を考えております。

２つ目の電子書籍使用料の購入型と有期型について具体的な説明を伺うですが、一般的に事業者からの電子書籍を仕入れる場合、購入型はライセンス販売型、有機型は期限・回数限定型と分かれます。期間限定型の期間と回数ですが、これは事前に業者が決定しておりまして、２年間または上限52回の貸出しといった閲覧制限が設けられております。ライセンス型期間・回数限定型とも、基本的には、１つの電子書籍に１人の貸出しとなります。また、紙の図書を購入するよりも割り高となる傾向がございます。

以上でございます。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑ありますか、１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。これから業者の選定も行っていくところなんですけど、ただ業者によっていろんな違いとか、あるいはどういった本があるのか、違いがあると推察するんですけど、やっぱり子どもたちとか、教育現場のニーズとか、そういったものにもしっかり捉えてほしいなと思うんですけども、そういった業者の選定とか、図書の選定に対する考え方みたいなのを、ちょっと最後に伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。渥美議員さん、ありがとうございます。私どもとしましても、この従来ある紙の図書も含めまして、市民の皆さん、幼児の方からご年配の方まで、この本読みたいな、こういう絵本読みたいなという本をなるべく選書して皆様に提供できるように考えております。

電子図書館が入りましても、人の考え方は一緒で、子どもさんからご年配の方まで、皆さん、このような電子書籍が入ったらいいなというのを、そういうような電子書籍のコンテンツをそろえていきたいと考えております。

以上です。

○１番（渥美嘉樹君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１番（渥美嘉樹君）　以上。

○分科会長（小林博文君）　内田委員、再質疑ありますか。

○１５番（内田　隆君）　ありません。

○分科会長（小林博文君）　倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　これから企業者も選んでいくと思うんですけど、大体、全国的に選ばれているところが数箇所あって、どこが何使っているかという一覧表も、調べれば私たち出てくるんですけれども、大体どのぐらいの量というと変ですけど、どのぐらいのものを当初は電子書籍として入れていく、予算が結構かかるので、基本的には、雑誌じゃない、入れ替わるものとか、あと、そういう何か旅行のガイドみたいなものとか、そういう入替えの激しいものをまず入れていくというところと、あと児童書は、入れるというところと入れないというところ、絵本を読んでもらいたいので、磐田とか当初は児童書は入れないというルールを決めたりですとか、もともとはその市の持っている文献とか、あっちを入れるために入れましたとか、いろんな目的があるわけですけれども、うちはまずどこをメインに入れていこうと考えていらっしゃるでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。電子図書館についてなんですが、まず図書館で、図書館法に基づく図書館協議会という協議会を各委員さんにお寄りいただきまして開催しております。

本年度ですが、令和５年度、どのような、将来導入したときに、どのような電子書籍を入

れたらいいかということも諮っていただきまして、各委員さんにまずアンケートを取って、希望を聞いたりもしたんですが、その中で、図書館協議会の中で大体まとまったものなんですけども、最新の図書が欲しいということはありますが、小説、料理の本、資格のテキストの本、旅行のガイドなど、それらの実用書は大体３割、障害のある方が使いやすい機能があるもの、あと学校現場で要りような電子書籍、児童・青少年向けをそれぞれ20％、２割ほど、あと外国人や外国語を学ぶ利用者を対象とした良書や郷土の資料を５％と、そのような区分ごと、電子書籍を用意させていただきたいなと考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。基本、ほかのところも実用書を入れているところは多いですよね。利用としては、やはりお子さんのいるママとかがご飯食べた、夜が利用がすごい多いとか、統計がいろんなところで出ていますので、もちろん参考にされているとは思いますが、そういうのを参考にしていただけるといいと思いますけど、例えば、障害者用の読み上げとかもあるんですけど、それ全部につけるんですか、それとも何か限定的にするんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。なるべく入れたいなとは思っているんですけども、その電子書籍のものによって読み上げ機能があるものないもの、あるものですから、あと予算、費用のことも考えながら、なるべく目の不自由な方にもご利用できるような電子書籍を導入していきたいなと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。あと、外国人向けですけど、これは翻訳できるんです、もともとの洋書を考えているのか、何かやると翻訳されたのが出てくるとか、どちらでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。まず、洋書を用意させてもらえたらなというふうに思っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。あと、学校との関係なんですけど、やはり学校のほうで図鑑とか、教員とクラス分、買わなきゃいけない、図鑑とか、ただそれって更新があるので、変えていかなきゃいけないんだけど、予算がないので、ちょっと結構古いままみたいなものが結構あるんですけど、そういうものを、結局、電子で、１セットあれば、各学校で見れますよとか、そういうふうな計画になるんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。この電子図書館のよいところなんですが、今、倉部議員さんがおっしゃったとおり、紙の本を買うと、どうしてもテキストとか、参考書というと、もう数年たつと今の時代古いなという、古い情報だなというのを見受けられることあるんですが、電子図書館の場合、その都度その都度最新のものが出てくるという、そういうような仕組みになっております。

そういう中で、先ほど答弁で申し上げた、複数の子どもさんたちがアクセスできて、調べ学習などに使えるような、そのような、図鑑だとか、参考書という言い方、どうか分からないんですが、図鑑だとか、子どもさんたちに参考になるようなものもパッケージとして導入していきたいなと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　はい。ありがとう。

○分科会長（小林博文君）　再質疑。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　すみません、１番です。ちょっと聞きそびれちゃって、もう１回質問させてください。

２点なんですけど、１個目は、システム選定委員さんがいらっしゃると思うんですけど、この設定の基準のようなものがあったら伺えればと思います。

２点目なんですが、有期型と購入型ということなんですが、これ両方合わせて750点というのは、全部で750冊ということなのか、ちょっとそこら辺を、２点伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。まず、システムを選ぶ委員会、プロポーザルで業者さんを選定する委員会ですけども、今、私どもで想定している委員さんなんですが、図書館協議会の委員、あともう一つ、子ども読書の関係の法律もございまして、そこで子ども読書の活動を推進する協議会もあるものですから、そこの委員会の代表の方、あと図書に

関する専門的知識を有する方、障害福祉に関する専門的な知識を持つ方、これらの方を委員さんに選任したいなというように考えています。

あと、今、渥美議員さんがおっしゃった、冊数がどうかということですけども、冊数というように、私ども承知しております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。ありがとうございます。２点目の冊数、電子書籍使用料について、もうちょっと伺おうと思うんですけど、この冊数ということなんですけど、まずこの比率というか、250対500になっている、その根拠というのを伺いたいのと、あとは電子図書館が始まるのは、先ほど令和７年２月からということだったので、使用料としては、その年度としては、２月、３月の２か月分の使用料になっているのかというのをちょっと確認、伺おうと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。鈴木菊川文庫係長。

○菊川文庫係長（鈴木　　君）　図書１係長です。比率の根拠につきましては、業者さんから具体的に、今、販売されている電子書籍のカタログを見せていただきまして、その内容を確認をしながら、購入型の内容のものと有期型の内容のもの、どちらのほうがより利用ニーズが高そうかというところを踏まえて、購入型250、有期型500という判断をさせていただいております。

それから、使用料の期限につきましては、有期型の場合には、購入したときから１年間ということになりますので、年度の途中にはなりますが、２月に導入を開始をしたものは、令和７年度の１月末まで、１年間の場合は可能、２年間の場合には、令和８年度の１月末までというふうに捉えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。すみません、最後に１点だけ。750冊となると、結構、本の全体からするとかなり少ないということで、多分激戦をしていくのかなと思うんですけど、先ほども、子どももいるし、大人の方もいる、高齢者の方もいて、かなり、その中でどういう考え方というか、バランスというか、750ってかなり少ないと思うんですけど、どういうふうなバランスで選んでいくのか、選び方とか、選ぶ方針があれば、最後に伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。先ほど申し上げた、図書館協議会で諮らさせていただいた割合、実用書などを大体３割、あと障害のある方や学校の子どもさんたちで使っていただきたいというものをそれぞれ20％ほど、あと洋書や郷土資料ですけど、もしそこをそれぞれ５％ずつということで、この割合を、図書館協議会で諮っていただいたものですが、この割合を踏まえながら、選定した業者さんが持っている電子書籍のものから、私ども、係長、司書、含めまして、電子書籍を選書していきたいなと考えております。

それで、近隣のところで、入れたところの職員からの情報ですと、なかなかこの電子書籍の選書をするというのが、良い本を、並んでいることもあるんですが、どれをまず導入したらいいかって、そこの時間を取るのが悩ましいと聞いておりますので、予算が認められましたら、４月になってからですけども、どのように電子書籍を選書していくかというのも踏まえまして、作業を進めていきたいなと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。13番倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。電子図書館ですけど、今、図書カードって、皆さん登録していただいているんですけど、基本的には菊川市内在住の方と在勤の方に限定で、ほかのところも、誰でも見れるもの、資料とかも誰でも見れるものと、図書が見れるのと皆さん分けているわけですけど、うちの場合も書籍を見るには登録制にはなるわけですよね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。私ども、今、導入したいと想定していますのが、連携版というように、図書の用語になってしまって恐縮なんですが、その連携とは何のことをいうかといいますと、今の紙の図書で、皆さん、借りられるときに小さな利用者カードを持っておりますが、そこにＩＤの番号が振ってあります。今度、その連携ということで、既存の図書館のところに電子図書館のシステムがくっついてきますよということで、連携というようにして、電子図書館を今ある利用者カードを持っていらっしゃる方は、そのまま、改めて電子図書館としてカードを出すのではなくて、今ある利用者カードをそのまま使っていただくように考えています。そのほうが市民の皆様の、利用者の方が迷うことなく、今までどおり、電子書籍も紙の本も借りることができると思いまして、そのようなものを入れたいなと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。ということなんですけど、導入するに当たっては、元のシステムの更新のときに、一緒に電子図書館入れるというので、来年度になっていると思うんですけども、今回、その委託料とかも入っているんですけど、今、ＴＲＣ　ＭＡＲＣの、管理業務委託はＴＲＣになっていると思うんですけれども、例えば、システムの会社と電子図書館の会社は違っていても、合体できると言うと変ですけど、使えるわけですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。今、私が紙のところで、図書館システムというように先ほど申し上げたんです。そのところに電子図書館のシステムがくっついてくるわけなんですが、実際はそれぞれ違う業者さんになっても、両方とも動くというふうに、今、聞いております。まずは電子図書館ではなくて、大きな図書館システムというものを動かす会社さんを、事業者さんを選定する中で、電子図書館も業者さんが導入するところ、そこのところを見定めながら、プロポーザルのほうで業者さんの選定をしていきたいなというふうに思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　はい。ありがとう。

○分科会長（小林博文君）　関連質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。国庫の条件というのは、これ何になっているんですか、この500万近いお金は。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。鈴木菊川文庫係長。

○菊川文庫係長（鈴木　　君）　図書１係長です。この国庫の交付金に関しましては、デジタル国家交付金構想の交付金を充当することを考えておりまして、全体の導入の費用の部分のうち、電子図書館の導入に関する部分から電子図書館の電子書籍を作成するに当たって、デジタルアーカイブを作りますので、それに必要な周辺機器、デジタルカメラですとか撮影に必要な機材、そういったものを電子図書館に関する部分とデジタルに関する部分を抽出して、その部分のみを対象経費として上げてあります。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　一般財源も8,500万使って、費用対効果というのを、こういうのはち

ょっとできないと思うんですけど、じゃあ、この電子図書館の利用に関してアンケートを取ったのか、それともこのぐらいの人数が予想されるとか、そういったことは検討されたかということが１点と、契約をしてしまった後の、あまりにも少ないと、解約はできるのかどうか、何年契約で、あまりにも費用対効果が上がらないとなれば、その契約を打ち切るということができるのかどうか、その２点をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長です。今、１つ目の、このくらいで費用対効果ということなんですが、近隣とかで入れたところの数字を参考になんですが、できれば紙の本の利用者の、正直申し上げて数％ぐらいは借りるような電子書籍をそろえていきたいな、あとＰＲのほうをしていきたいなというふうに思っています。

なかなか、ＰＲしていかないと、市民のほうに貸出しにつながらないということを、近隣の図書館からも情報を得ておりますので、うまくＰＲしながら、なるべく電子書籍を購入していただけるように考えております。

あと、もう一つなんですが、今のところ、本年度予算を計上させてもらう、今、議会に上げさせてもらっているんですけども、それに合わせて、債務負担ということで、残りの４年間分を債務負担等で計上しております。

そういうことで、５か年度、長期継続契約を考えておりまして、解約といいますか、業者さんとこちらの関係になるんですけども、私どもとしたら解約しなくても、解約といいますか、ここはあまりよくない会社さんだなというふうにならないように、プロポーザルでしっかりと審議、見極めていきたいと思っております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。今の２番目のところは、業者の問題じゃなくて、使用者の問題です。これだけのお金をかけて、市民の生活が便利になったとか、利用者がそれだけ増えたということが証明できればいいんですけども、これだけのお金をかけて、実際には、今まで書籍を借りていた人がこちらに移っただけと、だから過去のデータはしっかりと取ってもらいたい。この電子図書についても、データを取らなければ、費用対効果という評価ができないわけですよ。ただ、政府のほうでデジタル、こういったことをやるからそれを取り入れると、私は不要なものは取り入れる必要はないと思うんです。だから、そういったところを、だから５年間の長期契約って果たしていいのかという疑問もあるんですよ。も

うせいぜい３年で、委託業界の１回目というのは３年ということで決まっていますよね。そういったことを考えたときに、果たして５年でいいのかという疑問を持つけど、その点はどうですか、自信があるんですか。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長です。まず、５か年度の契約というのが、市役所でこのような保守契約だとか、あとリースも含めて５か年度で契約してもよろしいというような財政からの指針が出ているものですから、それに基づきまして、私どもは５か年度で契約したいなというふうに考えております。なるべく長い期間で契約させてもらったほうが、１年当たりの単価も抑えられるでしょうし、長期的な負担にならないということで、５か年度でというふうに考えております。

あともう一つ、電子図書館の費用対効果なんですけど、これ、一つ、このようなことがあるんだなというふうに私たちも改めて認識したのが、１月１日の石川県能登半島の地震なんですけども、あれだけ朝市などで消失してしまった輪島市も、いち早く電子図書館を導入していたのか、私、図書館に来て、うちでも輪島市の図書館のホームページ見ましたら、やっぱり紙のほうについては、貸出しがなかなか無理なんですけども、電子図書館については、自分はパソコンでクリックなんかしたとき動いたものですから、おそらく電気が通ってサーバーが、輪島市さんの市役所のサーバーが動いているということで、利用が可能だったということで、あともう一つ、七尾市もかなり被害被ったところですけども、近畿圏の、関西の、都道府県含めた連合があるようで、そこのところが近畿のその連合からの支援ということで、政令指定都市の京都市が七尾市の市民のためにということで、京都市が七尾市をサポートするというふうに決めたみたいなんですが、七尾市さんに京都市の電子図書館の電子書籍を提供するということで、その初期の手続については、どうしても自分の携帯のスマートフォンだとか、あとパソコンで登録してもらわなきゃいけないんですけども、電子の世界の中で、京都市の電子書籍を七尾市の市民のほうに提供できる、そういうのも１月の中旬から始めたということで、いろんな災害も含めていろんな使い方ができるんだなというふうに改めて思っているもんですから、費用対効果ということで、それが効果があるかどうか分からないですけども、一つそういう使い方もあるかなというふうに改めて認識したところでございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

関連でその他ありますか。ちょっと私から質問させてもらっていいですか。

電子図書館ですけども、連携というところをちょっと、マニフェストのあれで、長野県が、県立図書館が導入して、各市町村と連携をして、市町村がやらなくても見られるようなスタイルを取っているというのを聞いたんですけど、こういうというの形は静岡県でもし、県立図書館もやっていれば連携取れるというのと、今言った、今、紙のものではないものを取り寄せて、掛川にありますとか県にありましたといって取り寄せたりしてもらって、そういう、電子的にも、菊川では入れていないけど県立で持っているので見れるとかという連携みたいなのはあるのか。それでもし連携するんなら、今言った、菊川の図書館のＩＤを持っていれば、そこまで入り込めるのか。その辺もちょっと含めて、分かるように教えていただきたいです。図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。今、分科会長がおっしゃったように、長野県では県が主導して長野県内の全ての市町村に同じ電子書籍、電子図書館ですけども、導入するようなことを実施されました。

静岡県の場合なんですけども、かなり単独で各市役所の市立図書館で電子図書館を導入しているというところも、ちらほらあったりしまして、県立のほうではなかなか、県立中央図書館ではなかなか音頭取りを取って、合同に、一緒のということにはできなかったというふうには聞いております。

現在、静岡県内でも、今現在県立中央図書館も入っているんですが、10市ぐらい入っておりまして、ただ県立が、中央図書館、静岡の県立中央図書館入れた電子書籍の会社と残りの10の市が動かしている、運用している業者さんとは、電子図書館の部分では違う業者さんなものですから、なかなかそこがドッキングができないものかなと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　システムが違うとくっつけられない。そうすると、すみませんね、例えば、掛川で入れました。でも、菊川の人が借りたものが菊川になかったので掛川へ、電子図書館へアクセスするときにはやっぱり掛川のＩＤ取るみたいな形になっちゃうんでしょうか。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。今、電子書籍の話もしておりますが紙の本については、従来から磐田からこちらの菊川含む御前崎市まで、利用者カード、それも地元の市役所だとか、森町も入っているものですから、利用者カードを持っていれば、磐田市さんから御前崎市まで本を借りられるというような仕組みを、ここのところで連合でつくっております。ということで、電子書籍についてですけども、そのときにもう既に利用者カード

を持っていれば、よそのところも見られるということになるかも分からないんですが、そこのところは、そこの市が電子図書館でどのように業者さんと契約しているかということで、分からないものですから、それ以上のお答えできずに申し訳ないんですけれども、私ども、今、考えているのは、紙の、今ある、菊川市図書館として紙の図書の貸出しで利用者カードを持っている方、皆さん、電子図書館を、のサービスを提供したいと考えております。

そういう中で、今申し上げた、磐田市さんから御前崎市さんということで、菊川でいうと、市外から来られる、在学や通勤や通学……

〔「在学在勤」と呼ぶ者あり〕

○図書館長（伊藤欽文君）　高校だとかで、よその市や町からいらっしゃる方、それで菊川市内でお勤めになられている方、地元の磐田から御前崎のカードが、利用者カードが必要なんですけれども、その方たちも紙の図書と同じように電子図書館もサービス提供するようにしたいなというふうに考えております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　ありがとうございます。分かりました。

その他関連はありますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、次のは私から、すみません、させていただきます。

10款５項６目です。図書館総務費の中にあります、ちょっと協議会がここにありましたので、令和５年11月に議会のほうから市長宛てに提出しました提言書の中で、児童館との、休館が同じ月曜日であることの見直しを提言書の中で書きました。児童館のほうでも検討を始めるということだったんですが、図書館のほうでは、この図書館協議会のほうでこの辺の検討というのはしていただけるのか。また併せて、子どもさんがよく利用されるということで、児童館、図書館のその休みの変え方というのもできればと思っているんですが、その辺のちょっと、同じ日としない考えとか、今言った、小笠と菊川分校が全く同じというところも、電子図書館の範囲でも多少は解消されるんでしょうけど、そういうところも含めて、休みの考え方についてお伺いしたいと思います。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。今、分科会長からご質問いただいた、図書館と児童館が同じ月曜日であることの是正措置について、これまで協議をされたか、２つ目に、協議をされていない場合、本年度の図書館協議会に諮るのかについてお答えいたします。

図書館の休館日は、これまで平成26年度から27年度にかけまして、図書館協議会で協議を

実施してまいりました。特に、平成27年度は、菊川文庫と小笠図書館２館の休館日を月曜日に統一していることの是非について、図書館長から図書館協議会宛てに諮問いたしまして、図書館協議会から、休館日は現状のとおり月曜日を一緒、統一の休館日として分けないものとするという答申を頂きました。図書館協議会においては、そのように答申を出していただきました。

３つ目ですけども、小笠図書館と菊川文庫の休館日を同じ日としない考え方はないかということなんですが、今申し上げた、平成27年度の図書館協議会の答申から期間が経過しており、あと社会情勢の変化だとか新型コロナ感染症が出たりだとか、あと電子図書館の導入も今見据えていることもありまして、図書館を巡る環境が平成27年度から変わっているということもありまして、改めて、令和６年度に開催する図書館協議会で、菊川文庫と小笠図書館の２館の休館日について、図書館長から協議会に諮問をしまして、図書館協議会で諮っていただきたいなと思っています。

以上です。

〔「関連」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　あ、いいですか、ちょっと先に。児童館とのそういう話合いというのは、の部署との話合いみたいなのはされる予定はありますか。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　児童館の、特に小笠図書館のところでいいますと、もう同じ敷地の中に児童館が、小笠児童館があるわけなんですけども、それについても議会からの提言いただいたときに、まず私どもの、その図書館の２館の休みをどうするか、あと児童館の休みの、この休館日も月曜日ということで、私どもにも影響するなというふうに考えたところです。

そういう中で、児童館と図書館の、今、図書館につきましても、児童館と同じように子どもさんから年配の方までの、居場所づくりだとかにぎわいづくりの場というように、図書館も昔とは少し様相を変えてきていまして、そのような場となっているということから、子どもさんたちも多く利用していただきたいなと考えているんですが、私どものその図書館法に基づく図書館の運営、あと児童館が子どもさんに提供するサービス、そちらの法律とやっぱり見比べてみたときに、若干違うかなというようなことも思っていまして、児童館とは休館日のすり合わせは、私のほうからはしておりません。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　関連で質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。休日について、お話がありましたが、開館時間についても、併せて、できれば検討していただきたいと思います。朝も結構長期休みですと、お子さんが早く来て入れなくて、親が出かけてしまったけど、うろうろしているのを以前から見かけたこともありますし、終わりの時間も、最近は結構遅くまで開ける図書館も増えてきていて、こっちが開いていれば、きくるでたくさん学生があそこで、全員勉強しなくても図書館に来たりもするのかなと思っているんですけど、この辺もやはりいろんな事情が変わっている中で、人件費等の問題もあるかとは思いますけど、一緒に検討していただきたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　休館日のその曜日の設定も含めまして、時間も改めて図書館協議会のほう、委員さんに諮っていただきたいと思っています。

菊川市、合併して20年ほどになるんですが、そのときはやっぱり合併する前の試行だとか、時間含めまして、開館時間についても試行を繰り返しながら、今の時間帯、朝の10時から、午前の10時から夕方の18時までというふうにさせてもらっていますが、やはり社会も変化しているものですから、休館日の曜日、あと２館一緒に休館するか、それと開館時間、このあたりも含めて図書館協議会に諮りたいなと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。図書館協議会で検討していただくのはいいんですが、やはり利用者の声を聞くのが一番大事なので、アンケートないし利用者の方からアンケートをもらうとか、今は子ども・若者の声を聞くということにもうなってきていますので、その辺の声を聞き取る体制についてはどうでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　ありがとうございます。提案ですけども、私どもも議会からの提言を頂いたときに、市民の、利用者の意見ですが、もう令和６年度に諮りたいなと思ったときに、それも加味したいな、それぞれの市民の意見、利用者の方の意見というものも反映していきたいなと思っていまして、どのように意見を聞こうかなと思ったときに、窓口で本を利用して、本の貸出しで利用されたときに、窓口で簡単なアンケートを設けてお考えを聞くだとか、いろんな作戦があると思いますが、利用者の、市民の方の意見も取り入れていきたいなと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。先ほどの居場所の問題もあるので、この会館の日にちとか、要は、曜日、考えていただけるとあったんですけど、例えば学校に行けないお子さんの居場所として図書館へどうぞってやっている市町も今あるんですけど、そういうの、受入れというのは考えていただけるんでしょうか。学校行っていないお子さんを誰が責任持つんですかという話になってしまうのか、この辺はどうなんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁求めます。伊藤図書館長。

○図書館長（伊藤欽文君）　図書館長の伊藤です。図書館はやっぱり開館することでいろんな方が利用されると思います。

先ほど、私、居場所づくりだとか、にぎわいの場というように申し上げましたが、そのあたりも含めて、休館日の曜日の設定だとか、あと開館時間ということは、その利用者につながることだと思うものですから、そのあたりを含めて図書館協議会の委員さんに、こちらからもいろんな情報を出しながら、最終的な答申を出していただく形になるんですけども、こちらのほうからいろんな情報を協議会の委員さんに伝えながら、協議会としての意見を出してもらいたいと考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

意見、関連でありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。館長の言葉の中から、協議会の話が何回も出ているんですけど、今、倉部委員が言う、市民の声をという、その協議会のメンバーの中には市民が入っているのか、構成員は何人で、充て職でやっているのか、ちょっとその構成なりを教えてくれますか。

○分科会長（小林博文君）　鈴木菊川文庫係長。

○菊川文庫係長（鈴木　　君）　図書１係長です。今、図書館協議会の委員は８名で構成されています。織部委員がおっしゃられたように、学校の代表ですとか園の代表という充て職で出ていただいている方もいらっしゃいますが、市民の代表として現役の大学生の方が１名、それから家庭教育に携わっている方ということで家庭教育支援員の方が２名、それから人権擁護委員を今されている方で社会教育関係ということで１名、それから図書館ボランティアの団体の代表の方で市民の方が１名ということで、今８名で運営をさせていただいています。

以上です。

○１２番（織部光男君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

関連質疑ございますか。この件ではよろしいですか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　以上で、事前通知による質疑を終了します。

関連で質疑のある委員は挙手をお願いします。ありますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、質疑なしと認め、質疑を終わります。

ここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２項の市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員総合間の議論を尽くして合意形成に努めるものとするとの規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

今回２問出ていました。電子図書館の件と休日の形ですかね。ご意見のある委員は挙手の上、発言をお願いいたします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。電子図書館については、自分も提案させていただいたこともありますけど、費用対効果と言われてしまうと、さあ、どこまで数字として出せるかということですけど、一番肝心なところがアクセシビリティですね、結局、障害のある方たちに対して、どれだけここでカバーできるかというところが結構大きいところだと思います。やはり、あと外国人とか、ただ、借りに行ってもなかなか自分ではやっぱり読めない方もいらっしゃいますし、そういうところ、あと、例えば出かけて行けない人、図書館に行ったり、出かけて行けない人とか、そういう人たちのためにも、ここを充実していくというのは大事じゃないかということは世の中的に言われていることです。

あと、子どもたちですけど、実は電子図書館になったら本読んだという子どもが増えているという統計も出ているそうで、これはしなかったけど、これで見るんだったら見たよということも何か実際には起きているそうなので、多様な人たちが使っていけるツールとしては、ある程度導入をしむけていかなきゃいけないんです。本当なら、本当は大体20万ぐらいの町で一つシステム入れていくのが理想的というふうにちょっと聞いていて、本来なら掛川、菊川、御前崎ぐらいが一緒にやれば、無駄がなくなるので、５万人ぐらいの町で、あんまり頑張って、入れられるかというと、コンテンツ、どこまで増やせるかというのはなかなか難し

いのかなとは思います。ので、できれば連携して、この学区というか、小笠学区でみんなで一緒にやるとかというふうに本当は連携していっていただくと、無駄もなくいけるんだと思います。

あとは、それこそ世界に向けて自分の町のＰＲをしていけるというのが、実はこれ、ありまして、エントリーしていない誰でも、皆さんちょっと、いろんなところの電子図書館、覗いていただくといいんですけど、歴史資料とか町によっては、市町の子どもたちの作品を何か入れたりとか、自分たちの町のＰＲをするのに、要は、電子なので世界にこう、菊川のいろんな情報を流せますみたいな、さっきの文苑きくがわもありましたけど、本で400しか作らないけど、この中に載っていれば、いろんな方がここにアクセスして読むことができたりとかというような利点もあるので、要は、使う人の使い方って言うと変ですけど、どれだけ使いこなしていって、この費用対効果、生み出していくかというところかと思いますので、導入に関しては、本の選書を誰がどうやってするのかなとは思っていますけど、もう既に結構導入しているところがあるので、事例をちゃんと調べていただいて、無駄がないような導入をしていただけたらいいかと思っています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　あと、あれですよね、今、文苑きくがわなんかも入れられるということで、文化財保護の形で、例えば古い地図とか古い古文書とかを文化財保護でやるとすごく高いお金がかかるんだけど、電子書籍として、今言った、デジタルで取って保管してつくるというところでは安く上がっているところ、前言った、香川県のところの文書の保存の管理のところで説明を受けて、図書館、そういうことでこういう電子図書館で、そういう書籍も保管していくというのがいいというのも聞いていますんでね、これからの時代の中では、本の、その紙で見るというのにこだわる方もあるんですが、本屋さんが減る中では、将来的にはそういう流れも出てくるのかなというところだと思いますけど、そういう使い方がいろいろ広がるというところは、やっぱりデジタルというのは強みがあるかなと思って、費用対効果が出るかどうかというと、将来的な話になってくるかもしれませんが、最初はどうしても両方併用するんで、どれでもそうですが、お金がかかるっていうのはやむを得ないかなと思っていますけど、皆さんのほうからもほかにご意見。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。私も電子図書館の件なんですけど、私もずっと紙派だったんですけど、去年ぐらいから電子書籍に変えたら、やっぱり読書量が増えるので、それは手軽さというのがかなり重要かなと思うんですけど、ただ、やっぱり大人が使うとなる

と、いろんな、幅が広いもんですから、750というのがちょっと、やっぱり大人って考えると少な過ぎちゃうのかなと思うんで、そこで、さっき委員長、副委員長もおっしゃったように、文化財ですとか、あと外国人の方とか、障害持った方とか、あとはやっぱり子どもですよね、子どもとか、もしかしたら絵本もあるかもしれないし、小学校、中学校、高校生、そこら辺に絞ると750って、結構、数としてはもしかしたらいいのかなと思うので、菊川文庫の蔵書見たら27万冊とかある中で、そこで750となると、ちょっと考え方変えないと、費用対効果というのとか利用率というのがなかなか伸びないのかなと思うので、ちょっとそこは、電子図書館というのは目的をちょっと考えてもらって、そういう、絞った中で、子どもとかに絞ってやっていってほしいなと思うので、まだこれから選書すると思うので、委員会としてもそこはちょっと意見として伝えて、そこら辺を考えてほしいなと思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　５番　渡辺です。今、渥美君が言ったように、自分も昔、紙の本を買っていたけど、楽天で、通販で買うのも電子になっちゃったし、だから、そうするとスマホよりタブレットが欲しくなって、タブレットで読むようになったりして、それで寝る前にたくさん読めるようになってという、そういう人たちが普通に増えてきたら、当然、図書館も、費用対効果というよりも、もう必要とされてくる、普段がそうだから図書館もそれで使いたいよというのは、必ずその変化が出てくるので、それに対応していかなきゃいけないということも考えて、進めなきゃなと私は思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかご意見ございますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。私は、図書館の本というよりも、佐塚書店で買って読んでいる方が多いんですけども、電子図書については時代の趨勢ということでやむを得ないのかもしれませんけども、小林委員長言ったように、営業時間の延長を図ることによって、学生がきくるを使う時間帯の９時までにしてみれば……

○分科会長（小林博文君）　倉部副委員長ですね。

○１２番（織部光男君）　うんうん。ですから、そうすることによって、民間の、一般市民の方も活字の本を借りる時間帯が増えるということで。

ですから、きくるでシルバー人材センターの方が延長時間はやってもらっていますけども、土日もそうですよね。ですから、そういうような、柔軟に物事を考えて、やはり昔からやっ

ているからということでなくて、図書館として働く人たちがそのニーズを考えて、協議会のメンバーにでも説得するぐらいの気持ちで、私はやってもらいたいなと思うんですね。

私が心配するのは、電子図書が物すごく市民に人気があって、使われれば何にも言うことはないです。ところが、実際には、今の活字離れを、同じで、電子図書でも離れていくようなことになると、お金だけかかってというような、成果が得られないというような事態だけは今後も注意していってもらいたいなと、そんなふうに思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。これ、広まったのは、実はコロナのときですよね。あのとき、貸出し停止をかけちゃったので、学校も行けないし図書館も行っても借りられないとか、もう何か行っても、何かこう限定で選んだのしか駄目とかとなって、もう本当に子どもたちが行く、学ぶ場もなくなってしまうし、時間も潰せなくなってしまうしっていうところで、電子図書館、入れてたところは、それを見ることができたんでっていって、この後、導入がすごい増えたんですよねっていうところもありますので、やっぱり今後としては、ある程度こういう体制も取っていかないと、緊急事態、さっきの災害もそうでしょうけど、なったときに急に入れることってやっぱりできないもんですから、何かそういうところも考えていく必要があるのかなと思います。

○分科会長（小林博文君）　そうですね。僕も、代表質問の冒頭で言ったとおり、うちのかみさんは本が大好きで、そういう人はやっぱり本を物として大事にしている、自分で持ちたいという意識が強いんですよね。一方で、若い人は、今あったとおり、図書館に行って、借りて返してという煩わしさを見れば、タブレットで見られればという手軽さから、活字離れの逆の効果の、紙からは離れるかもしれないけど、デジタルとして書物を読むというところには、引きがあるのかなと思う、という考え方からいくと、紙にするのかデジタルにするのかという考え方もまた出てくると思うんですね。

例えば、週刊誌みたいなものは、一過性のものなんで全部デジタルでしかもう取り寄せません、図書館にあるタブレットで見てくださいというふうにすれば、それはそれでいいし、今言った、有名な小説なんかはずっと、また繰り返し読みたくなるというときには、やっぱり本であったほうがいいというところも、何ですか、購入型と有期型というのもあるし、デジタルにするか紙にするかという考え方もまた広がってくるのかなという感じも、聞いていて感じました。

そのほかに皆さんからご意見ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、以上で、図書館の予算に係る審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等を基に、分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。

分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

続けてやってよろしいですか。

〔「はい、お願いします」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　トイレ行く方、ここで入れ替えでお願いします。

休憩　午後　１時５３分

再開　午後　１時５６分

○分科会長（小林博文君）　では、始めさせていただきます。

それでは、次に社会教育課の予算審査を行います。

はじめに、濱野社会教育課長より出席者の紹介をお願いします。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長の濱野です。よろしくお願いします。

私の隣が社会教育係長の齋藤です。

○社会教育係長（齋藤　　君）　齋藤です。よろしくお願いします。

○社会教育課長（濱野和宏君）　そして、スポーツ振興係長の山田です。

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　山田です。よろしくお願いします。

○社会教育課長（濱野和宏君）　それで、文化振興係長の泉です。

○社会教育課主幹兼文化振興係長（泉　　君）　泉です。よろしくお願いします。

○社会教育課長（濱野和宏君）　同じく、文化振興係の指導主事の丸杉です。

○社会教育課文化振興係指導主事（丸杉　　君）　丸杉です。よろしくお願いします。

○社会教育課長（濱野和宏君）　よろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　それでは質疑を行いますが、初めに事前通知を提出された委員の質疑から行います。

質疑の事前通知を提出された委員は、挙手の上、事前通知に従って質疑を行ってください。

１問目、倉部委員から出ております。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

○分科会長（小林博文君）　すみません。一覧表も参考にお願いします。倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　10款５項２目生涯学習まちづくり費、タブレットの説明で89ページ、ステップアップ講座、いきいきカレッジ参加者の推移をお願いしますと一覧をお願いして丁寧に出していただきましたが、説明をお願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

すみません。皆さん、お手元のほうにステップアップ講座一覧といきいきカレッジを一覧表にしたものを配付させていただいています。そちらのほうをご覧ください。

まず、ステップアップ講座の推移のほうですが、令和３年度についてはコロナ感染症対策のため単発講座の４講座の開設となり、参加者は44人でした。

それから、令和４年度が下の真ん中の表になりますが、令和４年度については５回連続講座を17講座開催しまして、参加者が129人、そのほか下の段になりますが単発講座を７講座開設しまして、こちらは参加者が104人、令和４年度としては合計で233人でした。

裏のほうが令和５年度の表になりますが、令和５年度についてはコロナが５類に移行をしまして通常どおりの10回連続講座に戻りまして、10回連続講座を13講座開設しまして、参加者が139人、その下、引き続き単発講座も８講座開設しまして、参加者は120人、合わせて259人となりました。

次のページですが、いきいきカレッジになりますが、令和３年度についてはことぶき講座という名称でしたので、こちらになりますが、コロナ感染対策のために令和３年度については単発講座としましてはじめてのスマホ教室を中央公民館で３回開催しまして、参加者が70人でした。

続いて、令和４年度は５回の連続講座で開催しまして、参加者は31人です。

次のページに移りまして令和５年度ですが、令和５年度も５回の連続講座で開催しまして、参加者は28人でした。

それぞれ講座の中の詳細の講座等については一覧表のとおりでございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部

委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

これを出していただいたんですけど、募集に対しての受講者数はどのぐらいの割合なんでしょうか。講座によってばらばらかもしれないですけど、本来はもっといっぱい来てほしかったんですけどこれぐらいだったのか。出したらほとんどいっぱいになっちゃっているのか。そこら辺の傾向はいかがでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

それぞれ講師の方の希望というか、受けれる数とか会場要件なんかもありまして、全ての講座で募集人員というのがばらばらなもんですから一律になかなかお答えできないんですけど、ステップアップ講座については内容もバラエティーに富むものということで意識して毎年講座を選定していますので、その中でなかなか人気があるものとか、なるべくステップアップ講座の講師の方については市民から募集して講師育成ということも兼ねているので、そういった形で最初は少しからというようなことで始める講師の方もいらっしゃいますので一律ではないですけど、募集して集まらなかったというのは、講座によっては半分ぐらいが定員より多くの申込みがあって抽せんで決めるというようなものもあります。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりましたか。

○社会教育課長（濱野和宏君）　ちょっと全部の答えになっていないかもしれないですけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

例えば全然集まらなかったので来年はやりませんとかいうのは講師が決めるんでしょうか。こちらからちょっと人気がないのでやめてくださいとは多分言いにくいんでしょうけど、希望した講師はみんなここで講座が持てるのか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

最初、前年度に次年度でやる講座のメニューを決定するわけですが、そのときにこちらから声をかけさせてもらう場合と講師の募集もしますのでそういったところの面接をさせていただいて、その中で前年度もあって人気があったものとか、あとはいろんな種類をそろえたいというところもありまして、新しいものを取り入れるというようなことで講座のメニューのほうを決めさせてもらっています。

募集して人員が少なかった場合というのもあるんですが、そこも講師と相談させていただいて、少なくても開催したいというような思いがあるようなところについては今年度も実施させてもらったようなところもあります。

集まらなかったというのは、今年度の少ないところは３名とか、茶道教室とか３名というようなところもあったんですが、そこは講師に相談させていただいて開催するというような形になりました。

事務局として心配するのは、本当に例えば講師の方と１対１になってしまうと何かあったときにというのがあるので、なるべく人数は１対１だとちょっと避けたいなというところはあったんですけど、少ないところですと着物の着つけとか茶道というのは３人というところがありました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　やりたいですと言われてきても、こちらで同じ講座があるよとかいうと調整かけられていくということ、この全体の講座数というのは例えば令和５年だと13個ですけど、ある程度、枠は決めてあるわけですよね。この予算で出しているということは。枠は幾つまで検討できるんですか。書いてあるけど。15講座か。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

予算上ですと、10回の連続講座でいうと15講座等を見込んで予算のほうは取っています。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。

○１３番（倉部光世君）　もう１個だけいいですか。

○分科会長（小林博文君）　はい。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　利用されている年齢層というと、やはり今は若い人はお仕事されているので少し女性の年配者というか50歳以上ぐらいの方とかが多いんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

ちょっと細かいところではありますが、令和５年の10回の連続講座のほうですと、トータルの受講者数が139人ですが、そのうち60歳以上の方が90人というような。

〔「男女比みたいなものは分かりますか」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

ちょっと今、何人というのは出ていないですけど、やはりほとんどが女性の方で男性は非常に少ない状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。この件の関連で、４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　先ほど何か募集よりかなり多くなってしまったというのがあるんですけど、その場合はどういう形で、切っちゃうんでしょうか。どういう形になっているんですか。

○分科会長（小林博文君）　抽せんの仕方とか。

○４番（織部ひとみ君）　そうです。

○分科会長（小林博文君）　濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

人員オーバーしたものについては抽せんで決めています。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○４番（織部ひとみ君）　抽せんで、分かりました。

○分科会長（小林博文君）　関連でその他、質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、２問目、織部ひとみ委員から出ております。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部ひとみです。

10款５項３目の青少年学習費の中のタブレットページが93になります。スキー体験教室の参加者が減少していますが、参加への取組について伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

織部ひとみ委員ご質問のスキー体験教室参加者数減少について参加への取組についてですが、まず、今年度の参加者が非常に少なかったんですが、要因というのはなかなか特定できないところではありますが、今年度については、まだ冬の時期、コロナやインフルエンザの感染が懸念される中、スキーツアーについては長時間のバス移動となりますので、そういったところと、日程が今年度についてはクリスマスと重なってしまったということ、それから

記録的な暖冬ということで雪不足というのがその当時ちょっと報道されていたということ、それから実際に開催するのが６年ぶりということでございましたので、事業の認識が、周知がちょっと不足していたというところら辺が考えられます。

参加の取組としては、早くから周知を行い、申込状況によっては追加募集を行うとかといったことをしていきたいというふうに考えています。

今年度の参加者については初心者もいたんですが全員が滑れるようになりまして、来年も参加したいという感想もありましたので、そういったところも紹介しながら参加者を募集していきたいと考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑はありますか。よろしいですか。

○４番（織部ひとみ君）　分かりました。ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　この件の関連で質疑ありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、３問目、４名の委員から出ています。代表して赤堀委員、お願いします。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。

タブレットページの97ページ、放課後子ども教室推進事業費です。

①児童への周知方法として河城小学校放課後子ども教室のコーディネーターとサポーターで次年度開催のチラシを下校時の児童に手渡す活動をした。他の学校の子ども教室ではどのような手段で周知するのか。学校から児童に配付するような協力は得られないのか。

②番目、実態に合った予算組がされているのか。

③番目、９教室のうち４教室のみ実施されているが、５教室の実施に対する取組は。

④番目、放課後子ども教室のサポーター、ボランティアの確保はできているか。募集方法の工夫は。

⑤番目、活動時間の減に伴う減額とあるが要因を教えてください。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

委員のご質問の児童への周知方法としてどのような手段で周知するのか。学校から児童に配付するような協力はできないかについてですが、まずは放課後子ども教室のチラシについ

てですが、学校から児童に配付をしていただいております。

河城小学校の放課後子ども教室につきましては、コーディネーターさんからは説明しながら直接子どもに手渡したいという思いから、学校にもお話しをさせていただいて下校時に実施したというふうに聞いています。

２つ目の実態に合った予算組みがされているのかと５つ目の活動時間の減に伴う減額とあるが要因はについては、関連がありますので一括でお答えさせていただきますと、新型コロナ前までは市内９校全てで放課後子ども教室が開設されていましたので、活動再開となった場合に不足が生じないよう前年度と同程度の予算を計上していました。しかしながら、今年度は早々にコロナが５類に移行したという状況にもかかわらず一斉に再開というふうにはなりませんでした。

令和６年度も９校での開催を目指しますが、各教室のコーディネーターの皆さんとそれぞれ打合せなどをしているところを通して、状況としてはサポーターは減少しているというようなことになりますので、１教室、１つの小学校当たりの開設する講座の数が従来よりは減少しているというようなところがありますので、そこを見込んだ予算となっています。

３つ目の９教室のうち４教室のみ実施されているが、５教室の実施に対する取組についてですが、今年度、４教室の開催となりましたが、このほか２教室では講座の募集をかけ結果的に人数が集まらなかったものですから開設には至りませんでしたが、その２校についても５講座の開設というのを計画していましたので、実質はコーディネーターさん、ボランティアさんも活動をしていたということになります。

残りの３教室についてですが、これも令和６年度開設に向けてコーディネーターの方と打合せを行っています。２教室については開設の方向で動いていますが１教室の南小についてはなかなか難しい状況といったところです。

４つ目の放課後子ども教室のサポーター、ボランティアの確保はできているか。募集方法の工夫はについてですが、各学校によって活動サポーター、ボランティアの人数に違いがありますが、どこも高齢化などによって今後の活動を行っていくには新たな人材が必要と考えております。

サポーター、ボランティアの募集方法については、放課後子ども教室のホームページ内で募集等をしておりますが、実際にはコーディネーター等に紹介していただくといっているのが現状です。

引き続き、各教室での人員確保の取組などについても放課後子ども総合プラン運営委員会

などで情報共有に努めてまいります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。赤堀委員、再質疑ありますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。

募集方法ですが、河城以外はチラシを学校のほうから子どもに渡してくれたということですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

各学校ともこれまで学校のほうから児童にチラシ等を配っていただいたんですが、河城小学校については令和６年度実施分のチラシを直接説明しながら子どもたちに分けたいということで、次年度分の募集のチラシをコーディネーターさんとサポーターの皆さんで下校時に分けたというふうに聞いています。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

○１０番（赤堀　博君）　了解です。

○分科会長（小林博文君）　内田委員、再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

全教室やりたいということは希望としてあるんですけど、具体的にやれるところまでいける。結局３月のときに大分減額をしてできなかったという話だったと思うんですけどね。今の方向で南小以外のところは何とかなりそうだという理解してよろしいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

南小以外のところは今年度開設するという方向で進めています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。よろしいですか。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　織部ひとみ委員、再質疑ありますか。大丈夫ですか。

○４番（織部ひとみ君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

状況を聞いていると、まず子どものニーズがなくなっているというのを今までやってきた中で、毎年重なっている中で実際コーディネーターの方から聞くと、本当に募集してもどんどん参加する数が減ってきているというのをずっと聞いてきたんですけど、六郷に関してもやっていなかったので今度やるんですけど、いかんせんサポーターが集まらないので何とかしてほしいというお声がけもいただいたぐらいでして、無理やりやらなきゃいけないんですかというところを思っている方も実際いらっしゃって、これをやるのは県とか上からこれをやるってメニューが下りてきているので、もう何としてもやらなきゃいけないものなのか。ニーズがないならやめてもいいものなのか。今度やるコミュニティスクールに入れさせてもらって事業として成り立たせることはできないのか。今までやってきたのでやっているままそのままやるというのはもうちょっと無理が来ていると思うんですけど、その辺、来年度に向けて今までどおりにまた復活というような予算立てになっているんですけど、その辺は検討を全然されないんでしょうかとこの間も聞いた気がしますが。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

国のほうの施策としては、待機児童対策ということで放課後の子どもたちの居場所ですよね。児童クラブもありますが、そこの児童クラブにも待機児童が発生しているとそういったことの１つの受皿として放課後子ども教室も待機児童対策としての一面があります。

もう１つは、地域の方と子どもたちの触れ合いの場というところが目的として１つありますので、その中でほとんどボランティアみたいな形になっていますけど、地域の大人と子どもが子ども教室を通して共有の場を持つと、時間を持つというところがまた１つの目的になっています。

どうしてもやらなきゃいけないかということは事業としてはありませんけど、そういった地域の人たちと子どもたちの触れ合いという部分がありますので、ここについては関わってやっていただける方ができる時間で何ができるかというところを考えてやっていただきたいというような事業になりますので、どうしてもというところは特にないと思いますけど、ただ菊川市としましては、コロナ前までは９校でできていたものですから、またそこを目指していきたいというふうに考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

すみませんが、児童クラブの待機は今ほとんどいるのは高学年だけで、待機はほぼいないと聞いていますし、そうではないお子さんも今習い事をされている方も多いので、放課後に行くところがなくてというちょっと少し前の状況とはかなり変わってきていると思います。

そして、地域の方と子どもの触れ合いとおっしゃいますが、地域の人のサポーターが集まらないって地域の方が言っているのに、その触れ合いの場をここでつくらなきゃいけないかというと、ではコミュニティスクールをまたやるのにまた別の人たちが別のことをやらなきゃいけないということになっているので、合わせた考え方をしていかなきゃいけないんじゃないですかということを申し上げているつもりなんですけれども、菊川市として９校やっていたんで９校に戻さなきゃいけないという考え方は少し違うと思うんですけど、いかがですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

戻さなきゃいけないというようなことはないと思いますけど、あった方がいいかなというふうには思いますので声がけはしていくと、今、南小についてもコーディネーターさん自体が実は南小についてはなかなか活動が難しい状況になっているというふうに聞いていますので、そういったところからの再スタートになるんですけど、そこはできる方がいるかどうかというところからのお願いになっていくので、どうしてもやらなきゃいけないということではないですけど、できることがあればそこで何ができるかというのを考えていきたいということになります。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

子どものニーズがないのにやる必要があるんですかということを申し上げているんですけど、どうなんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　ここ数年はコロナの状況もあって、例えば学校ですとか、人がたくさん集まるところになかなか出ていくのもというようなところは段々解消されてきたとは思いますので、状況が去年、おととしまでとはちょっと変わってくるかなというふうには考えています。

また、ニーズとかそういったものについては実施しながら、また先ほどの運営委員会等でも検討していきたいというふうに考えます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部。

あと、備品を学校の物ではなくて子ども教室用にということで、教室を１回設置するたびに買っているんですけど、この備品管理は結局どうなっているんですか。台帳とかは作ってあるんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

補助金等でも出ていますので購入しているものがあるんですが、位置づけとしては備品ではなくて消耗品ということで購入しているものだというふうに認識しています。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

例えばですけど、六郷で以前はクッキングをやっていたんですけれども、そのときに鍋から量りからいろんな物を買ったのが学校に置き去りになっていて、結局、料理を教えられる人間がいないので、もうずっと何年もやっていないんですね。私も教えていたことがありますけど、あれって結局学校に置き去りになっているわけで、ではコーディネーターの方が管理できているかというとできていなかったりして、では誰がそれを、消耗品だからみんなに配っていいんですかという、では地区センターに持って行って地区センターの調理の中に入れてしまっていいんですかという、あとスポーツをやるのにスポンジテニスのラケットですとかずっと買っているわけですよね、いろんな講師が、ボランティアが変わるたびに。それの管理は学校に置かせてもらっていいんですかというと学校の物じゃないよというのであれば別のところで管理をするのか。消耗品なら１年終わって使ったらどこかに配るのか何かするのかというそこのルールがないと、ずっとこれを消耗品で出していっていたら経費の無駄遣いになると思うんですけど、その辺の管理についてどうお考えでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

それぞれの教室で買ったものになりますので、その辺の認識が薄かった部分があるので、この間、先日、六郷のコーディネーターさんとお話しをさせていただいたときにそういう状況も聞いておりますので、もう使わないという物があったらちょっとその辺の物を確認させていただいて、こちらのほうでも消耗品、ほかの教室で実施するものもありますので、その

辺を一度確認させていただきたいというふうに考えます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

○１３番（倉部光世君）　いいです。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連で質疑のある方いますか。よろしいでしょうか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　消耗品の管理ですが、河城小学校では別に保管庫を買っていただいてコーディネーターがちゃんと毎回管理をしていますので、学校の負担にはなっていないと思います。ほかはどうですか。場所は借りているけど。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

またそれぞれの学校でどういったことをやっているかというところで、一度、物も確認させていただいて改めて管理方法とかというところは検討していきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。そのほか質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、４番目、織部光男委員から出ています。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

10款５項４目芸術文化事業振興費、文苑きくがわですけども400冊で足りるのか。足りなければ増刷する予定はあるかをお尋ねします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

織部光男委員の質問の文芸誌400冊で足りるか。足りなければ増刷する予定はについてですが、今年度より文芸誌、文苑きくがわにつきましては無料にて配布するということに変更させていただきました。配達先を精査して印刷部数を400冊ということで設定しております。

文苑きくがわは、図書館や地区センターにも配架しまして誰でも借りられる、閲覧できるような対応を行ってまいりたいと考えていますので、現在は増刷する予定はありません。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　応募のほうもかなり量も多かったと承知しているんですけど、70ページでまとまるようなことになったんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

補正予算のときもちょっと説明させていただいたんですけど、応募が多かったもんですから作品数が非常に多かったです。ページ数としては最後に印刷したときは108ページ程度だったんですが、実際に今回は140ページぐらいに増えました。

先日、補正予算でページ数増の分の増額を取らせていただきましたので、140ページになったもので400冊印刷する予定です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　増刷する予定はないということですけども、それでいいんでしょうか。やはり市民の文化振興費ということで上げている以上、補正を組んでも要望があればやるべきではないですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

これまでも有料でしたけど販売をしている実績があります。その中でも冊数についてはそんなに販売数も伸びていないというような状況もあります。それから無料にした場合にはもっと手に取っていただけるような形にはなろうかと思いますので、そういったところを勘案して配布先も検討させていただいて400冊というふうに設定しています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　前、有料で買うときも現金を渡してすぐ買えるような状態じゃなかったですよね。知っていますか。買う場合どういうふうにして買っていたか。そういうことを加味して私は申し上げています。無料になってこれだけの原稿が集まって多くの人たちが読もうとしているときに、もらいに行ったらなかった、ないですと言うんですか。私はやはりそれではおかしいと思うんですよ。先ほど令和７年度から図書館のほうで電子図書ということで、これも電子図書で入れる予定はあるんですか。併せてお尋ねします。

○分科会長（小林博文君）　濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

無料で配布といったときに、もらいに行ったらなかったよということも考えられるかもしれないですが、一部は図書館や地区センターに配架しまして借りられる、借りて見られるとか、その場で閲覧できるというような状態にしたいと思っていますので、そういった意味で増刷の予定はないと、それから電子図書の関係なんですが、内容が個人の方がそれぞれ投稿していただいた小説等もありますけど、その内容について編集委員が内容のほかの小説とかの盗用とか何とかというところまで確認作業ができないですから、ちょっと電子図書にしますとそういった突合が容易になってしまうという部分もあって、そこまで編集委員の方が責任持って内容の確認というのはできていませんので電子化については考えておりません。

以上です。

〔「紙も一緒ですよね」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

今、ほかの委員が言っているとおり、電子化と紙との違いでそういうことは言えないと思いますけど、これはやってみないと分からないことで、そのときになったらまた私のほうも動きたいと思いますけど、ここの科目については芸術文化事業振興費ということで、振興するために使う、そして、ここの令和６年度の丸のところには芸術文化振興事業業務というのを大々的にうたっているわけですね。先ほど学校教育課のほうでは子どもに対しての演劇鑑賞も入れているんですけど、私はここは社会人に対する文化振興だと思うんですよ。ですから、そういったことに対して私はこの振興費が使われているかというと甚だ疑問に思っています。

例えば、今度、６月19日に前進座が来て文七元結やるわけですよ。入場料が5,000円です。例えばこれを500円でも補助金を出す、振興費を使うとすれば100人で５万円です。こういう使い方を私はすべきではないかということで提案ですけども、そういうおつもりはないですか。私はほとんどのものを見に行きますけども、職員の方の顔を見るということはまずあまりないですよ。ここにいる皆さんがどうなのか分かりませんけども、そういったことに対して文化振興に携わっている人間として、そういうことに力を入れていただきたいんですけど、その辺の考えを最後に聞きます。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。よろしいですか。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　すみません。芸術文化振興につきましては、10款５項７目の文化会館費の文化会館事業振興費のほうで、指定管理費とは別に市のほうからアエルの文化

芸術振興委託料ということで200万円を、これは指定管理者のほうへ支出しまして文化芸術活動の発掘や文化芸術団体の交流、幅広い年代の参加を見込める事業を実施するということで、そちらのほうでは200万円ということで支出してますが、今、織部光男委員がおっしゃいました見に来る方のほうの助成というのがちょっとそこには当たらないですが、市としてはそちらのほうに事業費として計上しているという状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

文化振興費というのを業者に使うのではなくて市民に使うものじゃないんですか。違いますか。私の言っていることはおかしいですか。

○分科会長（小林博文君）　濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

指定管理者につきましても指定管理料の中でいろいろとアエルで行う事業を実施してもらっているんですが、なかなかお客さんが入りやすい事業とそうでない事業というのがあって、お芝居とかクラシックとかという部分についてはなかなか実際にはお客さんが入ってこないような事業というふうになります。すると人を呼べる事業ばっかりに偏ってしまうということもあるので、こちらのほうの委託費についてはそういったところの文化芸術に資する演目というものを用意してほしいよという意味で支出しているというものになります。そういった事業を市民の皆さんに提供できるような演目を考えてほしいよということの委託になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

文芸誌のことについて、これの配架は近隣市の図書館とかにもされるんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。齋藤社会教育係長。

○社会教育係長（齋藤　　君）　齋藤です。社会教育係長です。

文芸誌の配布先ですけれども、一応、県立図書館とか各ほかの県内の市から同じような文芸誌を頂いているところにはこちらのほうもまた配架する予定でございます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

先ほどウェブに上げると著作権がという話があったんですが、編集の責任は菊川市にあるわけでして、印刷して配った時点でもうその責任は発生していますので、ウェブに上げる上げないは関係ないわけですね。多くの目に触れてチェックされたら困るというのはちょっとおかしな考え方でして、基本もしそうであるならば、投稿者が例えば投稿するときに制約書じゃないですけど盗用ではないとかというチェック項目みたいなものを設けて投稿してもらっているんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

チェック項目ということはないですけど、オリジナルのものであるということで投稿はしていただいています。募集要項にはそうなっています。また、今おっしゃられたようなことについても編集委員会の中でまた検討していきたいというふうに考えます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

編集委員会の中ではなくて、編集に関しては菊川市として責任を持たなければいけないので、そこは編集委員会任せではなくて皆さんのほうでしっかり考えて責任を取るという形で編集委員会に任せないと、編集委員会の方に責任があるわけではありませんので、そういう考え方を少しきちっと整えて編集作業していただきたいですけど、いかがですか。この著作権の話とか編集委員会の責任ではないんですよ。菊川市として発行しているわけですから、そういうところの認識を少ししっかり持っていただくべきかと思いますけど、いかがですか。

○分科会長（小林博文君）　濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

今年度は再発行に向けた編集委員でしたけど、前年度は再発行に向けた在り方検討ということで、その中では有識者ということで大学の先生なんかにも入ってアドバイスを頂きながら募集要項等も決めてきた経緯もありますので、また当然、市が発行元ということになりますけど相談させてもらいながら決めていきたいというふうに考えます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。関連で質疑のある方もよろしいですか。

５番目行きます。代表して、渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。タブレットページ、100ページ、文化財保護費について、歴史検定教本とはどの程度の間隔で発行されるのか、500部の配布先は。また具体的な活用方法と学校との連携を伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

議員ご質問の歴史検定教本はどの程度の間隔で発行されるか、500部の配布先は、また具体的な活用方法と学校との連携についてですが、どの程度の間隔というのは、分かりにくかったので、答弁漏れがあるかもしれませんが、また後でいただければと思います。

そこに最初の答弁ですが、令和６年度は市制20周年でありまして、記念事業として歴史検定を実施する予定です。

検定の設問は教本から出題することを基本とし、また市内の史跡や文化財を巡る際に持参できるよう、ポケットサイズとしています。

歴史検定の開催前には講座も行う計画ですので、検定や講座の受講者に配布する予定です。また、市の文化財保存などの活動を行っている団体等にも配布したいと考えています。

具体的な活用方法ということですが、第２次菊川市文化振興計画において、施策の２、歴史文化遺産の保護、継承において、地域の歴史、伝統文化の継承のため、文化財活用サポーターを育成することとしています。

この教本を歴史検定や講座に活用することによって、史実に基づく正しい知識を持った人材・サポーターの育成を図ることを目的としています。

学校との連携についてですが、検定は、小学校高学年から広く一般を対象としています。市内の小中学生はタブレット端末で見ることができるよう、教本は市のホームページにもアップしていきます。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。渥美委員、再質疑がありますか。

１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

非常に面白い取組だと思うんですけれども、検定というと、漢字検定とかあるんですけど、

この検定というのは何か最終的に試験とかをして、認められて何か、あなたは合格しましたとか、何級ですとか、そういったことはあっているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

検定試験の実施という件です。合格者には認定証を発行します。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。

１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

20周年の記念ということでなんですけど、やっぱりせっかくやるのであれば、その先にもつながるような形がいいんじゃないかなと思うんですけど、そのやった後に、どういう形でつなげていくのか、毎年やるかやらないかも含めて、１年だけで終わりというよりは、やっぱり今後につながるような形がいいんじゃないかなと思うんです。

その今後へのつながりというのを伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

検定、20周年記念事業として開催しますけど、この後も継続的に実施をしていく予定でおります。

先ほども言いましたように、検定を受けていただくときに、教本を活用していただいて、菊川市の史実に基づく正しい知識を身につけていただいて、将来的には、この市の中にある史跡や文化財について、説明していただけるようなサポーターというか、そういう方の育成を図るということが、最終的な目標としてありますんで、継続して実施していくというふうに考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。よろしいですか。

内田委員。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

この検定書の元になるようなものは現在あるんですか。間隔も分からないというのは、分からないと、すみません、この検定書に似たようなものがあるんですか。教本になるようなものが。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

これまでそういった市の歴史を取りまとめた冊子みたいなものがなかったもんですから、今回改めて歴史検定用の教本ということで作成しました。

本年度、作成のための検討委員会も設けましたので、ほぼ実用化ができまして、６年度に印刷、製本をというような形になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

全く新しいものと解釈してよいですよね。

次に、500部というのは、これからどのくらい先まで見込んだ部数になるんですか。

○分科会長（小林博文君）　濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

それこそ、先ほど講座の開催ですとか、検定試験に申し込んでいただている方等に配布することと、あとは既に市内の文化財や史跡のところで保存活動とか、継承のために活動していただいている団体もいらっしゃいますので、そういったところへの配布等も考えています。

本年度だけでなくて、来年度以降も継続していくというふうに考えていますので、500部というふうに考えていますが、そのほか検定のとか、教本の作成に携わっていただいた方とか、原稿執筆をしていただいた方等にも、その教本については配布していこうと考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

本来、出来上がったときに何冊、要するに今言われたような積み上げがあって、あとこれを今後の中でも生かしていくことになると、何年か計画ということで、単年度に100冊というのは分かんないですけど、本来そのものがあって、初めて500が生まれてくると思うんですけど、ちょっと今計算が、出来上がっているものは何冊なんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。泉主幹兼文化振興係長。

○社会教育課主幹兼文化振興係長（泉　　君）　文化振興係の泉です。

初年度については100部、講座の受講生自体が50人前後ぐらい考えています。それプラス講座に出ている方もいると思いますんで、150からぐらいは、３年度に入っているかなと思って

いますんで、３年ぐらいはかかるかなと思っております。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

今言われたみたいに、講座で150って、その前に課長のほうから原稿を出してくれた人とか、そういうところに配るって言ったでしょう。なんで当年度のときが、一番たくさんいると思うんですけど、あと残った分を、３年と言いましたから、３年だと逆に言うと、割り算で何冊ずつかなると思うんですけど。

ですから、当年度のときに幾つ要るような計算をしているんですか。

○分科会長（小林博文君）　泉主幹兼文化振興係長。

○社会教育課主幹兼文化振興係長（泉　　君）　初年度については、受講生と講座生で、それとあと書いてくれた人自体は、全体でひっくるめても10人前後ぐらいですので、それで初年度が150。

ですので、あとは講座生と受講生が100ずつぐらいはなるのかなと思っております。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

結局、歴史検定書といっても、変わるべきもんじゃないもんで、足されることはあるかもしれないですけど、新たなことも分かってね、ですからやっぱりこの500部というのが、一番何年かやる過程の中で一番役に立つになるのかどうかということを、気にしているんですけど。

その辺は計算されて500部出来上がっているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。泉文化振興係長。

○社会教育課主幹兼文化振興係長（泉　　君）　初年度の事業で、今の私のやつも実際にやってみなければという部分もあると思いますけども、その中で今まで発行したパンプレットとか、それとか、文化財ウォークなんかやったときに、参加人数を考えたときに、大体100人前後ぐらいの受講生だとか、講座の参加者見込みました。

そこの中で大体三、四年という今言った期間の受講が耐えられるんじゃないかなと思って、この500部という数字が出ておりますので、画期的なやすいとかいう形では考えております。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑……。

○１５番（内田　隆君）　結構です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。関連質疑はありますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　では、６番目、もう一個、内田委員からお願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

城館遺跡の事業費というところで、横地城東の城園路廃止という工事があるんですけど、今どうなっていて、今度廃止にするとどういう形で工事が行われるんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

内田議員ご質問の横地城東の城園路廃止工事とはどんな工事なのかについてですが、現在、横地城の東の城の上から北に向かって下りていく階段ができてしまっていますが、その階段については、築城当時使われていた階段ではなく、近年造られた階段となっています。

この階段は現在も使われていますが、来訪者の通り道として残しておくと、土塁など等を破損する可能性がありますので、横路城の保存のことを考えた場合、早急に廃路すべきと、菊川城館遺跡群整備委員会委員からも出されており、整備計画でも廃路とする計画を示しています。

やり方としては、現在その階段の枕木を設置して階段にしてありますので、その枕木の撤去、それから土壌等で段差を埋めまして、その上に崩れないようよう、養生マットで覆うものです。

洋上マットについては、横路城の外から種子を持ち込むものではなくて、東の城周辺の種子が生えるよう施工しようとするものです。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁……。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。結構です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件関連質疑ありますか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　７番目、倉部委員からお願いします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

10款５項７目文化会館管理費、タブレット112ですが、文化会館アエルの夢みさんが使っているエリアがあるんですが、管理はどうなっているでしょうか。使用料は発生していないと、

私は認識していますけれども、一体あれはアエル、市の管理なのか、それともＳプロが管理するべきなのか、どうなっているか、把握をされているでしょうか、お願いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

アエルの夢みが使っているエリアの管理はどうなっているのか、また使用料は発生しているのかについてですが、アエル全体の管理を指定管理者が行っていますので、管理はＳＢＳプロモーションとなります。

なお、貸出し用の施設に設定されていませんので、使用料は発生していない状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。倉部委員、再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

これ夢みさん、Ｓプロをやる前から入っていまして、Ｓプロさんに確認したところ、前からいるので、私たちはちょっと分かりませんというような話を聞いています。

夢みさんは、Ｓプロの団体ではなく、有限会社かな、夢みということで、独立採算制の会社でありますので、そこで売店をやったりとか、アエルの飲食も提供したりして収益を上げているわけですので、その団体が無料であそこをずっと使って、物を置いてあるというのは、ちょっとおかしいんじゃないかな、特に公共施設なわけですので、それをＳプロのほうにするんでしたら、きちっとこちらのほうから有料で取っているのかとか、もっと別のことに使えるわけです。

あそこ展示とか使おうと思えば使えますので、その辺をＳプロときちっと話をしていただいて、誰がどうやって管理をして、あそこを使っていることに対してのプラス面がどれぐらいあるのか、売店は開けてくれていますけど、それではないいろんなものいっぱいあそこの裏に置いてあるわけです。その辺、今のままでいいのかということは、きちっとどこかで把握していただきたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

今、夢みについてですが、開館当初からアエル来館者に対しての売店事業とか、貸館でお客さんから要望があったときに、食事等の調達をしたりということで、商工会の関係者、方で組織された団体というか、有限会社となっていると認識しています。

また、今おっしゃられたようなところで、物の管理とかいう部分について、少し状況、ＳＢＳプロモーション等にも確認しまして、扱いについて検討していきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。当初市で管理していたときから多分入っていて、菊川を盛り上げるために、商工会の今75以上ぐらいの皆さんが始めたことですけど、途中から、社長とか全部を引き渡して交代していますので、当初の目的とはちょっとずれていると思います。

ただ当初そこの夢みさんが入ったときの契約とかは、菊川市と何か結んでいらっしゃる書類があるのか、そういうとこ、きちっとやっていかないと、民間の団体が無料で、あそこをずっと使い続けているということ自体が、おかしな話ですので、この辺きちっとチェック入れていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。当初の契約とか、その辺まだどうなっているのか今ちょっと自分も承知していないもんですから、そういったところから確認させていただきたいと思います。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。よろしいですか。

関連質疑ありますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

文化振興に関して、やはり文化会館アエルは、そのメインであって、そういったところに皆さんが月に何回ぐらい足を運んでいるのか、今の夢みの話なんかも、場所すら分からないんじゃないかと、私は想像するんですけど、私は皆さんが文化館アエルの担当になったならば、それを完全に掌握するような活動をしてもらいたいですよ。

文化振興は今、菊川市民にとってどうなのか、その辺についての考えはどうですか、部長、あるいは課長あたり、皆さんにどういう指導をしているんでしょうか。それ疑問に思うんです。

振興費として、先ほど言った500円で５万です。1,000円補助出したって10万ですよ、100人に、そういうために、文化振興費っていうのは使われるべきだと、市民のために、市民の収めた税金ですから、認識を新たにしてもらいたいなと私は思います。意見でいいです。

○分科会長（小林博文君）　意見でいいですか。この件、関連でありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、次、８問目、赤堀委員お願いします。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。

タブレット114ページ、文化会館整備事業費です。

大小ホール舞台吊物機構更新工事に伴い、貸出停止期間が発生することに伴う補償とあるが、昨年度の規模工事と一緒にできなかったのか。また、どのくらいの間休館するのか、お伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

赤堀議員ご質問のアエルの大小ホール舞台吊物機構更新工事による貸出停止期間に対する補償についてですが、まず昨年度の工事と一緒にできなかったかについてですが、令和５年度にはアエルの大小ホールの舞台上部に設置されている、舞台照明及び附加設備の改修工事を実施しました。この工事は電気工事となります。

次に、令和６年度に計上する舞台及び吊物機構の更新工事は、同じく舞台上部に設置されていますが、照明や幕を設置する吊物機構、それから迫や花道、廻り舞台を構成する部品の更新を、数年で実施しようと予定しています。

こちらは舞台装置を取り扱うことから、機械器具設置工事となります。

それぞれに専門的な分野の工事でありますので、同時に施工となった際には、１つの現場に２つの施工業者が入るというような形で、工事管理などが煩雑となることが考えられますので、工事は別々に行うよう計画しています。

次にどのくらい休館するのかについてですが、令和７年の１月15日から２月18日までを、大小ホールの貸し館の中止と考えています。

以上です。

〔「今の期間をもう一度お願いします」と呼ぶ者あり〕

○社会教育課長（濱野和宏君）　令和７年１月15日から２月18日までです。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質問ありますか。

〔「補償金額って書いてあったかね、補償金額１５万、あった、あった。いいです」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。ちょっと今一つ答弁聞いて思ったんですけども、電

気工事と機械工事が混ざると煩雑になってということの答弁だったんですが、そのメリットもあると思うんです。

一緒にやることで、例えば足場を組むときに１回で済むとか、そういうことがあったかどうか分からないですけど。

そういうメリットとかの検証もした上での、別のほうがやりやすいということだったんでしょうか、その辺もう一度お伺いします。

答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

昨年に実施しました舞台照明負荷設備の更新工事のほうですが、およそはたちの集いが終わった後の１月くらいで実施を、短い期間で終わるようにということで、設計していますんで、今回の吊り物については、バトンとか、どんちょうとか、上から下がってくるものですから、足場とか何とかの共用というところは、また別になると思うんですが、発注業者の形態が違うもんですから、なかなか一緒にこっちも、足場がいっぱいいればいいですけど、工事の設計とか発注とかというところも難しい部分があると、その期間をなるべく短期間で実施したいというところがありますので、休館する期間を短くしたいというところがありますので、今回のような足場の組みになっていると、以上です。

○分科会長（小林博文君）　足場とは、例えばの例で挙げたもんですから、両方がお互い使うものがあることがないのかということと、今言った１か月ずつが、１年で済めば、今年５年でやらなくても済んだということもあると、要は開館の時期を極力開いている時期があることで、文化会館のほうの利用度が上がるということもあると思うんですが、その辺の、足場がないからということではなく、工事が繰り返しになりますけど、短縮することができたりとかいうメリットと、デメリットの面で、メリットがあるんで、わざと２年にずらしてやっていますよという、そういう答えがあればそれをちょっとお聞きしたかったんですけど、ということではなくて、こっちもあったし、あっちもあったから、後から出ていちゃって、２つ一遍にやったほうがよかった気もしないと思います。その辺のちょっとお聞きできます。

社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

それこそ、先ほどの音響設備とか照明で今回は吊り物ということになりますが、それぞれ金額も非常に大きくて、これを一遍にというところまでの市の予算規模でありますから、そういうところもありますので、そういったところで、分割して発注させていただいていると

いうようなこともありますので、集中的に、例えば１年、２年休館して全部をやってしまうというような、ほかの会館とかも見受けられますけど、うちのほうについては、なるべく１月なり２月の期間内で収まるようにということで、順次計画的に実施させていただいているところになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　分かりました。この件に関連ありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃあ９番目、渥美委員、赤堀委員お願いします。渥美委員。

１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　渥美です。タブレットページ、117ページ、保健体育総務費について、スポーツ協会に委託する部活動地域移行業務について、具体的な内容と金額の根拠をお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

ご質問のスポーツ協会に委託する部活動地域移行業務について、具体的な内容と金額の根拠についてですが、令和４年12月にスポーツ庁と文化庁が発表しました、学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインの中で、令和５年度から７年度までの３年間を、休日における学校部活動の地域移行の改革推進期間と位置づけられていますことから、本市においても、令和５年度から未来の部活動在り方検討会を立ち上げ、検討を進めているところです。

業務の具体的な内容ですが、在り方検討会の開催に係る日程調整、通知発送、資料作成、また部活動の受入れに対する団体等の調査、聞き取りなどになります。

令和６年度には、生徒や保護者へのアンケート等を行うことも協議をしています。

金額の根拠につきましては、在り方検討会のディレクター２名の人件費、検討会委員の報酬費、専門部会の報酬費、通知や資料郵送代、報酬の送金手数料などを計上しています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

在り方検討会、ディレクターさんが２名いらっしゃるということで、このディレクター２名の役割というのと、どういった方なっているのか伺えればと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田スポーツ振興係長。

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　スポーツ振興係長です。こちらのほうですけれども、現在ディレクター２名ということで、スポーツ協会のほうにいただいている方につきましては、１名は元中学校の教師、もう一人の方は元行政職の方にお願いをしております。

主な内容につきましては、行政側でももちろん社会教育課と学校教育課のほうもこちらの事業と併せて行っております。

そういった部分の中の各種事業についての進める資料、そういったものをつくっていただくというのがメインのお仕事として、網羅させていただくものになります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。渥美委員、再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

具体的に検討をして、あとは代表質問でも令和６年で試行していくという話があったんですけど、試行というのは試しにやってみるという意味だと思ったんですけど、先ほど学校教育課でも、部活動支援員という言葉も出てきたんですけど、この部活動支援員を令和６年度に実際に集めてみるということなのか、その部分についてお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

令和５年度に在り方検討会の中で検討しまして、現在中学校にある部活動を受け入れる、そこにいる中学生を受け入れることができるか、指導を含めてできるかというところを、スポーツ協会の参加団体とか、スポーツ少年団等にアンケート調査をしました後、文化協会の加盟団体等でもアンケート調査をさせていただいて、受け入れができるよということで、回答をいただいたところについては、在り方検討会にも出席いただいて、そこで協議をさせていただきました。

一部の競技で指導者等をしているところから、そこで試行を実施するということで、令和６年度については検討してみたい。

また試行をしてみた課題等があれば、そういうところをまた協議、在り方検討会の中で協議していきますけど、ほかの種目についても広げていければというところで、試行をさせていただくと考えています。

○分科会長（小林博文君）　再質疑ありますか。１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

やはりやってみないと分かんないところもあると思うので、ぜひ進めていただきたいと思うんですけど、最後に一部の試行する競技というのと、そういったものと、実際に施行する学校がよくなかったというのを最後に伺います。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

受入れできるということで回答いただいたところは、陸上とサッカー、それと剣道と卓球、そのあたりがスポーツのほうではあったんですけど、在り方検討会のところでも、同じ種目でも団体が幾つかあると思うんですから、そこの団体の方がそれぞれ代表の方と話をして、まとまったのが陸上になりますんで、陸上について試行をしています。

ただ詳細、どういったやり方とか、詳細はまだ決まっていませんので、今年度も前半の在り方検討会の中で協議していって、試行は後半になると思いますが、そこで試行を実施していくというような形で計画をしていく予定です。

○分科会長（小林博文君）　再質疑よろしいですか。赤堀委員、再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　10番です。

今、陸上、サッカー、剣道、卓球、そのうち陸上が、野球なんか駄目だった。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

中学校は軟式野球で、青年団体ですると、体育協会の参加団体にも軟式野球があるんですけど、まず趣味的にやっているということで、中学生に指導できるかというところで、聞き取り調査の中では、そこがまず難しいというような回答があったかと思います。

あとスポーツ少年団ですけど、少年野球ですと、また今度道具とか、グラウンドとかの規格が違ったりするもんですから、実質スポーツ少年団の野球ですと、指導者というよりは、その年、その年の父兄がやっているというところが、今多くなってきていますので、そういったところで中学生への指導というところで、今回はなかったんですけど、またそういった団体でなくても、指導できる方とか呼びかけていけばあるかと思いますんで、そこはまた今後協議していく形になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか、再質疑はよろしいですか、関連質疑ありますか、

12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

先ほど、学校教育課で、この件を私質問したんですけども、今のような社会教育課との連携が、話は全くなかったわけです。

全くなかったんですけど、今聞いて安心といいますか、ある程度、横ぐしを通しているのかなと思って聞いていたんですけども、やはり社会教育課として、学校教育課との部活動の制度というものを、取り入れていこうということでの、協力依頼もあったり、情報交換も当然のことながらしているということの理解でよろしいですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

この予算が社会教育課にありますけど、実際の在り方検討会協議は、学校教育課の職員も、当然社会教育課の職員も出ていますし、その進め方等についても協議しながら実施していますので、学校教育課でも、同じように認識を持って検討して、連携してやっていると思います。

○分科会長（小林博文君）　12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

体育系もそうですけど、文化系も、とこがあって、美術館もあったりして、いろいろあるもんですから、文化活動のそういった部活動の教師というか、指導員というのが、ぜひ広く当たっていただきたいと思うんです。

もちろんプロです、皆さんそっちのほうは明るいと思いますので、ひとつよろしく教師の働き方改革、あまりにもひどいもんですから、ひとつよろしくお願いします。

○分科会長（小林博文君）　その他ありますか。１3番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　１3番　倉部です。

508万7,000円ですけど、この方たちの人件費がメインと思っていいでしょうか。ちょっと内訳がないんで、あととか、織部議員もおっしゃいましたけど、運動プラス、文化プラスだけど、ボランティアとか、そちらも社会教育課で担当されていると思うので、先発的な考えで部活のことを検討していただいているかとか、教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

まず委託料のほうは、人件費等が主になっております。

それから、今中学校にある部活動の運動部と文化部とありますけど、在り方検討会の中にも、文化協会の会長等参加していただいて、参加団体にも受入れについてのアドバイスをさせていただいています。

実際に中学校の中である部活動で、文化部というのが吹奏楽部と美術部とパソコン情報処理というか、その部活動の３つになっていますけど、今現在は今ある部活動をどういうふうに移行できるかというのは、メインになっていますけど、将来的にはいろんな活動、今委員長、山口先生に委員長していただいているんですが、そういったところでも、いろんなものから選べるというような、部活動の将来的な在り方というところを、１つ言っていらっしゃいますので、そういったところも目指していきたいと考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁終わりました。よろしいですか。関連、ほかにありますか。

１番　渥美委員。

○１番（渥美嘉樹君）　１番　渥美です。

すみません。申し訳ございません。代表質問でも、不登校の子の居場所にもというのがあったんですけど、なんとなくイメージが分かったんですけど、具体的にどういう考え方というか、仕組みとしてどういう工夫をしていくのかというのを、最後にお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

不登校の子の居場所にもしたいという言い方もしていたと思うんですけど、今学校の中で部活動を選ぶというと、多くて十二、三の中から、どこかに所属するということなんですけど、そこにないようなものでも、興味があって参加したいのにというものがあると思いますんで、子どもたちがいろんなものを選択できる、部活動というよりは、将来的には、地域の中で大人も一緒に参画していくというような形になっていくと考えていますので、選択肢を多く持つそういったところで、学校には居場所がないけど、そういった活動をする場には、行きたいというような子いれば、そこが不登校の子の居場所になればというような言い方をしていたと思うんですけど、なかなかそういったところを、表立って受入れ団体と説明していくと、不登校の子が来るようになるのというような勘違いもされてしまいますので、いろんな選択肢の中で行きたいところが、その子にとって行きたいところもあるというような幅を広げていきたいというようなところが、そういった不登校のということにもつながっていくかなというふうに考えています。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

菊川には吹奏楽部もあって、毎年やっております。ですから、そういった方々に相談して、菊川の吹奏楽部に、社会人ですけども、来てもらえれば、それでいいかなと思ったりするんですけど、いろいろ考えていただきたいと思います。

最初にもらったこのステップアップ講座というのも、やはりこの講師の方々は、学校教育で言っていたスクールの講師、この中からも随分いるかと思うんです。学校と地域を結ぶ、そういうパイプ役になるような方を、ぜひ見つけていただきたいなと、要望だけです。

○分科会長（小林博文君）　要望ですか。じゃあ次に行きます。10番目、３名の委員から出ております。代表して赤堀委員にお願いします。

○１０番（赤堀　博君）　タブレット120ページ、生涯スポーツ推進費です。①市民健康駅伝、令和５年度中止となった理由。また、令和６年度開催の見通しは立っているのか。市民健康駅伝競争大会はどのような形でやろうとしているのか。

②ボッチャ購入は競技として広がりが予想されるのか。

③委託料が減額になっているが、何を取りやめたのかをお伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

ご質問の市民健康駅伝、令和５年度中止になった理由はと、令和６年度開催の見通しは立っているか、それから市民健康駅伝競争大会はどのような形でやろうとしているのかについてですが、今年度も４年ぶりの開催を計画しまして、年度当初４月に令和元年度に実施した菊川市役所東館前スタート、中央公民館をゴールとしたコースで菊川警察署と協議しましたところ、安全確保の観点から、全ての脇道に交通整備員の配置やコース上にある民家や事業所への事業周知の徹底、苦情対応などについて指示がありました。

この事業につきましては、スポーツ推進委員主管事業でありますが、各自治会のスポーツ委員の協力を得ても、コース上の全ての脇道に交通整備員を配置することは不可能であり、前回実施したコースでの開催を断念したものです。

その後、スポーツ推進委員の中で、大会開催に向けてプロジェクトチームを立ち上げ協議を重ね、アエル周辺の河川敷を走るコースなどを検討しましたが、迂回路や路線バス対応などでコース決定に至らず、本年度は中止とすることといたしました。

また、９月以降、令和６年度に向け、新たなコースを選定し継続をするのか、または別の

事業に代替も含めてというところを検討しましたが、スポーツレクリエーションフェスティバルや各種交流会と内容がかぶらないようにするためには、駅伝が一番にあるとの意見により、代替事業ではなくコース変更とすることで決定しました。

現在、菊川運動公園の外周を周回するコースで検討を進め、菊川警察署とも協議を実施しており、令和６年度は開催できる見込みであります。

２つ目のご質問のボッチャ購入は競技として広がりが予想されるからかについてですが、第２次スポーツ振興基本計画では、基本方針１で、誰もがスポーツに触れ合う機会の創出のうち、障害のある人も参加しやすいイベントの開催や情報提供を重点施策としています。

ボッチャは年齢、性別、障害のあるなしにかかわらず、全ての人が一緒に競い合えるスポーツで、県スポーツレクエレーション推進検討会においても体験イベント等でボッチャが人気であるという意見もありました。

本市においても、スポーツ推進委員を中心に普及啓発に努めていきたいと考えております。

３つ目の委託料が減額になっているが、何を取りやめたのかについてですが、菊川市ゲートボール協会の会長とシニアゲートボール大会の開催について相談させていただきましたが、ゲートボール愛好家の減少により、大会開催が不可能という話を受けたことから、委託による大会を廃止したことによる減額と、もう一つは本年度野球イベントを実施しましたが、菊川運動公園野球場の防護マット改修を記念した単年度事業でありましたので、その分が減額となっております。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。赤堀委員、再質疑ありますか。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。

令和５年度に人員が足りなくてというか、警察の指示がどのくらい人数を集めないと開催許可にいかなかったのか。脇道へ整理員を立てるというか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田スポーツ振興係長。

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　スポーツ振興係長です。

人数という細かい指定ではなくて、やっぱり街中を結構通るコースで過去やっていたものですから、やっぱりそこに対しては警察のほうからすれば安全対策が第一番だということで、基本的にはどこの脇道も、そのコース上基本、交通整理移動、そういったものを必ず配置してほしいよと。

さらに、そのコース上にあるお宅とか事業所については、それぞれ１軒１軒回って、この

時間、ここが完全に通行止めになりますとか、そういった周知を徹底すること。特に事業所につきましては、その事業所は承知していても、出入りをする業者さんにもそういったことを承知しておかないと、御前崎のほうで結構、苦情がすごく多くなったという実例がちょっとあったということで、そういったことも徹底できるのであればということでお話をちょっといただいたんですけれども、やはり今の街中のコースでいきますと、ちょっとさすがにそれを全てうちのほうで対応するのは厳しいという判断で一応、当時の令和元年にやったコースについてはちょっと断念をさせていただいたというところになります。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。そのほか。赤堀のほうはよろしいですか。

○１０番（赤堀　博君）　はい。

○分科会長（小林博文君）　渡辺委員よろしいですか。

○５番（渡辺　修君）　十分な説明です。

○分科会長（小林博文君）　内田委員、再質疑ありますか。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

警察の判断でいろいろ警察官によって違う部分があるんですけれども、結構それなりに駅伝大会やられている地区は継続してやっているところがあるわけですよね。駅伝にしてもマラソンにしてもね。これが差があるということはないんですよね。大きく言えば、県警で候補にしているから、うちだけがね、たまたま警察署管内、要するに菊川警察署の中での判断をする方が、非常に厳しい方になったもんでこうなったのかね。それとも、こういうことが全ての警察の考え方なのかね。ほかのところでやられているもんで、そういうことを言うんですけどね。

もう一つは、今、周回コースに変えたと言ってですけど、それは走る側の話はそれでいいと思うんですけど、やっぱり一番当初のときには、できるだけ市民の前をつないで、市民を巻き込んだスポーツをやろうということで、多分スタートしていると思いますのでね、そうすると目的も少し変わってくる。

要するに、走る側の人たちが主要な会になると思うんですけど、その辺はどんな形で考えられているんですかね。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

それこそこれまでは、なるべく街中を通ってというようなコース設定でやっていたんですが、そのときもスポーツ委員やある程度警備委員に委託をして、交通整理というかそこまで

やっていましたが、やはりそれでは足りなくなって、なかなか人員配置の部分は難しいというような状況になってしまったというところです。

ほかの市町でも、なかなかこの街中を走っているというのではなくて、掛川とかは街中ですけど、商店街の中だけで周りを封鎖してやっているような状況ですので、そういったところもなかなか警察自体も昔よりはそういったところの安全管理が厳しくなったのかなというふうに感じます。

走る分について、選手もそうですけど、一応これまでも年代別で自治会対抗ということでやっていましたので、スポーツ推進委員のプロジェクトチームの中でも、そこはこれまでどおりやりたいということで、そういったところで自治会の応援とか、そういった方も周りに立っていても大丈夫なように、運動公園だったら駐車場もありますしね。そういったところで、できるんじゃないかということで、今回はこういうコース設定をさせていただいたというような状況になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ございますか。

○１５番（内田　隆君）　分かりました。

○分科会長（小林博文君）　この件、関連で質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

11番目、倉部委員からになります。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。

タブレットの121ページ、スポーツ大会推進委です。

スポーツリクレーションフェスティバルの近年の参加人数、また種目は工夫されているのか、お伺いします。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

赤堀議員のスポーツリクレーションフェスティバルの近年の参加人数、また種目は工夫されているのかについてですが、近年は新型コロナウイルス感染症のため開催ができていないものですから、令和４年度と令和５年度の参加人数ですが、役員を除いた参加者数は令和４年度で272人、令和５年度で275人ということで、ほぼ同数です。

種目につきましては、毎年スポーツ推進員定例会で協議し、前年度の反省を含め、その都

度変更をしています。令和４年度は10種目、令和５年度は９種目で、令和４年度のときには縄くぐりとバランス、片足立ちがありましたけど、令和５年度にはボールくぐりに変更していますので、１種目減ってはいますけど、種目等も定例会の中で協議して決定しているという状況です。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

○１０番（赤堀　博君）　本当に親子で参加してね、楽しい雰囲気を見られたもんですから、ぜひ続けてください。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。この件の関連質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　では、最後の質問、内田委員お願いします。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

タブレットの123ページです・この中に和田公園のトイレの設計、200万ちょっと乗せてあるんですけど、どんな形のものが設計されてくるのか、まずそこのところを教えてください。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

内田議員の質問の和田公園のトイレの形はどのようなことを考えているのかということですが、和田公園多目的広場にある屋外トイレが老朽化しておりまして、建て替えに伴う実施設計の委託料を計上しています。

今回の公園に設置するトイレですが、都市公園に設置しているトイレと同規模のものを計画しています。具体的には、木造の造りで男子、女子、多機能トイレの３つで構成され、バリアフリー化したもので計画をしています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

基数はそれぞれ幾つになるんですか。

〔「大小便ということですか」と呼ぶ者あり〕

○１５番（内田　隆君）　そうです。何基を造られているんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。よろしいですか、山田スポーツ振興係長。

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　スポーツ振興係長です。

一応、トイレにつきましては、大というんですかね便器型のものにつきましては、男子が１、多目的で１、女性が２、男性の小便器が２で、一応計画のほうをしております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑ございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

これは全く移動式とかそういう形じゃなく、全くいままでどおりのものを……

〔「洋式化はする、すみません」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。質疑そこでいいですか。これで答弁を求めますか。

○１５番（内田　隆君）　ごめんなさい。すみません。

○分科会長（小林博文君）　どうぞ続けてください。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

今、基数だけ言われたんですけど、複数あるわけじゃないもんで、洋式のトイレについてはこの中でどう考えられているんですか。洋式はないんですか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田スポーツ振興係長。

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　便器型のものについては、全て洋式化で今回は考えさせていただいております。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

関連で質疑はございますか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　10番　赤堀です。

場所については、今あるのを使いながらもう１回造るのか、全く潰しちゃって使用不可能にしといてやるのか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。山田スポーツ振興係長。

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　スポーツ振興係長です。

一応、現在のところに建て替えをする予定で、今、おりまして、その関連でどうしても使えなくなるものですから、仮設のトイレ等を設置する計画で、今、考えております。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。

○１０番（赤堀　博君）　ありがとうございます。

○分科会長（小林博文君）　関連質疑はございますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　以上で、事前通知による質疑を終了します。

関連で質疑のある委員は挙手をお願いします。その他。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

全然関係ないんですけど、野球場、運動公園の野球場の管理は体協さんでしていると思うんですけど、利用をする予約が入るんですけれども、野球が好きな方が入る予定をお知らせを出してほしいというお話をちょっといただいたんですけど、そういうことは可能なんでしょうか。利用者をオープンにするのが、相手がオーケーでなければいけないのか、いつも見に行ったりされてる方が結構いるらしくて、情報がないので、結構大学の野球とかいろんな方が来ているので、それをオープンにすることで菊川に興味を持ってきてくれる人もいるだろうし、何かスポーツを推進する一環として、そういう、どういう大学が来るよとかいうのを、事前にお知らせをどこかでしてもらいたいというお話をいただいているんですけど、これは体協さんに言えばいいのか、こちらの担当課でいいのか。相手に許可を取れば、いや秘密にしてくださいなのか。

〔「シークレット、練習」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　全然関係なくて申し訳ないですけど。

〔「知ったら……」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　答弁できますか。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

毎年２月、３月が、主に大学ですけど、大学とか高校の合宿を優先的に受付けて利用していただいているような状況があって、そういうところで見に来るのを楽しみにしている方がいるということですよね。

ちょっとそこまで考えていなかったし、今まで意見ももらっていなかったんですけど、ちょっと大学とかが来たときにはおもてなしということで、ようこそ菊川市へというような形でやることもしているんですけど、それをというか、どこの大学が来ていますよということを周知していいかというのは、利用の予約のときに確認してみて、特に問題ないと思うんですけど、ちょっと今後そういう検討もしていきたいと思います。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。

〔「どこの大学が来ていますよとかというのが分かれば」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。

例えば、市のＬＩＮＥで今月の野球場利用、ホームページをどこか見ればぱっと見れるとか、何かそういうことをやっていただくと、地区が野球盛り上がっているよねという印象になるんじゃないのかというご意見でしたので、やってもいいのかどうかと。

〔「見に行かないと」と呼ぶ者あり〕

○１３番（倉部光世君）　せっかく野球場に遠くからきてくださっているならば、そういうところも何かしら市長が言っているＰＲになるのかなと思いますので、検討いただけたらと思います。

○分科会長（小林博文君）　よろしいですか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　すいません。ちょっと事前出さなかったんですが、10款５項３目のタブレットの説明だと95ページで、予算書190の青少年対策費があるんですが、この中に青少年健全育成会議というものがずっとやられているわけですが、現在、多分、小笠だと平川地区と、あとこちらの旧菊川のほうですと町部がやめてからそのままになっていると聞いています。

これは、全体で先ほどのこども教室じゃないですが、やらなくてもいいのか、ぜひ全体でやっていっていただきたいのかという方針を担当課として示されているのか。

あと市部長会議を年に意見交換のために、３回か４回されているそうですけど、そこにやはり教育長も来てくださったこともないし、市長も来てくれていないし、どれくらい担当課として意識を持ってくださっているのかというようなご意見も。すごいやっているところとやっていないところの格差がすごいんですけど、それは均一じゃなくてもいいことなのかというような意見も出ていまして、担当課としてのご意見を伺いたいんですけど、いかがでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

今、おっしゃられた市部長会議については、それこそ多分、その市部長で出ていらっしゃる方の意見はそのままだので、そこから話がいっていると思うんですけど、もともとは市部長会議ではなくて、特に一生懸命やられているのが六郷地区とか平川地区になるんですけど、そういったところの市部長さんが、情報交換の場ということで開催してほしいよということを受けて、市部長会議が始まったというふうに聞いています。

そこに市部長の皆さん出席いただいて、どういうことをやっているとか、どういうやり方

をしているよというような情報交換はしていただいているんですけど、やっぱりやっているところとやっていないところの差が激しくて、特にコロナもあって、毎年市部長が変わられるようなところですと、前年から引き継ぎを受けていないから、何をやっていいか分からないみたいなというようなところもあります。実際。

そういったところで、差が非常に大きくなっちゃうと思うんですが、いきなり六郷地区とか平川地区の活動状況を聞くと、そんなことをやらなきゃいけないのとふうな、びっくりされちゃうような、実際そういった状況です。

こちらも放課後子ども教室ではないですけど、地区の中でできることをいうことでお願いしているような活動になるもんですから、やらなきゃいけないということはありません。ただ、こういった市部長会議もそうですし、会議のほうもそうですけど、そういった青少年健全育成の活動もすごく幅が広いので、どういったところから手をつけていけばいいのかというところが、皆さん急に担当になると悩んでしまうようなところなんですが、六郷とか平川地区はずっと同じ方がやられていて、そういった地域の中でも、コミュニティ協議会の中でも、位置づけがだいぶ確立されているような地区になるものですから、そういったところの活動状況のやり方等を参考にしてもらうというのが、市部長会議の目的で開催しているところです。

つい先日、そういったところに市長や教育長も出てほしいよというような意見も伺っていますので、そういったところもまたちょっと検討していきたいというふうに考えています。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番　倉部です。

今、お話ししているのは現状でして、じゃあそれをもっと皆さんがやれるようにするとかしていきたいのか、担当課として。現状でそれぞれお任せしているので、そのままでいいのか、そもそも青少年健全育成のことを絶対やっていきたいのか、それこそコミュニティスクールの中に入れていってもらえばいいのか、その辺の方針を出されるのはこちらの担当課のほうだと思うんですけど、毎年ずっと同じように今までやってきているわけで、六郷、20年ぐらい同じ方が長をやってくださっていますけど、健全育成という事業自体も長くあちこちでされているわけで、できないところの課題を解決しようとかというその方針を、担当課としてどう考えていらっしゃるのか。毎年取りあえずやってもらっているからいいのか、方針が全然見えないんですね。その辺どうなんでしょうかということで、伺っているんですけ

ど。どうなんでしょうか、毎年やっているんで、やってもらっているところは取りあえず予算取りしてあるのか、何とかして変えていきたいのか、その辺どうなんでしょうか。

○分科会長（小林博文君）　答弁を求めます。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会教育課長です。

そうですね、支部長会議の中で、平川地区とか、例えば小学生を対象にした夏休みの宿題の勉強会ですかね。そういったのを地区開催でやっていたりするんですけど、そういったところのやり方の紹介とかというのを、ほかの地区の方に聞いていただいていますので、そういったところが広がっていけばいいなという形で実施しているものです。ただ、あそこでこれをやっているから、これをやってくださいねというものではないというふうに認識しています。あくまでも自主的にというところと、あと入れられることから取り組んでいただくというところの活動事例の紹介というところだと思いますので、方針は広がっていけばいいなというふうには思いますので、そういった先ほどの放課後子ども教室ではないですけど、強制ではないにしろそういった、特にコロナでつながりも希薄になったというところで、今一度そういったつながりだけをというかね、人と人のつながりをできるような活動から始めてみるとか、そういったところの広がりを期待しているようなところです。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。再質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　いいですか。そのほか、関連で。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　先ほど駅伝の話がでましたけども、菊川市民マラソンがねこの前行われてよかったなと思っているんですけども、長寿介護課なんかでもやはりいろいろ運動を取り入れて地域でやっているんですけども、今、市民駅伝と市民マラソン２つが、市全体としてのスポーツ活動でしょうか。ほかにもあるんでしょうか、教えてください。令和６年度として、スポーツに関して行事というのは。

○分科会長（小林博文君）　ちょっと質問が漫然としちゃった。バレーボール大会とか。

〔「いろいろある」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　レクリエーションフェスティバル。ゲートボール。

〔「アプロスの主催もあるしね」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　その辺は。

〔「いっぱいある」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　じゃあ、山田スポーツ振興係長。

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　スポーツ振興係長。

今、言われたとおり、行政が直接やっているもの、スポーツ協会がやっているもの、アプロスがやっているものと、いろいろ団体があるものですからそういったものの中でやっています。

今、言われていますシティマラソンなんかは、スポーツ協会の自主事業としてやっていただいていますし、アプロスのほうではファン駅伝という形でやっていただいております。

〔発言する者あり〕

○社会教育課主幹兼スポーツ振興係長（山田　　君）　ファン駅伝。菊川茶の里ファン駅伝というような形でやられています。行政に関しましては、市民健康駅伝競争大会とスポーツレクリエーション祭とか、あとは普及事業としてペタボールの交流会とか、ビーチボールの交流会、そういったものもやらせていただいております。

〔「たくさんやっとるんだね」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　濱野社会福祉課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　社会福祉課長です。

一応、すみ分けとしては、スポーツ協会が競技スポーツ団体ということで、その傘下にスポーツ少年団とかアプロスの菊川が所属していますけど、そちらが競技スポーツの実施団体と。市は先ほどスポーツレクリエーションフェスティバルとかビーチボールとかペタボールをやっているんですが、生涯スポーツということで、子どもから高齢者まで、誰でも取り組めるような生涯スポーツの推進ということで、スポーツ推進委員さんを中心として、事業を、今、協議して、毎年開催しているといったような状況になります。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　答弁が終わりました。よろしいですか。

○１２番（織部光男君）　ありがとうございました。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。

〔発言する者なし〕

○分科会長（小林博文君）　すみません、１点とっと戻って申し訳ないんですけど、私はいいですかという語弊になりますから、先ほどのアエルの停止期間が１月15日から選挙がありまして、例えば集会を開くことができる場所が、公共施設はできなくてアエルを使うということがやられている候補者が何名かいらっしゃって、全くかぶるんですけど。

〔「小ホール」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　小ホールも書いてあってあったね、大小。

〔「大小も」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　大小ホールとなっていますが、その辺の配慮というのは、今週、１週間ずらせるのであれば、皆さん集会とか最初の出陣とか、場所の開催に苦労されて、特に冬場なので外がなかなか厳しいものですかね。やれる会場が少ないものですから、その辺の配慮というのは検討できますでしょうか。新たに出る候補者も全部含めて。濱野社会教育課長。

○社会教育課長（濱野和宏君）　すいません。社会教育課長ですけど、そろそろ来年度が20周年事業等もあって、通常の年よりアエルで開催する行事が多くなっているものですから、そういった中で、今、そこに設定させていただいているものですから、なかなかもうほかにそこの期間空いているというところが、それとそれまでの準備期間ですよね。工事の準備期間と実際に現場入るのが１か月程度で、夏だとか収まるかなというところで設定させてもらっているものですから、選挙がちょっと……。ただ大小ホール以外、会議室とかは使えるんですけど。

〔「大きいとこじゃん」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　という方がいらっしゃると思いますんでね、無理なら無理で早めに言って、何かどっかいい施設があれば紹介しておいたほうがいいかなと。個人的には使わないものであまり、ちょっとかぶるかなと思ったので、ここは施設の中で使うという面ではちょっと配慮もいるのかなという感じがしましたので。

〔「周知のほうは」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　すいませんが、お願いいたします。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　そのほかはよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは質疑なしと認め、質疑を終わります。

ではここで執行部は退席となります。お疲れさまでした。

〔「内田さん遅れますと言ってあって」「分かりました」「２時半どころか」と呼ぶ者あり〕

〔発言する者あり〕

〔「やりましょう」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　お疲れさまでした。

それでは、ただいまから議会基本条例第11条第２号の市長提出議案に関して審議し、結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努めるものとする。委員間の自由討議を行います。

今回の件では、放課後の子ども教室、それからスポーツ部活動の移行の件、それから新校当たりますかね。その辺りに意見が出ておりました。ご意見のある委員は挙手の上、発言をお願いします。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　いろいろ申し上げましたが、申し訳ありませんが、社会教育課のやっていることというのが、前提講習、今までやっていたのでやっています。そして地域の皆さんのお手伝いをいただかなきゃいけないところが、子ども教室にしても青少年にしても部活にしても、全般にそうなんですけれども、何となく人任せで自分たちはあまり関係がないというか、じゃあそれを改善できないだめなところを改善しようとか、一生懸命呼ぼうとかという意識が、申し訳ないですけど全体が全部誰かに任せて私たちは違いますという文芸誌の原因もそうですけど、全部そうなんですね。未だかつていろいろ市民の方から何とかしてくれと言われているのが、ここに全部集約されています。正直なところ。

本当に放課後子ども教室も、ずっと改善をと言っていますがずっと同じで、コロナが明けたんで増えるかもしれませんとか、その前からもう全然減っているのに改善する気がない。やる気があるんですかと聞くと人の話をされるので、自分たちの気持ちが全然伝わってきませんね。

文化振興に関しても、アエルお客さん入っていないんでと、いや入る努力はあなたたちしていないですよねという、エスプロに全部丸投げして、それこそ織部議員じゃないですけど見に来てもいないし、担当課の人来ているの、見たことないですね、ほとんど。

アエルで、これお客さん入らないと思ったら、文化振興で担当課が一生懸命お客様を呼ぶとか、文化を振興するのには担当の人たちの熱い気持ちがないとなかなかならないわけでして、文芸誌に関しても先ほど責任取れるのは菊川市ですと言いましたけれども、何とか委員会の方があっておっしゃるけど、発行しているのは私たちですから、著作権などの何か問題を言われたら委員の皆さんじゃなく菊川市が責任を取らなきゃいけないので、それの対応は先に作るときに、もう考えておかなきゃいけないんですけど、またこれも何となく逃げ腰でしたし、全般ですね、最後の青少年健全育成もやってほしいのか、やらなくてもいいのかと

いうことすら、ここにしっかり目的とか書いてあるのに、じゃあそれやるのにどうするんですかということで、申し訳ないですが、全般真剣に取り組んでいただきたいし、部活の移行に関しても何かみんな委員任せになっていますので、ぜひもっと積極的に菊川の文化振興全般を考えていただきたいと思います。たくさん言ってすいません。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。５番　渡辺委員。

○５番（渡辺　修君）　倉部さんが、特にこういう部門、詳しいので、余計返答に対してかりかりしているぐらい、今回のが一番ええというびっくりする回答が一番多かったみたいな気がして、特に織部さんの400冊のやつからデジタルに行くときの話が、それで今からやることに対して大学教授が何とかで検討が始まると、ちょっと待ってそれは文書を集めて作るときの段階のことで、これをどう発行していくかって、この人たちに相談する話じゃないという気がするんですよね。

これは市がどういう風に広げていくかという、そのデジタルにして皆さん読んだらうれしいんじゃないかと思ったらやればいいし、プロで一部ね、紙のもんでないと絶対私は許せないというこだわりのある人がいるけど、多分この中にはないと思うんですよね。

ですので、ああいう返答が来ちゃうことが間違っているなと思うので、ぜひもうちょっとしっかり取り組んでいただきたいと思いました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。12番　織部光男委員。

○１２番（織部光男君）　12番　織部です。

同感ですね。本当に役職で、今、その立場にあるから、どっちみちもう少したちゃ移動するからなんていう感覚でね、やっているんじゃないかという感じもちょっと見受けられるもんですからね。やはりよかったということは、コミュニティスクールについて少し関与しているんだなと。少し関与しているというのが、ほんの少し救いだなと思ったんですけどもね。やっぱり自分たちのやるべきことをしっかりとやってほしいと、私は文化振興ということで費用ということであれば、そういう使い方をやっぱりしなきゃいけないと思うんですよね。

やはり自分たちが自らアエルに足を運んでね、どうしたら観客を増やせるかと、振興というのはそういう意味ですからね。ぜひ。

〔「これ織部さん賛成しない」と呼ぶ者あり〕

○１２番（織部光男君）　予算がない、難しいというようなことは根本にはあると思うんですけどね。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。15番　内田委員。

○１５番（内田　隆君）　15番です。

先ほど小林委員長がアエルの話をしたんですけどね、予算の中での財源は基金から落としているもんで、去年でもできるんですよね。ですから、トータルで考えて何が一番ベターかという議論をしていたときに補償費の百何万という以上に利用期間がどうだとか、要するにのこぎりの歯じゃないですけど、今年はゼロで来年は一番高いところでやって、お金はそれならこのときに出せばいいというね、何か何もやってなくて計画を立てるときは計画を立てる。でも、その中で一番経済的な方法を考えてやることによって、少しでも予算が生まれてくれば、それをどうやって活用するかというね、もうちょっと考えてほしいなというふうに思いました、本当に。

○分科会長（小林博文君）　そのほかどうでしょうか。10番　赤堀委員。

○１０番（赤堀　博君）　文苑きくがわ、休刊というか配信で発行できるようになって、何も喜ぶように、また再発行できたら本当に私らがうれしいという何もそういう表現がなくて、ちょっとがっかりしたけど、それでもうれしいのは70ページを予定したら140ページ。

〔「それは偉い」と呼ぶ者あり〕

○１０番（赤堀　博君）　そういうようにできた。そこらはね、もっと自信持ってね再発行できましたねというような。

〔「増ページになりました。これで復活しましたとにこっと笑ってくれるといいなと思った」と呼ぶ者あり〕

〔発言する者あり〕

〔「足りなくなると思わないのも凄いですね」と呼ぶ者あり〕

○１０番（赤堀　博君）　そのほかありますか。13番　倉部委員。

○１３番（倉部光世君）　13番です。

同じですけども、歴史検定教材ですが、20周年を記念してやるわけなので、数字の出し方がちょっとえっと思った。大勢の人にこれを見てもらって、歴史を覚えてもらいたいと思っているんでしょうかという、いつもイベントに出る人がこれだけで、これだけなんでこれだけですみたいな、子どもたちのタブレットを入れてくれるのはすごいあれはいいなと思ったんですけど、本当に何かやる気とパッションというか、私たちがこの事業をやるんで、皆さん一緒に頑張りましょうというのが申し訳ありませんが、全般に全く感じられていないので、

もう少し菊川市の文化振興には力を入れて、特に生涯学習について、これから高齢者のいろんな課題もあるわけなので、この課に生涯学習を任せておいていいんでしょうかというのを、私ずっと思っているところですので、やはり文化度を上げていかないと移住定住も進まない、子育てのしやすい町、子どもがすくすく育つ町にはならないと思いますので、ぜひこの課はもっと意識を上げてやる気を持って取り組んでいただきたいなと思います。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。４番　織部ひとみ委員。

○４番（織部ひとみ君）　４番　織部です。

部活動の移行について、ちょっと先が見えてきたかなというのがちょっとあって、まとまってきたので、あともっと文化系のほうをね、何とか指導者をまとめてもらえばいいかなというふうに感じました。

以上です。

○分科会長（小林博文君）　そのほかございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小林博文君）　それでは、以上で社会教育課の予算に関わる審査を終わります。

ただいま出されましたご意見等をもとに、分科会報告を作成し、一般会計予算決算特別委員会にて報告させていただきます。

分科会報告の作成につきましては、正副分科会長に一任願います。

以上で、予定しておりました令和６年度当初予算の審査が全て終了いたしました。お疲れさまでした。

それでは、倉部副分科会長、閉会の挨拶をお願いいたします。

○副分科会長（倉部光世君）　お疲れさまでした。今回、今日も長くなりましたけど、皆さん課題をしっかり掴んで、丁寧な審議をしていただけたかと思います。今回の予算の審査をした中で、来年度教育福祉委員会が取り組まなければいけない点がかなり浮かび上がってきたと思いますので、あと２期１年ですが、その中でしっかりと方向性を定められるような議論をして、議員からの提案をしっかりできたらいいと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○　（　　）　それでは、互礼をもって終了しますので、起立をお願いします。相互に礼。

〔起立・礼〕

閉会　午後　４時０６分